

(19) 日本国特許庁(JP)

## (12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2016-527249

(P2016-527249A)

(43) 公表日 平成28年9月8日(2016.9.8)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
C07K 7/08 (2006.01)	C07K 7/08	4 C076
C07K 7/64 (2006.01)	C07K 7/64	4 C084
A61P 9/04 (2006.01)	A61P 9/04	4 H045
A61P 9/12 (2006.01)	A61P 9/12	
A61P 9/06 (2006.01)	A61P 9/06	

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 155 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2016-529808 (P2016-529808)	(71) 出願人	504389991 ノバルティス アーゲー
(86) (22) 出願日	平成26年7月21日 (2014.7.21)		スイス国 バーゼル リヒトシュトラーセ 35
(85) 翻訳文提出日	平成28年3月22日 (2016.3.22)	(74) 代理人	100092783 弁理士 小林 浩
(86) 國際出願番号	PCT/US2014/047378	(74) 代理人	100095360 弁理士 片山 英二
(87) 國際公開番号	W02015/013169	(74) 代理人	100120134 弁理士 大森 規雄
(87) 國際公開日	平成27年1月29日 (2015.1.29)	(74) 代理人	100104282 弁理士 鈴木 康仁
(31) 優先権主張番号	61/858, 303		
(32) 優先日	平成25年7月25日 (2013.7.25)		
(33) 優先権主張国	米国 (US)		
(31) 優先権主張番号	62/015, 848		
(32) 優先日	平成26年6月23日 (2014.6.23)		
(33) 優先権主張国	米国 (US)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 合成アペリンポリペプチドのバイオコンジュゲート

## (57) 【要約】

本発明は、X 1、X 2、X 3、X 4、X 5、X 6、X 7、X 8、X 9、X 10、X 11、X 12、およびX 13が本明細書で規定される、式 I' の合成ポリペプチドまたはそのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、ペプチドと半減期延長性部分は、場合によりリンカーを介して共有結合によって連結または融合するバイオコンジュゲートを提供する。ポリペプチドは、A P J 受容体のアゴニストである。本発明はまた、本発明のバイオコンジュゲートの製造方法、ならびに、急性非代償性心不全 (A D H F )、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、Brugada 症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、および子癇前症の治療または予防などの、その治療的使用に関する。本発明はさらに、薬理活性薬剤の組合せおよび医薬組成物を提供する。

X1-X2-X3-X4-X5-X6-X7-X8-X9-X10-X11-X12-X13 (I')

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

a. 次式 I' :

## 【化 1】

$$X_1-X_2-X_3-X_4-X_5-X_6-X_7-X_8-X_9-X_{10}-X_{11}-X_{12}-X_{13}$$

[ 式中、

10

X 1 は、ポリペプチドの N 末端であり、かつ、存在しないか、または p E 、 R 、 l s n 、 Q 、 A 、 K 、および 5 - アミノ - 吉草酸から選択されるかのいずれかであり、

X 2 は、 R 、 A 、 r 、 N - M e - R 、 K 、 H 、 h F 、 h K 、 F 、 E 、または O r n であります、

X 3 は、 P 、 A 、 a 、 p 、 4 - P h P 、 K 、 D 、ピペコリン酸、またはシステインであり、ここで、システインの側鎖は、 X 7 位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

X 4 は、 R 、 A 、 r 、 N - M e - R 、 F 、 E 、またはシステインであり、ここで、システインの側鎖は、 X 7 位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

X 5 は、 L 、 C h a 、 A 、 D - L 、 N - M e - L 、 K 、 D 、 4 - P h F 、または F であります、

20

X 6 および X 12 は、独立して、 C 、 c 、 h C 、 D - h C 、 K 、 D 、 O r n 、 D a b 、または E から選択される天然または天然でないアミノ酸であり、ここで、 X 6 および X 12 の側鎖は、共有結合によって連結し合って、モノスルフィド ( - S - ) 、ジスルフィド ( - S - S - ) 、またはアミド結合 ( - N H C ( O ) - もしくは - C ( O ) - N H - ) のいずれかを形成しており；または代わりに、 X 6 は、 K であり、 X 13 は、存在せず、かつ、 X 12 は、 F または f であり、ここで、 X 12 の C 末端は、 X 6 のアミノ側鎖とアミド結合を形成し、

X 7 は、 H 、 h 、 A 、 N - M e - A 、 a 、 A i b 、 K 、 N a l 、 F 、 P 、 D a p 、 N 、 E 、またはシステインであり、ここで、システインの側鎖は、 X 3 位にあるシステインの側鎖、または X 4 位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

30

X 8 は、 K 、 k 、 F 、 f 、 A 、 h F 、 N - M e - R 、 E 、または 4 - アミノ - l s n であります、

X 9 は、 G 、 N - M e - G 、 A 、 D 、 L 、 R 、または A i b であります、

X 10 は、 P 、 A 、 p 、 4 - P h P 、またはピペコリン酸であります、

X 11 は、 M 、 D - N l e 、 N l e 、 N - M e - N l e 、 M ( O ) 、 A 、 F 、 Y 、 L 、 K 、 3 - P y A 、または C h a であります、かつ、

X 13 は、 C 末端であります、かつ、存在しないか、または F 、 f 、 N - M e - F 、 N a l 、 D - N a l 、 3 - B r - F 、 ( S ) - - 3 - F 、 I 、 A 、 a 、 K 、 D a p 、 H 、および E から選択され、

40

ここで、

N l e は、 L - ノルロイシンであります、

D - h C は、 D - ホモシステインであります、

h C は、 L - ホモシステインであります、

h F は、 L - ホモフェニルアラニンであります、

h K は、 L - リシンであります、

N a l は、 L - ナファタリン (L-naphthaline) であります、

O r n は、オルニチンであります、

A i b は、 - アミノイソ酪酸であります、

D a b は、 ( S ) - ジアミノ酪酸であります、

50

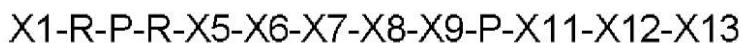
D a p は、(S)-2,3-ジアミノプロピオン酸であり、  
 M(O)は、メチオニンスルホンであり、  
 C h a は、(S)-シクロヘキシリラニンであり、  
 4-アミノ-l s n は、4-アミノピペリジン-4-カルボン酸であり、  
 l s n は、イソニペコチノイルであり、  
 p E は、L-ピログルタミン酸であり、  
 3-P y A は、3-(3-ピリジル)-L-アラニンであり、  
 4-P h F は、4-フェニル-L-フェニルアラニンであり、  
 ここで、N末端およびC末端は、1、2、3、または4つのグリシンアミノ酸と一緒に  
 場合により環を形成する、および]  
 10 を有するペプチドまたはポリペプチド、または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩、またはこれらと実質的に同等なポリペプチドと、

**b. 半減期延長性部分と**

を含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体であって、ここで、前記ペプチドまたはポリペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体。

**【請求項2】**

前記ポリペプチドが、次式：

**【化2】**

└────────┘

||

[ X 1 は、存在しない、p E、R、Q、またはl s n であり、  
 X 5 は、LまたはC h a であり、  
 X 7 は、H、A i b、F、Kであり、  
 X 8 は、K、F、または4-アミノ-l s n であり、  
 X 9 は、GまたはA i b であり、  
 X 11 は、N l e またはC h a であり、  
 X 13 は、存在しないか、またはF、f、Kであり、

X 6 およびX 12 は、独立して、C、c、h c、D-h c、K、D、O r n、D a b、  
 またはEから選択される天然または天然でないアミノ酸であり、ここで、X 6 およびX 12 の側鎖は、共有結合によって連結し合って、ジスルフィド結合またはアミド結合のいずれかを形成しており；かつ、ここで、N末端およびC末端は、1、2、3、または4つのグリシンアミノ酸と一緒に、場合により環を形成する]  
 30 または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩、またはこれらと実質的に同等なポリペプチドを有する、請求項1に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

**【請求項3】**

X 6 およびX 12 が、K、O r n、D a b、E、およびDから独立して選択され、かつ、ここで、X 6 およびX 12 の側鎖が、一緒にアミド結合を形成する、請求項1または2に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

**【請求項4】**

X 6 およびX 12 が、独立して、C、c、D-h C、またはh Cであり、ここで、X 6 およびX 12 の側鎖が、一緒にジスルフィド結合を形成する、請求項1または2に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

**【請求項5】**

前記ポリペプチドが、式 I I I :

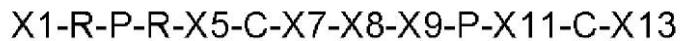
10

20

30

40

【化3】



III

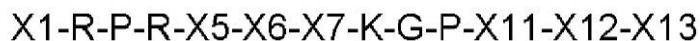
または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を有する、請求項1、2、または4に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

【請求項6】

前記ポリペプチドが、式IV：

10

【化4】



IV

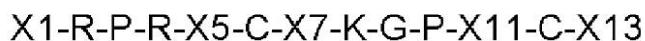
または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を有する、請求項1から5のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

【請求項7】

前記ポリペプチドが、式V：

20

【化5】



V

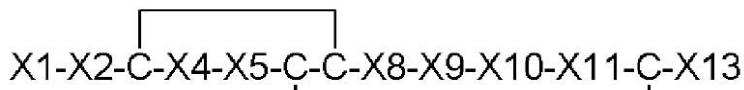
または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を有する、請求項1、2、および4から6のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

【請求項8】

前記ポリペプチドが、式VI：

30

【化6】



VI

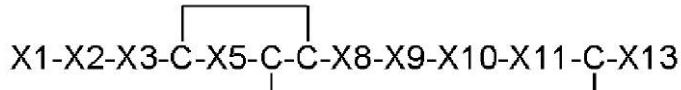
または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を有する、請求項1に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

【請求項9】

前記ポリペプチドが、式VII：

40

【化7】



VII

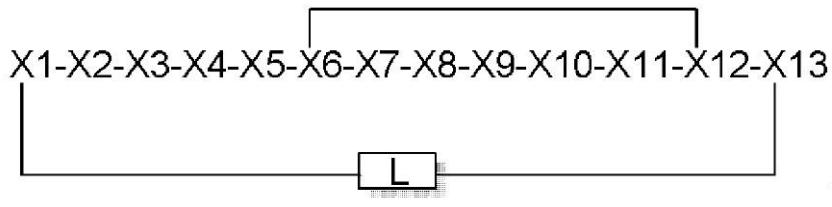
または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を有する、請求項1に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

50

## 【請求項 10】

前記ポリペプチドが、式VIII：

## 【化8】



[式中、X1のN末端とX13のC末端とは、リンカーLと一緒に環を形成し、かつ、ここで、Lは、(G)rであり、Gは、グリシンであり、かつ、rは、1、2、3、または4である]

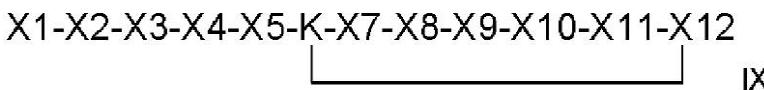
または前記ポリペプチドの塩を有し、かつ、

前記半減期延長性部分が、X2、X3、X5、X7、X8、またはX11の側鎖に、共有結合によって連結する、請求項1、2、5、6、または7に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

## 【請求項 11】

前記ポリペプチドが、式IX：

## 【化9】



[式中、X12は、Fまたはfであり、ここで、X12のC末端は、X6のアミノ側鎖とアミド結合を形成する]

または前記ポリペプチドのエステル、アミド、もしくは塩を有する、請求項1に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

## 【請求項 12】

X1がpEであり、または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩、ここで、前記半減期延長性部分が、前記ポリペプチドのC末端、または側鎖アミノ官能基に、場合によりリンカーを介して連結する、請求項1から9および12のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

## 【請求項 13】

X13がFである、請求項1から9のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体、または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩。

## 【請求項 14】

X5がLである、請求項1から13のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体、または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩。

## 【請求項 15】

X7がHである、請求項1から14のいずれか一項に記載のその多量体のバイオコンジュゲート、または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩。

## 【請求項 16】

X8がKである、請求項1から15のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体、または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩。

## 【請求項 17】

X9がGである、請求項1から16のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体、または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩。

## 【請求項 18】

X11がNleである、請求項1から17のいずれか一項に記載のポリペプチド、または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩。

10

20

30

40

50

## 【請求項 19】

前記ポリペプチドが、

## 【化 10】

*pE-R-P-R-L-K\*-H-F-G-P-Nle-D\**- フェネチルアミン、  
*pE-R-P-R-L-K\*-H-F-G-P-Nle-E\**- フェネチルアミン、  
*pE-R-P-R-L-Orn\*-H-F-G-P-Nle-D\**- フェネチルアミン、  
*pE-R-P-R-L-Dab\*-H-F-G-P-Nle-D\**- フェネチルアミン、  
*pE-R-P-R-L-K\*-F-K-G-P-Nle-F\**,  
*pE-R-P-R-L-K\*-F-K-G-P-Nle-f\**,

\*\*Q-R-P-R-L-C\*-F-K-G-P-Nle-C\*-F-G-G\*\*,  
pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,  
pE-R-P-R-L-C\*-Aib-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,  
pE-R-P-R-L-C\*-Aib-K-G-P-Nle-C\*-f-OH,  
H-lsn-R-P-R-L-C\*-Aib-K-G-P-Nle-C\*-f-OH,  
pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*- フェネチルアミン、  
pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-f-OH,  
pE-R-P-R-Cha-C\*-H-K-G-P-Cha-C\*-F-OH,  
pE-R-P-R-L-C\*-F-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,  
H-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,  
H-R-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,  
H-lsn-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,  
pE-R-P-R-L-C\*-H-F-G-P-Nle-C\*- フェネチルアミン、  
pE-R-P-R-L-C\*-H-K-Aib-P-Nle-C\*-F-OH,  
pE-R-P-R-L-C\*-H-(4-NH-lsn)-G-P-Nle-C\*-F-OH,  
pE-R-P-C\*\*-L-C\*-C\*\*-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,  
pE-R-C\*\*-R-L-C\*-C\*\*-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-r-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-F-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-E-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-p-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-K-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-D-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-F-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-K-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-L-C\*-H-E-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-L-C\*-H-K-D-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-E-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-(4-PhF)-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-D-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-L-C\*-E-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-L-C\*-H-K-L-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-L-C\*-H-K-R-P-Nle-C\*-F-OH;  
pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-( ピペコリン酸 )-Nle-C\*-F-OH;

*pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-(3-PyA)-C-F-OH;*

*pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-H-OH;*

*pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-E-OH;*

*pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-NH<sub>2</sub>;*

*pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-NH<sub>2</sub>;*

*pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-OH;*

*pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-hC\*-F-OH;*

*pE-R-P-R-L-hC\*-H-K-G-P-Nle-hC\*-F-OH;*

*pE-R-P-R-L-c\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH;*

*pE-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-(D-hC)\*-F-OH;*

*pE-R-P-R-L-(D-hC)\*-H-K-G-P-Nle-(D-hC)\*-F-OH;*

*pE-R-P-R-L-C\*H-K-G-P-Nle-c\*-F-OH;*

*pE-R-P-R-L-c\*-H-K-G-P-Nle-c\*-F-OH;*

*pE-R-P-R-L-C\*\*\*-H-K-G-P-Nle-C\*\*\*-F-OH*

*Q-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH, および*

*Q-R-P-R-L-C\*H-K-G-P-M-C\*-F-OH*

10

20

30

40

50

[式中、「\*」で印を付けた2つのアミノ酸は、それぞれ、その側鎖または末端を介したジスルフィド結合またはアミド結合を形成しているアミノ酸を表し、かつ、式中、「\*\*」で印を付けた2つのアミノ酸は、その側鎖を介したジスルフィドまたはその末端を介したアミド結合を形成しているアミノ酸を表し、かつ、式中、「\*\*\*」で印を付けた2つのアミノ酸は、その側鎖を介したモノスルフィド結合を形成しているアミノ酸を表す] または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩から選択される、請求項1に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

#### 【請求項20】

前記ポリペプチドが、

#### 【化11】

*Q-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,*

*Q-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-M-C\*-F-OH,*

*H-Isn-R-P-R-L-C\*-Aib-K-G-P-Nle-C\*-f-OH,*

*H-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,*

*H-R-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH,*

*H-Isn-R-P-R-L-C\*-H-K-G-P-Nle-C\*-F-OH*

[式中、2つのシステインアミノ酸C\*の側鎖は、一緒にジスルフィド結合を形成する] または前記ポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩から選択される、請求項18に記載のバイオコンジュゲート。

#### 【請求項21】

前記半減期延長性部分が、IgG定常ドメインもしくはその断片、またはヒト血清アルブミンである、前記請求項のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

#### 【請求項22】

前記半減期延長性部分が、LALLA変異(L234A、L235A)を有するFcLALLA改变Fc断片である、前記請求項のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲート。

#### 【請求項23】

前記半減期延長性部分が、式 I および I II ~ IX のいずれか 1 つに従うポリペプチドに、リンカーを介して融合する Fc ドメインであり、かつ、ここで、前記リンカーは、次式：

- [ G G G G S ] n -

を有し、n は、1、2、もしくは 3 であり、または前記リンカーは、GG もしくは GS であり、かつ、式 I および I II ~ IX のいずれか 1 つに従うポリペプチドは、自然に存在するアミノ酸を含む、請求項 1、4 から 7、13 から 17、21 から 22 のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲート。

#### 【請求項 24】

前記半減期延長性部分が、C 末端リシンが欠失している、またはアラニンで置き換えられている Fc 变異体である、請求項 23 に記載のバイオコンジュゲート。 10

#### 【請求項 25】

前記ポリペプチドが、式 I のポリペプチドであり、  
式中、

X1 が、ポリペプチドの N 末端であり、かつ、存在しないか、または R、Q、A、および K から選択されるかのいずれかであり、

X2 は、R、A、K、H、F、または E であり、

X3 が、P、A、K、または D であり、

X4 が、R、A、F、または E であり、

X5 が、L、A、K、D、または F であり、

X6 および X12 が、C であり、かつ、ジスルフィド (-S-S-) 結合によって連結し合っており、

X7 が、H、A、K、F、P、N、または E であり、

X8 が、K、F、A、または E であり、

X9 が、G、A、D、L、または R であり、

X10 が、P または A であり、

X11 が、M、A、F、Y、L、または K であり、かつ、

X13 が、C 末端であり、かつ、存在しないか、または F、I、A、K、H、および E から選択される、

請求項 23 または 24 に記載のバイオコンジュゲート。 30

#### 【請求項 26】

前記ポリペプチドが、Q - R - P - R - L - C \* - H - K - G - P - M - C \* - F である、請求項 22、23、24、または 25 に記載のバイオコンジュゲート。

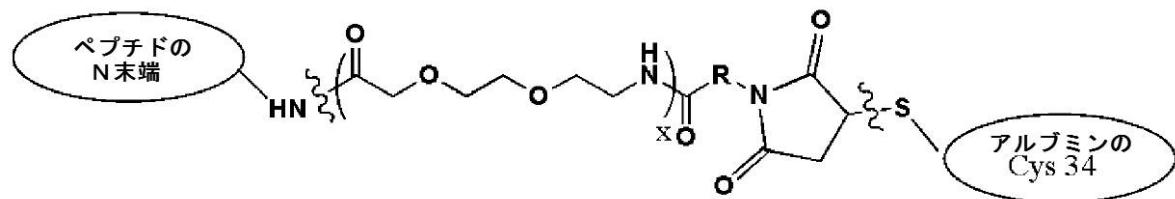
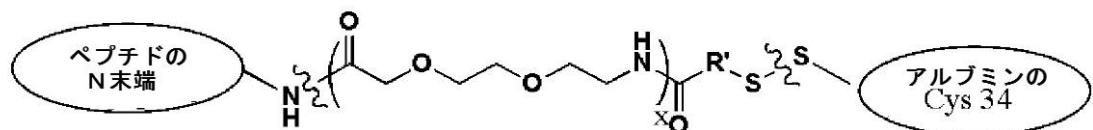
#### 【請求項 27】

前記半減期延長性部分がヒト血清アルブミンである、前記請求項のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲートまたはその多量体。

#### 【請求項 28】

前記ヒト血清アルブミンが、式 I ~ V II および IX のいずれか 1 つのポリペプチドの N 末端に、次式のリンカー：

【化12】

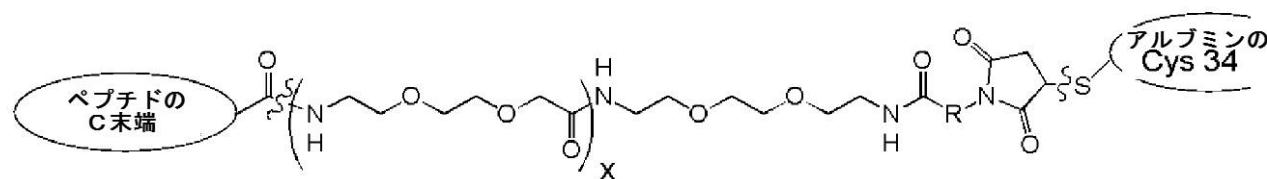
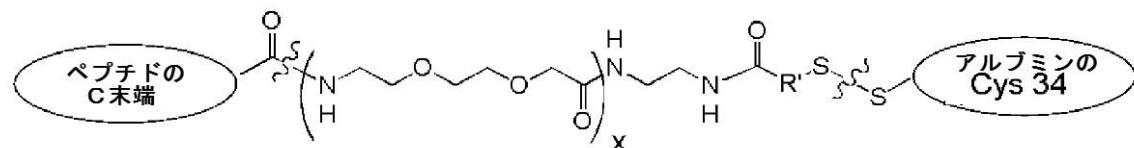


[式中、×は、1～20であり、Rは、線状もしくは分枝状アルキレン、シクロアルキル、ヘテロアリールのアリール、またはこれらの組合せであり、R'は、線状または分枝状アルキレン、アリール、もしくはシクロアルキル、またはこれらの組合せである]を介して化学的に連結する、請求項27に記載のバイオコンジュゲート。

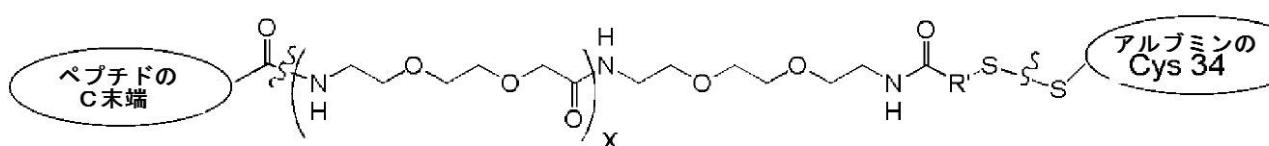
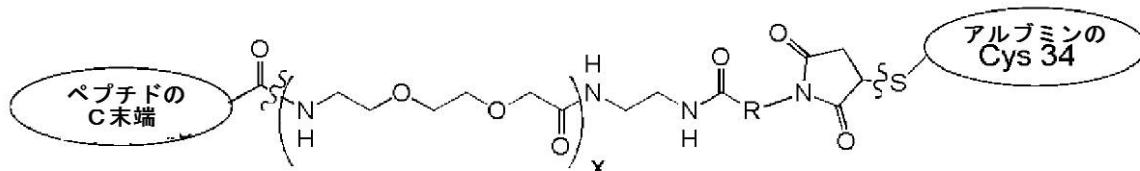
## 【請求項29】

前記ヒト血清アルブミンが、式I～VIIのいずれか1つのポリペプチドのC末端に、次式のリンカー：

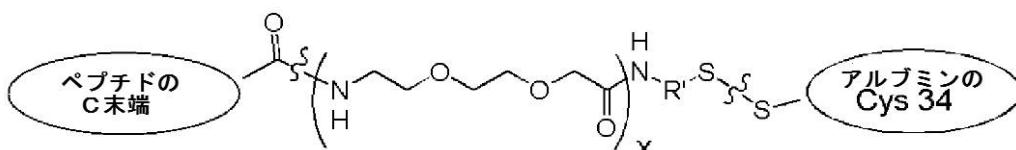
【化13】



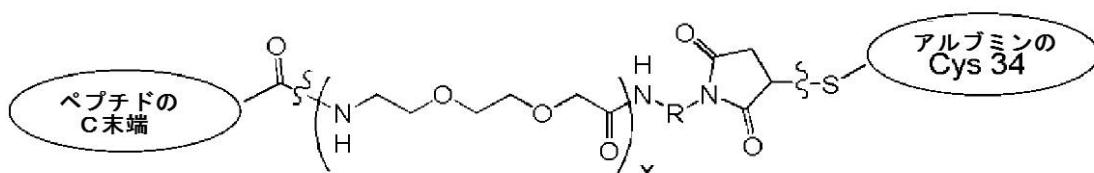
10



20



30



[式中、 $x$ は、1～20であり、Rは、線状もしくは分枝状アルキレン、シクロアルキル、ヘテロアリールのアリール、またはこれらの組合せであり、R'は、線状または分枝状アルキレン、アリール、もしくはシクロアルキル、またはこれらの組合せである]を介して化学的に連結する、請求項27に記載のバイオコンジュゲート。

## 【請求項30】

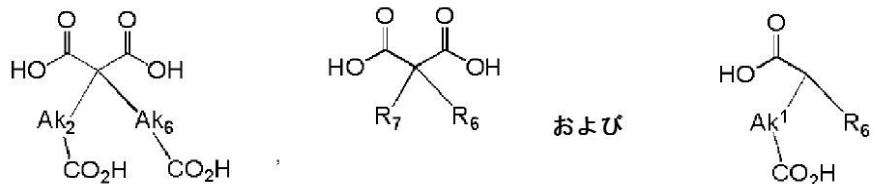
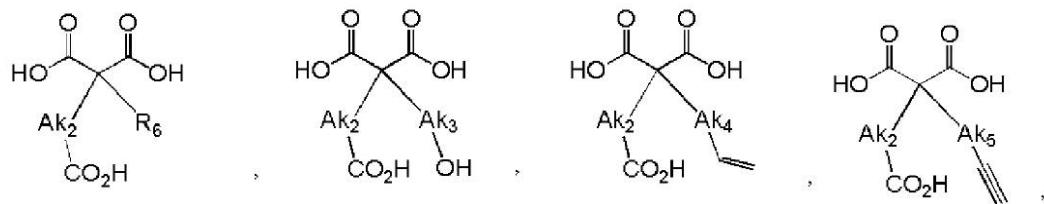
前記半減期延長性部分が脂肪酸である、請求項1から26のいずれか一項に記載のバイオコンジュゲート。

## 【請求項31】

前記脂肪酸が、

40

## 【化14】



10

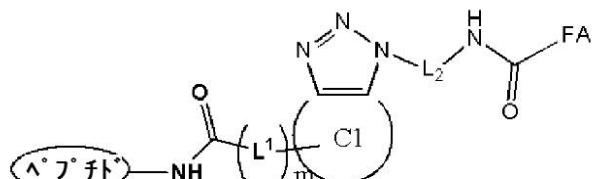
[式中、Ak<sup>2</sup>、Ak<sup>3</sup>、Ak<sup>4</sup>、Ak<sup>5</sup>、およびAk<sup>6</sup>は、独立して、(C<sub>8</sub>-<sub>20</sub>)アルキレンであり、R<sup>6</sup>およびR<sup>7</sup>は、独立して、(C<sub>8</sub>-<sub>20</sub>)アルキルである]から選択される、請求項30に記載のバイオコンジュゲート。

## 【請求項32】

次式：

## 【化15】

20



または



30

[式中、ペプチドは、ペプチドのN末端であり、mは、0または1であり、nは、1、2、または3であり、Aは、アラニンであり、Hは、ヒスチジンであり、L<sub>2</sub>は、リンカーであり、C1は、フッ素で場合により置換されている单環式、二環式、または三環式の炭素環またはヘテロ環系であり、かつ、L<sup>1</sup>は、C1～C20アルキレンリンカーであり、ここで、アルキレン鎖は、オキソ(=O)で場合により置換されており、かつ、ここで、1個または複数の炭素は、OまたはNHで置き換えられている]

を有する、請求項1、30、または31に記載のバイオコンジュゲート。

## 【請求項33】

その必要のある対象において、APJ受容体のアゴニズムに反応を示す疾患または障害を治療または予防する方法であって、治療有効量の請求項1から32のいずれか一項に記載のポリペプチドまたはそのアミド、エステル、もしくは塩を前記対象に投与する工程を含む、方法。

## 【請求項34】

前記疾患または障害が、急性非代償性心不全(ADHF)、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、Brugada症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病(妊娠糖尿病を含む)、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷(日焼けを含む)、および子癇前症から選択される、請求項33に記載の方法。

## 【請求項35】

40

50

医薬として使用するための、請求項 1 から 3 2 のいずれか一項に記載のポリペプチドまたはそのアミド、エステル、もしくは塩。

**【請求項 3 6】**

A P J 受容体のアゴニズムに反応を示す疾患または障害の治療または予防において使用するための、請求項 1 から 3 2 のいずれか一項に記載のポリペプチドまたはそのアミド、塩のエステル。

**【請求項 3 7】**

急性非代償性心不全 (A D H F) 、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、Brugada 症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、または子癇前症の治療において使用するための、請求項 1 から 3 2 のいずれか一項に記載のポリペプチドまたはそのアミド、塩のエステル。

10

**【請求項 3 8】**

治療有効量の請求項 1 から 3 2 のいずれか一項に記載のポリペプチドまたはそのアミド、エステル、もしくは塩と、1種または複数の治療活性のある共薬剤（co-agent）とを含む組合せ。

**【請求項 3 9】**

前記共薬剤が、イノトロープ、アドレナリン受容体遮断薬、HMG-CoA 還元酵素阻害薬、アンジオテンシン I I 受容体アンタゴニスト、アンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬、カルシウムチャネル遮断薬 (CCB) 、エンドセリンアンタゴニスト、レニン阻害薬、利尿薬、A p o A - I 模倣薬、抗糖尿病薬、抗肥満薬、アルドステロン受容体遮断薬、エンドセリン受容体遮断薬、アルドステロンシルバーゼ阻害薬 (ASI) 、CETP 阻害薬、抗凝血薬、リラキシン、BNP (ネシリチド) 、および / または N E P 阻害薬から選択される、請求項 3 8 に記載の組合せ。

20

**【請求項 4 0】**

治療有効量の請求項 1 から 3 2 のいずれか一項に記載のポリペプチドまたはそのアミド、エステル、もしくは塩と、1種または複数の薬学的に許容される担体とを含む医薬組成物。

30

**【発明の詳細な説明】**

**【技術分野】**

**【0 0 0 1】**

**発明の分野**

本発明は、A P J アゴニストポリペプチドと半減期延長性部分 (half-life extending moiety) のバイオコンジュゲートである半合成生物学的分子を含む組成物に関する。特に、本発明のバイオコンジュゲートは、その対応する裸のポリペプチドに比べて、ペプチダーゼの作用によるタンパク質分解性分解に対する耐性がより高い。本発明はさらに、前記組成物の製造方法、および前記組成物を心血管疾患治療において薬学的活性剤として使用する方法に関する。

40

**【背景技術】**

**【0 0 0 2】**

**発明の背景**

西欧諸国における心不全の発生率は、65才を過ぎた成人のおよそ 100 人に 1 人である。最も一般的な病態は、心収縮性、したがって、心拍出量、すなわち、どちらかの心室によって排出される有効血液量が徐々に慢性的に不足することである。慢性心不全の患者は、代償不全、すなわち、心臓が十分な血液循環を維持できないという急性エピソードを伴う場合があり、その場合、心収縮性はさらに低下する。米国だけで、「急性非代償性心不全」 (A D H F) での入院は、毎年約 50 万件である。

**【0 0 0 3】**

A D H F の現行の療法としては、利尿薬、血管拡張薬、およびイノトロープが挙げられ

50

、これらは、心収縮性を直接増大させる。現用の静脈内イノトロープ（ドブタミン、ドーパミン、ミルリノン、レボシメンダン）は、不整脈などの有害事象および長期死亡率の増大と関連付けられているにもかかわらず、急性の状況で使用される。こうした傾向があることは、これらを慢性心不全に適用する妨げとなっている。ジゴキシンは、経口イノトロープ（oral inotrope）であるが、狭い治療指数、潜在的な催不整脈性の増大、および腎不全における禁忌による制約がある。

#### 【0004】

催不整脈性または死亡の傾向なしに心収縮性を増大させる心不全の療法は、ADHF用に差し迫って求められてはいるが、慢性心不全における未対応の膨大な医学的要請にも対処できるはずである。

10

#### 【0005】

アペリンは、アペリン受容体、アンジオテンシン様1受容体、アンジオテンシンII様1受容体などとも呼ばれる、以前はオーファンであったGタンパク質共役型受容体（GPCR）APJの、内因性リガンドである。アペリン/APJ経路は、心血管系において広く発現され、アペリンは、前臨床モデルにおいて、有益な主要な心血管効果を示している。ヒトにおける急性アペリン投与は、末梢および冠動脈の血管拡張を引き起こし、心拍出量を増加させる（Circulation. 2010; 121:1818-1827）。結果として、APJアゴニズムは、心不全患者にとっての重要な治療ターゲットとして浮上している。アペリン受容体APJの活性化は、現行の療法の傾向を伴わずに、心収縮性を増大させ、心臓保護になると考えられている。しかし、自然のアペリンは、in vivoでの半減期および作用持続時間が非常に短い。非常に短い半減期は、急速な血清クリアランス、およびペプチダーゼの作用によるタンパク質分解性分解を原因とする、このような治療用内因性ペプチド送達の、広く認められている主要な難題である。

20

#### 【0006】

この欠点を克服するために現在使用されている一手段は、一部の治療用ペプチドが分解されるとしても、十分治療上有効なままとなるように、問題の治療用ペプチドを高い投薬量で患者に投与することである。しかし、この方法は、患者にとって快適ではない。大半の治療用ペプチドは経口投与することができないので、治療用ペプチドは、絶えず注入する、静脈内注射によって頻回注入する、または皮下注射という不便な経路によって頻回投与することのいずれかの必要があることになる。頻回投与が必要となる結果、潜在的可能性のある多くのペプチド治療薬には、許容されない非常に突出した治療コストが伴う。分解された多量のペプチドの存在は、望ましくない副作用も生じかねない。

30

#### 【0007】

投与の苦痛および高いコストは、魅力的な生物活性プロファイルを有する大半の治療用ペプチドが、薬物候補として開発されることのない、2つの理由である。

#### 【0008】

したがって、ペプチドの半減期を延長する1つの手法は、生物学的活性を依然として維持しながら、その分解の速度を緩めるように、治療用ペプチドを改変することである。そのような合成的に改変されたポリペプチドは、公開されていない米国特許出願第13/747,621号（PAT054961-US-NP）に記載されている。別の手法としては、ペプチドを、腎臓を介したその排出を妨げる分子にコンジュゲートさせることにより、クリアランスの速度を減速することが挙げられる。しかし、そのようなバイオコンジュゲートは、依然としてプロテアーゼ活性を受けやすい場合がある。

40

#### 【0009】

したがって、改変ペプチドの治療上の利点を依然として保持しつつ低い毒性を維持しながら、in vivoでの作用持続時間をより長くするために半減期が延長されている、改変された治療用ペプチドが求められている。

#### 【発明の概要】

#### 【課題を解決するための手段】

#### 【0010】

50

## 発明の簡単な説明

本発明は、問題の治療用ペプチドまたはポリペプチド、すなわち、APJアゴニストを改変することにより、身体内でのペプチド分解の問題を克服することを対象とする。

### 【0011】

したがって、本発明の目的は、a) APJアゴニストとして有用であるペプチドまたはポリペプチドと、b) 半減期延長性部分とを含み、このペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、新規のバイオコンジュゲートまたはその多量体を提供することである。

### 【0012】

本発明のバイオコンジュゲートは、野生型アペリンおよび他の既知のアペリン類似体に優る次の改良点、すなわち、半減期の延長、投与後および/または可溶化後の分解に対するより強い免疫性、ならびに立体配座拘束の増強のうちの少なくとも1つを、すべて、野生型アペリンと同等またはそれを超える生物学的活性を示しながら保持する。したがって、本発明のペプチドおよびポリペプチドは、心不全などの心血管疾患、心不全と関連する障害および状態、ならびにAPJ受容体活性の活性化に反応を示す障害および状態の治療または予防に特に有用である。

### 【0013】

一実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、心不全と関連する障害もしくは状態、またはAPJ受容体活性の活性化（もしくはアゴニズム）に反応を示す障害の治療または予防に特に有用である。別の実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、急性非代償性心不全（ADHF）、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、Brugada症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作（cerebrovascular accident）、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、および子癇前症の治療において特に有用である。

### 【0014】

本発明は、本明細書に記載するとおりの、ペプチドまたはポリペプチドと半減期延長性部分とのバイオコンジュゲート、その医薬組成物、ならびにその製造および使用の方法に関する。

### 【0015】

バイオコンジュゲートをなすペプチドまたはポリペプチドの例としては、式I～IXのいずれか1つに従うペプチドおよびポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩、ならびに、限定はしないが実験実施例を始めとする、本明細書において詳細に列挙するいずれかのペプチドまたはポリペプチドが挙げられる。

### 【0016】

したがって、本発明は、

a. 式(I')：

### 【0017】

### 【化1】

X1-X2-X3-X4-X5-X6-X7-X8-X9-X10-X11-X12-X13

[ ] I'

[式中、

X1は、ポリペプチドのN末端であり、かつ、存在しないか、またはP、E、R、Lsn、Q、A、K、および5-アミノ-吉草酸から選択されるかのいずれかであり、

X2は、R、A、r、N-Me-R、K、H、hF、hK、F、E、またはOrnであり、

X3は、P、A、a、p、4-PhP、K、D、ピペコリン酸、またはシステインであ

10

20

30

40

50

り、ここで、システインの側鎖は、X 7位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

X 4は、R、A、r、N - Me - R、F、E、またはシステインであり、ここで、システインの側鎖は、X 7位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

X 5は、L、C h a、A、D - L、N - Me - L、K、D、4 - Ph F、またはFであり、

X 6およびX 12は、独立して、C、c、h C、D - h C、K、D、Or n、D a b、またはEから選択される天然または天然でないアミノ酸であり、ここで、X 6とX 12の側鎖は、共有結合によって連結し合って、モノスルフィド(-S-)、ジスルフィド(-S-S-)、またはアミド結合(-NH C(O)-もしくは-C(O)-NH-)のいずれかを形成しており；または代わりに、X 6は、Kであり、X 13は、存在せず、X 12は、Fまたはfであり、ここで、X 12のC末端は、X 6のアミノ側鎖とアミド結合を形成し、

X 7は、H、h、A、N - Me - A、a、A i b、K、Na l、F、P、D a p、N、E、またはシステインであり、ここで、システインの側鎖は、X 3位にあるシステインの側鎖、またはX 4位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

X 8は、K、k、F、f、A、h F、N - Me - R、E、または4 - アミノ - l s n あり、

X 9は、G、N - Me - G、A、D、L、R、またはA i b あり、

X 10は、P、A、p、4 - Ph P、またはピペコリン酸であり、

X 11は、M、D - N l e、N l e、N - Me - N l e、M(O)、A、F、Y、L、K、3 - Py A、またはC h a あり、かつ、

X 13は、C末端であり、かつ、存在しないか、またはF、f、N - Me - F、Na l、D - Na l、3 - Br - F、(S) - - 3 - F、I、A、a、K、D a p、H、およびEから選択され、

ここで、

N l e は、L - ノルロイシンであり、

D - h C は、D - ホモシステインであり、

h C は、L - ホモシステインであり、

h F は、L - ホモフェニルアラニンであり、

h K は、L - リシンであり、

Na l は、L - ナファタリン(L-naphthaline)であり、

Or n は、オルニチンであり、

A i b は、-アミノイソ酪酸であり、

D a b は、(S) - ジアミノ酪酸であり、

D a p は、(S) - 2 , 3 - ジアミノプロピオン酸であり、

M(O) は、メチオニンスルホンであり、

C h a は、(S) - - シクロヘキシルアラニンであり、

4 - アミノ - l s n は、4 - アミノピペリジン - 4 - カルボン酸であり、

l s n は、イソニベコチノイルであり、

p E は、L - ピログルタミン酸であり、

3 - Py A は、3 - (3 - ピリジル) - L - アラニンであり、

4 - Ph F は、4 - フェニル - L - フェニルアラニンであり、

ここで、N末端およびC末端は、1、2、3、または4つのグリシンアミノ酸と一緒に、場合により環を形成する】

のペプチドまたはポリペプチドまたはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩、またはこれらと実質的に同等なポリペプチドと、

b . 半減期延長性部分と

を含み、前記ポリペプチドのペプチド(said peptide or polypeptide)と前記半減期延長性部分は、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイ

10

20

30

40

50

オコンジュゲートまたはその多量体を提供する。

【0018】

本明細書においてさらに説明するとおり、本発明のペプチドおよびポリペプチドを構成するアミノ酸残基を表すのには、当業界で受け入れられている3文字または1文字略語を使用する。「D」が前に付く場合を除き、アミノ酸は、L-アミノ酸である。1文字略語が大文字であるとき、略語はL-アミノ酸を指す。1文字略語が小文字であるとき、略語はD-アミノ酸を指す。

【0019】

上で挙げた式I'のアミノ酸残基のいずれか、または本明細書に記載のその関連式、たとえば、式I、II~IXは、本発明のバイオコンジュゲートが、機能活性および構造特性（たとえば、半減期の延長、分解からの保護、立体配座拘束）を依然として保持するという前提で、保存的な様式で置換されていてもよい。許容される保存的なアミノ酸置換の原理および例は、本明細書でさらに説明する。

10

【0020】

本発明の半減期延長性部分は、ペプチドまたはポリペプチド類似体に、共有結合によって融合、付着、連結、またはコンジュゲートしていくよい。半減期延長性部分は、たとえば、ポリエチレングリコール(PEG)などのポリマー、コレステロール基、炭水化物、もしくはオリゴ糖、脂肪酸またはサルベージ受容体に結合するいずれかの天然もしくは合成タンパク質、ポリペプチド、もしくはペプチドでよい。半減期延長性部分は、血清半減期の長い血漿タンパク質(アルブミンおよび免疫グロブリン)に、場合によりリンカーを介して共有結合によって連結することが好ましい。他の実施形態では、半減期延長性部分は、アルブミン結合性残基である。本明細書で使用する「アルブミン結合性残基」とは、ヒト血清アルブミンに、共有結合によってではなく結合する残基を意味する。一実施形態では、アルブミン結合性残基は、親油性残基である。別の実施形態では、アルブミン結合性残基は、生理的pHで負電荷を有する。アルブミン結合性残基は、通常、負電荷を有するカルボン酸を含む。アルブミン結合性残基の例としては、脂肪酸が挙げられる。他の実施形態では、半減期延長性部分は、IgG定常ドメインもしくはその断片(たとえば、Fc領域)、ヒト血清アルブミン(HSA)、またはアルブミン結合性ポリペプチドである。バイオコンジュゲートの半減期延長性部分の部分は、ヒト血清アルブミンまたはFc領域であることが好ましい。バイオコンジュゲートの半減期延長性部分の部分は、Fc領域であることが最も好ましい。

20

【0021】

半減期延長性部分は、本発明のバイオコンジュゲートの構成部分、たとえば、式I'もしくは本明細書に記載のその関連式(式I~IX)のペプチドまたはポリペプチドの生物学的機能を増強するように、かつ/またはその妨げとならないようにして付着させる。一部の実施形態では、本発明のポリペプチドは、半減期延長性部分に、場合によりリンカーを介して融合していくよい。半減期延長性部分は、IgG定常ドメインもしくはその断片(たとえば、Fc領域)、ヒト血清アルブミン(HSA)、脂肪酸またはアルブミン結合性ポリペプチドなどのタンパク質でよい。本明細書で開示するこのようなタンパク質は、多量体を形成してもよい。

30

【0022】

一部の実施形態では、半減期延長性部分(たとえば、HSA、Fc、脂肪酸など)は、式I'またはI~IXのペプチドまたはポリペプチドのN末端に、共有結合によって連結または融合する。他の実施形態では、半減期延長性部分(たとえば、HSA、Fc、脂肪酸など)は、本発明の式I'またはI~IXのペプチドまたはポリペプチドのC末端に、共有結合によって連結または融合する。

40

【0023】

本発明のバイオコンジュゲートは、APJ受容体の活性化を介して、急性非代償性心不全(ADHF)、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、Brugada症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、

50

不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、および子癇前症の治療において有用である。

【0024】

好ましい実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、急性非代償性心不全（ADHF）の治療において有用である。

【0025】

別の実施形態では、本発明は、そのような治療の必要のある対象において、APJ受容体の活性化に反応を示す障害または疾患を治療する方法であって、対象におけるAPJ受容体の活性化に反応を示す障害または疾患が治療されるような有効量の本発明のバイオコンジュゲートを対象に投与する工程を含む方法に関する。 10

【0026】

さらに別の実施形態では、本発明は、本発明のバイオコンジュゲートと、1種または複数の薬学的に許容される担体とを含む医薬組成物に関する。

【0027】

さらに別の実施形態では、本発明は、本発明のバイオコンジュゲートと、1種または複数の治療活性薬剤の医薬的組合せ（pharmaceutical combination）とを含む組合せに関する。

【0028】

別の実施形態では、本発明は、その必要のある対象においてAPJ受容体を活性化させる方法であって、治療有効量の本発明のバイオコンジュゲートを対象に投与する工程を含む方法に関する。 20

【0029】

本発明のこれらおよび他の態様は、以下の本発明の詳細な説明において解説される。

【発明を実施するための形態】

【0030】

発明の詳細な説明

定義

本出願を説明する目的のために、別段指定しない限り、また相応しい場合は常に、以下の定義が適用され、単数形で使用する用語は、複数形の語も包含し、逆の場合も同様である。 30

【0031】

本明細書で使用するとき、「APJ受容体の変調に反応を示す障害または疾患」、「APJの変調に反応を示す障害および状態」、「APJ受容体活性の変調に反応を示す障害および状態」、「APJ受容体活性の活性化（またはアゴニズム）に反応を示す障害」および同様の用語は、急性非代償性心不全（ADHF）、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、Brugada症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、および子癇前症を包含する。 40

【0032】

本明細書で使用するとき、「APJ受容体活性の活性化」または「APJ受容体の活性化」とは、APJ受容体活性の増大を指す。APJ受容体活性の活性化は、たとえば、本発明のペプチドおよびポリペプチドの投与による、APJ受容体の「アゴニズム」とも呼ぶ。

【0033】

本明細書で使用するとき、用語「ポリペプチド」および「ペプチド」は、互いに連結した2個以上のアミノ酸を指すのに、互換的に使用する。以下で表1に示す、珍しいまたは自然でないアミノ酸の略語を除き、当業界で受け入れられている3文字または1文字略語を使用して、本発明のペプチドおよびポリペプチドを構成するアミノ酸残基を表す。「D 50

」が前に付く場合を除き、アミノ酸は、L-アミノ酸である。1文字略語が大文字であるとき、略語は、D-アミノ酸を指す。1文字略語が小文字であるとき、略語は、L-アミノ酸を指す。集まりまたは連なりまたはアミノ酸略語を使用して、ペプチドを表す。ペプチドは、N末端を左側にして示し、配列は、N末端からC末端に向かって記す。

#### 【0034】

本発明のペプチドは、非天然アミノ酸（すなわち、自然界では発生しない化合物）を含んでおり、当業界で知られているような他のアミノ酸類似体をその代わりとして用いてよい。

#### 【0035】

ある特定の非天然アミノ酸は、Deiters et al., J Am Chem Soc 125:11782-11783, 2003, Wang and Schultz, Science 301:964-967, 2003, Wang et al., Science 292:498-500, 2001, Zhang et al., Science 303:371-373, 2004、または米国特許第7,083,970号に記載の技術によって導入することができる。簡潔に述べると、こうした発現系の一部には、部位特異的突然変異誘発が関与して、本発明のポリペプチドをコードするオープンリーディングフレームに、アンバーT A Gなどのナンセンスコドンが導入される。次いで、このような発現ベクターは、導入されたナンセンスコドンに特異的なtRNAを利用してすることのできる宿主に導入され、選択された非天然アミノ酸を積み込んでいる。本発明のポリペプチドに諸部分をコンジュゲートさせる目的で有益な特定の非天然アミノ酸として、アセチレン側鎖およびアジド側鎖を有するものが挙げられる。

#### 【0036】

本発明のペプチド中の天然または天然でないアミノ酸の1つまたは複数は、コンジュゲーション、機能付与、または他の改変などのために、たとえば、炭水化物基、ホスフェート基、ファルネシル基、イソファルネシル基、脂肪酸基( $C_qH_{q+1}C(O)_2H$ 、式中、qは、3~20である)、リンカーなどの化学的エンティティを附加して改変してもよい。前記改変は、部位特異的に行っても、または部位特異的でなく行ってもよい。好ましい実施形態では、ペプチドの改変により、より安定したペプチド(たとえば、より長いin vivo半減期を示すもの)が得られる。こうした改変として、追加のD-アミノ酸の組み込みなどを挙げることができる。いかなる改変も、ペプチドの所望の生物学的活性の実質的妨げとなるべきでなく、このような改変により、ペプチドに対して、望ましい特性、たとえば、生物学的活性の増強を付与することができる。

#### 【0037】

前記改変は、本発明のタンパク質の生物学的特性を、野生型タンパク質に比べて強化するだけでなく、場合によっては、たとえば、標識およびタンパク質半減期延長剤用に、また前記変異体を固体支持体の表面に固定する目的で、付着点として役立つ。

#### 【0038】

ある特定の実施形態では、たとえば、半減期を延長し、または前記ポリペプチドおよび/またはペプチドの生物学的特性を別な形で改善する目的で、このような改変、たとえば、部位特異的な改変を使用して、本発明のポリペプチドおよび/またはペプチドに、半減期延長性部分、たとえば、PEG基を付着させる。前記技術については、本明細書でさらに記載する。

#### 【0039】

他の実施形態では、このような改変、たとえば、部位特異的改変を使用して、本発明のポリペプチドの半減期を延長する他のポリマー、小分子、および組換え型タンパク質配列を付着させる。このような実施形態として、ポリペプチドおよび/またはペプチドに、脂肪酸または特定のアルブミン結合化合物を付着させるものが挙げられる。他の実施形態では、改変は、特定のアミノ酸タイプにおいてなされ、ポリペプチド上の1つまたは複数の部位において付着させることができる。

#### 【0040】

他の実施形態では、このような改変、たとえば、部位特異的改変を、野生型および/または変異体の多量体、たとえば、二量体(ホモ二量体またはヘテロ二量体)、三量体、ま

10

20

30

40

50

たは四量体を生成するための付着手段として使用する。こうした多量体タンパク質分子は、アミノ末端またはカルボキシ末端のいずれかにおいて、Fc、ヒト血清アルブミン(HSA)などの他のタンパク質に付着または縮合した、PEG、糖、および/またはPEG-コレステロールコンジュゲートなどの基をさらに有する場合もある。

#### 【0041】

他の実施形態では、このような部位特異的改変を使用して、部位特異的に組み込まれたピロリシンもしくはピロリシン類似体または自然に存在しないアミノ酸(*para*-アセチル-Phe、*para*-アジド-Phe)の位置により、配向の制御および固体支持体表面へのそのようなタンパク質、ポリペプチドおよび/またはペプチドの付着、またはPEG、糖、および/もしくはPEG-コレステロールコンジュゲートなどの基を付着させることが可能になる、タンパク質、ポリペプチド、および/またはペプチドを生成する。  
10

#### 【0042】

他の実施形態では、このような部位特異的改変を使用して、タンパク質、ポリペプチド、および/またはペプチドを部位特異的に架橋し、それによって、限定はしないが、ヘテロ二量体およびヘテロ三量体を始めとするヘテロオリゴマーを生成する。他の実施形態では、このような部位特異的改変を使用して、タンパク質、ポリペプチド、および/またはペプチドを部位特異的に架橋し、それによって、タンパク質-タンパク質コンジュゲート、タンパク質-ポリペプチドコンジュゲート、タンパク質-ペプチドコンジュゲート、ポリペプチド-ポリペプチドコンジュゲート、ポリペプチド-ペプチドコンジュゲート、またはペプチド-ペプチドコンジュゲートを生成する。他の実施形態では、部位特異的な改変として、1種類を越えるタイプの分子が、タンパク質、ポリペプチド、またはペプチドの单一部位において付着するのを可能にする分岐点を挙げることができる。  
20

#### 【0043】

他の実施形態では、本明細書で列挙する改変は、部位特異的でなく行われ、本発明のタンパク質-タンパク質コンジュゲート、タンパク質-ポリペプチドコンジュゲート、タンパク質-ペプチドコンジュゲート、ポリペプチド-ポリペプチドコンジュゲート、ポリペプチド-ペプチドコンジュゲート、またはペプチド-ペプチドコンジュゲートを得ることができる。

#### 【0044】

当業者なら、本明細書に記載のポリペプチドのいずれかの配列において、その活性を必然的に低下させることなく、種々のアミノ酸置換、たとえば、保存的アミノ酸置換がなされてもよいことは理解されよう。本明細書で使用するとき、「その置換基として一般に使用されるアミノ酸」は、保存的置換(すなわち、化学的特徴が同等であるアミノ酸での置換)を包含する。保存的置換の目的で、非極性(疎水性)アミノ酸としては、アラニン、ロイシン、イソロイシン、バリン、グリシン、プロリン、フェニルアラニン、トリプトファン、およびメチオニンが挙げられる。極性(親水性)天然アミノ酸としては、セリン、トレオニン、システイン、チロシン、アスパラギン、およびグルタミンが挙げられる。正電荷を有する(塩基性)アミノ酸としては、アルギニン、リシン、およびヒスチジンが挙げられる。負電荷を有する(酸性)アミノ酸としては、アスパラギン酸およびグルタミン酸が挙げられる。アミノ酸置換の例としては、その対応するD-アミノ酸の代わりにL-アミノ酸を用いるもの、ホモシステインもしくは含チオール側鎖を有する他の非天然アミノ酸の代わりにシステインを用いるもの、ホモリシン、ジアミノ酪酸、ジアミノプロピオン酸、オルニチン、もしくは含アミノ側鎖を有する他の非天然アミノ酸の代わりにリシンを用いるもの、またはノルバリンの代わりにアラニンを用いるものなどが挙げられる。  
30  
40

#### 【0045】

本明細書で使用する用語「アミノ酸」とは、その構造でそうした立体異性体型が可能である場合、すべて、そのDおよびL立体異性体の、自然に存在するアミノ酸、天然でないアミノ酸、アミノ酸類似体、および、自然に存在するアミノ酸と同様にして機能するアミノ酸模倣物を指す。アミノ酸は、本明細書では、その名称、一般に知られているその3文字記号、またはIUPAC-IUB Biochemical Nomenclature

e Commissionが推奨する1文字記号のいずれかで呼ぶ。

**【0046】**

用語「自然に存在する」とは、自然界で見出され、人の手で操作されていない材料を指す。同様に、「自然に存在しない」や「自然でない」などは、本明細書で使用するとき、自然界で見出されない、または人の手で構造が改変されもしくは合成されている材料を指す。アミノ酸に関連して使用するとき、用語「自然に存在する」とは、20種の通常のアミノ酸（すなわち、アラニン（AまたはA1a）、システイン（CまたはCys）、アスパラギン酸（DまたはAsp）、グルタミン酸（EまたはGlu）、フェニルアラニン（FまたはPhe）、グリシン（GまたはGly）、ヒスチジン（HまたはHis）、イソロイシン（IまたはIle）、リシン（KまたはLys）、ロイシン（LまたはLeu）、メチオニン（MまたはMet）、アスパラギン（NまたはAsn）、プロリン（PまたはPro）、グルタミン（QまたはGln）、アルギニン（RまたはArg）、セリン（SまたはSer）、トレオニン（TまたはThr）、バリン（VまたはVal）、トリプトファン（WまたはTrp）、およびチロシン（YまたはTyr）を指す。  
10

**【0047】**

本明細書で使用する用語「非天然アミノ酸（non-natural amino acid）」および「天然でないアミノ酸（unnatural amino acid）」は、同じであろうと異なつていようと、任意の生物中で、任意の生物からの未改変または改変遺伝子を使用して、生合成によって生成することのできないアミノ酸構造を、互換的に表すものである。これら用語は、自然に存在する（野生型）アペリンタンパク質配列または本発明の配列中に存在しないアミノ酸残基を指す。これらの用語は、限定はしないが、20種の自然に存在するアミノ酸の1つ、セレノシステイン、ピロリシン（Py1）、またはピロリン・カルボキシ・リシン（Pc1、たとえば、PCT特許公開WO2010/48582に記載のとおり）でない、改変アミノ酸および/またはアミノ酸類似体を包含する。このような非天然アミノ酸残基は、自然に存在するアミノ酸の置換によって、および/または自然に存在する（野生型）アペリンタンパク質配列もしくは本発明の配列への非天然アミノ酸の挿入によって導入することができる。非天然アミノ酸残基は、アペリン分子に所望の機能性、たとえば、機能性部分（たとえば、PEG）を連結する能力が付与されるように組み込むこともできる。アミノ酸に関連して使用するとき、記号「U」は、本明細書で使用される「非天然アミノ酸」および「天然でないアミノ酸」を意味するものとする。  
20

**【0048】**

加えて、このような「天然でないアミノ酸」をタンパク質に組み込むのに、改変tRNAおよび改変tRNAシンセターゼ（RS）が必要であることも理解される。こうした「選択された」tRNA/RS直交対は、Schnultzらが開発した選定方法によって、またはランダムもしくは標的変異によって生み出される。例として、ピロリン・カルボキシ・リシンは、ある生物から宿主細胞に移された遺伝子によって生合成で生成され、また天然のtRNAおよびtRNAシンセターゼ遺伝子を使用してタンパク質に組み込まれるので、「天然アミノ酸」であるが、p-アミノフェニルアラニン（Generation of a bacterium with a 21 amino acid genetic code, Mehl RA, Anderson JC, Santoro SW, Wang L, Martin AB, King DS, Horn DM, Schultz PG. J Am Chem Soc. 2003 Jan 29;125(4):935-9を参照されたい）は、生合成で生成されるとはいえ、「選択された」tRNA/tRNAシンセターゼ直交対によってタンパク質に組み込まれるので、「天然でないアミノ酸」である。  
30

**【0049】**

改変コードアミノ酸としては、限定はしないが、ヒドロキシプロリン、-カルボキシグルタメート、O-ホスホセリン、アゼチジンカルボン酸、2-アミノアジピン酸、3-アミノアジピン酸、beta-アラニン、アミノプロピオン酸、2-アミノ酪酸、4-アミノ酪酸、6-アミノカプロン酸、2-アミノヘプタン酸、2-アミノイソ酪酸、3-アミノイソ酪酸、2-アミノピメリン酸、第三級-ブチルグリシン、2,4-ジアミノイソ酪酸、デスマシン、2,2'-ジアミノピメリン酸、2,3-ジアミノプロブリオン酸、  
40

N - エチルグリシン、N - メチルグリシン、N - エチルアスパラギン、ホモプロリン、ヒドロキシリシン、a 1 1 o - ヒドロキシリシン、3 - ヒドロキシプロリン、4 - ヒドロキシプロリン、イソデスマシン、a 1 1 o - イソロイシン、N - メチルアラニン、N - メチルグリシン、N - メチルイソロイシン、N - メチルペニチルグリシン、N - メチルバリン、ナフトアラニン、ノルバリン、ノルロイシン、オルニチン、ペニチルグリシン、ピペコリン酸およびチオプロリンが挙げられる。用語「アミノ酸」は、ある特定の生物における代謝産物であるが、タンパク質への組み込みについては遺伝暗号によってコードされていない、自然に存在するアミノ酸も包含する。このようなアミノ酸として、限定はしないが、オルニチン、D - オルニチン、およびD - アルギニンが挙げられる。

【0050】

10

本明細書で使用する用語「アミノ酸類似体」とは、自然に存在するアミノ酸と同じ基礎化学構造、すなわち、単なる例として、水素、カルボキシル基、アミノ基、およびR基に結合した - 炭素を有する化合物を指す。アミノ酸類似体には、可逆的もしくは不可逆的に化学的ブロックがなされ、またはそのC末端カルボキシ基、そのN末端アミノ基、および/もしくはその側鎖官能基が化学的に改変されている、天然および天然でないアミノ酸が含まれる。そのような類似体として、限定はしないが、メチオニンスルホキシド、メチオニンスルホン、S - (カルボキシメチル) - システイン、S - (カルボキシメチル) - システインスルホキシド、S - (カルボキシメチル) - システインスルホン、アスパラギン酸 - (-メチルエステル)、N - エチルグリシン、アラニンカルボキサミド、ホモセリン、ノルロイシン、およびメチオニンメチルスルホニウムが挙げられる。

【0051】

20

## 【表1-1】

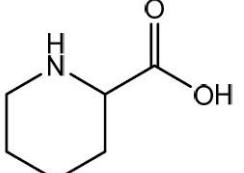
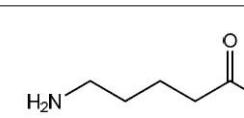
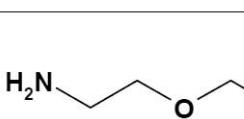
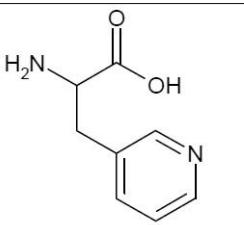
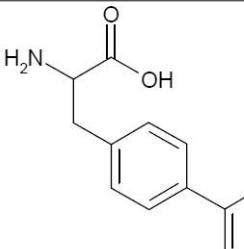
表1: 本発明において記載される、  
天然でないまたは非天然(un-natural or non-natural)アミノ酸:

記号	名称	構造
Aib	α-アミノイソ酪酸	
M(O)	メチオニンスルホン	
1-Nal	1-ナフトアラニン	
2-Nal	2-ナフトアラニン	
Cha	β-シクロヘキシリアルanine	
Dab	ジアミノ酪酸	
Dap	2,3-ジアミノプロピオン酸	

【表1-2】

hC	ホモシステイン		
hF	ホモフェニルアラニン		10
hK	ホモリシン		
Nle	ノルロイシン		20
Orn	オルニチン		
β-3-F	β-3-フェニルアラニン		30
4-アミノ-lsn	4-アミノピペリジン-4-カルボン酸 (4アミノ基がペプチド結合を形成する)		
lsn	イソニペコチニ酸		40
pE	ピログルタミン酸		

【表 1 - 3】

4-PhP	4-フェニルプロリン	
	ピペコリン酸	
	5-アミノ吉草酸	
O2Oc	8-アミノ-3,6-ジオキサオクタ ン酸	
3-PyA	3-(3-ピリジル)-アラニン	
4-PhF	4-フェニル-フェニルアラニ ン	

Nalは、1-ナフトアラニンと2-ナフトアラニンの両方、好ましくは2-ナフトアラニンを指す。4-フェニルプロリンは、*cis*と*trans*両方の4-フェニルプロリン、好ましくは*trans*-4-フェニルプロリンを指す。

【 0 0 5 4 】

本明細書で使用するとき、用語「アミド」とは、C末端におけるカルボン酸基のアミド誘導体（たとえば、-C(O)NH<sub>2</sub>、-C(O)NH-C<sub>1～6</sub>アルキル、-C(O)NH-C<sub>1～2</sub>アルキルフェニル、-C(O)NH-NHBn、または-C(O)N(C<sub>1～6</sub>アルキル)<sub>2</sub>）を指す。

【 0 0 5 5 】

用語「アミド」は、N末端におけるアミノ基の誘導体（たとえば、-NHCOCH<sub>3</sub>、-NHCO(CH<sub>2</sub>)<sub>n</sub>Ph（nは、1～6の整数である）、-NHCO(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>H、4-C<sub>1</sub>-Ph-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>C(O)NH-、C<sub>1</sub>H<sub>2</sub>OC(O)NH-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-O-CH<sub>2</sub>-C(O)-NH-、C<sub>1</sub>H<sub>2</sub>OC(O)NH-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-O-CH<sub>2</sub>-C(O)-NH-）である。

) - NH - 、 C<sub>1~5</sub>H<sub>2~7</sub>C(O)NH - (CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub> - O - (CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub> - O - CH<sub>2</sub> - C(O)NH - 、 Ph - CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>NHC(O) - NH - 、 または CH<sub>3</sub>(OCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>)<sub>m</sub>C(O)NH - (mは、1~12の整数である)も指す。

#### 【0056】

本明細書で使用するとき、用語「エステル」とは、C末端におけるカルボン酸基のエステル誘導体(たとえば、-COOR)形態を指し、エステルのRは、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチルなどのC<sub>1~6</sub>アルキル基、シクロヘキシルやシクロヘキシルなどのC<sub>3~8</sub>シクロアルキル基、フェニルや-ナフチルなどのC<sub>6~10</sub>アリール基、C<sub>6~10</sub>アリール-C<sub>1~6</sub>アルキル基、たとえば、ベンジル、フェネチル、ベンズヒドリルなどのフェニル-C<sub>1~2</sub>アルキル基、および-ナフチルメチルなどの-ナフチル-C<sub>1~2</sub>アルキル基などを指す。経口投与用のエステルとして一般に使用されるピバロイルオキシメチルエステルなども挙げることができる。本発明のポリペプチドが、C末端以外の位置に追加のカルボキシル基またはカルボキシレート基を有するとき、こうした基がアミド化またはエステル化されているポリペプチドも、本発明のポリペプチドの範疇に入る。そうした場合において、エステルは、たとえば、上述のC末端エステルと同じ種類のエステルでよい。

#### 【0057】

用語アルキルとは、1~20個の炭素原子を含む完全不飽和の分枝状または非分枝状(または直鎖状もしくは線状)炭化水素部分を指す。アルキルは、1~7個の炭素原子、より好ましくは1~4個の炭素原子を含むことが好ましい。

#### 【0058】

用語アリールとは、環部分に6~10個の炭素原子を有する、単環式または二環式の芳香族炭化水素基を指す。アリールの代表例は、フェニルまたはナフチルである。

#### 【0059】

用語ヘテロアリールは、炭素原子および1~5個のヘテロ原子から選択される5~10の環員を含んでおり、各ヘテロ原子は、O、NまたはSから独立して選択され、SおよびNは、種々の酸化状態に酸化されていてもよい、単環式または二環式ヘテロアリールを包含する。二環式ヘテロアリール系について、系は、完全に芳香族である(すなわち、すべての環が芳香族である)。

#### 【0060】

用語シクロアルキルとは、3~12個の炭素原子、好ましくは3~8個、または3~7個の炭素原子の、飽和または不飽和であるが非芳香族の単環式、二環式、または三環式炭化水素基を指す。二環式および三環式シクロアルキル系については、すべての環が非芳香族である。

#### 【0061】

用語ヘテロシクリルとは、4-、5-、6-、または7員の単環式であり、O、SおよびNから選択される少なくとも1個のヘテロ原子を含んでおり、NおよびSは、種々の酸化状態に場合により酸化されていてもよい、飽和または不飽和非芳香族(部分的不飽和)環を指す。一実施形態では、ヘテロシクリル部分は、5~7個の環原子を含んでおり、O、SまたはNから選択されるさらなるヘテロ原子も場合により含んでいる、飽和単環を表す。

#### 【0062】

用語「APJ」(「アペリン受容体」、「アンジオテンシン様1受容体」、「アンジオテンシンII様1受容体」などとも呼ばれる)とは、380残基、7回膜貫通ドメインのG<sub>i</sub>共役型受容体を指し、その遺伝子は、ヒトの11番染色体の長腕上に位置する(NCBI参照配列:NP\_005152.1、NCBI参照配列:NM\_005161によってコードされる)。APJは、1993年に、変性オリゴヌクレオチドプライマーを使用して、ヒトゲノムDNAから初めてクローニングされ(O'Dowd et al. Gene, 136:355-60、1993)、1型アンジオテンシンII受容体と有意に相同的である。しかし、この相同性にもかかわらず、アンジオテンシンIIは、APJを結合しない。この内因性リガンドは

10

20

30

40

50

、長年の間オーファンであったが、単離され、アペリンと命名された (Tatemoto et al., Biochem Biophys Res Commun 251, 471-6 (1998))。

#### 【0063】

用語「アペリン」は、77残基のプレタンパク質 (NCBI 参照配列 : NP\_0059109.3, NCBI 参照配列 : NM\_017413.3 によってコードされる) を指し、これがプロセシングを受けて、生物学的活性型のアペリンペプチド、たとえば、アペリン-36、アペリン-17、アペリン-16、アペリン-13、アペリン-12 になる。「アペリン-36」と呼ばれる全長成熟ペプチドは、36アミノ酸を含むが、最も強力なアイソフォームは、「Pyr-1-アペリン-13 または Pyr<sup>1</sup>-アペリン-13」と呼ばれる、ピログルタミン酸化型のアペリン13量体 (アペリン-13) である。種々のアペリン型は、たとえば、米国特許 6,492,324 B1 に記載されている。10

#### 【0064】

用語「コンジュゲート」と「バイオコンジュゲート」は、互換的に使用され、APJアゴニストポリペプチドまたは式I'もしくはI~IXのポリペプチドと半減期延長性部分とが、任意選択のリンカーを介して (via na optional linker) 共有結合によって付着した結果として生成したエンティティを指すものである。用語「コンジュゲート」または「バイオコンジュゲート」はまた、APJアゴニストポリペプチドまたは式I'もしくはI~IXのポリペプチドと半減期延長性部分とが融合した結果として生成したエンティティも包含するものである。20

#### 【0065】

用語半減期延長性部分は、ペプチドまたはポリペプチド類似体に共有結合によって連結 / 付着または融合していてよい。半減期延長性部分は、たとえば、ポリエチレングリコール (PEG) などのポリマー、脂肪酸、コレステロール基、炭水化物、もしくはオリゴ糖、またはサルベージ受容体に結合するいずれかの天然もしくは合成タンパク質、ポリペプチド、もしくはペプチドでよい。他の実施形態では、半減期延長性部分は、アルブミン結合性残基である。本明細書で使用する「アルブミン結合性残基」とは、ヒト血清アルブミンに、共有結合によってでなく結合する残基を意味する。一実施形態では、アルブミン結合性残基は、親油性残基である。別の実施形態では、アルブミン結合性残基は、生理的 pH で負電荷を有する。アルブミン結合性残基は、通常、負電荷を有しうるカルボン酸を含む。アルブミン結合性残基の例としては、脂肪酸が挙げられる。他の実施形態では、半減期延長性部分は、血清半減期の長い血漿タンパク質 (アルブミンおよび免疫グロブリン) に、場合によりリンカーを介して共有結合によって連結する。たとえば、半減期延長性部分は、IgG 定常ドメインもしくはその断片 (たとえば、Fc 領域)、ヒト血清アルブミン (HSA)、アルブミン結合性ポリペプチドもしくは残基、たとえば脂肪酸である。バイオコンジュゲートの半減期延長性部分の部分は、Fc 領域であることが最も好ましい。30

#### 【0066】

用語「半減期の延長」または「血清半減期を延長する」または「半減期を延長すること」とは、改变された生物学的活性分子 (たとえば、アペリン13) の、その非改变型 (または裸の形態のペプチド) と比べた、循環半減期の肯定的な変化の意味である。血清半減期は、生物学的活性分子が投与された後の様々な時点で血液サンプルを採取し、各サンプル中のその分子の濃度を求ることにより測定される。血清濃度の変化を経時的に測定することで、改变された分子 (たとえば、コンジュゲートした分子) の血清半減期の算出が可能になる。改变された分子 (たとえば、コンジュゲートした分子) の血清半減期を、非改变分子 (たとえば、アペリン13) と比較することにより、血清半減期または t<sub>1/2</sub> の相対的な延長を明らかにすることができます。延長は、少なくとも 2 倍であることが望ましいが、より短い延長も有用となり得る。40

#### 【0067】

本発明のペプチドまたはポリペプチド :

本発明の種々の実施形態を本明細書に記載する。各実施形態において明記する特色を、明記された他の特色と組み合わせて、さらなる実施形態としてもよいことは、認識される50

であろう。

【0068】

したがって、実施形態1Aにおいて、本発明は、

a. ペプチドまたはポリペプチド式(I)：

【0069】

【化2】

X1-X2-X3-X4-X5-X6-X7-X8-X9-X10-X11-X12-X13

[ ] |

10

[式中、

X1は、ポリペプチドのN末端であり、かつ、存在しないか、またはpE、R、Q、A、K、5-アミノ-吉草酸、および1s<sub>n</sub>から選択されるかのいずれかであり、

X2は、R、A、r、N-Me-R、K、H、hF、hK、またはOrnであり、

X3は、P、A、a、p、4-PheP、ピペコリン酸、またはシステインであり、ここで、システインの側鎖は、X7位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

X4は、R、A、r、N-Me-R、またはシステインであり、ここで、システインの側鎖は、X7位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

X5は、L、Ch<sub>a</sub>、A、D-L、N-Me-L、またはFであり、

X6およびX12は、独立して、C、c、hC、D-hC、K、D、Orn、Dab、またはEから選択される天然または天然でないアミノ酸であり、ここで、X6とX12の側鎖は、共有結合によって連結し合っており、

または代わりに、X6は、Kであり、X13は、存在せず、かつ、X12は、Fまたはfであり、ここで、X12のC末端は、X6のアミノ側鎖とアミド結合を形成し、

X7は、H、h、A、N-Me-A、a、Aib、K、Nal、F、P、Dap、N、またはシステインであり、ここで、システインの側鎖は、X3位にあるシステインの側鎖、またはX4位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成し、

X8は、K、k、F、f、A、hF、N-Me-R、または4-アミノ-1s<sub>n</sub>であり、

、X9は、G、N-Me-G、A、またはAibであり、

X10は、P、A、p、4-PheP、またはピペコリン酸であり、

X11は、M、D-Nle、Nle、N-Me-Nle、M(O)、A、F、Y、L、K、またはCh<sub>a</sub>であり、かつ、

X13は、C末端であり、かつ、存在しないか、またはF、f、N-Me-F、Nal、D-Nal、3-Br-F、(S)-3-F、I、A、a、K、Dapから選択され、

ここで、

Nleは、L-ノルロイシンであり、

D-hCは、D-ホモシステインであり、

hCは、L-ホモシステインであり、

hFは、L-ホモフェニルアラニンであり、

hKは、L-リシンであり、

Nalは、L-ナファタリン(L-naphthaline)であり、

Ornは、オルニチンであり、

Aibは、-アミノイソ酪酸であり、

Dabは、(S)-ジアミノ酪酸であり、

Dapは、(S)-2,3-ジアミノプロピオン酸であり、

M(O)は、メチオニンスルホンであり、

Ch<sub>a</sub>は、(S)-シクロヘキシリアルアラニンであり、

4-アミノ-1s<sub>n</sub>は、4-アミノピペリジン-4-カルボン酸であり、

30

40

50

*I s n* は、イソニペコチノイルであり、

*p E* は、*L* - ピログルタミン酸であり、

ここで、*N*末端および*C*末端は、1、2、3、または4つのグリシンアミノ酸と一緒に、場合により環を形成する、および】

またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩、またはこれらと実質的に同等なポリペプチドと、

b . 半減期延長性部分と

を含み、前記ペプチドまたはポリペプチドと前記半減期延長性部分とは、場合によりリンカーリを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体を提供する。

10

【0070】

実施形態2において、本発明は、

a . 式II :

【0071】

【化3】

X1-R-P-R-X5-X6-X7-X8-X9-P-X11-X12-X13

II

20

[式中、

*X 1* は、存在しない、*p E*、*R*、*Q*、または*I s n* であり、

*X 5* は、*L* または*C h a* であり、

*X 7* は、*H*、*A i b*、*F*、*K* であり、

*X 8* は、*K*、*F*、または4-アミノ-*I s n* であり、

*X 9* は、*G* または*A i b* であり、

*X 11* は、*N l e* または*C h a* であり、

*X 13* は、存在しないか、または*F*、*f*、*K* であり、

*X 6* および*X 12* は、独立して、*C*、*K*、*D*、*O r n*、*D a b*、または*E* から選択される天然または天然でないアミノ酸であり、ここで、*X 6* と *X 12* の側鎖は、共有結合によって連結し合っており、かつ

ここで、*N*末端および*C*末端は、1、2、3、または4つのグリシンアミノ酸と一緒に、場合により環を形成する】

を有する、実施形態1、2、または3に従うペプチドまたはポリペプチド、またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩、またはこれらと実質的に同等なポリペプチドと

30

b . 半減期延長性部分と

を含み、前記ペプチドまたはポリペプチドと前記半減期延長性部分とは、場合によりリンカーリを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

40

【0072】

先行する実施形態のいずれか1つ、より詳細には、先行する実施形態のいずれか1つのさらに別の態様において、本発明は、*X 6* および*X 12* が、独立して、*C*、*K*、*D*、*O r n*、*D a b*、または*E* から選択される天然または天然でないアミノ酸であり、ここで、*X 6* と *X 12* の側鎖が、共有結合によって連結し合っている、式I、I'、またはIIのペプチドまたはポリペプチド、またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩、またはこれらと実質的に同等なポリペプチドと、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドまたはポリペプチドと前記半減期延長性部分とは、場合によりリンカーリを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

【0073】

50

実施形態 3において、本発明は、X<sub>6</sub>およびX<sub>12</sub>が、独立して、K、O<sub>r</sub>n、D<sub>a</sub>b、E、およびDから選択され、かつ、ここで、X<sub>6</sub>とX<sub>12</sub>の側鎖が、一緒にアミド結合を形成する、先行する実施形態のいずれか1つに従う、式I、I'、またはIIのペプチドまたはポリペプチド、またはこのペプチドまたはポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドまたはポリペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。この実施形態の別の態様では、X<sub>6</sub>は、K、O<sub>r</sub>n、またはD<sub>a</sub>bであり、X<sub>12</sub>は、EまたはDであり、X<sub>6</sub>とX<sub>12</sub>の側鎖は、アミド結合を形成する。この実施形態のさらに別の態様では、X<sub>6</sub>は、Kであり、X<sub>12</sub>は、EまたはDである。

10

## 【0074】

実施形態 4において、本発明は、X<sub>6</sub>およびX<sub>12</sub>が、独立して、C、c、D-hC、またはhCであり、ここで、X<sub>6</sub>とX<sub>12</sub>の側鎖が、一緒にジスルフィド結合を形成する、先行する実施形態のいずれか1つに従う、式I、I'、またはIIのペプチドまたはポリペプチド、またはこのペプチドまたはポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドまたはポリペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。この実施形態のさらに別の態様では、X<sub>6</sub>およびX<sub>12</sub>は、Cである。

20

## 【0075】

実施形態 4Aにおいて、本発明は、X<sub>6</sub>およびX<sub>12</sub>が、独立して、C、c、D-hC、またはhCであり、ここで、X<sub>6</sub>とX<sub>12</sub>の側鎖が、一緒にモノスルフィド(-S-)結合を形成する、先行する実施形態のいずれか1つに従う、より詳細には、実施形態1、2、および4のいずれか1つの、式I、I'、またはIIのペプチドまたはポリペプチド、またはこのペプチドまたはポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドまたはポリペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。この実施形態のさらに別の態様では、X<sub>6</sub>およびX<sub>12</sub>は、Cである。

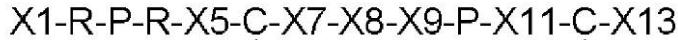
30

## 【0076】

実施形態 5において、本発明のある特定のバイオコンジュゲートは、式III：

## 【0077】

## 【化4】



III

を有する、実施形態1、2、4、4A、および4Bのいずれか1つに従うペプチドまたはポリペプチド、またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を含む。実施形態5Aにおいて、本発明は、6位と12位にある2つのシステインがジスルフィド結合(-S-S-)、モノスルフィド結合(-S-)を形成する、式IIIのペプチドまたはポリペプチドを含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。実施形態5または5Aの別の態様において、本発明は、6位と12位にある2つのシステインがジスルフィド結合(-S-S-)を形成する、式IIIのペプチドまたはポリペプチドを含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体を包含する。

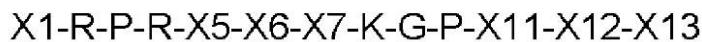
40

## 【0078】

実施形態 6において、ある特定のバイオコンジュゲートまたはその多量体は、半減期延長性部分とコンジュゲートされる、式IV：

## 【0079】

【化5】



IV

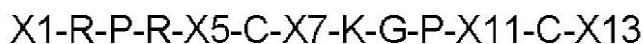
を有する、実施形態1～5のいずれか1つに従うペプチドまたはポリペプチド、またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を含む。

【0080】

実施形態7において、ある特定のバイオコンジュゲートまたはその多量体は、半減期延長性部分とコンジュゲートされる、式V：

【0081】

【化6】



V

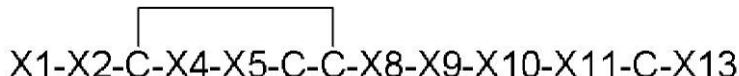
を有する、実施形態1、2、および4～6のいずれか1つに従うポリペプチド、またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を含む。実施形態7Aにおいて、本発明は、6位と12位にある2つのシステインがジスルフィド結合(-S-S-)またはモノスルフィド結合(-S-)を形成する、式Vのペプチドまたはポリペプチドを含む、バイオコンジュゲート、その多量体に関する。実施形態7または7Aの別の態様において、本発明は、6位と12位にある2つのシステインがジスルフィド結合(-S-S-)を形成する、半減期延長性部分とコンジュゲートされる、式Vのペプチドまたはポリペプチドを含む、バイオコンジュゲートを包含する。

【0082】

実施形態8において、本発明は、X3がシステインであり、かつ、ここで、システインの側鎖は、X7位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成する、式IまたはI'の二環式ペプチドまたはポリペプチドと、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと前記半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートに関する。この実施形態には、半減期延長性部分とコンジュゲートされる、式VIのペプチドまたはポリペプチド：

【0083】

【化7】



VI

またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体が相当する。

【0084】

実施形態9において、本発明は、X4がシステインであり、かつ、ここで、システインの側鎖は、X7位にあるシステインの側鎖とジスルフィド結合を形成する、式IまたはI'の二環式ペプチドまたはポリペプチドと、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと前記半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートに関する。この実施形態には、半減期延長性部分とコンジュゲートされる、式VIIのペプチドまたはポリペプチド：

【0085】

10

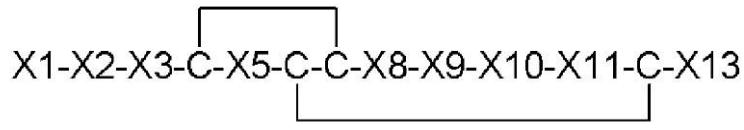
20

30

40

50

【化 8】



VII

またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩を含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体が相当する。

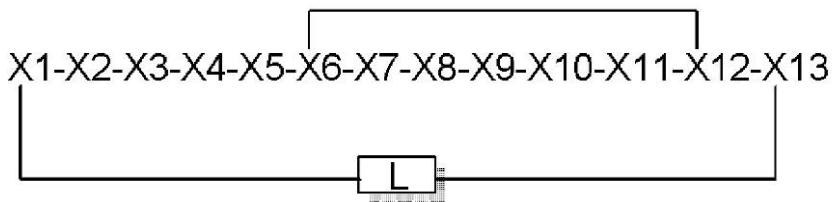
【0086】

10

実施形態10において、本発明は、N末端およびC末端が、場合により、1、2、3、または4つのグリシンアミノ酸と一緒に環を形成する、実施形態1から7のいずれか1つに従う式I～Vのいずれか1つのペプチドまたはポリペプチド、またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩、またはこれらと実質的に同等のポリペプチドと、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと前記半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。この実施形態には、式VIIIを有するペプチドまたはポリペプチド：

【0087】

【化9】



VIII

20

[式中、Lは、(G)<sup>r</sup>であり、Gは、グリシンであり、rは、1、2、3、または4である]

またはこのポリペプチドの塩が相当する。この実施形態では、半減期延長性部分は、側鎖の官能基（たとえば、K、Orn、Dab、Dap、hK、または4-アミノ-1snnの側鎖上のアミノ基）に、場合によりリンカーを介して連結する。

30

【0088】

実施形態10の別の態様である実施形態10Aにおいて、本発明は、X1がQであり、X13がFであり、rが2である、半減期延長性部分とコンジュゲートされる式VIIIのペプチドまたはポリペプチド、またはそのエステル、アミド、もしくは塩に関する。

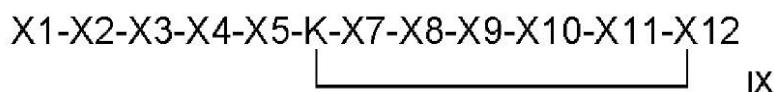
【0089】

実施形態11において、本発明は、X6がKであり、X13が存在せず、X12がFまたはfであり、ここで、X12のC末端が、X6のアミノ側鎖とアミド結合を形成する、実施形態1または2に従う、式IまたはI'によるペプチドまたはポリペプチドと、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと前記半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。この実施形態には、半減期延長性部分とコンジュゲートされる、式IXのペプチドまたはポリペプチド：

40

【0090】

【化10】



IX

またはこのポリペプチドのエステル、アミド、もしくは塩が相当する。この実施形態の特定の態様では、式IXのペプチドは、半減期延長性部分に、場合によりリンカーを介して

50

、そのN末端を介して連結することが好ましい。

【0091】

以下または上で挙げた式I'のアミノ酸残基のいずれか、または本明細書に記載のその関連式およびすべての実施形態、たとえば、式I、II~IXは、本発明のペプチドまたはポリペプチドが、機能活性および構造特性（たとえば、半減期の延長、分解からの保護、立体配座拘束）を依然として保持するという前提で、保存的な様式で置換されていてよい。許容される保存的なアミノ酸置換の原理および例は、本明細書でさらに説明する。

【0092】

以下の実施形態は、個別に、共同で、またはいずれかの組合せもしくは下位組合せとして使用することができる。

10

【0093】

実施形態12において、本発明は、X1がpEである、式I'、I~VIIおよびIXのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1~9および11のいずれか1つに従う）ペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩を含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。本発明の一態様では、半減期延長性部分は、ペプチドのC末端に、場合によりリンカーを介して連結する。本発明の別の態様では、半減期延長性部分は、ペプチドの側鎖官能基、たとえば、K、Orn、Dab、Dap、hK、または4-アミノ-1s nの側鎖のアミノ酸官能基に、場合によりリンカーを介して連結する。ペプチドを半減期延長性部分に連結するための、特に重要な1つの側鎖アミノ酸は、8位にあるリシンである（X8がKである）。

20

【0094】

実施形態12Aにおいて、本発明は、X1がAまたはQである、式I'、I~VIIおよびIXのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1~9および11のいずれか1つに従う）ペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩を含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。この実施形態の別の態様において、ペプチドは、そのAまたはQ N末端を介して、半減期延長性部分に融合し、または共有結合によって連結する。

30

【0095】

実施形態13Aにおいて、本発明は、X13がFである、式I~VIIのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1~9のいずれか1つに従う）ペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩を含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体、またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩に関する。

【0096】

実施形態13Bにおいて、本発明は、X13が存在しない、式I~VIIのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1~9のいずれか1つに従う）ペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩を含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体、またはこのポリペプチドのアミド、エステル、もしくは塩に関する。実施形態13Bの一態様である実施形態13Cでは、C末端は、アミドである。実施形態13Cの別の態様である実施形態13Dにおいて、本発明は、C末端が、式-C(O)R<sup>2</sup>のアミドであり、R<sup>2</sup>が-NH<sub>2</sub>、-NH-Me、-NH-NHBn、または-NH-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-Phである、式I~VIIのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従うペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩を含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。実施形態13Dの好ましい態様において、本発明は、C末端が、式-C(O)R<sup>2</sup>のアミドであり、R<sup>2</sup>が-NH-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-Phである、式I~VIIのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従うペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド

40

50

、エステル、もしくは塩を含む、バイオコンジュゲートに関する。

**【0097】**

実施形態14において、本発明は、X5がLである、式I～IXのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1～12のいずれか1つに従う）ペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

**【0098】**

実施形態15において、本発明は、X7がHである、式I～V、VI～IIおよびIXのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1～7および10～14のいずれか1つに従う）ペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

10

**【0099】**

実施形態16において、本発明は、X8がKまたはFである、この実施形態の別の態様では、X8がKである、式I～IIIおよびVI～IXのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1～15のいずれか1つに従う）ペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

20

**【0100】**

実施形態17において、本発明は、X9がGである、式I～IIIおよびVI～IXのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1～16のいずれか1つに従う）ペプチドおよびポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

30

**【0101】**

実施形態18において、本発明は、X11がNleである、式I～IXのいずれか1つ、または上述した他のいずれかのクラスおよびサブクラスのいずれかに従う（すなわち、実施形態1～17のいずれか1つに従う）ペプチドまたはポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩と、半減期延長性部分とを含み、前記ペプチドと半減期延長性部分とは、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結または融合する、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

40

**【0102】**

実施形態18Aにおいて、本発明は、アミノ酸X1～X13のうち3つが、Pyr-1-アペリン-13に存在する対応するアミノ酸と異なる、実施形態1、2、または3のペプチドまたはポリペプチドを含む、バイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。実施形態18Bにおいて、本発明は、アミノ酸X1～X13のうち4つが、Pyr-1-アペリン-13に存在する対応するアミノ酸と異なる、実施形態1、2、または3のペプチドまたはポリペプチドを含む、バイオコンジュゲートに関する。

50

**【0103】**

別の実施形態において、X1、X2、X3、X4、X5、X6、X7、X8、X9、X10、X11、X12、およびX13アミノ酸、リンカー、および半減期延長性部分は、以下の実施例の部における、X1、X2、X3、X4、X5、X6、X7、X8、X9、X10、X11、X12、およびX13アミノ酸、リンカー、および半減期延長性部分によって規定されるものである。

50

## 【0104】

別段指定しない限り、用語「ポリペプチド」とは、式(I')およびその下位式(式I、II～IX)のポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩を指す。

## 【0105】

別段指定しない限り、用語「ポリペプチド」、「ペプチド」、「APJペプチドアゴニスト」などは、式Iおよびその下位式(式I、II、III、IV、V、VI、VII、VIIIまたはIX)のペプチドおよびポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩を指す。本発明のペプチドおよびポリペプチドのバイオコンジュゲートは、限定はしないが、野生型アペリン、アペリン-13、およびpyr-1-アペリン-13を含めた、本明細書に記載の既知のアペリンペプチドおよびポリペプチドと比べて、実質的に同等または改善された活性および/または血漿安定性を示す。10

## 【0106】

本発明のバイオコンジュゲートは、式I'、I～IXのいずれか1つに従うペプチドおよびポリペプチド、またはそのアミド、エステル、もしくは塩、ならびに、限定はしないが実験実施例を含めた、本明細書において詳細に列挙するいずれかのペプチドまたはポリペプチドに対する同一性が少なくとも約95%であるペプチドおよびポリペプチドを含むバイオコンジュゲートも包含する。

## 【0107】

本明細書で使用するとき、語句「相同アミノ酸配列」またはその変形形態は、アミノ酸レベルでの相同性が少なくとも指定されたパーセンテージであることを特徴とする配列を指し、「配列同一性」と互換的に使用する。相同アミノ酸配列には、保存的アミノ酸置換を含んでおり、そのポリペプチドが、同じ結合および/または活性を有する、アミノ酸配列が含まれる。一部の実施形態では、アミノ酸配列は、比較配列との同一性が、99%までの少なくとも60%以上であれば、相同である。一部の実施形態では、アミノ酸配列は、比較配列と、60までの1以上のアミノ酸置換、付加、または欠失が共通していれば、相同である。一部の実施形態では、相同アミノ酸配列は、5以下または3以下の保存的アミノ酸置換を有する。20

## 【0108】

相同性は、ポリペプチドレベルでもよい。本発明のペプチドもしくはポリペプチドまたはその一部分と、異なるアミノ酸配列との同一性の程度またはパーセンテージは、2つの配列の配列比較における正確な一致の数を、「発明配列」または「外来配列」のいずれか短い方の長さで割ったものとして算出される。結果は、同一性パーセントとして示す。30

## 【0109】

詳細な実施例に記載するアミノ酸配列との相同性が約80～99.9%、好ましくは90～99.9%であり、アペリン-13またはpyr-1-アペリン-13を凌ぐ血漿安定性を有するアミノ酸配列を含むポリペプチドは、本発明のポリペプチドの範疇に入る。一実施形態では、血漿安定性の改善は、少なくとも2倍である。一実施形態では、本発明のポリペプチドは、血漿安定性が少なくとも30分である。別の実施形態では、本発明のポリペプチドは、血漿安定性が少なくとも60分、好ましくは少なくとも100分、より好ましくは少なくとも150分である。40

## 【0110】

用語「実質的に同等」とは、受容体結合活性やシグナル伝達活性などの性質が同等であることを意味する。したがって、受容体結合活性の強度やポリペプチドの分子量などの度合いに差が存在しても差し支えない。

## 【0111】

本明細書に記載のポリペプチド、または1または複数のアミノ酸の置換、欠失、付加、もしくは挿入によるその実質的同等物は、上の意味でのアミノ酸配列実質的同等物(複数可)を含んだポリペプチドとして挙げることができる。本明細書に記載のポリペプチド、または1～5、好ましくは1～3、より好ましくは1もしくは2アミノ酸の天然もしくは天然でないアミノ酸での置換によるその実質的同等物は、上の意味でのアミノ酸配列実質

10

20

30

40

50

的同等物（複数可）を含んだポリペプチドとして挙げることができる。別の改変および変更として、式 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIIIまたはIXのペプチドまたはポリペプチドのAPJアゴニスト活性が維持され、血漿安定性がピログルタミン酸化型のアペリン-13より改善されている限り、L-アミノ酸のD-アミノ酸での置き換え、または、限定はしないが、リン酸化、カルボキシル化、アルキル化などを含めた他の変形形態を挙げができる。たとえば、D-アミノ酸は、ポリペプチドの活性および安定性に関して、式 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIIIまたはIXの環状ペプチドおよびポリペプチドの2位(X2)、3位(X3)、5、6、7、および8位(X5、X6、X7、およびX8)、10位(X10)、および13位(X13)において、良好な認容性を示す。

10

## 【0112】

一実施形態では、半減期延長性部分は、式 I'、または式 I ~ VIIおよびIXのいずれか1つのペプチドのN末端に、場合によりリンカー部分を介して、共有結合によって連結または融合する。

## 【0113】

別の実施形態では、半減期延長性部分は、式 I'、または式 I ~ IXのいずれか1つのペプチドのC末端に、場合によりリンカー部分を介して、共有結合によって連結または融合する。

## 【0114】

さらに別の実施形態では、半減期延長性部分は、式 I'、または式 I ~ IXのいずれか1つのペプチドの側鎖に、共有結合によって連結または融合する、たとえば、半減期(half-life)は、K、Orn、Dab、Dap、hK、または4-アミノ-lsnの側鎖にあるアミノ基に、場合によりリンカー部分を介して付着する。半減期延長性部分は、式 I'、または式 I ~ IXのいずれか1つのペプチドのN末端に、場合によりリンカー部分を介して付着することが好ましい。

20

## 【0115】

## 半減期延長性部分

本発明の半減期延長性部分は、ペプチドまたはポリペプチド類似体に共有結合によって融合、付着、連結、またはコンジュゲートしていくよい。半減期延長性部分は、たとえば、ポリエチレングリコール(PEG)などのポリマー、脂肪酸、コレステロール基、炭水化物、もしくはオリゴ糖、またはサルベージ受容体に結合するいずれかの天然もしくは合成タンパク質、ポリペプチド、もしくはペプチドでよい。半減期延長性部分は、血清半減期の長い血漿タンパク質(アルブミンおよび免疫グロブリン)に、場合によりリンカーを介して、共有結合によって連結することが好ましい。たとえば、半減期延長性部分は、IgG定常ドメインもしくはその断片(たとえば、Fc領域)、ヒト血清アルブミン(HSA)、脂肪酸、またはアルブミン結合性ポリペプチドである。バイオコンジュゲートの半減期延長性部分の部分は、ヒト血清アルブミン、脂肪酸、またはFc領域であることが好ましい。

30

## 【0116】

半減期延長性部分は、分子量が、出所の種に応じて、その単量体の形で、およそ65~67キロダルトンの間である、血漿において最も豊富なタンパク質を指す、アルブミンを包含する。用語「アルブミン」は、「血清アルブミン」と互換的に使用され、本発明の改変ペプチドとコンジュゲートを形成するアルブミンの供給源を定義することにはならない。したがって、本明細書で使用する用語「アルブミン」は、血液や漿液などの自然供給源から精製されたアルブミンを指すこともあり、または化学合成もしくは組換え生成されたアルブミンを指すこともある。本発明の改変ペプチドまたはポリペプチドは、アルブミン表面上のシステイン-34の遊離チオール基に、場合によりリンカーを介して、つながることが優先される。

40

## 【0117】

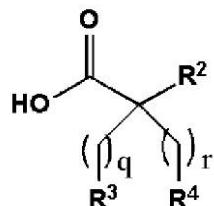
半減期延長性部分は、それぞれが、少なくとも1つのカルボン酸(たとえば、1、2、

50

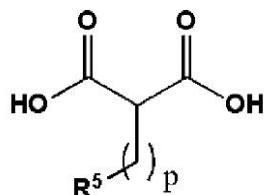
3または4つのCO<sub>2</sub>H)で置換され、ヒドロキシル基で場合によりさらに置換されている、C<sub>6</sub>~70アルキル、C<sub>6</sub>~70アルケニル、またはC<sub>6</sub>~70アルキニル鎖であると定義することのできる、脂肪酸を包含する。脂肪酸の例は、式A1、A2、およびA3:

【0118】

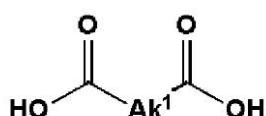
【化11】



A1



A2



または A3

[R<sup>2</sup>は、CO<sub>2</sub>H、Hであり、R<sup>3</sup>、R<sup>4</sup>、およびR<sup>5</sup>は、互いに独立して、H、OH、CO<sub>2</sub>H、-CH=CH<sub>2</sub>、または-C≡CHであり、

Ak<sup>1</sup>は、分枝状C<sub>6</sub>~C<sub>30</sub>アルキレンであり、

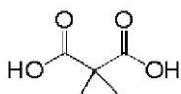
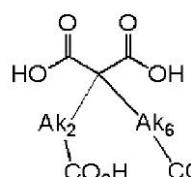
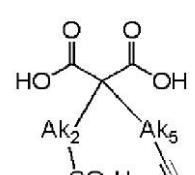
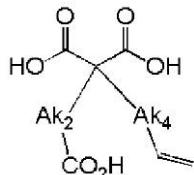
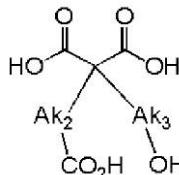
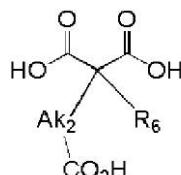
q、r、およびpは、互いに独立して、6~30の間の整数である]またはこれらのアミド、エステル、もしくは薬学的に許容される塩によって規定される。

【0119】

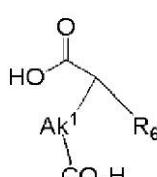
脂肪酸の例は、

【0120】

【化12】



および



[式中、Ak<sup>2</sup>、Ak<sup>3</sup>、Ak<sup>4</sup>、Ak<sup>5</sup>、およびAk<sup>6</sup>は、独立して、(C<sub>8</sub>~C<sub>20</sub>)アルキレンであり、R<sup>6</sup>およびR<sup>7</sup>は、独立して、(C<sub>8</sub>~C<sub>20</sub>)アルキルである]から選択される。

【0121】

より詳細には、脂肪酸は、

【0122】

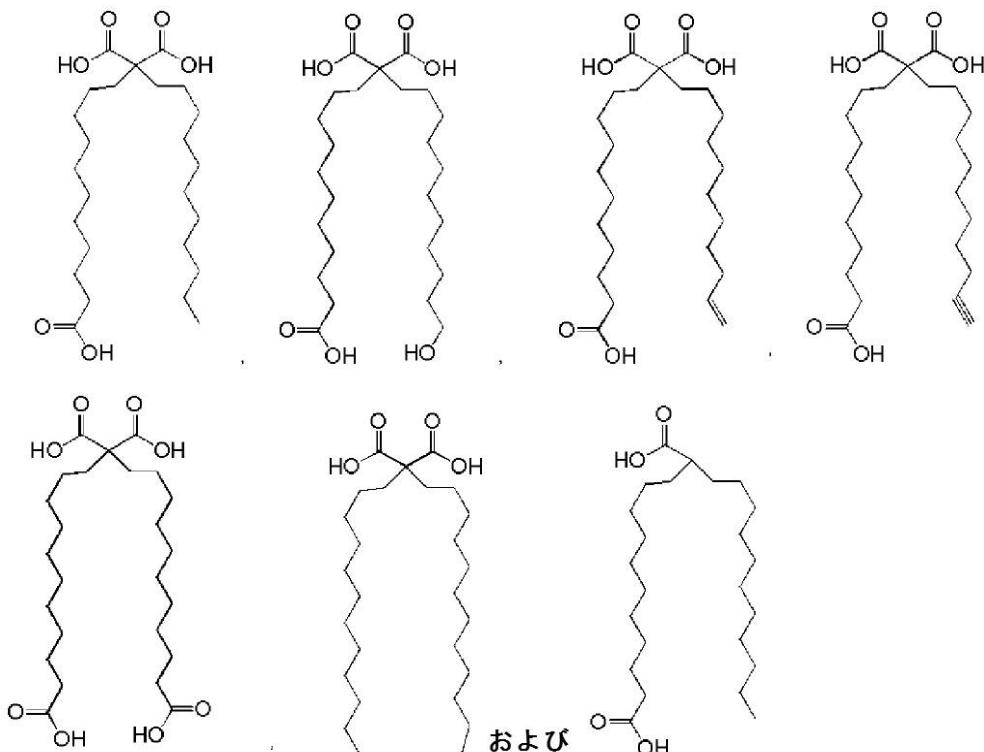
10

20

30

40

## 【化13】



から選択される。これらの脂肪酸部分は、同時出願の出願である、代理人整理番号 P A T 0 5 6 2 7 4 - U S - P S P に記載されている。

## 【0123】

半減期延長性部分は、単量体の形であろうと多量体の形であろうと、全抗体の消化によって得られる、または他の手段によって生成された、非抗原結合性断片の配列を含む分子または配列を指す、「未変性 F c」を包含し、ヒンジ領域を含んでいてもよい。未変性 F c のもともとの免疫グロブリン供給源は、ヒト起源であることが好ましく、免疫グロブリンのいずれでもよいが、IgG1 および IgG2 が好ましい。未変性 F c 分子は、共有結合性（すなわち、ジスルフィド結合）および非共有結合性の連係によって、二量体または多量体の形に連結されうる単量体ポリペプチドで構成されている。未変性 F c 分子の単量体サブユニット間の分子間ジスルフィド結合の数は、クラス（たとえば、IgG、IgA、および IgE）またはサブクラス（たとえば、IgG1、IgG2、IgG3、IgA1、および IgA2）に応じて、1 ~ 4 の範囲である。未変性 F c の一例は、IgG のパパイン消化によって得られる、ジスルフィド結合型の二量体である（Ellison et al., 1982, Nucleic Acids Res. 10: 4071-9を参照されたい）。本明細書で使用する用語「未変性 F c」は、単量体、二量体、および多量体形態に対して総称的である。

## 【0124】

半減期延長性部分は、未変性 F c から改変されてはいるが、サルベージ受容体、すなわち F c R n（新生児 F c 受容体）に対する結合部位を依然として含む分子または配列を指す、「F c 変異体」を包含する。国際公開第 WO 97 / 34631 号および WO 96 / 32478 号は、典型的な F c 変異体、ならびにサルベージ受容体との相互作用について記載しており、参照により本明細書に援用される。したがって、用語「F c 変異体」は、非ヒト化未変性 F c からヒト化された分子または配列を含みうる。さらに、未変性 F c は、本発明のバイオコンジュゲートに必要とならない構造上の特色または生物学的活性をもたらすので除去してよい領域を含む。したがって、用語「F c 変異体」は、（1）ジスルフィド結合形成、（2）選択された宿主細胞との不適合、（3）選択された宿主細胞において発現された後の N 末端不均一性、（4）グリコシリ化、（5）補体との相互作用、（6）サルベージ受容体以外の F c 受容体への結合、または（7）抗体依存的な細胞傷害活性

10

20

30

40

50

(A D C C)、に影響を及ぼす、またはこれらに関与する、1つまたは複数の未変性 F c 部位もしくは残基を欠いている、または1つまたは複数の F c 部位もしくは残基が改変されている分子または配列を包含する。F c 変異体については、以下でさらに詳細に述べる。

#### 【0125】

半減期延長性部分は、C末端リシンが欠失している、またはアラニンで置き換えられている、F c 変異体を包含する。

#### 【0126】

半減期延長性部分 (half-time extending moiety) とは、上で規定したとおりの未変性 F c ならびに F c 変異体および配列を包含する「F c ドメイン」を指す。F c 変異体および未変性 F c 分子のように、用語「F c ドメイン」は、全抗体から消化されていようが、他の手段によって生成されていようが、单量体または多量体の形の分子を包含する。本発明の一部の実施形態では、F c ドメインは、式 I'、または式 I ~ IX のいずれかのポリペプチドに、たとえば、F c ドメインとペプチド配列間の共有結合を介して、コンジュゲートさせることができる。このような F c タンパク質は、F c ドメインの連係によって多量体を形成することができ、そうした F c タンパク質およびその多量体は両方とも、本発明の態様である。

10

#### 【0127】

半減期延長性部分は、改変配列を含む、抗体の F c 断片を意味するものとされる、「改変 F c 断片」を包含する。F c 断片は、CH2、CH3、およびヒンジ領域の一部を含む、抗体の一部分である。改変 F c 断片は、たとえば、IgG1、IgG2、IgG3、または IgG4 から導くことができる。F c L A L A は、L A L A 変異 (L234A、L235A) を有する改変 F c 断片であり、低下した効率で ADC C を誘発し、ヒト補体を弱く結合および活性化する。Hessell et al. 2007 Nature 449:101-104。F c 断片への追加の改変については、たとえば、米国特許第7,217,798号に記載されている。

20

#### 【0128】

F c ドメイン、または F c ドメインを含む分子に適用される用語「多量体」とは、共有結合性に連係した2つ以上のポリペプチド鎖を有する分子を指す。たとえば、IgG 分子は、通常は二量体を形成し、したがって、二量体 IgG 分子を含むバイオコンジュゲートは、2本の式 I' のポリペプチド鎖に融合することになる。

30

#### 【0129】

##### リンカー

リンカー基は、任意選択である。存在するとき、リンカー基は、主としてスペーサーとして働くので、その化学構造は肝要でない。

#### 【0130】

リンカーは、2つの反応性基 / 官能基を含んでおり、その一方がポリペプチドと、他方が半減期延長性部分と反応しうる、化学的部分である。リンカーの2つの反応性基は、連結基を介して連結され、その構造は、リンカーのペプチドおよび半減期延長性部分 (half-extending moiety)とのカップリングの妨げとならない限り、肝要でない。

40

#### 【0131】

リンカーは、ペプチド結合によって互いに連結するアミノ酸で構成されたものでよい。本発明の一部の実施形態では、リンカーは、ペプチド結合によって連結された1~20個のアミノ酸で構成され、アミノ酸は、20種の自然に存在するアミノ酸から選択される。種々の実施形態において、1~20個のアミノ酸は、アミノ酸のグリシン、セリン、アラニン、プロリン、アスパラギン、グルタミン、システイン、およびリシンから選択される。一部の実施形態では、リンカーは、グリシンやアラニンなどの、立体障害のない大多数のアミノ酸で構成される。一部の実施形態では、リンカーは、ポリグリシン、ポリアラニン、グリシンとアラニンの組合せ (ポリ(Gly-Ala)など)、またはグリシンとセリンの組合せ (ポリ(Gly-Ser)など) である。一部の実施形態では、リンカーは、ヒスチジン、アラニン、メチオニン、グルタミン、アスパラギン、およびグリシンから

50

選択される、大多数のアミノ酸を含む。一部の実施形態では、リンカーは、ポリヒスチジン部分を含んでいる。リンカーの例は、A H、M H A、またはA H Aのモチーフを含むりンカーである。このようなモチーフは、同時係属出願および同時出願の出願である、代理人整理番号P A T 0 5 5 4 1 8 - U S - P S P 2、P A T 0 5 6 2 7 4 - U S - P S P、およびP A T 0 5 6 2 7 5 - U S - P S Pにおいて、ペプチドまたはポリペプチドのN末端における選択的なコンジュゲーションに有益であると記載されている。

## 【0132】

リンカーの他の例は、G G G G S G G G G S G G G G S、G G G G S G G G G S、G G G G S、G S、またはG G のモチーフを含む。

## 【0133】

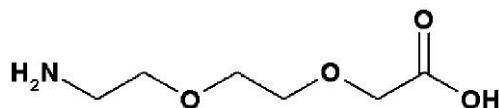
他の一例の実施形態では、リンカーは、酵素のための認識モチーフを含む。一例は、C末端において含めることのできるL P X T G / Aモチーフであり、Xは、いずれかのアミノ酸、最も一般にはE：グルタミン酸である。(L：ロイシン、P：プロリン、T：トレオニン、G：グリシン、A：アラニン)。(Carla P. Guimaraes et al.: "Site specific C-terminal and internal loop labeling of proteins using sortase-mediated reactions", Nature protocols, vol 8, No 9, 2013, 1787-1799)

## 【0134】

他の実施形態では、リンカーは、非天然アミノ酸から選択される1～20個のアミノ酸を含む。半減期延長性部分とコンジュゲートさせるには、3～15個のアミノ酸残基のリンカーが好ましいが、本発明は、いずれの長さまたは組成のリンカーも企図する。好ましいアミノ酸リンカーは、次式のO 2 O c：

## 【0135】

## 【化14】



またはその繰返し単位である。

## 【0136】

本明細書に記載のリンカーは、例示的なものであり、はるかに長い、また他の残基を含むリンカーが、本発明によって企図される。非ペプチドリンカーも、本発明によって企図される。

## 【0137】

リンカーの連結部分は、1つまたは複数のアルキル基、アルコキシ基、アルケニル基、シクロアルキル基、アリール基、ヘテロアリール基、およびヘテロ環基、またはこれらの組合せを含んでよい。たとえば、アルキルリンカー、たとえば、-NH-(CH<sub>2</sub>)<sub>z</sub>-C(O)-、-S-(CH<sub>2</sub>)<sub>z</sub>-C(O)-または-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>z</sub>-C(O)-[式中、zは、2～20である]を使用することができる。こうしたアルキルリンカーは、限定はしないが、低級アルキル(たとえば、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>)、低級アシル、ハロゲン(たとえば、C<sub>1</sub>、Br)、CN、NH<sub>2</sub>、またはフェニルを含めた、いずれかの非立体障害性基さらに置換されていてもよい。

## 【0138】

リンカーは、ポリマーの性質のものでもよい。リンカーは、生物学的に安定または生分解性であるポリマー鎖または単位を含んでよい。連結が繰り返されているポリマーは、結合不安定性に応じて、生理的条件下で様々な程度の安定性を備えうる。ポリマーは、ポリカルボネート(-O-C(O)-O-)、ポリエステル(-C(O)-O-)、ポリウレタン(-NH-C(O)-O-)、ポリアミド(-C(O)-NH-)などの結合を含んでいてよい。こうした結合は、例として示しており、本発明のポリマー鎖またはリンカーにおいて用いることのできる結合のタイプを限定するものではない。適切なポリマーとしては、たとえば、ポリエチレングリコール(P E G)、ポリビニルピロリドン、ポリビニ

10

20

30

40

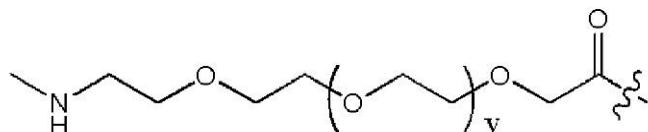
50

ルアルコール、ポリアミノ酸、ジビニルエーテルマレイン酸無水物、N-(2-ヒドロキシプロピル)-メタクリルアミド、デキストラン、デキストラン誘導体、ポリプロピレングリコール、ポリオキシエチル化ポリオール、ヘパリン、ヘパリン断片、多糖、セルロースおよびセルロース誘導体、デンプンおよびデンプン誘導体、ポリアルキレングリコールおよびその誘導体、ポリアルキレングリコールおよびその誘導体のコポリマー、ポリビニルエチルエーテルなど、およびこれらの混合物が挙げられる。ポリマーリンカーは、たとえば、PEGである。典型的な非ペプチドリンカーは、分子量が100~5000kD、たとえば、100~500kDである、ポリエチレングリコールリンカー：

【0139】

【化15】

10



である。

【0140】

連結部分は、たとえば(O2Oc)単位などの1つまたは複数のアミノ酸部分、またはグリシンもしくはセリン、C<sub>1~4</sub>アルキレン-C(=O)-、C<sub>1~4</sub>アルキレン、-NH-C<sub>2~6</sub>アルキレン-NH-もしくは-NH-CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>-O-CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>-NH-ジアミノ単位、またはこれらの組合せと、2つの反応性基または官能基を連結した連結部分とを含むことが好ましい。

20

【0141】

反応性基または官能基は、マレイミド、チオール、またはピリジン-2-イルジスルファニルであることが好ましい。

【0142】

コンジュゲーションのための、ペプチドまたはポリペプチド、およびペプチド-リンカー構築物の調製：

本発明のアベリンペプチドおよびポリペプチド、および/またはペプチド-リンカー構築物は、合成化学的方法もしくは組換え法のいずれかによって、または両方の方法を組み合わせて生成することができる。アベリンペプチドおよび/またはペプチド-リンカー構築物は、全長として生成してもよいし、または全長でない断片として合成し、つないでもよい。本発明のペプチドおよびポリペプチドまたはペプチド-構築物は、ペプチド合成のための、それ自体が知られている手順によって生成することができる。ペプチド合成の方法は、固相合成および液相合成のいずれかのものでよい。すなわち、問題のペプチドおよびポリペプチドは、タンパク質を構成し得る部分的なペプチドまたはアミノ酸をその残部と縮合させ、生成物が保護基を有するとき、保護基を外し、その後、所望のペプチドを製造することができる。縮合および脱保護の既知の方法としては、以下の文献(1)~(5)に記載の手順が挙げられる。

30

(1) M. Bodanszky and M. A. Ondetti, Peptide Synthesis, Interscience Publishers, New York, 1966,

40

(2) Schroeder and Luebke, The Peptide, Academic Press, New York, 1965,

(3) Nobuo Izumiya et al. Fundamentals and Experiments in Peptide Synthesis, Maruzen, 1975,

(4) Haruaki Yajima and Shumpei Sakakibara, Biochemical Experiment Series 1, Protein Chemistry IV, 205, 1977、および

(5) Haruaki Yajima (ed.), Development of Drugs-Continued, 14, Peptide Synthesis, Hirokawa Shoten

【0143】

50

反応後、ペプチドは、溶媒抽出、カラムクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー、再結晶などの従来の精製技術を組み合わせて、精製および単離することができる。上述のように単離したペプチドが遊離化合物である場合、既知の方法によってペプチドを適切な塩に変換することができる。逆に、単離された生成物が塩である場合、既知の方法によってペプチドを遊離ペプチドに変換することができる。

#### 【0144】

ポリペプチドのアミドは、アミド化に適した、ペプチド合成用の樹脂を使用して得ることができる。樹脂としては、クロロメチル樹脂、ヒドロキシメチル樹脂、ベンズヒドリルアミン樹脂、アミノメチル樹脂、4-ベンジルオキシベンジルアルコール樹脂、4-メチルベンズヒドリルアミン樹脂、PAM樹脂、4-ヒドロキシメチルフェニルアセトアミドメチル樹脂、ポリアクリルアミド樹脂、4-(2',4'-ジメトキシフェニル-ヒドロキシメチル)フェノキシ樹脂、4-(2',4'-ジメトキシフェニル-Fmoc-アミノメチル)フェノキシ樹脂、塩化2-クロロトリチル樹脂などが挙げられる。このような樹脂を使用して、-アミノ基および側鎖の官能基が適切に保護されているアミノ酸を、目的のペプチドの配列に従い、それ自体が知られている種々の縮合技術によって樹脂上で縮合させる。一連の反応の終盤に、ペプチドまたは保護されたペプチドを樹脂から外し、必要に応じて保護基を除去し、ジスルフィド結合を形成させて、目的のポリペプチドを得る。

10

#### 【0145】

上述の保護されたアミノ酸の縮合には、HATU、HCTU、またはたとえばカルボジイミドなどの、ペプチド合成用の様々な活性化試薬を使用することができる。カルボジイミドとしては、DCC、N,N'-ジイソプロピルカルボジイミド、およびN-エチル-N'-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミドが挙げられる。このような試薬を用いた活性化には、ラセミ化防止添加剤、たとえば、HOBTまたはOxyamine Pureを使用することができる。保護されたアミノ酸は、活性化試薬およびラセミ化防止剤と共に、樹脂にそのまま加えてもよいし、または対称酸無水物、HOBTエステル、またはHOOBtエステルとして予め活性化し、次いで樹脂に加えてもよい。保護されたアミノ酸の活性化または樹脂との縮合のための溶媒は、ペプチド縮合反応に有用であることがわかっている溶媒の中から適正に選択することができる。たとえば、N,N-ジメチルホルムアミド、N-メチルピロリドン、クロロホルム、トリフルオロエタノール、ジメチルスルホキシド、DMF、ピリジン、ジオキサン、塩化メチレン、テトラヒドロフラン、アセトニトリル、酢酸エチル、またはこれらの適切な混合物を挙げることができる。

20

30

#### 【0146】

反応温度は、ペプチド結合形成に有用であることがこれまでにわかっている範囲から選択することができ、普通は、約-20 ~ 50 の範囲から選択する。活性化型アミノ酸誘導体は、一般に、1.5 ~ 4倍過剰の割合で使用する。ニンヒドリン反応を利用した試験によって、縮合が不十分であるとわかったなら、十分な縮合を実現するために、保護基を除去せずに、縮合反応を繰り返すことができる。繰り返した縮合によって、それでも十分な程度の縮合がなされない場合、未反応のアミノ基を、無水酢酸またはアセチルイミダゾールでアセチル化することができる。

40

#### 【0147】

出発材料アミノ酸のアミノ基の保護基としては、Z、Boc、第三級アミルオキシカルボニル、イソボルニルオキシカルボニル、4-メトキシベンジルオキシカルボニル、CI-Z、Br-Z、アダマンチルオキシカルボニル、トリフルオロアセチル、フタリル、ホルミル、2-ニトロフェニルスルフェニル、ジフェニルホスフィノチオイル、またはFmocが挙げられる。使用することのできるカルボキシ保護基としては、限定はしないが、上述のC<sub>1</sub> ~ 6アルキル、C<sub>3</sub> ~ 8シクロアルキル、およびC<sub>6</sub> ~ 10アリール-C<sub>1</sub> ~ 2アルキル、ならびに2-アダマンチル、4-ニトロベンジル、4-メトキシベンジル、4-クロロベンジル、フェナシル、ベンジルオキシカルボニルヒドラジド、第三級ブトキカルボニルヒドラジド、およびトリチルヒドラジドが挙げられる。

50

## 【0148】

セリンおよびトレオニンのヒドロキシ基は、エステル化またはエーテル化によって保護することができる。前記エステル化に適した基としては、炭素から導かれる基、たとえば、低級アルカノイル基、たとえばアセチルなど、アロイル基、たとえばベンゾイルなど、ベンジルオキシカルボニル、およびエトキシカルボニルが挙げられる。前記エーテル化に適した基としては、ベンジル、テトラヒドロピラニル、および第三級ブチルが挙げられる。チロシンのフェノール性ヒドロキシル基の保護基としては、Bz<sub>1</sub>、Cl<sub>2</sub>-Bz<sub>1</sub>、2-ニトロベンジル、Br-Z、および第三級ブチルが挙げられる。

## 【0149】

ヒスチジンのイミダゾールの保護基としては、Tos、4-メトキシ-2,3,6-トリエチルベンゼンスルホニル、DNP、ベンジルオキシメチル、Bum、Boc、Trt、およびFmocが挙げられる。

## 【0150】

出発アミノ酸の活性化型カルボキシル基には、対応する酸無水物、アジ化物、および活性エステル、たとえば、ペンタクロロフェノール、2,4,5-トリクロロフェノール、2,4-ジニトロフェノール、シアノメチルアルコール、p-ニトロフェノール、HONB、N-ヒドロキシスクシンイミド、N-ヒドロキシフタルイミド、HOBTなどのアルコールとのエステルなどが含まれる。出発アミノ酸の活性化型アミノ基には、対応するホスホルアミドが挙げられる。

## 【0151】

保護基の脱離方法としては、パラジウムブラックやパラジウム炭素などの触媒の存在下で水素ガスを使用する触媒還元、無水フッ化水素、メタンスルホン酸、トリフルオロメタンスルホン酸、トリフルオロ酢酸、またはこうした酸の混合物での酸処理、ジイソプロピルエチルアミン、トリエチルアミン、ピペリジン、ピペラジンでの塩基処理、液体アンモニア中でのナトリウム金属による還元が挙げられる。上述の酸処理による脱離反応は、一般に、-20～40の温度で実施され、アニソール、フェノール、チオアニソール、m-クレゾール、p-クレゾール、硫化ジメチル、1,4-ブタンジチオール、1,2-エタンジチオールなどのカチオンアクセプターを加えて、有利に行うことができる。ヒスチジンのイミダゾール基の保護に使用した2,4-ジニトロフェニル基は、チオフェノールでの処理によって脱離させることができ、トリプトファンのインドール基の保護に使用したホルミル基は、希水酸化ナトリウム溶液または希アンモニア水溶液でのアルカリ処理、ならびに1,2-エタンジチオール、1,4-ブタンジチオール存在下での上述の酸処理によって脱離させることができる。

## 【0152】

出発材料の反応に関与すべきでない官能基の保護方法、使用することのできる保護基、保護基の除去方法、および反応に関与すべき官能基を活性化する方法は、すべて、既知の基および方法の中から公正に選択することができる。

## 【0153】

アミド型のポリペプチドを得る別のある方法は、C末端アミノ酸の-a-カルボキシル基を最初にアミド化するステップと、次いでペプチド鎖を所望の鎖長までN側に伸長し、次いで、C末端ペプチドの-a-アミノ基、および目的ポリペプチドの残部を形成することになるアミノ酸またはペプチドの-a-カルボキシ基を選択的に脱保護するステップと、-a-アミノ基および側鎖官能基が上述の適切な保護基で保護されている2つの断片を、上で挙げたものなどの混合溶媒中で縮合させるステップとを含む。この縮合反応のパラメータは、上述したのと同じものでよい。縮合によって得られた保護ペプチドから、上述の方法によってすべての保護基を除去して、その結果、所望の粗製ペプチドが得られる。この粗製ペプチドを、既知の精製手順によって精製し、主画分を凍結乾燥して、目的のアミド化ポリペプチドを得ることができる。ポリペプチドのエステルを得るには、C末端アミノ酸の-a-カルボキシル基を所望のアルコールと縮合させて、アミノ酸エステルを得、次いで、アミド生成について上述した手順に従う。

10

20

30

40

50

**【 0 1 5 4 】**

代わりに、組換え発現法が特に有用である。宿主細胞（ペプチドの配列をコードする核酸を含むように人工的に操作されており、転写および翻訳を行い、場合によりペプチドを細胞成長培地に分泌する細胞）を使用する組換えタンパク質発現は、当業界で日常的に使用される。組換え生成法については、通常、ペプチドのアミノ酸配列をコードする核酸が、従来の方法によって合成され、発現ベクターに組み込まれることになる。このような方法は、追加のペプチド配列または他のタンパク質もしくはタンパク質断片もしくはドメインに融合したペプチドを含むポリペプチド組成物の製造に特に好ましい。宿主細胞は、場合により、大腸菌（E.Coli）、COS-1、COS-7、HEK293、BHT21、CHO、BSC-1、Hep G2、653、SP2/0、293、HeLa、骨髄腫、リンパ腫、酵母、昆虫、もしくは植物細胞、またはこれらのいずれかの派生、不死化、もしくは形質転換細胞から選択される少なくとも1種でよい。

**【 0 1 5 5 】**

改変された治療用ペプチドもしくはポリペプチドおよび／またはペプチド-リンカー構築物は、半減期延長性部分上の利用可能な反応性官能基と反応して、共有結合を形成することのできる反応性基を含む。反応性基は、共有結合を形成しうる化学基である。反応性基は、一般に、カルボキシ、ホスホリル、アシル基、エステル、または混合無水物、マレイミド、イミデート、ピリジン-2-イル-ジスルファニルでよく、そのため、アルブミンまたはFcドメインのターゲット部位において、アミノ基、ヒドロキシル基、カルボキシ基、またはチオール基のような官能基と共有結合を形成しうる。アルブミンとの連結に関して特に重要な反応性基として、マレイミド含有基およびピリジン-2-イル-ジスルファニル含有基が挙げられる。官能基は、アルブミンまたはFcドメイン上の基であり、改変ペプチドまたはポリペプチド上の反応性基がこれと反応して、共有結合を形成しうる。官能基としては、エステル反応性エンティティと結合するヒドロキシル基、マレイミド、マレイミド含有基またはピリジン-2-イルジスルファニル、イミデート、およびチオエステル基と反応するチオール基、カルボン酸、ホスホリル基、アシル基に結合するアミノ基が挙げられる。

**【 0 1 5 6 】**

スキーム1～3は、ペプチドが、式I～IXのいずれか1つに従うAPJアゴニストペプチドまたはペプチドである、ペプチド-リンカー構築物の合成を記載するものである。

**【 0 1 5 7 】**

スキーム1に、式I～IXのAPJアゴニストポリペプチドまたはポリペプチドのN末端に付着したリンカーを含んでいるマレイミドの合成を記載する。

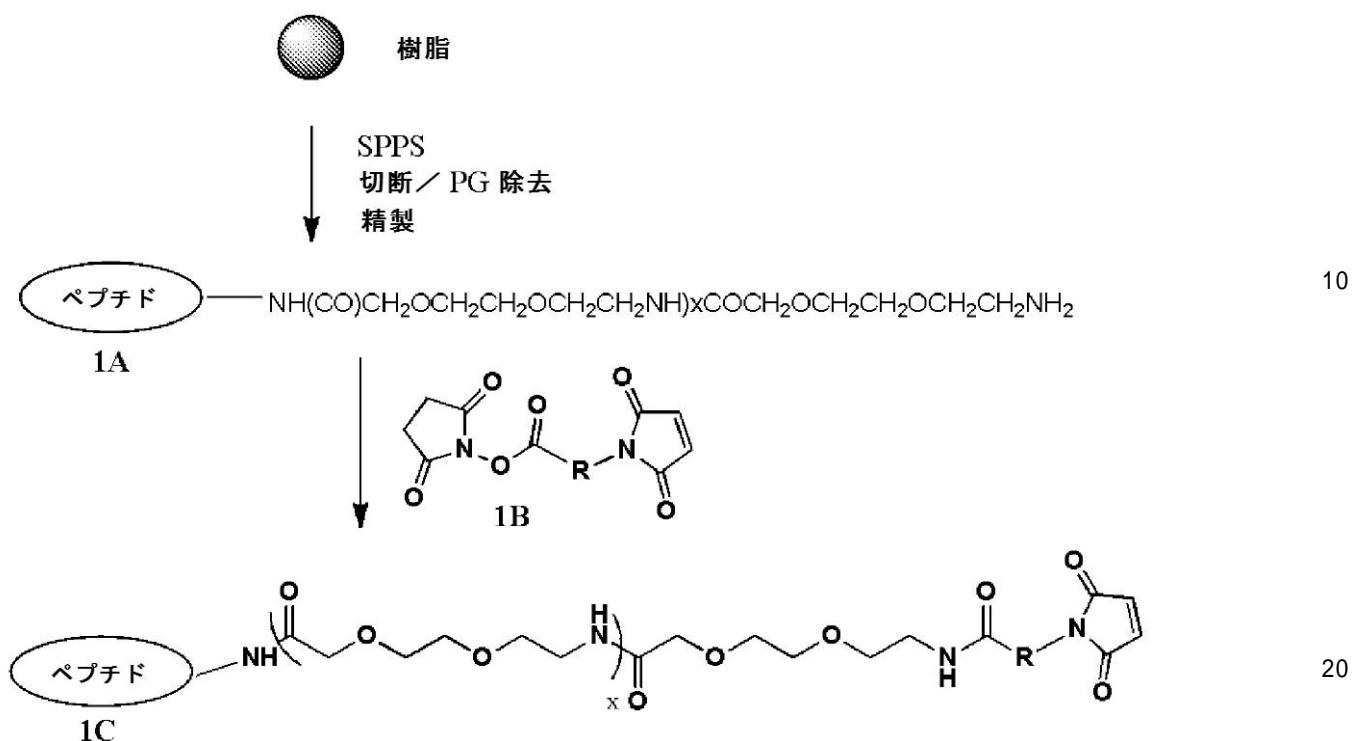
**【 0 1 5 8 】**

10

20

30

【化 1 6】



## スキーム 1.

【 0 1 5 9 】

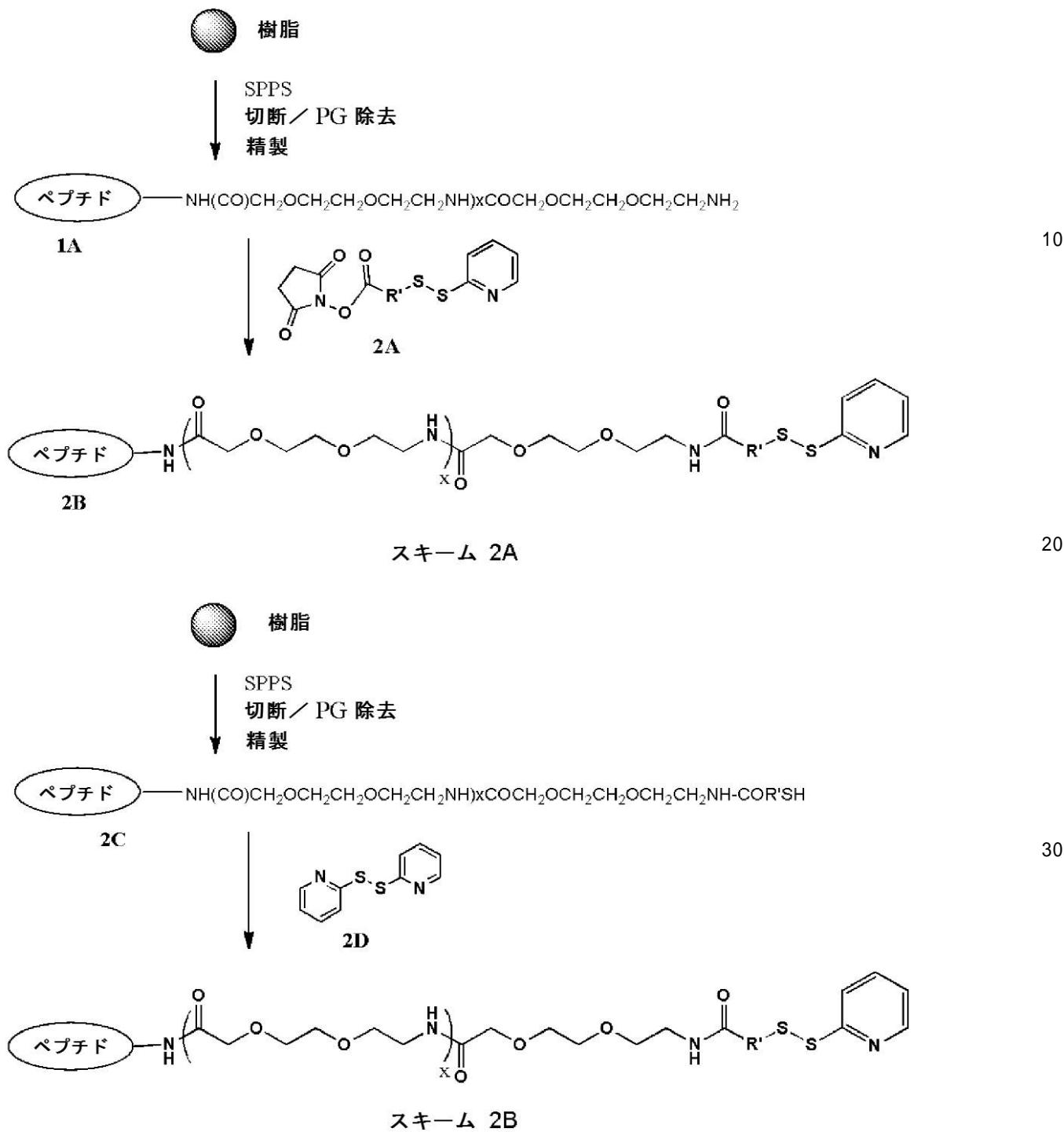
ペプチドのN末端を、十分に確立されたアミドカップリング化学に従って、1つまたは複数のO<sub>2</sub>Ocアミノ酸単位（×は、1～20、好ましくは1～10、より好ましくは3～6である）とカップリングさせて、（1A）を生成する。（1A）の末端アミノ官能基を、活性化型の酸（1B）[式中、Rは、線状または分枝状のアルキレン、アリール、ヘテロアリール、シクロアルキル、またはこれらの組合せである]と反応させて、ペプチド-マレイミドを含んでいるリンカー構築物（1C）を生成する。活性化型の酸（1B）は、市販品として入手可能であり、またはその対応するカルボン酸から、当業者に知られている技術に従って容易に入手可能である。Rは、線状アルキレンであることが好ましく、Rは、-CH<sub>2</sub>-CH<sub>2</sub>-であることがより好ましい。代わりに、側鎖にアミノ官能基を含んでいるペプチド（たとえば、リシンを含んでいるペプチド）については、カップリング反応の前に、アロックなどの直交保護基（orthogonal protecting group）が必要となり、続いて追加の脱保護ステップを経て、（1C）を得る。

【 0 1 6 0 】

スキーム2Aおよび2Bに、式IからIXのAPJアゴニストポリペプチドまたはポリペプチドのN末端に付着したリンカーを含んでいるピリジン-2-イル-ジスルファニルの合成を記載する。

【 0 1 6 1 】

## 【化17】



## 【0162】

ペプチド - リンカー構築物 (1A) を、スキーム1に記載のとおりに調製し、活性化した式 (2A) の酸 [式中、R' は、線状または分枝状アルキレンである] とさらに反応させて、ペプチド - ピリジン - 2 - イル - ジスルファニルを含んでいるリンカー構築物 (2B) を生成する。活性化型の酸 (2A) は、市販品として入手可能であり、またはその対応するカルボン酸から、当業者に知られている技術に従って容易に入手可能である。R' は、-CH<sub>2</sub>-CH<sub>2</sub>-であることが好ましい。代わりに、ペプチド - リンカー構築物 (2C) を、HO<sub>2</sub>C-R'-SH、またはその保護された形態 (たとえば、トリチルまたはAc基、追加の脱保護ステップが必要となる) を使用して調製し、さらに (2D) と反応させて、ペプチド - ピリジン - 2 - イル - ジスルファニルを含んでいるリンカー構築

物(2B)を生成することができる。スキーム1と同様に、カップリング反応の前に、直交官能基(リシンのアミノ基など)の保護が必要となる場合もある。

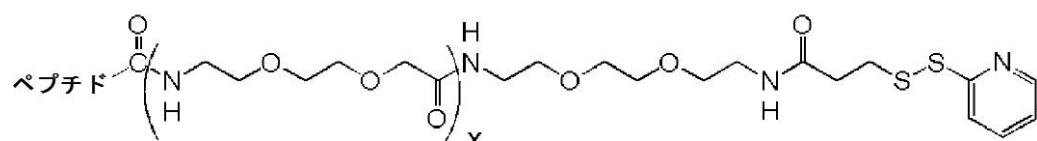
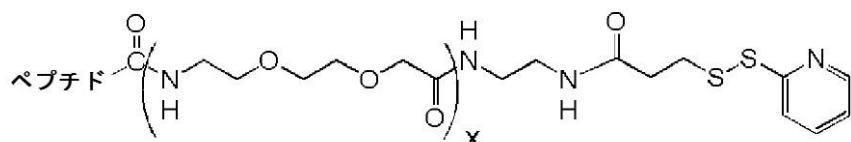
## 【0163】

ペプチドのC末端にも、たとえば-NH-CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>-NH-または-NH-CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>-O-CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>-NH-などのジアミノ単位を使用して、同様の官能基を、スキーム1、2A、および2Bに記載したのと同様にして付着させる。このようなペプチド-リンカー構築物(conducts)の非限定的な例は、以下である。

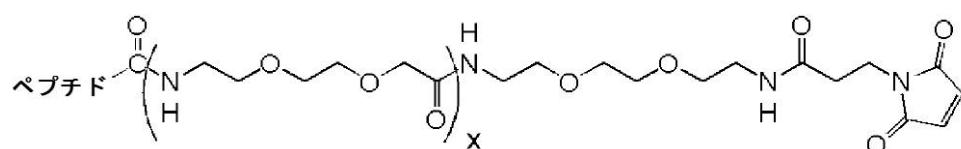
## 【0164】

## 【化18】

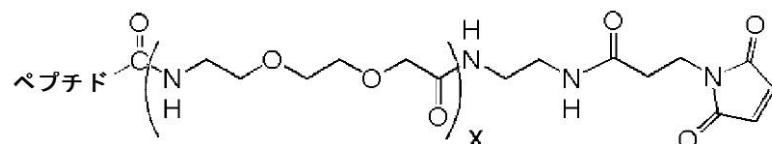
10



20



30



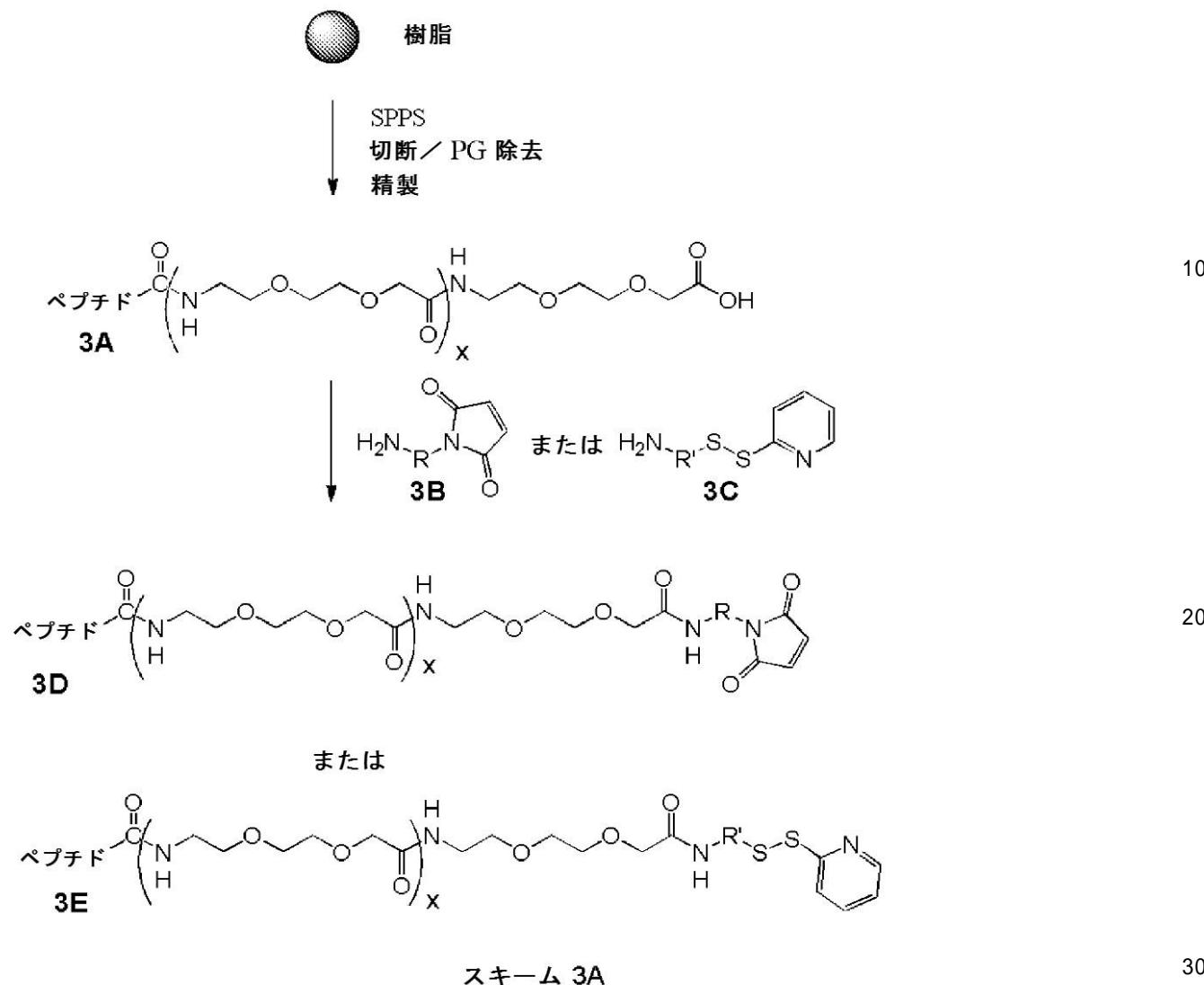
## 【0165】

代わりに、マレイミドまたはピリジン-2-イル-ジスルファニル官能基は、APJアゴニストポリペプチドまたは式I~IXのポリペプチドに、スキーム3A、3B、および3Cに従って付着させることができる。

## 【0166】

40

## 【化19】

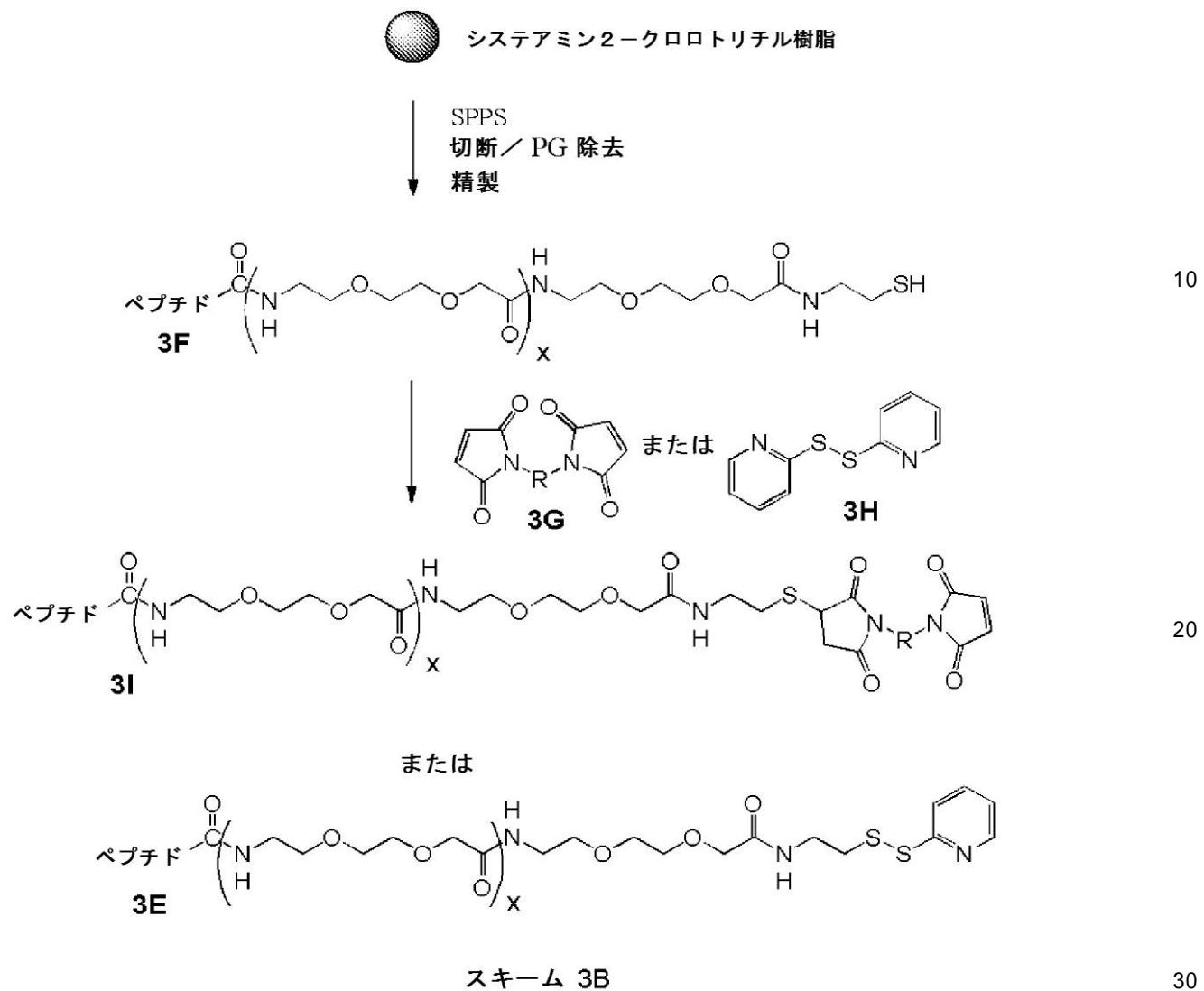


## 【0167】

ペプチドの C 末端にあるカルボン酸基を、標準のアミドカップリング条件を使用して、1つまたは複数の O 2 O c アミノ酸単位と結合させて、(3A) を生成する。末端カルボン酸官能基は、(3B) または (3C) [式中、R および R' は、上で規定したとおりである] のアミノ基と反応して、活性化型のペプチド - リンカー構築物 (3D) または (3E) が生成される。加えて、ペプチドがカルボキシ官能基側鎖（たとえば、Glu または Asp）を含んでいるとき、直交保護基（たとえば、O-アリル）および追加の脱保護ステップが必要となる。

【0168】 40

【化 2 0】

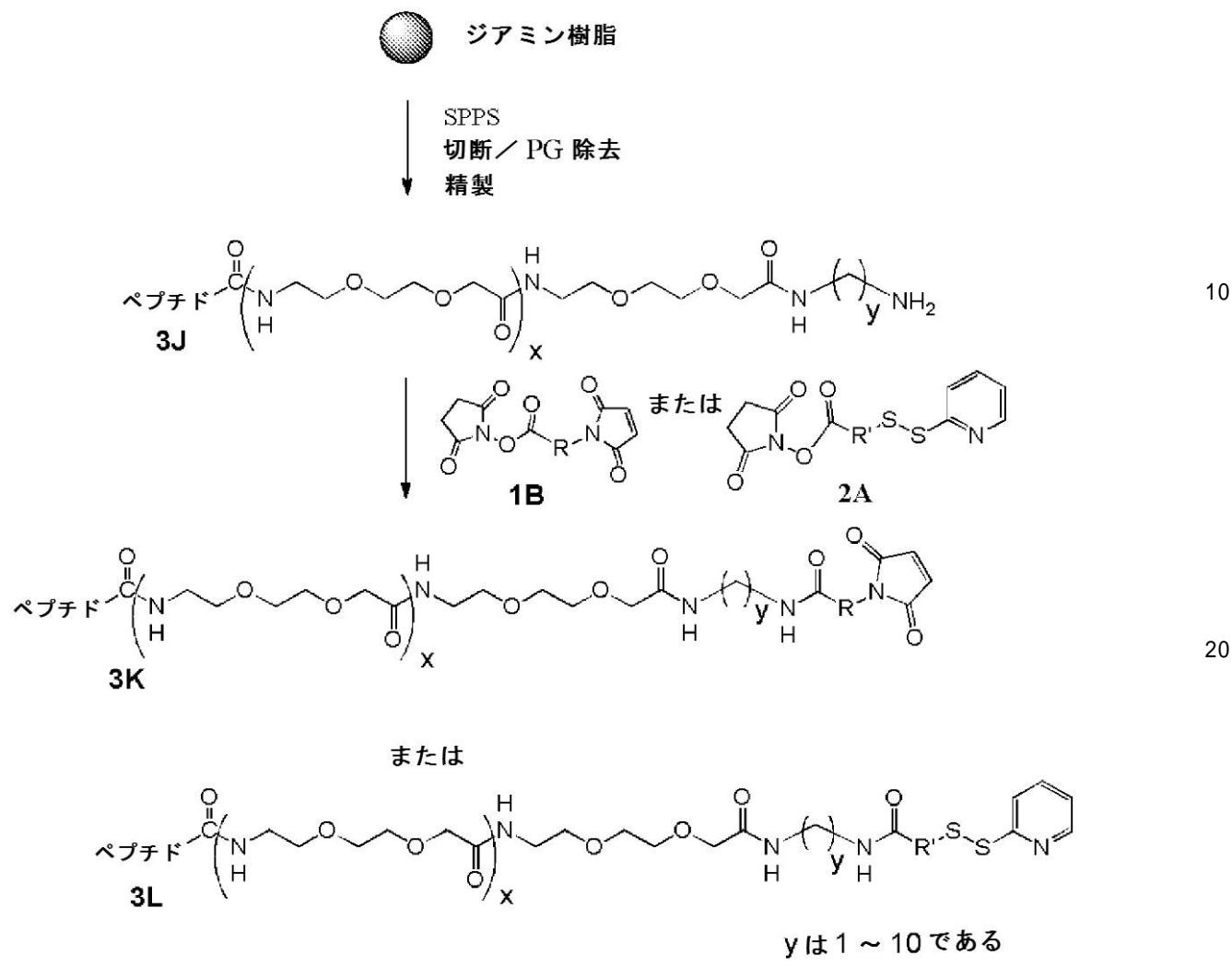


【0169】

システアミン2-クロロトリチル樹脂を使用して、ペプチド-リンカー構築物3Fを得、次いで3Gまたは3Hと反応させると、ペプチド-リンカー構築物3Iまたは3Eをそれぞれ生成することができる。

【0170】

## 【化21】



## 【0171】

ペプチド - リンカー構築物（3J）は、ジアミン樹脂から取得し、（1B）または（2A）とさらに反応させて、式4Kまたは4Lのペプチド - リンカー構築物をそれぞれ生成することができる。ペプチドが、その側鎖にアミノ官能基を含んでいるとき（たとえば、リシン）、当業者なら、追加の直交保護および脱保護ステップが必要となることを認識することになる。

## 【0172】

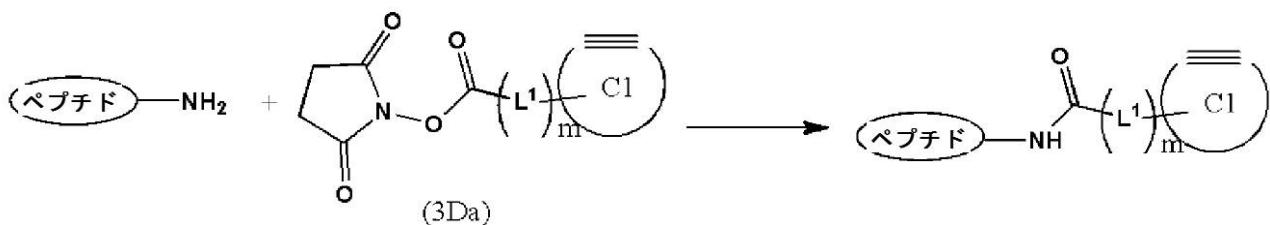
スキーム1～3Cには、より詳細には、アルブミンとのバイオコンジュゲートの調製において使用される、ペプチド - リンカー構築物を記載している。マレイミド反応性基およびピリジン - 2 - イル - ジスルファニル反応性基は、アルブミンのシステイン34の - SH官能基と反応する。

## 【0173】

スキーム3Dおよび3Eには、より一般にはクリックケミストリーとして知られるアジド - アルキン Huisgen付加環化において使用される、ペプチド - リンカー構築物の調製を記載している。

## 【0174】

## 【化22】



10

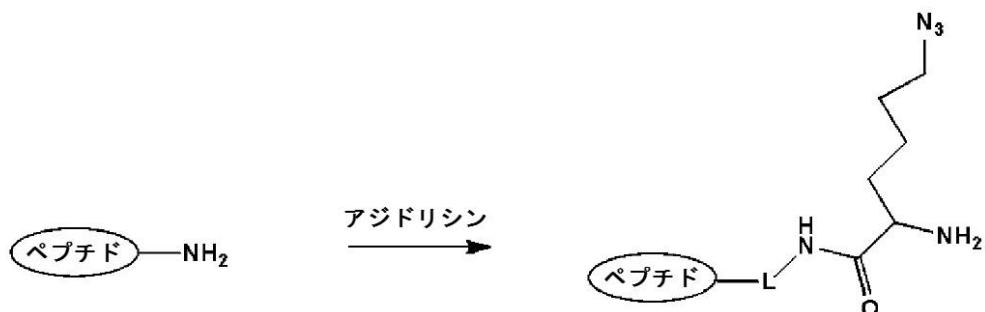
スキーム 3D

式中、 $m$  は、0 または 1 であり、C 1 は、フッ素で場合により置換されている単環式、二環式、または三環式の炭素環またはヘテロ環系であり、L<sup>1</sup> は、C 1 ~ C 20 アルキレンリンカーであり、アルキレン鎖は、オキソ (=O) で場合により置換されており、1 個または複数の炭素は、O または NH で置き換えられている。シクロアルキン部分 (3Da) は、市販品供給元から容易に入手可能である。加えて、タンパク質標識のためのクリックケミストリーにおける環式アルキンは、参照により本明細書に援用される U.S.2009/0068738 に記載されている。詳細な例は、後述している（実施例 20）。クリックハンドルは、ペプチドの N 末端において、またはリシン残基側鎖上に導入することができる。

20

## 【0175】

## 【化23】



30

スキーム 3E

## 【0176】

スキーム 3E には、場合によりリンカー L（たとえば、グリシンおよびセリンから選択される 1 つまたは複数のアミノ酸など）を介した、アベリンペプチドの N 末端におけるアジドリシン残基の導入を記載している。アジド官能基は、クリックケミストリーのためのハンドルとして働く。詳細な例は、同時出願の出願（代理人整理番号 P A T 0 5 5 4 1 8 - U.S. - P S P 2 ）に記載されている。

40

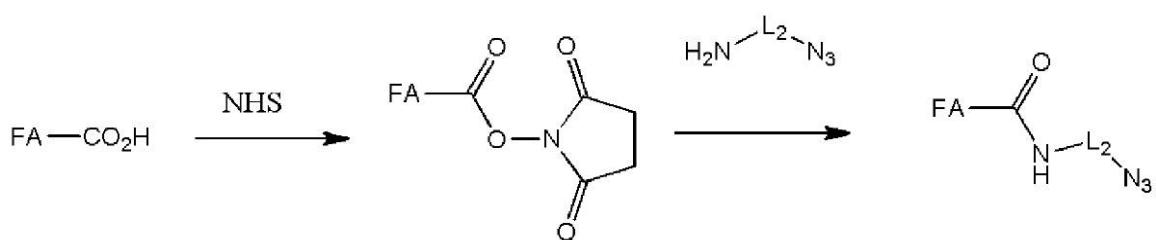
## 【0177】

半減期延長性部分 - リンカー構築物の調製：

スキーム 3F および 3G に、脂肪酸 - リンカー構築物の調製を記載する。

## 【0178】

【化24】



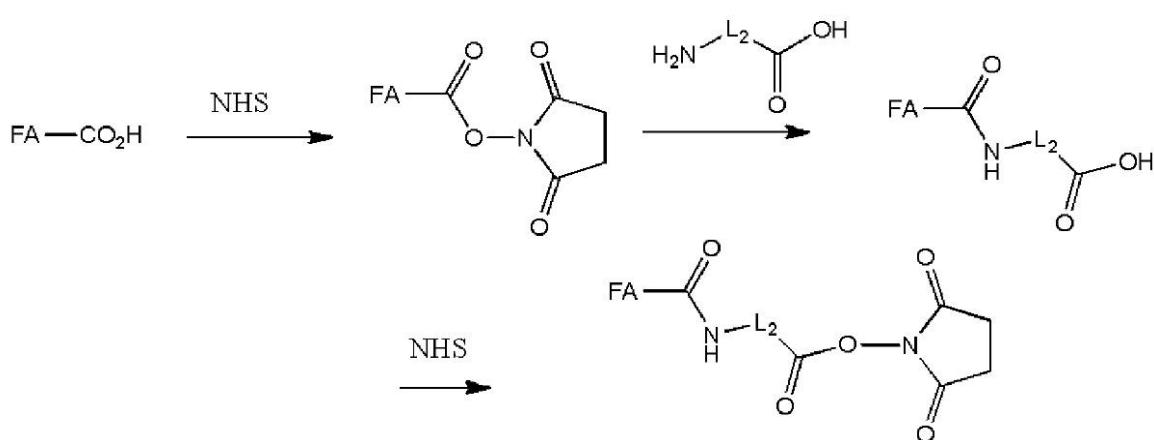
10

スキーム 3F

式中、F A は、脂肪酸であり、L 2 は、連結部分（たとえば、P E G）であり、N H S は、N - ヒドロキシスクシンイミドである。このような脂肪酸 - リンカー構築物は、クリックケミストリーを使用するコンジュゲーションに使用される。脂肪酸が、ヒドロキシルや追加のカルボン酸などの官能基を含んでいる事例では、そのような官能基の保護が必要となる場合もある。

【0179】

【化25】



20

30

スキーム 3G

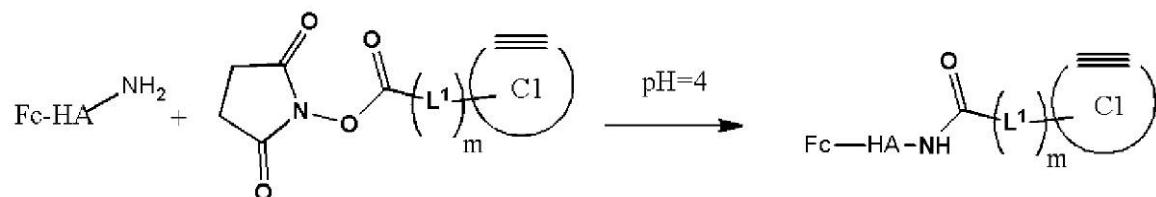
式中、F A、N H S、およびL 2 は、上でスキーム 3 F において規定している。このような脂肪酸構築物は、ペプチド上、好ましくはN末端上のアミノ官能基とのコンジュゲーションに使用される。

【0180】

スキーム 3 H に、F c - リンカー構築物の調製を記載する。

【0181】

【化26】



40

スキーム 3H

50

## 【0182】

Fc-HAは、FcのN末端に配列AH-を含んでいる構築物である。この構築物は、組換え法を使用して調製される。AH-配列によって、低いpHでN末端の選択的な改変が可能になる。このような選択的な改変は、同時出願の出願（代理人整理番号PAT056275-US-PSPおよびPAT056274-US-PSP）で開示されている。したがって、クリックハンドルは、Fc構築物のN末端において導入される。

## 【0183】

さらに別の実施形態では、Fc構築物をC末端において改変して、小さいソルターゼ(Sortase)認識モチーフ(LPX-TG/A)を導入する。

## 【0184】

このようなFc-認識モチーフは、組換え法を使用して調製される。このような構築物の例は、Fc-[GGGG]n-LPETGGLEVLFGQPであり、GGLEVLFQGPは、ソルターゼ処理の際に切り詰められる。

10

## 【0185】

## Fc A P Jペプチド融合タンパク質の調製

生物学的に作製された多量体化分子、たとえば、ヒンジとして知られる含システイン領域の少なくとも一部を含む抗体Fcは、多量体化された(二量体の)形で分泌された、組換え発現させたタンパク質産物から調製することができる。本発明は、Fc領域のアミノ酸配列が、自然に存在する抗体において見られるFcまたは定常領域のアミノ酸配列と比べて変更されている改変Fc融合タンパク質も包含する。たとえば、Fc融合タンパク質は、FcRn結合親和性/または血清半減期の所望の特徴を得るために、変異によって操作(すなわち、改変)されていてもよい。改変Fc融合タンパク質の例は、参照により援用される、米国特許第7,217,798号で開示されている。

20

## 【0186】

本発明のFc融合タンパク質は、たとえば、リンカー部分とペプチドまたはポリペプチド部分とを付着させることにより、合成的に変更されてもよい。加えて、組換え抗体由来のFcドメインを有する「改変」Fc融合タンパク質は、原核生物と真核生物両方の発現系を含めたいずれかの発現系において、またはファージディスプレイ法を使用して作製することができる。

30

## 【0187】

Fc-[GGGGS]、Fc-[GGGGS]2、Fc-[GGGGS]3、Fc-GG、Fc-GSなどのFc-リンカー構築物については、実験の部で後述する。[GGGS]、[GGGGS]2、[GGGGS]3、GS、およびGGリンカーは、FcドメインのC末端またはFcドメインのN末端のいずれかに付着しており、Fcは、未変性Fcまたはその変異体である。Fc変異体の例としては、C末端リシンが欠失している、またはアラニンで置き換えられているFcが挙げられる。

## 【0188】

## コンジュゲート

本発明の一実施形態では、式I～IXのいずれか1つに従うペプチドまたはポリペプチドを、アルブミンのシステイン34のチオール官能基にコンジュゲートさせる(化学的/共有結合性に付着させる)。

40

## 【0189】

本発明の別の実施形態では、式I'、または式I～IXのいずれか1つのペプチドまたはポリペプチドを、ヒトIgGのFc領域の1つまたは複数のドメインに融合させる。抗体は、機能の独立した2つの部分、すなわち、抗原を結合する、「Fab」として知られる可変ドメインと、補体活性化や食細胞による攻撃などのエフェクター機能に関与する、「Fc」として知られる定常ドメインとを含む。Fcは、長い血清半減期を有するのに対し、Fabは、短命である(Capon et al., 1989, Nature 337:525-31)。治療用ペプチドまたはポリペプチドとつなぎ合わせたとき、Fcドメインは、より長い半減期をもたらしうる(C. Huang, Curr. Opin. Biotechnol., 2009, 20, 692-699)。

50

## 【0190】

—実施形態では、Fc - ペプチドは、Fc配列がペプチドのN末端に融合するバイオコンジュゲートを指す。一方、ペプチド - Fcは、Fc配列がペプチドのC末端に融合するバイオコンジュゲートを指す。

## 【0191】

本発明の好ましい実施形態は、本明細書で規定するとおりの式I'、式I～IXのいずれか1つのペプチドまたはポリペプチドを含む、Fc - ペプチドコンジュゲートである。この実施形態の一様では、Fc - ペプチドは、Fc配列が、式I'～IXのいずれか1つのポリペプチドまたはペプチドに融合するバイオコンジュゲートである。

## 【0192】

Fc領域は、自然に存在するFc領域でもよいし、または治療の質、循環時間、凝集の減少などの、ある特定の品質を向上させるために改変されていてもよい。

10

## 【0193】

抗体の「Fc」ドメインと融合させることによる、タンパク質治療薬の有用な改変は、PCT公開第WO00/024782号に詳述されている。この文書では、ポリエチレングリコール(PEG)、デキストラン、Fc領域などの「ビヒクル」への連結が論じられている。

## 【0194】

本発明の好ましい実施形態は、前述の実施形態のいずれか1つに従うペプチドまたはポリペプチドと、半減期延長性部分とを含み、この半減期延長性部分が、本発明のポリペプチドにリンカーを介して融合するFcドメインである、バイオコンジュゲートである。本発明の一様では、リンカーは、次式：-[GGGGS]<sub>n</sub>-を有し、nは、1、2、もしくは3であり、またはリンカーは、GGもしくはGSであり、式IおよびII～IXのいずれか1つのポリペプチドは、自然に存在するアミノ酸を含んでいる。Fcドメインとの融合に適する本発明のポリペプチドの例は、Q-R-P-R-L-C<sup>\*</sup>-H-K-G-P-M-C<sup>\*</sup>-F、Q-R-P-R-L-C<sup>\*</sup>-H-K-G-P-M-C<sup>\*</sup>、およびQ-R-P-R-L-S-H-K-G-P-M-P-Fである。本発明の好ましい実施形態は、改変Fc断片(たとえば、FcLALA)と、本明細書で規定するとおりの式I'、式I～IXのいずれか1つのペプチドまたはポリペプチドとを含む、上で定義したとおりのFc - ペプチド融合バイオコンジュゲートである。

20

## 【0195】

さらに別の実施形態では、本発明は、半減期延長性部分が、C末端リシンが欠失している、またはアラニンで置き換えられている改変Fcドメインである、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートに関する。この実施形態の代表例は、実施例9、10、15、および16である。このようなFc変異体によって、アペリンペプチド/ポリペプチドとのより安定した融合タンパク質が生まれている。

30

## 【0196】

Fc領域に融合したペプチドは、融合していない対応物より、in vivoで実質的に長い半減期を示すことがわかっている。また、Fc領域への融合によって、ポリペプチドの二量体化/多量体化が可能になる。

40

## 【0197】

本発明の別の実施形態は、式I～IXに従うペプチドまたはポリペプチドと、半減期延長性部分とを含み、この半減期延長性部分は、ポリペプチドに化学的に連結するFcドメインである、バイオコンジュゲートである。

## 【0198】

コンジュゲートの調製：

スキーム4および5は、APJアゴニストペプチド、または式I～IXのいずれか1つに従うペプチドと、Fcドメインやアルブミンなどの半減期延長性部分とをコンジュゲートさせる化学反応を説明するものである。

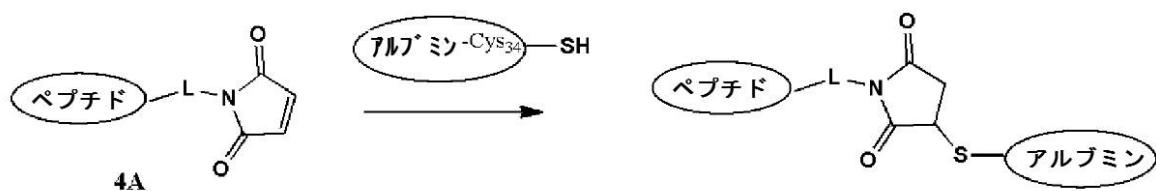
## 【0199】

50

スキーム 4 では、式 4 A のペプチド - リンカーの、ヒト血清アルブミンのシステイン 34 とのコンジュゲーションを図解する。

【0200】

【化27】



10

スキーム 4

式中、Lは、ペプチドとマレイミド官能基間の連結部分を表す。詳細な実施形態では、Lは、スキーム1、3A、3B、または3Cに開示のとおりの連結部分である。

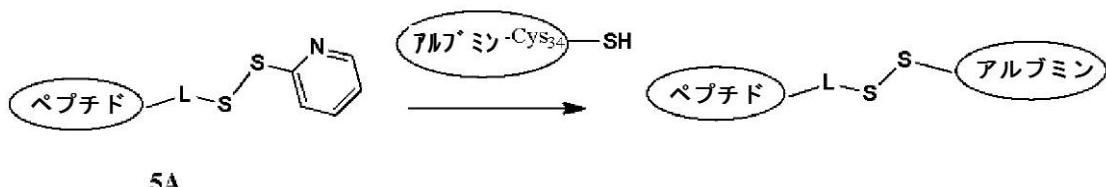
【0201】

スキーム5では、式5Aのペプチド - リンカー構築物の、アルブミンのシステイン34とのコンジュゲーションを図解する。

【0202】

【化28】

20



5A

スキーム 5

式中、Lは、ペプチドと-S-S-ピリジン官能基間の連結部分を表す。詳細な実施形態では、Lは、スキーム2、3A、3B、または3Cに開示のとおりの連結部分である。

30

【0203】

スキーム1～5に記載のとおりのコンジュゲートの作製方法およびペプチド - リンカーモルタルについて、参考により本明細書に援用される、同時出願したUS出願（代理人整理番号：PAT055326-US-PSP3）においても記載および例示されている。

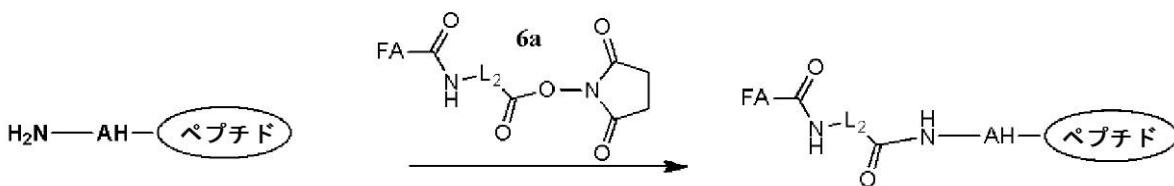
【0204】

他のコンジュゲーション方法は、同時係属および同時出願の出願（代理人整理番号PAT056274-US-PSP、PAT056275-US-PSP、およびPAT055418-US-PSP）に記載されている。そうした方法として、ペプチドの選択的なN-アシル化が挙げられ、スキーム6に要約される。

【0205】

【化29】

40



スキーム 6

50

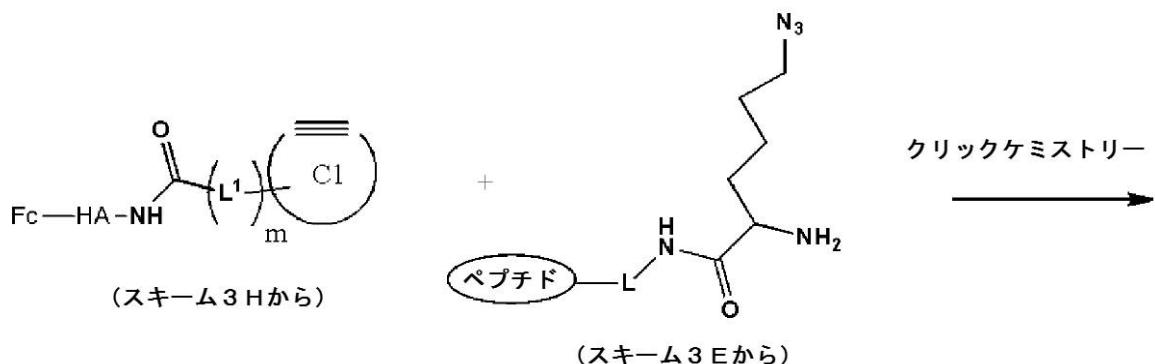
式中、A H - は、N末端での反応を促進するためにペプチドのN末端上に導入されたリンカーアリ、Hは、ヒスチジンアリ、Aは、アラニンアリ、FAは、上述のとおりの脂肪酸、たとえば、式A1～A3の脂肪酸アリ、Lは、連結部分（たとえば、PEG連結部分）アリ。低pH条件を使用すると、脂肪酸リンカー構築物6a（スキーム3Gに示したとおりに調製したもの）は、ペプチド上に、N末端において選択的に導入される。このような方法は、同時出願の特許出願（代理人整理番号PAT056275-US-PS-PおよびPAT055418-US-PS-P02）に記載されている。

## 【0206】

スキーム7および8は、クリックケミストリーを使用する本発明に従うコンジュゲートの生成を記載するものである。10

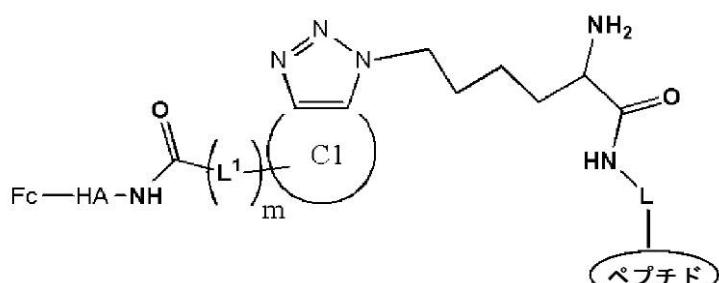
## 【0207】

## 【化30】



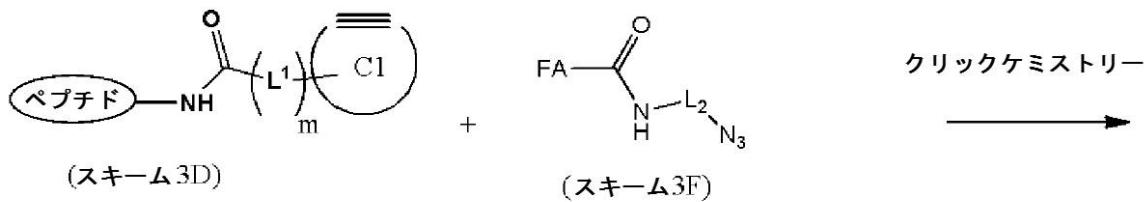
10

20

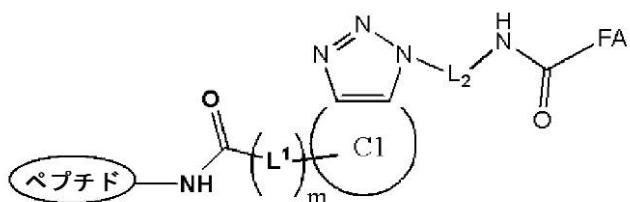


30

スキーム7



10



20

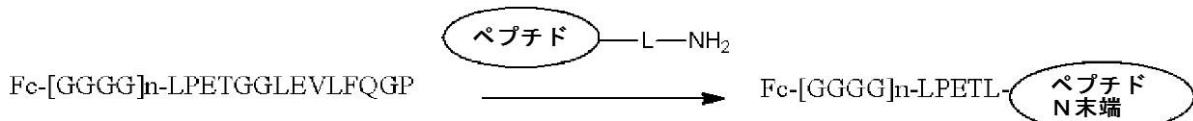
スキーム 8

## 【0208】

スキーム 9 は、ソルターゼ酵素を使用する、APJ ペプチドのFc構築物とのコンジュゲーションを記載するものである。

## 【0209】

## 【化31】



30

スキーム 9

式中、n は、1、2、または3であり、L は、任意選択のリンカー（たとえば、ポリグリシンリンカー）である。

## 【0210】

特に重要なのは、以下の本発明の実施形態である。

## 【0211】

実施形態 21において、本発明は、半減期延長性部分が、IgG 定常ドメインもしくはその断片、脂肪酸、またはヒト血清アルブミンである、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

## 【0212】

実施形態 22において、本発明は、半減期延長性部分が、LALA 変異 (L234A、L235A) を有する Fc LALA 改変 Fc 断片である、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートに関する。

## 【0213】

実施形態 23において、本発明は、半減期延長性部分が、式 I および II ~ IX のいずれか1つに従うポリペプチドに、リンカーを介して融合する Fc ドメインであり、このリンカーは、次式：

40

50

- [ G G G G S ] n -

を有し、nは、1、2、もしくは3であり、またはこのリンカーは、GSもしくはGGであり、式IおよびII-I Xのいずれか1つに従うポリペプチドは、自然に存在するアミノ酸を含む、実施形態1、4、~7、13~17、21、および22のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートに関する。

**【0214】**

実施形態23Aにおいて、本発明は、半減期延長性部分が、C末端リシンが欠失している、またはアラニンで置き換えられているFc変異体である、実施形態23に従うバイオコンジュゲートに関する。

**【0215】**

実施形態24において、本発明は、ポリペプチドが、式Iのポリペプチドであって、ここで、

X1が、ポリペプチドのN末端であり、かつ、存在しないか、またはR、Q、A、およびKから選択されるかのいずれかであり、

X2が、R、A、K、H、F、またはEであり、

X3が、P、A、K、またはDであり、

X4が、R、A、F、またはEであり、

X5が、L、A、K、D、またはFであり、

X6およびX12が、Cであり、かつ、ジスルフィド(-S-S-)結合によって連結し合っており、

X7が、H、A、K、F、P、N、またはEであり、

X8が、K、F、A、またはEであり、

X9が、G、A、D、L、またはRであり、

X10が、PまたはAであり、

X11が、M、A、F、Y、L、またはKであり、かつ、

X13が、C末端であり、かつ、存在しないか、またはF、I、A、K、H、およびEから選択される、

実施形態23に従うバイオコンジュゲートに関する。

**【0216】**

実施形態25において、本発明は、ポリペプチドが、Q-R-P-R-L-C<sup>\*</sup>-H-K-G-P-M-C<sup>\*</sup>-Fである、実施形態22、23、または24に従うバイオコンジュゲートに関する。

**【0217】**

実施形態26において、本発明は、半減期延長性部分がヒト血清アルブミンである、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートまたはその多量体に関する。

**【0218】**

実施形態27において、本発明は、ヒト血清アルブミンが、式I~VIIおよびIXのいずれか1つのポリペプチドのN末端に、次式のリンカー：

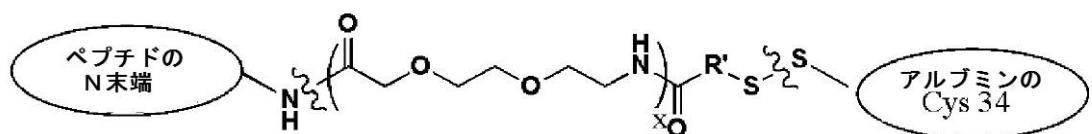
**【0219】**

10

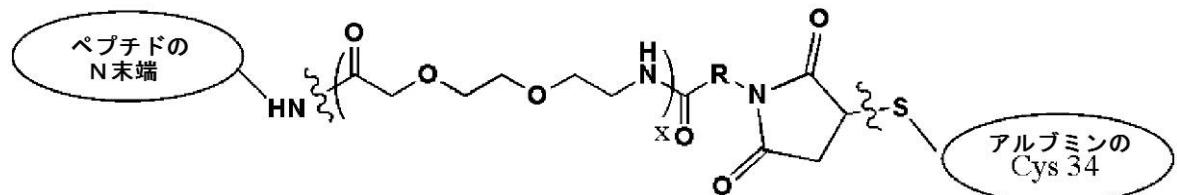
20

30

【化 3 2】



10



20

[式中、 $x$ は、1～20であり、Rは、線状もしくは分枝状アルキレン、シクロアルキル、ヘテロアリールのアリール(aryl of heteroaryl)、またはこれらの組合せであり、R'は、線状または分枝状アルキレン、アリール、もしくはシクロアルキル、またはこれらの組合せである]

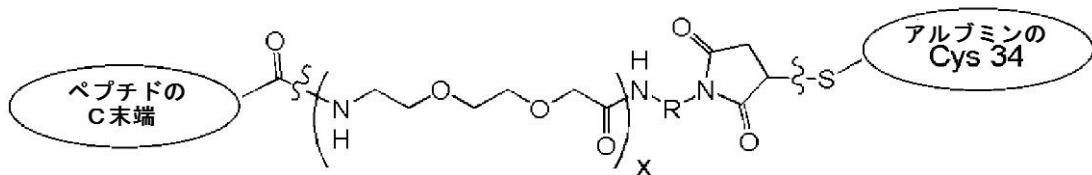
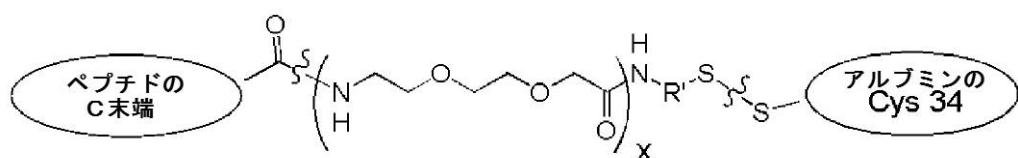
を介して化学的に連結する、実施形態25または26に従うバイオコンジュゲートに関する。

【0220】

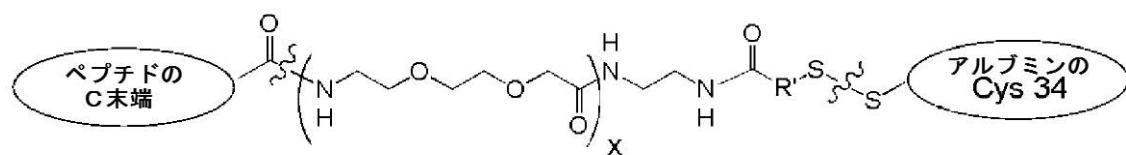
実施形態28において、本発明は、ヒト血清アルブミンが、式I～VIIのいずれか1つのポリペプチドのC末端に、次式のリンカー：

【0221】

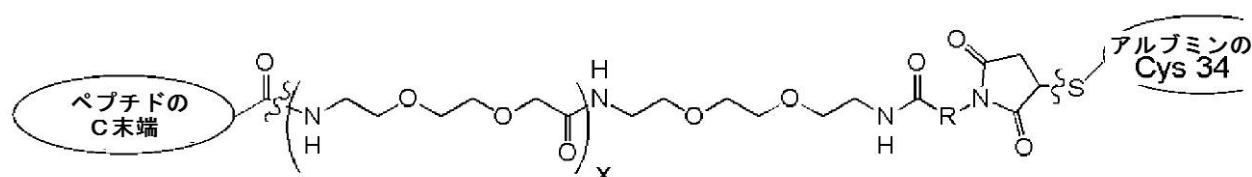
【化 3 3】



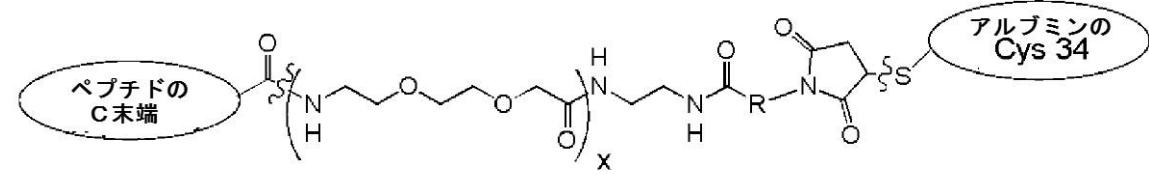
10



20



30



[式中、 $x$ は、1～20であり、Rは、線状もしくは分枝状アルキレン、シクロアルキル、ヘテロアリールのアリール、またはこれらの組合せであり、R'は、線状または分枝状アルキレン、アリール、もしくはシクロアルキル、またはこれらの組合せである]を介して化学的に連結する、実施形態26または27に従うバイオコンジュゲートに関する。

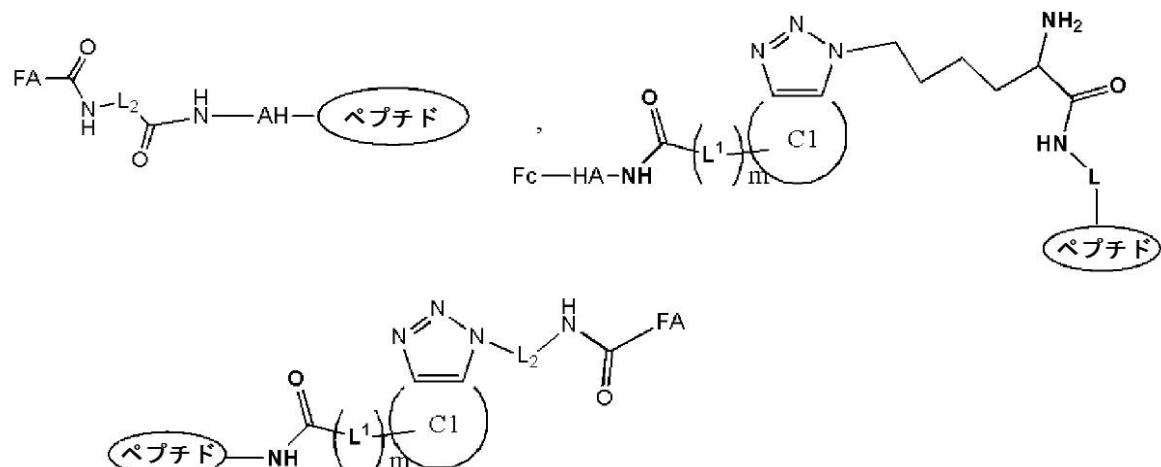
40

【0222】

他の実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、次式を有する。

【0223】

## 【化34】



または



式中、ペプチドは、ペプチドのN末端であり、Aは、アラニンであり、Hは、ヒスチジンであり、mは、0または1であり、nは、0、1、2、または3であり、LおよびL<sub>2</sub>は、リンカーであり、C1は、フッ素で場合により置換されている単環式、二環式、または三環式の炭素環またはヘテロ環系であり、L<sup>1</sup>は、C1～C20アルキレンリンカーであり、ここで、アルキレン鎖は、オキソ(=O)で場合により置換されており、かつ、ここで、1個または複数の炭素は、OまたはNHで置き換えられている。この実施形態の特定の態様では、LおよびL<sub>2</sub>は、PEGリンカーである。

## 【0224】

## 医薬組成物

本発明のバイオコンジュゲートは、皮下、筋肉内、静脈内、腹腔内、吸入、鼻腔内、経口などを始めとする様々な手段のいずれかにおいて投与することができる。本発明の特に好ましい実施形態では、本発明のバイオコンジュゲート、またはそのアミド、エステル、もしくは塩の連続的な静脈内投与を用いる。本発明におけるバイオコンジュゲートは、ボーラスとして、または一定期間にわたる連続注入として投与することができる。移植可能なポンプを使用してもよい。本発明のある特定の実施形態では、断続的または連続的なバイオコンジュゲート投与を、1日～数日間(たとえば、2～3日間以上)またはより長期間、たとえば、数週間、数か月、もしくは数年間継続する。一部の実施形態では、断続的または連続的なバイオコンジュゲート投与を少なくとも約3日間施す。別の実施形態では、断続的または連続的なバイオコンジュゲート投与を少なくとも約1週間施す。他の実施形態では、断続的または連続的なバイオコンジュゲート投与を少なくとも約2週間施す。投与中または複数回の投与の合間に、特定の閾値を上回る平均血漿バイオコンジュゲート濃度を維持することが望ましい場合もある。望ましい濃度は、たとえば、対象の生理的状態、疾患重症度などに基づき決定することができる。そのような望ましい値(複数可)は、標準の臨床試験を実施して割り出すことができる。代わりに、ペプチドおよびそのコンジュゲートは、FcRn機序によって、経口的に送達することができるはずである(Nat Rev Immunol. 7(9), 715-25, 2007, Nat Commun. 3;3:610, 2012, Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 304: G262-G270, 2013)。

## 【0225】

別の態様では、本発明は、本発明のバイオコンジュゲート、またはそのアミド、エステル、もしくは塩と、1種または複数の薬学的に許容される担体とを含む医薬組成物を提供

10

20

30

40

50

する。医薬組成物は、経口投与、非経口投与、直腸投与などの特定の投与経路用に製剤化することができる。加えて、本発明の医薬組成物は、固体形態（限定はせず、カプセル剤、錠剤、丸剤、顆粒、凍結乾燥剤、粉末、または坐剤を含む）、または液体形態（限定はせず、溶液、懸濁液、または乳濁液を含む）に仕立てることができる。医薬組成物は、無菌製造、滅菌などの従来の製薬業務にかけることができ、かつ／または、従来の不活性希釈剤、膜形成剤、等張化剤、滑沢剤、または緩衝剤、ならびに保存剤、安定剤、湿潤剤、乳化剤、緩衝液などの佐剤を含有してよい。

#### 【0226】

注射用途に適する医薬組成物は、通常、滅菌注射溶液または分散液を即座に調製するための、滅菌水溶液（水溶性の場合）または分散液と滅菌粉末を含む。

10

#### 【0227】

静脈内の投与については、適切な担体として、生理食塩水、静菌水、Cremophor ELTM (BASF、ニュージャージー州Parisippany)、またはリン酸緩衝食塩水 (PBS) が挙げられる。すべての場合において、組成物は、滅菌とすべきであり、容易な注射適用性 (syringability) が存在する程度に流動的にすべきである。好ましい医薬製剤は、製造および貯蔵の条件下で安定しており、細菌や真菌などの微生物による汚染作用に対抗して保存しなければならない。一般に、妥当な担体は、たとえば、水、エタノール、ポリオール（たとえば、グリセロール、プロピレングリコール、液体ポリエチレンギリコールなど）、およびこれらの適切な混合物を含有する溶媒または分散媒でよい。適正な流動度は、たとえば、レシチンなどのコーティング剤の使用、分散液の場合には必要な粒径の維持、および界面活性剤の使用によって維持することができる。微生物による作用の予防は、種々の抗菌剤および抗真菌剤、たとえば、パラベン、クロロブタノール、フェノール、アスコルビン酸、チメロサールなどによって実現することができる。多くの場合、等張化剤、たとえば、糖、マンニトールなどのポリアルコール、アミノ酸、ソルビトール、塩化ナトリウムを組成物に含めることができ。注射用組成物の吸収の延長は、吸収を遅らせる薬剤、たとえば、モノステアリン酸アルミニウムやゼラチンを組成物に含めることにより実現できる。

20

#### 【0228】

ある特定の注射用組成物は、水性の等張性溶液または懸濁液であり、坐剤は、脂肪質の乳濁液または懸濁液から調製することが有利である。前記組成物は、滅菌され、かつ／または保存剤、安定剤、湿潤剤、乳化剤、溶解促進剤 (solution promoter)、浸透圧調節用の塩、および／または緩衝液などの佐剤を含有するものでよい。加えて、前記組成物は、治療上価値のある他の物質も含有してよい。前記組成物は、従来の混合、造粒、またはコーティング法に従って調製され、それぞれ、約0.1～75%、または約1～50%の活性成分を含有する。

30

#### 【0229】

滅菌注射溶液は、必要に応じて、上で列挙した成分の1つまたは組合せを含有する適切な溶媒に、必要な量の活性化合物を混ぜた後、濾過滅菌することにより調製できる。分散液は、一般に、基礎の分散媒、および上で列挙したものからの他の必要な成分を含有する滅菌ビヒクルに、活性化合物を混ぜることにより調製される。滅菌注射溶液を調製するための滅菌粉末の場合、好ましい調製方法は、真空乾燥および凍結乾燥であるが、この方法では、活性成分の粉末と、所望の任意の追加成分が、予め滅菌濾過されたその溶液から得られる。

40

#### 【0230】

経口組成物は、一般に、不活性希釈剤または可食担体を含む。治療的経口投与の目的では、活性化合物は、賦形剤と混ぜ、錠剤、トローチ剤、またはカプセル剤、たとえばゼラチンカプセル剤の形で使用することができる。経口組成物は、含嗽液として使用するために流動性担体を使用して調製することもできる。薬学的に適合する結合剤、および／または佐剤材料を、組成物の一部として含めることができる。錠剤、丸剤、カプセル剤、トローチ剤などは、次の成分、すなわち、微結晶性セルロース、トラガカントゴム、ゼラチン

50

などの結合剤、デンプンやラクトースなどの賦形剤、アルギン酸、Primogel、コーンスタークなどの崩壊剤、ステアリン酸マグネシウムやSterotesなどの滑沢剤、コロイド状二酸化ケイ素などの流動促進剤、スクロースやサッカリンなどの甘味剤、またはハッカ、サリチル酸メチル、オレンジ香料などの着香剤のいずれか、または同様の性質の化合物を含有してよい。経口送達用の製剤は、消化管内での安定性を向上させ、かつ／または吸収を強化するための薬剤が組み込まれていると有利な場合もある。

#### 【0231】

吸入による投与について、発明治療薬は、適切な噴射剤、たとえば、二酸化炭素などの気体を含有する加圧容器もしくは計量分配装置、またはネプライザーから、エアロゾルスプレーの形で送達することが好ましい。治療薬の全身送達のために、肺が広い表面積を備えていることは注目される。10

#### 【0232】

薬剤は、たとえば、米国公開20040096403に記載のものなどのポリマー系微小粒子に、または当業界で知られている他の広範な薬物送達ビヒクルのいずれかと共にして、カプセル封入することができる。本発明の他の実施形態では、たとえば、米国公開20040062718に記載されているように、薬剤を荷電脂質と共に送達する。後者の系は、治療用ポリペプチドであるインスリンの投与に使用されており、ペプチド剤の投与についてこの系の実益を示していることが注目される。

#### 【0233】

全身投与は、経粘膜的または経皮的手段によるものでもよい。20

#### 【0234】

経皮的適用に適する組成物は、有効量の本発明のバイオコンジュゲートを適切な担体と共に含む。経皮送達に適する担体として、ホストの皮膚を介した透過を手助けする薬理学的に許容される被吸収性溶媒が挙げられる。経皮的デバイスは、たとえば、裏部材と、化合物を場合により担体と共に含有するレザバーと、場合により、ホストの皮膚の化合物を、長期間にわたって、制御され、予め決められた速度で送達するための速度制御バリアと、デバイスを皮膚に固定するための手段とを備えた絆創膏の形態である。

#### 【0235】

たとえば皮膚および眼への局所適用に適する組成物には、水溶液、懸濁液、軟膏、クリーム、ゲル、または、たとえばエアロゾルなどによる送達のためのスプレー製剤が含まれる。このような局所送達系は、特に、皮膚への適用に相応しくなる。すなわち、こうした局所送達系は、当業界でよく知られている美容製剤を含めた局所的使用に特に適する。このような組成物は、可溶化剤、安定剤、張性増強剤(tonicity enhancing agent)、緩衝剤、および保存剤を含有してもよい。30

#### 【0236】

本明細書で使用するとき、局所適用は、吸入または鼻腔内適用にも関連することがある。こうした適用は、乾燥粉末吸入器から乾燥粉末(単独、混合物、たとえばラクトースとの乾燥ブレンドとして、またはたとえばリン脂質との混合型要素粒子としてのいずれか)の形で、または加圧容器、ポンプ、スプレー、アトマイザー、もしくはネプライザーからエアロゾルスプレー体裁の形で、適切な噴射剤を使用しまたは使用せずに、好都合に送達することができる。40

#### 【0237】

本発明はさらに、活性成分としての本発明の化合物が分解する速度を減速する1種または複数の薬剤を含む医薬組成物および剤形を提供する。本明細書では「安定剤」と呼ぶ、そのような薬剤として、限定はしないが、アスコルビン酸などの酸化防止剤、pH緩衝液、または塩緩衝液などが挙げられる。

#### 【0238】

本明細書で使用するとき、用語「薬学的に許容される塩」とは、本発明のバイオコンジュゲートの生物学的有効性および特性を保持し、通常は生物学的または別な意味で望ましい塩を指す。多くの場合、本発明のバイオコンジュゲートは、アミノ基および／もしくは50

カルボキシル基またはそれと同様の基が存在するおかげで、酸および／または塩基の塩を形成することができる。

#### 【0239】

薬学的に許容される酸付加塩、たとえば、酢酸塩、アスパラギン酸塩、安息香酸塩、ベシル酸塩、臭化物／臭化水素酸塩、炭酸水素塩／炭酸塩、硫酸水素塩／硫酸塩、カンファースルホン酸塩、塩化物／塩酸塩、クロルテオフィリン酸塩(chlorophyllonate)、クエン酸塩、エタンジスルホン酸塩、フマル酸塩、グルセプト酸塩、グルコン酸塩、グルクロン酸塩、馬尿酸塩、ヨウ化水素酸塩／ヨウ化物、イセチオン酸塩、乳酸塩、ラクトビオン酸塩、ラウリル硫酸塩、リンゴ酸塩、マレイン酸塩、マロン酸塩、マンデル酸塩、メシル酸塩、メチル硫酸塩、ナフト工酸塩、ナプシル酸塩、ニコチン酸塩、硝酸塩、オクタデカン酸塩、オレイン酸塩、シュウ酸塩、パルミチン酸塩、パモ酸塩、リン酸塩／リン酸水素塩／リン酸二水素塩、ポリガラクツロン酸塩、プロピオン酸塩、ステアリン酸塩、コハク酸塩、スルホサリチル酸塩、酒石酸塩、トシリ酸塩、およびトリフルオロ酢酸塩は、無機酸および有機酸に対して生成することができる。10

#### 【0240】

塩を導くことのできる無機酸としては、たとえば、塩酸、臭化水素酸、硫酸、硝酸、リン酸などが挙げられる。塩を導くことのできる有機酸としては、たとえば、酢酸、プロピオン酸、グリコール酸、シュウ酸、マレイン酸、マロン酸、コハク酸、フマル酸、酒石酸、クエン酸、安息香酸、マンデル酸、メタンスルホン酸、エタンスルホン酸、トルエンスルホン酸、スルホサリチル酸などが挙げられる。薬学的に許容される塩基付加塩は、無機塩基および有機塩基に対して生成することができる。20

#### 【0241】

塩を導くことのできる無機塩基としては、たとえば、アンモニウム塩、および周期表のI～XII列の金属が挙げられる。ある特定の実施形態では、塩は、ナトリウム、カリウム、アンモニウム、カルシウム、マグネシウム、鉄、銀、亜鉛、および銅から導かれ、特に適切な塩として、アンモニウム、カリウム、ナトリウム、カルシウム、およびマグネシウム塩が挙げられる。

#### 【0242】

塩を導くことのできる有機塩基としては、たとえば、第一級、第二級、および第三級アミン、自然に存在する置換アミンを始めとする置換アミン、環状アミン、塩基性イオン交換樹脂などが挙げられる。ある特定の有機アミンとして、イソプロピルアミン、ベンザチン、コリネート(cholinate)、ジエタノールアミン、ジエチルアミン、リシン、メグルミン、ピペラジン、およびトロメタミンが挙げられる。30

#### 【0243】

本発明の薬学的に許容される塩は、従来の化学的方法によって、親化合物、塩基性または酸性部分から合成することができる。一般に、そのような塩は、遊離酸形態のこうした化合物を化学量論量の相応しい塩基(Na、Ca、Mg、またはKの水酸化物、炭酸塩、炭酸水素塩など)と反応させる、または遊離塩基形態のこうした化合物を化学量論量の相応しい酸と反応させることにより調製できる。こうした反応は通常、水もしくは有機溶媒中または二者の混合物中で実施される。一般に、実用可能な場合、エーテル、酢酸エチル、エタノール、イソプロパノール、またはアセトニトリルのような非水性媒質の使用が望ましい。追加の適切な塩の一覧は、たとえば、“Remington's Pharmaceutical Sciences”, 20th ed., Mack Publishing Company, Easton, Pa., (1985)ならびにStahlおよびWerthによる“Handbook of Pharmaceutical Salts: Properties, Selection, and Use”(Wiley-VCH, Weinheim, Germany, 2002)で見ることができる。40

#### 【0244】

本明細書で使用するとき、用語「薬学的に許容される担体」は、当業者に知られているであろうが、ありとあらゆる溶媒、分散媒、コーティング剤、界面活性剤、酸化防止剤、保存剤(たとえば、抗菌剤、抗真菌剤)、等張化剤、吸収遅延剤、塩、保存剤、薬物、薬物安定剤、結合剤、賦形剤、崩壊剤、滑沢剤、甘味剤、着色剤、色素など、およびこれら

10

20

30

40

50

の組合せを包含する（たとえば、Remington's Pharmaceutical Sciences, 18th Ed. Mack Printing Company, 1990, pp. 1289- 1329を参照されたい）。従来のいかなる担体も、活性成分と相容れない範囲にあるものを除き、治療組成物または医薬組成物におけるその使用を企図する。

#### 【0245】

##### 本発明の方法：

アペリンファミリーのペプチドは、Gタンパク質共役型APJ受容体の、知られている唯一の天然リガンドファミリーである。アペリン遺伝子は、77アミノ酸のポリペプチドをコードし、このポリペプチドがプロセシングを受けて、生物学的活性型のアペリンペプチド、たとえば、アペリン-36、アペリン-17、アペリン-16、アペリン-13、アペリン-12、およびピログルタミン酸改変型のアペリン-13（Pyr<sup>1</sup>-アペリン-13）になる。これらアペリンペプチドのいずれでも1種が、APJ受容体に結合すると、GiおよびGqタンパク質を介してシグナルを伝達する。心筋細胞では、GiまたはGqとの共役によって、細胞内pHが変化し、PLCが活性化され、IP3が産生され、それにより筋フィラメントのカルシウム感受性が増強され、最終的に心収縮性が増大する。Gi共役により、活性化型Gs、アデニリルシクラーゼ、およびcAMPの産生が抑制され、pAktレベルが上昇して、心臓保護につながる。血管内皮細胞では、Giを介したAPJ活性化、pAktによって、一酸化窒素（NO）産生が増大し、これにより平滑筋弛緩が増進される結果、全体として血管が拡張する。

#### 【0246】

慢性安定心不全の患者は、心収縮性がさらに低下し、症状が悪化する、不定期の急性代償不全エピソードを伴う。こうした増悪は、急性非代償性心不全（ADHF）と呼ばれる。ADHFの現行の療法としては、利尿薬、血管拡張薬、およびイノトロープが挙げられ、これらは、心収縮性を直接増大させる。現用の静脈内イノトロープ（ドブタミン、ドーパミン、ミルリノン、レボシメンダン）は、不整脈などの有害事象を伴い、長期死亡率を増大させることでよく知られている。本発明の合成アペリンバイオコンジュゲート類似体は、催不整脈性または死亡の傾向なしに心収縮性を増大させるADHF療法となり、慢性心不全における未対応の膨大な医学的要要求に対処するものである。

#### 【0247】

実際に、ヒトにおける急性アペリン治療（5分）の結果、冠血管は拡張し、心拍出量は改善される。しかし、天然のアペリンは、in vivoでのt<sub>1/2</sub>（秒）および作用持続時間（数分）が非常に短い。本発明の強力な合成バイオコンジュゲートAPJアゴニストは、天然のアペリンに比べて半減期が長い。

#### 【0248】

心筋細胞におけるAPJ受容体の活性化により、a) Gi/Gq、PLC、およびCa<sup>2+</sup>を介した心収縮性が向上し、b) Gi、pAkt活性化を介した心臓保護が講じられるが、（他のイノトロープで見られるような）cAMPの漸増は伴わない。加えて、内皮細胞におけるAPJアゴニズムによって、動脈の血管は拡張され、これが、左心室の仕事量を軽減することにより、さらに心不全のためになる。まとめると、本発明のバイオコンジュゲートは、全体としての心機能を向上させ、催不整脈を減少させ、生存利益をもたらし得る。

#### 【0249】

より最近では、アペリンの糖尿病およびインスリン抵抗性への潜在的な関与に焦点を当てた前臨床研究がいくつか発表されている。アペリンは、1) 筋肉、脂肪、および心臓におけるグルコースの取込みを改善することによって血糖レベルを下げ、2) 脇臓細胞をERストレスおよび後続のアポプトーシスから保護し、3) 細胞におけるインスリン分泌を減少させ、4) 脂肪組織において、カテコールアミンによって誘発される脂肪分解を調節することが示されている。pAkt経路の活性化は、こうした過程と関連付けられている。

#### 【0250】

10

20

30

40

50

式 I ~ IX のいずれか 1 つに従うポリペプチドを含むバイオコンジュゲートまたは薬学的に許容されるその塩は、遊離の形態または薬学的に許容される塩の形態で、たとえば次の部で示すとおりの *in vitro* および *in vivo* 試験において示されるような、価値のある薬理学的特性、たとえば、APJ 受容体アゴニズム特性を示し、したがって、療法に必要となる。

#### 【0251】

本発明のバイオコンジュゲートまたは薬学的に許容されるその塩は、急性非代償性心不全（ADHF）、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、Brugada 症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、および子癇前症から選択される適応症の治療において有用となり得る。10

#### 【0252】

したがって、別の実施形態として、本発明は、APJ 受容体活性と関連する疾患を治療するための、本明細書に記載のとおりのバイオコンジュゲートまたは薬学的に許容されるその塩の使用を提供する。別の実施形態では、療法は、APJ 受容体のアゴニズムに反応を示す疾患から選択される。別の実施形態では、疾患は、前述の一覧から選択され、急性非代償性心不全が適切である。この実施形態のさらに別のサブセットにおいて、本発明は、APJ 受容体活性と関連する疾患を治療するための医薬の製造における、本明細書に記載のとおりのバイオコンジュゲートまたは薬学的に許容されるその塩の使用を提供する。20

#### 【0253】

したがって、別の実施形態として、本発明は、バイオコンジュゲートまたは薬学的に許容されるその塩の、療法における使用を提供する。別の実施形態では、療法は、APJ 受容体の活性化（アゴニズム）によって治療することのできる疾患から選択される。

#### 【0254】

別の実施形態では、本発明は、治療上許容される量の実施形態 1 ~ 31 のいずれか 1 つに従うバイオコンジュゲートまたはその多量体の投与を含む、APJ 受容体のアゴニズムに反応を示す疾患の治療方法を提供する。別の実施形態では、疾患は、上述の一覧から選択され、急性非代償性心不全が適切である。

#### 【0255】

この実施形態のさらに別のサブセットにおいて、本発明は、治療上許容される量の実施形態 1 ~ 31 のいずれか 1 つに従うバイオコンジュゲートまたはその多量体の投与を含む、APJ 受容体の活性と関連する疾患の治療方法を提供する。30

#### 【0256】

治療に用いることになる、本発明の医薬組成物または組合せの有効量は、たとえば、治療の状況および目的に左右される。当業者には、したがって、治療に相応しい投薬量レベルが、幾分、送達される分子、バイオコンジュゲートを使用する適応症、投与経路、ならびに患者の大きさ（体重、体表面、または臓器サイズ）および状態（年齢および全般的健康状態）に応じて様々となることは理解されよう。それに応じて、臨床医は、最適な治療効果を得るために、投薬量を設定し、投与経路を変更することができる。典型的な投薬量は、上述の要因に応じて、約 0.1 μg / kg から約 100 mg / kg までの範囲またはそれ以上となり得る。他の実施形態では、投薬量は、0.1 μg / kg から約 100 mg / kg まで、または 1 μg / kg から約 100 mg / kg までの範囲となり得る。40

#### 【0257】

投薬の頻度は、使用する製剤中の二重機能タンパク質の薬動学的パラメータに応じて決まる。通常、臨床医は、所望の効果を実現する投薬量に到達するまで組成物を投与する。したがって、組成物は、単一用量として、一定期間にわたる（同量の所望の分子を含有するかどうかは定かでない）2 回以上の用量として、または移植デバイスもしくはカテーテルによる連続的な注入として、投与することができる。適切な投薬量のさらなる微調整は、当業者によって型通りになされ、当業者によって型通りに行われる作業領域の範囲内で50

ある。適切な投薬量は、適切な用量反応データを使用して突き止めることができる。

#### 【0258】

本発明のバイオコンジュゲートの「治療有効量」という用語は、対象の生物学的または医学的反応、たとえば、症状の改善、状態の緩和、疾患進行の緩慢化もしくは遅延、または疾患の予防などを惹起する、本発明のバイオコンジュゲートの量を指す。非限定的な一実施形態では、用語「治療有効量」は、対象に投与されたとき、(1)(i) APJ受容体の活性化によって改善させ、(ii) APJ受容体の活性と関連し、または(iii) APJ受容体の異常な活性を特徴とする、状態、障害、もしくは疾患、またはその症状を少なくとも部分的に緩和し、抑制し、予防し、かつ／または改善させ、または(2) APJ受容体を活性化するのに有効である、本発明のバイオコンジュゲートの量を指す。

10

#### 【0259】

非限定的な別の実施形態では、用語「治療有効量」とは、細胞、組織、細胞でない生物材料、または培地に投与したとき、APJ受容体を少なくとも部分的に活性化するのに有効である、本発明のバイオコンジュゲートの量を指す。当業者の認めるところとなるとおり、特定の薬剤の、有効である絶対量は、所望の生物学的終点、送達する薬剤、ターゲット組織などの要因に応じて様々となり得る。当業者には、「治療有効量」を、単一用量にして投与してもよいし、または複数回の用量の投与によって実現してもよいことは理解される。たとえば、心不全治療のための薬剤の場合、有効量は、患者の臨床的改善、たとえば、運動耐性／能力の向上、血圧の上昇、体液停留の減少、および／または心臓機能性、たとえば、駆出率、運動能力（消耗までの時間）などの定量試験に関する結果の改善をもたらすのに十分な量でよい。

20

#### 【0260】

本明細書で使用するとき、用語「対象」とは、動物を指す。通常、動物は哺乳動物である。対象は、たとえば、霊長類（たとえば、ヒト）、ウシ、ヒツジ、ヤギ、ウマ、イヌ、ネコ、ウサギ、ラット、マウス、魚、鳥なども指す。ある特定の実施形態では、対象は霊長類である。さらに他の実施形態では、対象はヒトである。

30

#### 【0261】

本明細書で使用するとき、用語「抑制する」、「抑制」、または「抑制すること」とは、所与の状態、症状、障害、もしくは疾患の軽減もしくは抑止、または生物学的活性もしくは過程のベースライン活性の有意な低下をいう。

#### 【0262】

本明細書で使用するとき、任意の疾患または障害を「治療する」、「治療すること」、またはその「治療」という用語は、一実施形態では、疾患または障害を改善させる（すなわち、疾患またはその臨床症状の少なくとも1つの発生を緩慢にし、阻止し、または軽減する）ことをいう。別の実施形態では、「治療する」、「治療すること」、または「治療」は、患者によって識別されない場合があるものを含めて、少なくとも1つの身体的パラメータを緩和し、または改善させることをいう。さらに別の実施形態では、「治療する」、「治療すること」、または「治療」は、疾患または障害を、身体的に（たとえば、識別可能な症状の安定化）、生理的に（たとえば、身体的パラメータの安定化）、または両方において、変調することをいう。さらに別の実施形態では、「治療する」、「治療すること」、または「治療」は、疾患または障害の発症、発生、または進行を防ぎ、または遅らせるなどをいう。

40

#### 【0263】

本明細書で使用するとき、用語「予防する」、「予防すること」、および「予防」とは、療法（たとえば、治療薬）の投与または療法の組合せ（たとえば、治療薬の組合せ）の投与の結果として生じる、対象における障害の1つまたは複数の症状の再発、発症、または発生の予防をいう。

#### 【0264】

本明細書で使用するとき、対象が、生物学的に、医学的に、または生活の質において治療の恩恵を受けることになる場合、その対象は、そのような治療の「必要がある」。

50

## 【0265】

本明細書で使用するとき、本発明の文脈で（特に特許請求の範囲の文脈で）使用する用語「a」、「an」、「the」、および同様の用語は、本明細書で別段指摘しない限り、また文脈と明らかに矛盾しない限り、単数と複数の両方を包含すると解釈される。

## 【0266】

本明細書に記載の方法はすべて、本明細書で別段指摘しない限り、またはそうでなくとも文脈と明らかに矛盾しない限り、適切などんな順序で実施してもよい。本明細書において提供される、ありとあらゆる例または例示的な言い回し（たとえば、「など」）の使用は、単に本発明をより明解にするためのものであり、別途特許請求する本発明の範囲を限定するものでない。

10

## 【0267】

本発明によるバイオコンジュゲートの活性は、以下に記載する次の *in vitro* 法によって評価することができる。

## 【0268】

h A P J カルシウムフラックスアッセイ：

384 ウエルフォーマットにおいて、25 u l 成長培地に、Chem - 5 A P J 安定細胞 (M i l l i p o r e # H T S 0 6 8 C ) を 1 0 , 0 0 0 細胞 / ウェルで播き、次いで、37 の組織培養インキュベーターにおいて 24 時間成長させた。アッセイの 1 時間前に、2.5 mM のプロベネシドを含有する 25 u l / ウェルの F L I P R C a l c i u m 4 色素 (M o l e c u l a r D e v i c e s R 8 1 4 2 ) を加え、37 の組織培養インキュベーターにおいて細胞を 1 時間インキュベートした。バイオコンジュゲートを H B S S 、 H E P E S 、および 0.1 % B S A 緩衝液に可溶化し、三通りに 50 u M から 5 p M まで 10 倍ずつ連続希釈した。F L I P R T e t r a を使用して、色素を有する細胞にバイオコンジュゲートを加えた (1 : 5 、 10 u M ~ 1 p M の範囲の最終バイオコンジュゲート濃度にする)。細胞の内側の F L I P R 色素は、カルシウムに結合後に蛍光を発光し、細胞の外側からの蛍光は遮蔽された。F L I P R T e t r a において 470 ~ 495 の励起波長および 515 ~ 575 の発光波長を使用して、蛍光を測定した。読み取りは、バイオコンジュゲートを加える 10 秒前に開始して、合計 3 分間行った。最大 - 最小値を算出し、各バイオコンジュゲート濃度に対してプロットし、G r a p h P a d p r i s m ソフトウェアを使用して、バイオコンジュゲートによるカルシウムフラックス刺激について、曲線変曲点における E C <sub>50</sub> 値を算出した。

20

## 【0269】

血漿安定性アッセイ：

材料：

作業溶液：1 mg / mL の試験物を M i l l i - Q 水中に調製する。

抽出溶液：0.1% のギ酸および 400 ng / mL のグリブリドを含有するメタノール：

アセトニトリル：水 (1 : 1 : 1)

血漿：B i o r e c l a m a t i o n L L C (ニューヨーク州 L i v e r p o o l ) から購入した雄の S p r a g u e - D a w l e y ラット血漿 (ヘパリンナトリウム添加)

全血：B i o r e c l a m a t i o n L L C (ニューヨーク州 L i v e r p o o l ) から購入した雄 S p r a g u e D a w l e y 全血 (ヘパリンナトリウム添加)

肺ホモジネート：B i o r e c l a m a t i o n L L C (ニューヨーク州 L i v e r p o o l ) から雄の S p r a g u e D a w l e y ラットの肺を購入した。肺は、5 倍体積の 1 倍 P B S を加えた後、ポリトロンホモジナイザーを使用してホモジナイズした。ホモジネートを 4 にて 9000 rpm で 10 分間遠心分離した。上清を 3000 rpm で 30 分間再び遠心分離して、澄んだ上清を作った。タンパク質濃度は、市販のキット (P i e r c e , Thermo Scientific ) を使用して求めた。

40

## 【0270】

サンプル調製手順：(ペプチド)

試験物は、次の生物学的材料、すなわち、ヘパリン処置ラット血漿、ヘパリン処置ラッ

50

ト全血、または肺ホモジネートのうちの1つにおいて調製した。血漿および全血サンプルは、995 uLのラット血漿または全血に1mg/mLの作業溶液5uLを加えることにより、5000ng/mLで調製した。肺ホモジネートサンプルは、肺ホモジネートをリン酸緩衝溶液(PBS)で1mg/mLのタンパク質濃度に希釈した後、5uLの作業溶液を加えて、995uLの希釈された肺ホモジネートとすることにより調製した。サンプルは、水浴インキュベーターにおいて、穏やかに振盪(65~75rpm)しながら37でインキュベートした。0分、5分、15分、30分、60分、120分、および240分の時点でのインキュベートサンプルの25uLのアリコートを96ウェルプレートに移し、150uLの抽出溶液を使用して、直ちにタンパク質を沈殿させた。インキュベート実験が完了した後、サンプルプレートを4にて4000rpmで10分間遠心分離した。その後、ピペット操作装置(Tecan Temo)を使用して、上清を別のプレートに移し、すべてのサンプルに50uLの水を加えた。プレートは、LC-MS分析の前にボルテックスした。

#### 【0271】

##### サンプル調製手順(コンジュゲート)

1mg/mLの作業溶液5uLをラット血漿495uLに加えることにより、試験物を50,000ng/mLで調製した。サンプルは、水浴インキュベーターにおいて、穏やかに振盪(65~75rpm)しながら37でインキュベートした。0時間、0.5時間、1時間、2時間、4時間、6時間、および24時間の時点で、インキュベートサンプルの50uLのアリコートを96ウェルプレートに移し、40mMのTCEP(トリス(2-カルボキシエチル)ホスフィン)100uLを各サンプルに加えた。反応混合物を37で1時間インキュベートした。反応が完了した後、300uLのアセトニトリルを使用して、タンパク質を沈殿させた。サンプルプレートを4にて4000rpmで10分間遠心分離した。その後、ピペット操作装置(Tecan Temo)を使用して、125uLの上清を別のプレートに移し、すべてのサンプルに50uLの水を加えた。プレートは、LC-MS分析の前にボルテックスした。

#### 【0272】

##### LC-MS安定性分析のサンプル

HPLC:オートサンプラーを備えたAgilent 1290 HPLC

カラム:MAC-MOD ACE C18、3μm、30mm×内径2.1mm

移動相A:0.1%のギ酸アセトニトリル溶液

移動相B:0.1%のギ酸水溶液

#### 【0273】

勾配プログラム:

#### 【0274】

##### 【表2】

時間(分)	流量(mL)	移動相A(%)	移動相B(%)
0	0.4	95	5
0.5	0.4	95	5
1.5	0.4	5	95
4.1	0.4	5	95
4.2	0.4	95	5
5	0.4	95	5

#### 【0275】

質量分析計:Agilent Q-TOF 6530

データ取得モード:100~1000m/zの質量範囲での完全走査

データ取得および分析ソフトウェア:MassHunter

10

20

30

40

50

【 0 2 7 6 】

データ分析：

安定性アッセイ：安定性半減期（ $t_{1/2}$ ）の値は、各時点におけるピーク面積を、初期（ $t = 0$ ）ピーク面積を基準とした残存パーセントに変換することにより求めた。

残存パーセント =  $100 \times (\text{サンプルピーク面積}) \div (t = 0 \text{ ピーク面積})$

【 0 2 7 7 】

残存パーセント値の自然対数を算出し、サンプル時間に対してプロットした（Microsoft Excel）。この直線の傾き  $k$  を、線形回帰によって求めた（Microsoft Excel）。

【 0 2 7 8 】

次いで、安定性半減期を、式  $t_{1/2} = 0.693 \div k$  によって算出した。

【 0 2 7 9 】

【表3】

表2: バイオコンジュゲートの活性および安定性

バイオコンジュゲート	hAPJ Ca <sup>2+</sup> フラックス EC <sub>50</sub> [nM]	代替活性ベース (surrogate activity-based) の血漿安定性 t1/2[分]
実施例1	47.2	>1000
実施例2	92.4	>1000
実施例3	52.0	24.3
実施例4	9.2	212
実施例5	8.4	334
実施例6	8.9	>1000
実施例7	8.0	>1000
実施例8	>1000	-
実施例9	7.9	>1000
実施例10	7.6	>1000
実施例11	21.9	>1000
実施例12	26.2	>1000
実施例13	36.2	>1000
実施例14	3.8	>1000
実施例15	13.6	>1000
実施例16	15.8	>1000
実施例17	9.7	>1000
実施例18	32.0	>1000
実施例19	11.8	>1000
実施例20	65	>1000
比較実施例: Pyr-1-アペリン-13	6.6	5.0

10

20

30

40

【0280】

## 【表4】

表3: 血漿安定性アッセイと代替活性ベースの血漿安定性アッセイとの間の相関:

バイオコンジュゲート	血漿安定性t1/2[分]	代替活性ベースの血漿安定性t1/2[分]
実施例2	~1440	>1000
Pyr-1-アペリン13	6.6	5.0

## 【0281】

本発明のバイオコンジュゲートは、アペリン-13またはpyr-1-アペリン-13と同様のAPJ受容体効力を備え得る。一実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、EC<sub>50</sub>が100nM未満である。別の実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、EC<sub>50</sub>が50nM未満、好ましくは25nM未満、より好ましくは15nM未満である。さらに別の実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、EC<sub>50</sub>が10nM未満である。

## 【0282】

本発明のバイオコンジュゲートは、アペリン-13またはpyr-1-アペリン-13に優る血漿安定性を有することもある。一実施形態では、血漿安定性の改善は、少なくとも2倍である。一実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、血漿安定性が少なくとも30分である。別の実施形態では、本発明のバイオコンジュゲートは、血漿安定性が、少なくとも10分、少なくとも40分、より好ましくは少なくとも60分である。

## 【0283】

本発明のバイオコンジュゲートは、他の1種または複数の治療薬と同時に投与してもよいし、またはその前もしくは後に投与してもよい。本発明のバイオコンジュゲートは、同じもしくは異なる投与経路で別々に投与してもよいし、または他の薬剤と同じ医薬組成物にして一緒に投与してもよい。

## 【0284】

一実施形態では、本発明は、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートと、少なくとも1種の他の治療薬とを含む、療法において同時、別個、または順次使用するための一体型調製物としての製品を提供する。一実施形態では、療法は、APJ受容体の活性化に反応を示す疾患または状態の治療である。

## 【0285】

一体型調製物として提供される製品としては、実施形態1～31のいずれか1つのバイオコンジュゲートと、他の治療薬（複数可）とを同じ医薬組成物中に一緒に、または実施形態1～31のいずれか1つのバイオコンジュゲートと、他の治療薬（複数可）とを別個の形態で、たとえば、キットの形で含む組成物が挙げられる。

## 【0286】

一実施形態では、本発明は、実施形態1～31のいずれか1つのバイオコンジュゲートと他の治療薬（複数可）とを含む、医薬組成物を提供する。場合により、医薬組成物は、上述のとおりの薬学的に許容される賦形剤を含んでもよい。

## 【0287】

一実施形態では、本発明は、2種以上の別個の医薬組成物を含み、その少なくとも1種が、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートを含有する、キットを

10

20

30

40

50

提供する。一実施形態では、キットは、容器、隔てられたボトル、分包ホイルなどの、前記組成物を別個に保持する手段を含む。このようなキットの一例は、錠剤、カプセル剤などの包装に一般に使用されるようなプリスター・パックである。

#### 【0288】

本発明のキットは、たとえば経口と非経口の、異なる剤形を投与する、別個の組成物を異なる投薬間隔で投与する、または別個の組成物を互いに合わせて漸増するのに使用することもできる。服薬遵守を支援するために、本発明のキットは通常、投与の説明書を含む。

#### 【0289】

本発明の併用療法では、本発明のバイオコンジュゲートと他の治療薬は、同じまたは異なる製造業者によって製造および／または製剤化されたものでよい。さらに、本発明のバイオコンジュゲートと他の治療薬は、(i) (たとえば、本発明のバイオコンジュゲートと他の治療薬を含むキットの場合において)組合せ製品が医師に渡る前に、(ii) 投与のすぐ前に医師自身によって(または医師の指導のもとで)、(iii) たとえば、本発明のバイオコンジュゲートと他の治療薬が順次投与される際、患者自身で、併用療法に一体化されるものでよい。

#### 【0290】

したがって、本発明は、医薬が別の治療薬との投与用に調製される、APJ受容体のアゴニズムに反応を示す疾患または状態を治療するための、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートの使用を提供する。本発明はまた、医薬が、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートと投与される、アペリン受容体のアゴニズムに反応を示す疾患または状態を治療するための別の治療薬の使用も提供する。

#### 【0291】

本発明はまた、バイオコンジュゲートが、別の治療薬との投与用に調製される、APJ受容体のアゴニズムに反応を示す疾患または状態の治療方法において使用するための、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートを提供する。本発明はまた、他の治療薬が、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートとの投与用に調製される、APJ受容体のアゴニズムに反応を示す疾患または状態の治療方法において使用するための、別の治療薬を提供する。

#### 【0292】

本発明はまた、患者が、別の治療薬で(たとえば、24時間以内に)予め治療を受けている、APJ受容体のアゴニズムに反応を示す疾患または状態を治療するための、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートの使用を提供する。本発明はまた、患者が、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートで(たとえば、24時間以内に)予め治療を受けている、APJ受容体のアゴニズムに反応を示す疾患または状態を治療するための、別の治療薬の使用を提供する。

#### 【0293】

一実施形態では、他の治療薬は、イノトロープ、アドレナリン性受容体遮断薬、HMG-CoA還元酵素阻害薬、アンジオテンシンII受容体アンタゴニスト、アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬、カルシウムチャネル遮断薬(CCB)、エンドセリン拮抗薬、レニン阻害薬、利尿薬、apoA-I模倣薬、抗糖尿病薬、抗肥満薬(obesity-reducing agent)、アルドステロン受容体遮断薬、エンドセリン受容体遮断薬、アルドステロンシナーゼ阻害薬(AASI)、CETP阻害薬、抗凝血薬、リラキシン、BNP(ネシリチド)、およびNEP阻害薬から選択される。

#### 【0294】

第2の薬剤または治療と「組み合わせて」という用語は、本発明のバイオコンジュゲート(たとえば、実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートまたは本明細書に別な形で記載するバイオコンジュゲート)を第2の薬剤または治療と同時投与すること、最初に本発明の化合物を投与した後、第2の薬剤または治療を投与すること、および最初に第2の薬剤または治療を投与した後、本発明のバイオコンジュゲートを投与する

10

20

30

40

50

ことを包含する。

【0295】

用語「第2の薬剤」は、本明細書に記載の疾患または障害、たとえば、A P J受容体の活性化に反応を示す障害または疾患、たとえば、急性非代償性心不全（A D H F）、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、Brugada症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、および子癇前症の症状を治療、予防、または軽減することが当業界で知られている任意の薬剤を包含する。

【0296】

第2の薬剤の例としては、イノトロープ、アドレナリン性受容体遮断薬、HMG-CoA還元酵素阻害薬、アンジオテンシンII受容体拮抗薬、アンジオテンシン変換酵素（ACE）阻害薬、カルシウムチャネル遮断薬（CCB）、エンドセリン拮抗薬、レニン阻害薬、利尿薬、apoA-I模倣薬、抗糖尿病薬、抗肥満薬、アルドステロン受容体遮断薬、エンドセリン受容体遮断薬、アルドステロンシターゼ阻害薬（ASI）、CETP阻害薬、抗凝血薬、リラキシン、BNP（ネシリチド）、および/またはNEP阻害薬が挙げられる。

【0297】

本明細書で使用するイノトロープとしては、たとえば、ドブタミン、イソプロテレノール、ミルリノン、アミリノン（amirinone）、レボシメンダン、エピネフリン、ノルエピネフリン、イソプロテレノール、およびジゴキシンが挙げられる。

【0298】

本明細書で使用するアドレナリン性受容体遮断薬としては、たとえば、アセプトロール、アテノロール、ベタキソロール、ビソプロロール、カルテオロール、メトプロロール、ナドロール、プロプラノロール、ソタロール、およびチモロールが挙げられる。

【0299】

本明細書で使用する抗凝血薬としては、ダルテパリン、ダナパロイド、エノキサパリン、ヘパリン、チンザパリン、ワルファリンが挙げられる。

【0300】

用語「HMG-CoA還元酵素阻害薬」（-ヒドロキシ-メチルグルタリル-補酵素A還元酵素阻害薬とも呼ばれる）は、血中コレステロールを始めとする脂質レベルを下げるのに使用することのできる活性薬剤を包含する。例としては、アトルバスタチン、セリバスタチン、コンパクチン、ダルバスタチン、ジヒドロコンパクチン、フルインドストatin（fluindostatin）、フルバスタチン、ロバスタチン、ピタバスタチン、メバスタチン、プラバスタチン、ロスバスタチン、リバスタチン（rivastatin）、シンバスタチン、およびベロスタチン（velostatin）、またはこれらの薬学的に許容される塩が挙げられる。

【0301】

用語「ACE阻害薬」（アンジオテンシン変換酵素阻害薬とも呼ばれる）は、アンジオテンシンIをアンジオテンシンIIにする酵素的分解を妨げる分子を包含する。このような化合物は、血圧の調節およびうっ血性心不全の治療に使用することができる。例としては、アラセブリル、ベナゼブリル、ベナゼブリラート、カプトブリル、セロナブリル（ceronapril）、シラザブリル、デラブリル、エナラブリル、エナブリラート（enaprilat）、ホシノブリル、イミダブリル、リシノブリル、モエキシブリル、モベルトブリル（mavilopril）、ペリンドブリル、キナブリル、ラミブリル、スピラブリル、テモカブリル、およびトランドラブリル、またはこれらの薬学的に許容される塩が挙げられる。

【0302】

用語「エンドセリン拮抗薬」は、ボセンタン（E P 5 2 6 7 0 8 Aを参照のこと）、テゾセンタン（W O 9 6 / 1 9 4 5 9を参照のこと）、またはこれらの薬学的に許容される塩を包含する。

10

20

30

40

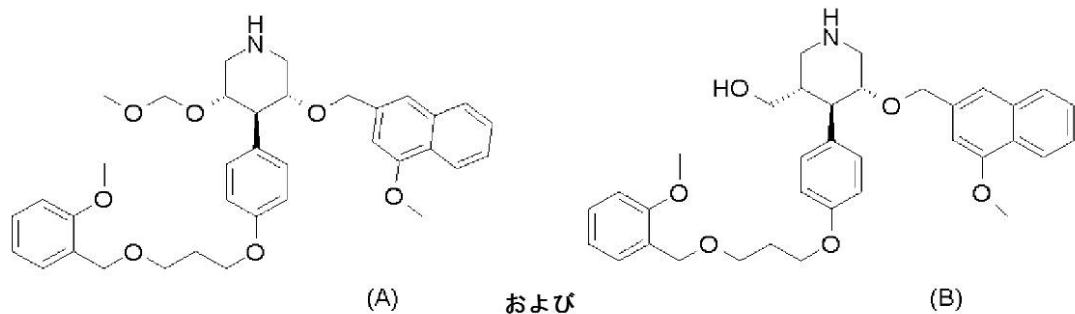
50

## 【0303】

用語「レニン阻害薬」は、ジテキレン (ditekiren) (化学名: [1S-[1R\*, 2R\*, 4R\* (1R\*, 2R\*)]]-1-[ (1, 1-ジメチルエトキシ) カルボニル] - L - プロリル - L - フェニルアラニル - N - [2 - ヒドロキシ - 5 - メチル - 1 - (2 - メチルプロピル) - 4 - [[2 - メチル - 1 - [(2 - ピリジニルメチル) アミノ] カルボニル] プチル] アミノ] カルボニル] ヘキシリル] - N - - メチル - L - ヒスチジンアミド) ; テルラキレン (化学名: [R - (R\*, S\*)] - N - (4 - モルホリニルカルボニル) - L - フェニルアラニル - N - [1 - (シクロヘキシリルメチル) - 2 - ヒドロキシ - 3 - (1 - メチルエトキシ) - 3 - オキソプロピル] - S - メチル - L - システイネアミド) ; アリスキレン (化学名: (2S, 4S, 5S, 7S) - 5 - アミノ - N - (2 - カルバモイル - 2, 2 - ジメチルエチル) - 4 - ヒドロキシ - 7 - { [4 - メトキシ - 3 - (3 - メトキシプロポキシ) フェニル] メチル} - 8 - メチル - 2 - (プロパン - 2 - イル) ノナンアミド) およびザンキレン (化学名: [1S - [1R\* [R\* (R\*)], 2S\*, 3R\*]] - N - [1 - (シクロヘキシリルメチル) - 2, 3 - ジヒドロキシ - 5 - メチルヘキシリル] - - [[2 - [(4 - メチル - 1 - ピペラジニル) スルホニル] メチル] - 1 - オキソ - 3 - フェニルプロピル] - アミノ] - 4 - チアゾールプロパンアミド) 、もしくはこれらの塩酸塩、または Speede 1 が開発した SPP 630、SPP 635、および SPP 800、または式 (A) および (B) :

## 【0304】

## 【化35】



の R O 6 6 - 1 1 3 2 および R O 6 6 - 1 1 6 8 、またはこれら の 薬 学 的 に 許 容 さ れ る 塩 を 包 含 す る。

## 【0305】

用語「アリスキレン」は、詳細に定義しない場合、遊離塩基とその塩の両方、特に薬学的に許容されるその塩、最も好ましくはその半フマル酸塩であると理解される。

## 【0306】

用語「カルシウムチャネル遮断薬 (C C B)」は、ジヒドロピリジン (D H P) および非 D H P (たとえば、ジルチアゼム型およびベラパミル型 C C B) を包含する。例としては、アムロジピン、ベブリジル、ジルチアゼム、フェロジピン、リオシジン (ryosidine) 、イスラジピン、ラシジピン、ニカルジピン、ニフェジピン、ニグルジピン、ニルジピン (niludipine) 、ニモジピン、ニソルジピン、ニトレングリピン、ベラパミル、およびニバルジピン (nivaldipine) が挙げられ、フルナリジン、プレニラミン、ジルチアゼム、フェンジリン、ガロパミル、ミベフラジル、アニパミル (anipamil) 、チアパミル、およびベラパミル、またはこれらの薬学的に許容される塩からなる群から選択される代表的非 D H P であることが好ましい。C C B は、降圧薬、抗狭心症薬、または抗不整脈薬として使用することができる。

## 【0307】

用語「利尿薬」は、チアジド誘導体 (たとえば、クロロチアジド、ヒドロクロロチアジド、メチルクロチアジド (methylclothiazide) ) 、およびクロロタリドン (chlorothalidone) ) を包含する。

## 【0308】

10

20

30

40

50

用語「A p o A - I 模倣薬」は、D 4 F ペプチド（たとえば、式 D - W - F - K - A - F - Y - D - K - V - A - E - K - F - K - E - A - F）を包含する。

【0309】

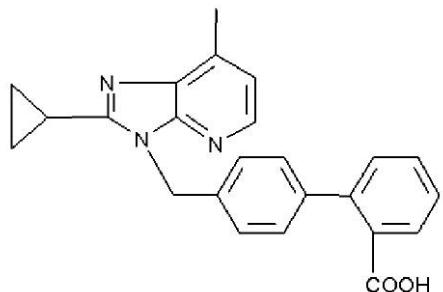
アンジオテンシンII受容体拮抗薬または薬学的に許容されるその塩は、アンジオテンシンII受容体のAT<sub>1</sub>受容体サブタイプに結合するが、結果として受容体を活性化しない活性成分であると理解される。AT<sub>1</sub>受容体が抑制される結果として、こうした拮抗薬は、たとえば、降圧薬として、またはうっ血性心不全の治療に用いることができる。

【0310】

AT<sub>1</sub>受容体拮抗薬のクラスは、構造上の特色が異なっている化合物を含み、実用上好ましいのは、非ペプチド性化合物である。たとえば、バルサルタン、ロサルタン、カンデサルタン、エプロサルタン、イルベサルタン、サプリサルタン(saprisartan)、タソサルタン、テルミサルタン、次式

【0311】

【化36】



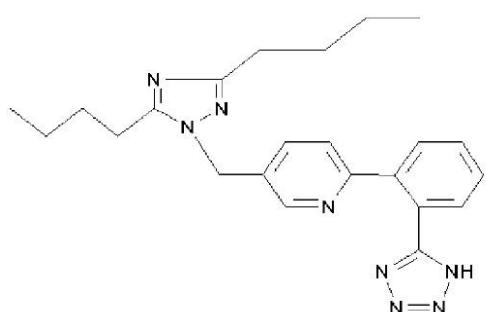
10

20

のE-1477という呼称の化合物、次式

【0312】

【化37】

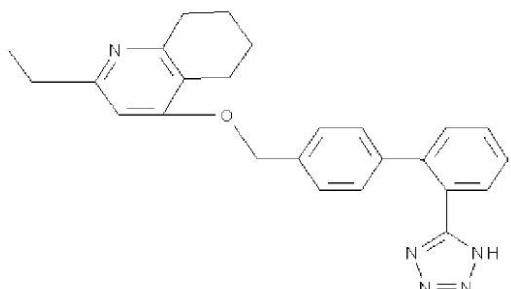


30

のSC-52458という呼称の化合物、および次式

【0313】

【化38】



40

のZD-8731という呼称の化合物、または、各場合において、薬学的に許容されるその塩からなる群から選択される化合物を挙げることができる。

【0314】

好みいAT<sub>1</sub>受容体拮抗薬は、カンデサルタン、エプロサルタン、イルベサルタン、

50

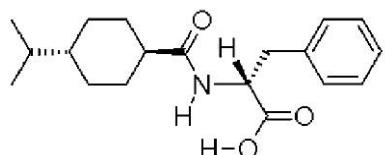
ロサルタン、テルミサルタン、バルサルタンである。他にも好ましいのは、市販されている薬剤であり、最も好ましいのは、バルサルタンまたは薬学的に許容されるその塩である。

### 【0315】

用語「抗糖尿病薬」は、臍臓細胞からのインスリンの分泌を促進するインスリン分泌増強剤を包含する。例としては、ビグアナイド誘導体（たとえば、メトホルミン）、スルホニル尿素（S U）（たとえば、トルブタミド、クロルプロパミド、トラザミド、アセトヘキサミド、4 - クロロ - N - [ ( 1 - ピロリジニルアミノ ) カルボニル ] - ベンゼンスルホニアミド（グリコピルアミド（glycopyramide））、グリベンクラミド（グリブリド）、グリクラジド、1 - プチル - 3 - メタニリル尿素、カルブタミド（carbutamide）、グリボヌリド（glibonuride）、グリビジド、グリキドン、グリソキセピド、グリブチアゾール（glybuthiazole）、グリブゾール（glibuzole）、グリヘキサミド（glyhexamide）、グリミジン、グリピンアミド（glypinamide）、フェンブタニド（phenbutanide）、およびトリルシクラミド（tolylcyclamide））、またはこれらの薬学的に許容される塩が挙げられる。別の例としては、フェニルアラニン誘導体（たとえば、式

### 【0316】

### 【化39】



10

20

30

のナテグリニド [ N - ( trans - 4 - イソプロピルシクロヘキシルカルボニル ) - D - フェニルアラニン ] ( E P 1 9 6 2 2 2 および E P 5 2 6 1 7 1 を参照のこと ) 、レパグリニド [ ( S ) - 2 - エトキシ - 4 - { 2 - [ [ 3 - メチル - 1 - [ 2 - ( 1 - ピペリジニル ) フェニル ] ブチル ] アミノ ] - 2 - オキソエチル } 安息香酸 ] ( E P 5 8 9 8 7 4 、 E P 1 4 7 8 5 0 A 2 、 詳細には、 61 頁の実施例 1 1 、および E P 2 0 7 3 3 1 A 1 を参照のこと ) 、カルシウム ( 2 S ) - 2 - ベンジル - 3 - ( cis - ヘキサヒドロ - 2 - イソインドリンリカルボニル ( isoindolinylcarbonyl ) ) - プロピオネート二水和物（たとえば、ミチグリニド ( E P 5 0 7 5 3 4 を参照のこと ) ）、およびグリメピリド ( E P 3 1 0 5 8 を参照のこと ) が挙げられる。

### 【0317】

本発明のバイオコンジュゲートと組み合わせて使用することのできる第 2 の薬剤の別の例として、DPP - IV 阻害薬、GLP - 1 および GLP - 1 アゴニストが挙げられる。

### 【0318】

DPP - IV は、GLP - 1 の不活性化を担う。より詳細には、DPP - IV は、GLP - 1 受容体アンタゴニストを発生させ、それによって GLP - 1 に対する生理的反応が短縮される。GLP - 1 は、臍臓のインスリン分泌の主要な刺激物質であり、グルコース処理に直接有益な影響を及ぼす。

### 【0319】

DPP - IV ( ジペプチジルペプチダーゼ IV ) 阻害薬は、ペプチド性でも、または好ましくは、非ペプチド性でもよい。DPP - IV 阻害薬は、各場合につき、たとえば、W O 9 8 / 1 9 9 9 8 、 D E 1 9 6 1 6 4 8 6 A 1 、 W O 0 0 / 3 4 2 4 1 、および W O 9 5 / 1 5 3 0 9 において、各場合につき、特に、化合物請求項および作業実施例の最終生成物において全般かつ詳細に開示されており、最終生成物、医薬調製物、および特許請求の範囲の主題は、これら刊行物を参照することにより、本明細書に援用される。好ましいのは、それぞれ、W O 9 8 / 1 9 9 9 8 の実施例 3 および W O 0 0 / 3 4 2 4 1 の実施例 1 において詳細に開示されている化合物である。

### 【0320】

GLP - 1 ( グルカゴン様ペプチド 1 ) は、たとえば、W.E. Schmidt らによる Diabetol

40

50

ogia, 28, 1985, 704-707およびU.S.5,705,483に記載されているインスリン分泌性タンパク質である。

### 【0321】

用語「GLP-1アゴニスト」は、特にU.S.5,120,712、U.S.5,118666、U.S.5,512,549、WO91/11457、およびC. OrskovらによるJ. Biol. Chem. 264 (1989) 12826において開示されているGLP-1(7-36)NH<sub>2</sub>の変異体および類似体を包含する。別の例としては、化合物中GLP-1(7-36)NH<sub>2</sub>分子の第37位においてArg<sup>3-6</sup>のカルボキシ末端側アミド官能基がGlyで置換されているGLP-1(7-37)、ならびにGLN<sup>9</sup>-GLP-1(7-37)、D-GLN<sup>9</sup>-GLP-1(7-37)、アセチルLYS<sup>9</sup>-GLP-1(7-37)、LYS<sup>1-8</sup>-GLP-1(7-37)、特にGLP-1(7-37)OH、VAL<sup>8</sup>-GLP-1(7-37)、GLY<sup>8</sup>-GLP-1(7-37)、THR<sup>8</sup>-GLP-1(7-37)、MET<sup>8</sup>-GLP-1(7-37)、および4-イミダゾロピオニル-GLP-1を含めたその変異体および類似体が挙げられる。GreigらによるDiabetologia 1999, 42, 45-50に記載されているGLPアゴニスト類似体エキセンディン-4も、特に好まれる。  
10

### 【0322】

定義「抗糖尿病薬」には、損なわれたインスリン受容体機能を回復させて、インスリン抵抗性を減らし、その結果としてインスリン感受性を増強するインスリン感受性増強剤も含まれる。例としては、血糖降下性チアゾリジンジオン誘導体（たとえば、グリタゾン、(S)-((3,4-ジヒドロ-2-(フェニル-メチル)-2H-1-ベンゾピラン-6-イル)メチル-チアゾリジン-2,4-ジオン（エングリタゾン）、5-[4-(3-(5-メチル-2-フェニル-4-オキサゾリル)-1-オキソプロピル)-フェニル]-メチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン（ダルグリタゾン）、5-[4-(1-メチル-シクロヘキシル)メトキシ]-フェニル]メチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン（シグリタゾン）、5-[4-(2-(1-インドリル)エトキシ)フェニル]メチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(DRF2189)、5-[4-[2-(5-メチル-2-フェニル-4-オキサゾリル)-エトキシ)]ベンジル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(BM-13.1246)、5-(2-ナフチルスルホニル)-チアゾリジン-2,4-ジオン(AY-31637)、ビス{4-[[(2,4-ジオキソ-5-チアゾリジニル)メチル]フェニル]}メタン(YM268)、5-[4-[2-(5-メチル-2-フェニル-4-オキサゾリル)-2-ヒドロキシエトキシ]ベンジル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(AD-5075)、5-[4-(1-フェニル-1-シクロプロパンカルボニルアミノ)-ベンジル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(DN-108)5-[4-(2-(2,3-ジヒドロインドール-1-イル)エトキシ)フェニル]メチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(AD-5075)、5-[4-(4-クロロ-フェニル)]-2-プロピニル]-5-(フェニルスルホニル)チアゾリジン-2,4-ジオン、5-[3-(4-クロロフェニル)]-2-プロピニル]-5-(4-フルオロフェニル-スルホニル)チアゾリジン-2,4-ジオン、5-[4-(2-(メチル-2-ピリジニル-アミノ)-エトキシ)フェニル]メチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(ロシグリタゾン)、5-[4-(2-(5-エチル-2-ピリジル)エトキシ)フェニル]-メチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(ピオグリタゾン)、5-[4-(3,4-ジヒドロ-6-ヒドロキシ-2,5,7,8-テトラメチル-2H-1-ベンゾピラン-2-イル)メトキシ]-フェニル]-メチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(トログリタゾン)、5-[6-(2-フルオロ-ベンジルオキシ)ナフタレン-2-イルメチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(MCC555)、5-[2-(2-ナフチル)-ベンゾオキサゾール-5-イル]-メチル]-チアゾリジン-2,4-ジオン(T-174)および5-(2,4-ジオキソチアゾリジン-5-イルメチル)-2-メトキシ-N-(4-トリフルオロメチル-ベンジル)ベンズアミド(KRP297))が挙げられる。  
20  
30  
40

### 【0323】

これ以外の抗糖尿病薬としては、タンパク質チロシンホスファターゼ(PTPアーゼ)

の阻害薬、抗糖尿病性非小分子模倣化合物、グルタミン・フルクトース-6-リン酸アミドトランスフェラーゼ( G F A T )の阻害薬のような、インスリンシグナル伝達経路モジュレーター；グルコース-6-ホスファターゼ( G 6 P アーゼ )の阻害薬、フルクトース-1,6-ビスホスファターゼ( F - 1 , 6 - B p アーゼ )の阻害薬、グリコーゲンホスホリラーゼ( G P )の阻害薬、グルカゴン受容体拮抗薬、ホスホエノールピルビン酸カルボキシキナーゼ( P E P C K )の阻害薬のような、肝臓グルコース産生の調節不全に影響を及ぼす化合物；ピルビン酸脱水素酵素キナーゼ( P D H K )阻害薬；胃内容排出の阻害薬；インスリン；G S K - 3 の阻害薬；レチノイドX受容体( R X R )アゴニスト；-3 A R のアゴニスト；脱共役タンパク質( U C P )のアゴニスト；非グリタゾン型 P P A R アゴニスト；P P A R / P P A R 二重アゴニスト；抗糖尿病性含バナジウム化合物；グルカゴン様ペプチド1( G L P - 1 )やG L P - 1 アゴニストのようなインクレチンホルモン；細胞イミダゾリン受容体アンタゴニスト；ミグリトール；<sub>2</sub>-アドレナリンアンタゴニスト；ならびにこれらの薬学的に許容される塩が挙げられる。

#### 【 0 3 2 4 】

一実施形態では、本発明は、治療有効量の実施形態1～31のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートと、アセブトロール、アテノロール、ベタキソロール、ビソプロロール、メトプロロール、ナドロール、プロプラノロール、ソタロール、チモロールなどのアドレナリン受容体遮断薬；A T 1 遮断薬などのアンジオテンシンⅠ I 受容体アンタゴニスト；D P P I V 阻害薬(たとえば、ビルダグリブチン)やG L P 1 ペプチドアゴニストなどの抗糖尿病薬から選択される1種または複数の治療活性薬剤とを含む組合せ、詳細には医薬的組合せを提供する。

#### 【 0 3 2 5 】

用語「抗肥満薬」は、リバーゼ阻害薬(たとえば、オーリスタット)および食欲抑制薬(たとえば、シブトラミンおよびフェンテルミン)を包含する。

#### 【 0 3 2 6 】

アルドステロンシルバー阻害薬または薬学的に許容されるその塩は、アルドステロンの産生を抑制する特性を有する活性成分であると理解される。アルドステロンシルバー( C Y P 1 1 B 2 )は、副腎皮質におけるアルドステロン産生の最後のステップ、すなわち、11-デオキシコルチコステロンのアルドステロンへの変換を触媒する、ミトコンドリアのシトクロムP 4 5 0 酵素である。いわゆるアルドステロンシルバー阻害薬によるアルドステロン産生の抑制は、低カリウム血症、高血圧、うっ血性心不全、心房細動、または腎不全の治療に奏効する変異形態であることが知られている。このようなアルドステロンシルバー抑制活性は、当業者によって、標準のアッセイ(たとえば、U S 2 0 0 7 / 0 0 4 9 6 1 6 )に従い、容易に見極められる。

#### 【 0 3 2 7 】

アルドステロンシルバー阻害薬のクラスは、ステロイド性および非ステロイド性両方のアルドステロンシルバー阻害薬を含み、後者が最も好ましい。

#### 【 0 3 2 8 】

市販品として入手可能なアルドステロンシルバー阻害薬または保健当局によって承認されているアルドステロンシルバー阻害薬が好ましい。

#### 【 0 3 2 9 】

アルドステロンシルバー阻害薬のクラスは、構造上の特色が異なっている化合物を含む。非ステロイド性アルドステロンシルバー阻害薬の例は、式

#### 【 0 3 3 0 】

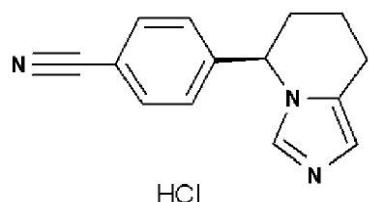
10

20

30

40

## 【化40】



のファドロゾールの塩酸塩（米国特許 4 6 1 7 3 0 7 および 4 8 8 9 8 6 1）の（+）鏡像異性体、または適切な場合、薬学的に許容されるその塩である。

10

## 【0331】

前記組合せにおいて有用なアルドステロンシントーゼ阻害薬は、たとえば、U S 2 0 0 7 / 0 0 4 9 6 1 6において、特に、化合物請求項および作業実施例の最終生成物において全般かつ詳細に開示されている化合物および類似体であり、最終生成物、医薬調製物、および特許請求の範囲の主題は、この刊行物を参照することにより、本明細書に援用される。本発明における使用に適する好ましいアルドステロンシントーゼ阻害薬としては、限定はせず、4 - (6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - イル) - 3 - メチルベンゾニトリル；5 - (2 - クロロ - 4 - シアノフェニル) - 6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - カルボン酸 (4 - メトキシベンジル) メチルアミド；4' - フルオロ - 6 - (6 , 7 , 8 , 9 - テトラヒドロ - 5 H - イミダゾ [1 , 5 - a] アゼピン - 5 - イル) ビフェニル - 3 - カルボニトリル；5 - (4 - シアノ - 2 - メトキシフェニル) - 6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - カルボン酸ブチルエステル；4 - (6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - イル) - 2 - メトキシベンゾニトリル；5 - (2 - クロロ - 4 - シアノフェニル) - 6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - カルボン酸 4 - フルオロベンジルエステル；5 - (4 - シアノ - 2 - トリフルオロメトキシフェニル) - 6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - カルボン酸メチルエステル；5 - (4 - シアノ - 2 - メトキシフェニル) - 6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - カルボン酸 2 - イソプロポキシエチルエステル；4 - (6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - イル) - 2 - メチルベンゾニトリル；4 - (6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - イル) - 3 - フルオロベンゾニトリル；4 - (6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - イル) - 2 - メトキシベンゾニトリル；3 - フルオロ - 4 - (7 - メチレン - 6 , 7 - ジヒドロ - 5 H - ピロロ [1 , 2 - c] イミダゾール - 5 - イル) ベンゾニトリル；c i s - 3 - フルオロ - 4 - [7 - (4 - フルオロ - ベンジル) - 5 , 6 , 7 , 8 - テトラヒドロ - イミダゾ [1 , 5 - a] ピリジン - 5 - イル] ベンゾニトリル；4' - フルオロ - 6 - (9 - メチル - 6 , 7 , 8 , 9 - テトラヒドロ - 5 H - イミダゾ [1 , 5 - a] アゼピン - 5 - イル) ビフェニル - 3 - カルボニトリル；4' - フルオロ - 6 - (9 - メチル - 6 , 7 , 8 , 9 - テトラヒドロ - 5 H - イミダゾ [1 , 5 - a] アゼピン - 5 - イル) ビフェニル - 3 - カルボニトリル、または各場合において、その (R) もしくは (S) 鏡像異性体、または適切な場合、薬学的に許容されるその塩が挙げられる。

20

30

40

## 【0332】

用語アルドステロンシントーゼ阻害薬は、W O 2 0 0 8 / 0 7 6 8 6 0、W O 2 0 0 8 / 0 7 6 3 3 6、W O 2 0 0 8 / 0 7 6 8 6 2、W O 2 0 0 8 / 0 2 7 2 8 4、W O 2 0 0 4 / 0 4 6 1 4 5、W O 2 0 0 4 / 0 1 4 9 1 4、W O 2 0 0 1 / 0 7 6 5 7 4で開示されている化合物および類似体も包含する。

## 【0333】

さらに、アルドステロンシントーゼ阻害薬は、米国特許出願 U S 2 0 0 7 / 0 2 2 5 2 3 2、U S 2 0 0 7 / 0 2 0 8 0 3 5、U S 2 0 0 8 / 0 3 1 8 9 7 8、U S 2 0 0 8 /

50

0076794、U.S.2009/0012068、U.S.20090048241、および  
 PCT出願WO2006/005726、WO2006/128853、WO20061  
 28851、WO2006/128852、WO2007065942、WO2007/  
 116099、WO2007/116908、WO2008/119744、および欧洲  
 特許出願EP1886695において開示されている化合物および類似体も包含する。本  
 発明における使用に適する好ましいアルドステロンシルターゼ阻害薬として、限定はせず  
 、Speedelが開発した8-(4-フルオロフェニル)-5,6-ジヒドロ-8H-  
 イミダゾ[5,1-c][1,4]オキサジン；4-(5,6-ジヒドロ-8H-イミダ  
 ゾ[5,1-c][1,4]オキサジン-8-イル)-2-フルオロベンゾニトリル；4-  
 -(5,6-ジヒドロ-8H-イミダゾ[5,1-c][1,4]オキサジン-8-イル)  
 -2,6-ジフルオロベンゾニトリル；4-(5,6-ジヒドロ-8H-イミダゾ[5,  
 1-c][1,4]オキサジン-8-イル)-2-メトキシベンゾニトリル；3-(5,  
 6-ジヒドロ-8H-イミダゾ[5,1-c][1,4]オキサジン-8-イル)ベン  
 ゾニトリル；4-(5,6-ジヒドロ-8H-イミダゾ[5,1-c][1,4]オキサジ  
 イン-8-イル)フタロニトリル；4-(8-(4-シアノフェニル)-5,6-ジヒド  
 ロ-8H-イミダゾ[5,1-c][1,4]オキサジン-8-イル)ベンゾニトリル；  
 4-(5,6-ジヒドロ-8H-イミダゾ[5,1-c][1,4]オキサジン-8-イル)  
 ベンゾニトリル；4-(5,6-ジヒドロ-8H-イミダゾ[5,1-c][1,4]  
 ]オキサジン-8-イル)ナフタレン-1-カルボニトリル；8-[4-(1H-テトラ  
 ゾール-5-イル)フェニル]1-5,6-ジヒドロ-8H-イミダゾ[5,1-c][1  
 ,4]オキサジン、または各場合において、その(R)もしくは(S)鏡像異性体、または  
 適切な場合、薬学的に許容されるその塩が挙げられる。  
 10  
 20  
 20

## 【0334】

前記組合せにおいて有用なアルドステロンシルターゼ阻害薬は、たとえば、WO200  
 9/156462およびWO2010/130796において、特に、化合物請求項およ  
 び作業実施例の最終生成物において全般かつ詳細に開示されている化合物および類似体、  
 最終生成物、医薬調製物、および特許請求の範囲の主題である。本発明における組合せに  
 適する好ましいアルドステロンシルターゼ阻害薬としては、3-(6-フルオロ-3-メ  
 チル-2-ピリジン-3-イル-1H-インドール-1-イルメチル)-ベンゾニトリル  
 ヒドロクロリド、1-(4-メタンスルホニル-ベンジル)-3-メチル-2-ピリジン  
 -3-イル-1H-インドール、2-(5-ベンジルオキシ-ピリジン-3-イル)-6  
 -クロロ-1-メチル-1H-インドール、5-(3-シアノ-1-メチル-1H-イン  
 ドール-2-イル)-ニコチン酸エチルエステル、N-[5-(6-クロロ-3-シアノ  
 -1-メチル-1H-インドール-2-イル)-ピリジン-3-イルメチル]-エタンス  
 ルホンアミド、ピロリジン-1-スルホン酸 5-(6-クロロ-3-シアノ-1-メチ  
 ル-1H-インドール-2-イル)-ピリジン-3-イルエステル、N-メチル-N-[  
 5-(1-メチル-1H-インドール-2-イル)-ピリジン-3-イルメチル]-メタ  
 ンスルホンアミド、6-クロロ-1-メチル-2-{5-[2-ピロリジン-1-イル  
 -エチルアミノ)-メチル]-ピリジン-3-イル}-1H-インドール-3-カルボニ  
 トリル、6-クロロ-2-[5-(4-メタンスルホニル-ピペラジン-1-イルメチル  
 )-ピリジン-3-イル]-1-メチル-1H-インドール-3-カルボニトリル、6-  
 クロロ-1-メチル-2-{5-[1-メチル-ピペリジン-4-イルアミノ)-メチ  
 ル]-ピリジン-3-イル}-1H-インドール-3-カルボニトリル、モルホリン-4  
 -カルボン酸[5-(6-クロロ-3-シアノ-1-メチル-1H-インドール-2-イル)-  
 ピリジン-3-イルメチル]-アミド、N-[5-(6-クロロ-1-メチル-1  
 H-インドール-2-イル)-ピリジン-3-イルメチル]-エタンスルホンアミド、C  
 ,C,-トリフルオロ-N-[5-(1-メチル-1H-インドール-2-イル)-ピ  
 リジン-3-イルメチル]-メタンスルホンアミド、N-[5-(3-クロロ-4-シア  
 ノ-フェニル)-ピリジン-3-イル]-4-トリフルオロメチル-ベンゼンスルホンア  
 ミド、N-[5-(3-クロロ-4-シアノ-フェニル)-ピリジン-3-イル]-1-  
 30  
 40  
 50

フェニル - メタンスルホンアミド、N - (5 - (3 - クロロ - 4 - シアノフェニル) ピリジン - 3 - イル) プタン - 1 - スルホンアミド、N - (1 - (5 - (4 - シアノ - 3 - メトキシフェニル) ピリジン - 3 - イル) エチル) エタンスルホンアミド、N - ((5 - (3 - クロロ - 4 - シアノフェニル) ピリジン - 3 - イル) (シクロプロピル) メチル) エタンスルホンアミド、N - (シクロプロピル (5 - (1H - インドール - 5 - イル) ピリジン - 3 - イル) メチル) エタンスルホンアミド、N - (シクロプロピル (5 - ナフタレン - 1 - イル - ピリジン - 3 - イル) メチル) エタンスルホンアミド、エタンスルホン酸 [5 - (6 - クロロ - 1 - メチル - 1H - ピロロ [2,3-b] ピリジン - 2 - イル) - ピリジン - 3 - イルメチル] - アミドおよびエタンスルホン酸 { [5 - (3 - クロロ - 4 - シアノ - フェニル) - ピリジン - 3 - イル] - シクロプロピル - メチル} - エチル - アミドが挙げられる。  
10

## 【0335】

用語「エンドセリン受容体遮断薬」は、ボセンタンおよびアンブリセンタンを包含する。

## 【0336】

用語「C E T P 阻害薬」とは、コレステリルエステル転送タンパク質 (C E T P) を媒介とする、種々のコレステリルエステルおよびトリグリセリドのH D L からL D L およびV L D Lへの輸送を抑制する化合物を指す。このようなC E T P 抑制活性は、当業者によって、標準のアッセイ(たとえば、米国特許第6,140,343号)に従い、容易に見極められる。例として、米国特許第6,140,343号および米国特許第6,197,786号で開示されている化合物(たとえば、[2R,4S]4-[ (3,5-ビス - トリフルオロメチル - ベンジル) - メトキシカルボニル - アミノ] - 2 - エチル - 6 - トリフルオロメチル - 3,4 - ジヒドロ - 2H - キノリン - 1 - カルボン酸エチルエステル(トルセトラピブ)、米国特許第6,723,752号で開示されている化合物(たとえば、(2R) - 3 - { [3 - (4 - クロロ - 3 - エチル - フェノキシ) - フェニル] - [ [3 - (1,1,2,2 - テトラフルオロ - エトキシ) - フェニル] - メチル] - アミノ} - 1,1,1 - トリフルオロ - 2 - プロパンオール)、米国特許出願第10/807,838号で開示されている化合物、米国特許第5,512,548号で開示されているポリペプチド誘導体、それぞれJ. Antibiot., 49(8): 815- 816 (1996)およびBioorg. Med. Chem. Lett.; 6:1951-1954 (1996)で開示されている口セノノラクトン誘導体およびコレステリルエステルの含リン酸類似体が挙げられる。さらに、C E T P 阻害薬として、WO 2000/017165、WO 2005/095409、WO 2005/097806、WO 2007/128568、WO 2008/009435、WO 2009/059943、およびWO 2009/071509で開示されているものも挙げられる。  
20

## 【0337】

用語「N E P 阻害薬」とは、中性エンドペプチダーゼ (N E P) E C 3 . 4 . 2 4 . 1 1を抑制する化合物を指す。例として、カンドキサトリル、カンドキサトリラート、デキセカドトリル (Dexecadotril)、エカドトリル (Ecadotril)、ラセカドトリル、サンパトリラート (Sampatrilat)、ファシドトリル、オマパトリラート、ゲモパトリラート (G emopatrilat)、ダグルトリル (Daglutril)、S C H - 4 2 4 9 5、S C H - 3 2 6 1 5、U K - 4 4 7 8 4 1、A V E - 0 8 4 8、P L - 3 7、および(2R,4S) - 5 - ビフェニル - 4 - イル - 4 - (3 - カルボキシ - プロピオニルアミノ) - 2 - メチル - ペンタン酸エチルエステル、またはこれらの薬学的に許容される塩が挙げられる。N E P 阻害薬には、米国特許第U S 5,155,100号で開示されているようなホスホノ / ビアリール置換ジペプチド誘導体も含まれる。N E P 阻害薬には、P C T 出願第W O 2 0 0 3 / 1 0 4 2 0 0号で開示されているようなN - メルカプトアシリルフェニルアラニン誘導体も含まれる。N E P 阻害薬には、P C T 出願第W O 2 0 0 8 / 1 3 3 8 9 6、W O 2 0 0 9 / 0 3 5 5 4 3、またはW O 2 0 0 9 / 1 3 4 7 4 1で開示されているような二重作用性降圧薬も含まれる。他の例としては、U S 出願第12/788,794号、第12/788,766号、および第12/947,029号で開示されている化合物が挙げられる。  
30  
40

N E P 阻害薬として、W O 2 0 1 0 / 1 3 6 4 7 4、W O 2 0 1 0 / 1 3 6 4 9 3、W O 2 0 1 1 / 0 6 1 2 7 1、ならびにU S 仮出願第6 1 / 4 1 4 1 7 1号および第6 1 / 4 1 4 1 6 3号で開示されている化合物も挙げられる。

#### 【 0 3 3 8 】

一実施形態では、本発明は、対象においてA P J受容体を活性化する方法であって、治療有効量の、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲート、またはその多量体を対象に投与することを含む方法を提供する。

#### 【 0 3 3 9 】

一実施形態では、本発明は、対象において、A P J受容体の活性化に反応を示す障害または疾患を治療する方法であって、治療有効量の、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲート、またはその多量体を対象に投与することを含む方法を提供する。10

#### 【 0 3 4 0 】

一実施形態では、本発明は、対象において、A P J受容体の活性化（アゴニズム）に反応を示す障害または疾患を治療する方法であって、障害または疾患が、急性非代償性心不全（A D H F）、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、B r u g a d a症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、および子癇前症から選択される方法を提供する。

#### 【 0 3 4 1 】

一実施形態では、本発明は、医薬として使用するための、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートまたはその多量体を提供する。20

#### 【 0 3 4 2 】

一実施形態では、本発明は、A P J受容体の活性化に反応を示す障害または疾患を治療するための医薬の製造における、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲートまたはその多量体の使用を提供する。別の実施形態では、本発明は、A P J受容体の活性化に反応を示す障害または疾患を治療するための医薬の製造における、前述の実施形態のいずれか1つに従うバイオコンジュゲート、またはその多量体の使用であって、前記障害または疾患が、詳細には、急性非代償性心不全（A D H F）、慢性心不全、肺高血圧、心房細動、B r u g a d a症候群、心室性頻拍、アテローム性動脈硬化症、高血圧、再狭窄、虚血性心血管疾患、心筋症、心臓線維症、不整脈、水分貯留、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、肥満、末梢動脈疾患、脳血管発作、一過性脳虚血発作、外傷性脳損傷、筋萎縮性側索硬化症、熱傷（日焼けを含む）、および子癇前症から選択される、使用を提供する。30

。

#### 【 実施例 】

#### 【 0 3 4 3 】

## 【表5-1】

本発明の例示:半減期延長性部分とのコンジュゲーションに向けたペプチド  
およびポリペプチド合成

略語	定義
AA	アミノ酸
Ac	アセチル
Acm	アセトアミドメチル
ACN	アセトニトリル
AcOH	酢酸
Ac <sub>2</sub> O	無水酢酸
AM	アミノメチル
BAL	主鎖(backbone)アミドリンカー
BSA	ウシ血清アルブミン
Boc	<i>tert</i> -ブチルオキシカルボニル
DCM	ジクロロメタン
DIC	<i>N,N'</i> -ジイソプロピルカルボジイミド
DIPEA	<i>N,N'</i> -ジイソプロピルエチルアミン
DMA	<i>N,N'</i> -ジメチルアセトアミド
DTT	ジチオトレイトール
DMF	<i>N,N'</i> -ジメチルホルムアミド
DMSO	ジメチルスルホキシド
DVB	ジビニルベンゼン
EDT	エタンジチオール
FA	ギ酸
Fmoc	9-フルオレニルメチルオキシカルボニル
HATU	2-(1H-9-アザベンゾトリアゾール-1-イル)-1,1,3,3-テトラメチルウロニウムヘキサフルオロホスフェート
HBSS	ハンクス緩衝塩溶液
HCTU	2-(6-クロロ-1H-ベンゾトリアゾール-1-イル)-1,1,3,3-テトラメチルウロニウムヘキサフルオロホスフェート
HEPES	4-(2-ヒドロキシエチル)-1-ピペラジンエタンスルホン酸
HFIP	ヘキサフルオロイソプロパノール
HOAt	1-ヒドロキシ-7-アザベンゾトリアゾール
HPLC	高速液体クロマトグラフィー
HSA	ヒト血清アルブミン

10

20

30

40

【表5-2】

ivDde	(4,4-ジメチル-2,6-ジオキソシクロヘキサ-1-イリデン)-3-メチルブチル
LN	Logarithmus naturali(自然対数)
MPA	3-(マレイミド)プロピオン酸
MeOH	メタノール
MS	質量分析
Nal	2-ナフチルアラニン
Nle	ノルロイシン
NMP	N-メチルピロリジン
Oxyma Pure	エチル2-シアノ-2-(ヒドロキシイミノ)アセテート
Pbf	2,2,4,6,7-ペンタメチルジヒドロベンゾフラン-5-スルホニル
pE	ピログルタミン酸
PG	保護基
PBS	リン酸緩衝食塩水
Ph	フェニル
PS	ポリスチレン
POL	ポリマー支持体
rt	室温
SPPS	固相ペプチド合成
SEC	サイズ排除クロマトグラフィー
tBuOH	tert-ブタノール
TCEP	トリス(2-カルボキシエチル)ホスフィン
TIPS/TIS	トリイソプロピルシラン
TFA	トリフルオロ酢酸
THF	テトラヒドロフラン
TIS	トリイソプロピルシラン
TPA	3-メルカプトプロパン酸
t <sub>R</sub>	保持時間
Trt	トリチル
UPLC	超高速液体クロマトグラフィー
UV	紫外線

【0345】

以下のペプチドは、標準の固相 F m o c 化学によって合成した。ペプチドは、P r e l u d e (商標) ペプチド合成装置 ( P r o t e i n T e c h n o l o g i e s , I n c . 、米国トゥーソン)において組み立てた。C末端上に遊離カルボン酸を有するペプチドは、2-クロロトリチルクロリド - P S - 樹脂 ( A B C R 、ドイツ国カールスルーエ) か

10

20

30

40

50

ら合成した。C末端上に非置換カルボキサミドを有するペプチドは、Fmoc保護されたRink-Amide-AM-PS樹脂(Merck、ドイツ国ダルムシュタット)から合成した。C末端上にNで一置換されているカルボキサミドを有するペプチドは、アミンが導入されたBAL-AM-PS樹脂(EMC Microcollections、ドイツ国チュービンゲン)から合成した。

## 【0346】

ペプチドは、分取逆相HPLCによって精製した。次のカラムを使用した。

- Waters SunFire Prep C18 OBDカラム、 $5\text{ }\mu\text{m}$ 、 $30\times 100\text{ mm}$ 、部品番号186002572 (カラム1本または連続したカラム2本)
- Waters SunFire Prep C18 OBDカラム、 $5\text{ }\mu\text{m}$ 、 $30\times 50\text{ mm}$ 、部品番号186002572
- Waters SunFire Prep C18 OBDカラム、 $5\text{ }\mu\text{m}$ 、 $30\times 150\text{ mm}$ 、部品番号186002797
- Waters Atlantis Prep OBD T3カラム、 $5\text{ }\mu\text{m}$ 、 $30\times 150\text{ mm}$ 、部品番号186003703
- Waters XBridge Prep C8 OBDカラム、 $5\text{ }\mu\text{m}$ 、 $30\times 150\text{ mm}$ 、部品番号186003083
- Machery-Nagel Nucleosil (登録商標) 100-5 C18、 $5\text{ }\mu\text{m}$ 、 $250\times 40\text{ mm}$ 、部品番号715340.400

## 【0347】

移動相は、溶離液A( $0.1\%$ TFA  $\text{H}_2\text{O}$ 水溶液)と溶離液B(ACN)からなるものとした。勾配は、分離の問題の特定の要件に基づき設計した。純粋な生成物をACN/ $\text{H}_2\text{O}$ から凍結乾燥した。

## 【0348】

生成物は、 $= 214\text{ nm}$ でのUV検出を使用するHPLCおよびエレクトロスプレーイオン化を使用するUPLC-MSによって分析した。

## 【0349】

表4において例示するペプチドは、以下に記載する一般手順を使用して合成した。非置換のN末端またはC末端は、それぞれ、細いイタリック体のH-または-OHで示す。

## 【0350】

## 【表6-1】

表 4:

ペプチド	配列	環のタイプ
ペプチド1	pE-R-P-R-L-K-H-F-G-P-Nle-D- フェネチルアミン	ラクタムK <sup>6</sup> -D <sup>12</sup>
ペプチド2	pE-R-P-R-L-K-H-F-G-P-Nle-E- フェネチルアミン	ラクタムK <sup>6</sup> -E <sup>12</sup>
ペプチド3	pE-R-P-R-L-Orn-H-F-G-P-Nle-D- フェネチルアミン	ラクタムO <sup>6</sup> -D <sup>12</sup>
ペプチド4	pE-R-P-R-L-Dab-H-F-G-P-Nle-D- フェネチルアミン	ラクタムDab <sup>6</sup> -D <sup>12</sup>
ペプチド5	pE-R-P-R-L-K-F-K-G-P-Nle-F	ラクタムK <sup>6</sup> -C- 末端
ペプチド6	pE-R-P-R-L-K-F-K-G-P-Nle-f	ラクタムK <sup>6</sup> -C- 末端
		ラクタムN-末端- C- 末端,
ペプチド7	Q-R-P-R-L-C-F-K-G-P-Nle-C-F-G-G	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>

## 【0351】

【表6-2】

ペプチド8	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド9	<i>pE-R-P-R-L-C-Aib-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド10	<i>pE-R-P-R-L-C-Aib-K-G-P-Nle-C-f-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド11	<i>H-lsn-R-P-R-L-C-Aib-K-G-P-Nle-C-f-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド12	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-フェネチルアミン</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド13	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-f-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド14	<i>pE-R-P-R-Cha-C-H-K-G-P-Cha-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド15	<i>pE-R-P-R-L-C-F-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド16	<i>H-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>5</sup> -C <sup>11</sup>
ペプチド17	<i>H-R-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド18	<i>H-lsn-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド19	<i>pE-R-P-R-L-C-H-F-G-P-Nle-C-フェネチルアミン</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド20	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-Aib-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド21	<i>pE-R-P-R-L-C-H-(4-NH-lsn)-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド22	<i>pE-R-P-C-L-C-C-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup> , C <sup>4</sup> -C <sup>7</sup>
ペプチド23	<i>pE-R-C-R-L-C-C-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup> , C <sup>3</sup> -C <sup>7</sup>
ペプチド24	<i>pE-r-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド25	<i>pE-F-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド26	<i>pE-E-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド27	<i>pE-R-p-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド28	<i>pE-R-K-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド29	<i>pE-R-D-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド30	<i>pE-R-P-F-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド31	<i>pE-R-P-R-K-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド32	<i>pE-R-P-R-L-C-H-E-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド33	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-D-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド34	<i>pE-R-P-E-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド35	<i>pE-R-P-R-(4-PhF)-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド36	<i>pE-R-P-R-D-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド37	<i>pE-R-P-R-L-C-E-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド38	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-L-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>

【0352】

## 【表6-3】

ペプチド39	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-R-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド40	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-(ピペコリン酸)-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド41	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-(3-PyA)-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド42	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-H-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド43	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-E-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド44	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド45	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-hC-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド46	<i>pE-R-P-R-L-hC-H-K-G-P-Nle-hC-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド47	<i>pE-R-P-R-L-c-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド48	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-(D-hC)-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド49	<i>pE-R-P-R-L-(D-hC)-H-K-G-P-Nle-(D-hC)-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド50	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-c-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド51	<i>pE-R-P-R-L-c-H-K-G-P-Nle-c-F-OH</i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド52	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-NH<sub>2</sub></i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド53	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-NH<sub>2</sub></i>	ジスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>
ペプチド54	<i>pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C-F-OH</i>	モノスルフィド C <sup>6</sup> -C <sup>12</sup>

10

20

30

40

## 【0353】

## 分析方法

## 1 a) HPLC - 分析方法 A

- カラム : ProntoSil 120-3-C18-H、3 μm を備えた Bischoff UH C-640 (53 × 4.0 mm)、部品番号 : 0604F185PS030

- 溶離液 A : 0.07% TFA 水溶液 / 溶離液 B : 0.1% TFA ACN 溶液

- 流量 : 1.5 ml / 分

- 温度 : 40

- 勾配 :

## 【0354】

## 【表7】

時間[分]	A [%]	B [%]
0.0	95	5
10.0	0	100
12.0	0	100
12.2	95	5

## 【0355】

## 1 b) UPLC - 分析方法 B

- カラム : Xbridge BEH300 C18 (100 × 4.6 mm)、3 μm  
、部品番号 : 186003612

- 溶離液 A : 0.1% TFA 水溶液 / 溶離液 B : 0.1% TFA ACN 溶液

- 流量 : 1.0 ml / 分

- 温度 : 40

- 勾配 :

## 【0356】

## 【表8】

時間[分]	A [%]	B [%]
0.0	98	2
18	2	98
20	2	98
22	98	2

## 【0357】

## 2) UPLC-MS - 分析方法 C

- Waters Acuity UPLC (登録商標) BEH C18、1.7 μ 10 m、2.1 × 50 mm、部品番号：186002350
- 溶離液A：0.1% FA水溶液、溶離液B：0.1% FA ACN溶液
- 流量：0.7 ml / 分
- 温度：40
- 勾配：

## 【0358】

## 【表9】

時間[分]	A [%]	B [%]
0.0	99	1
1.0	97	3
3.5	50	50
4.0	10	90
4.3	0	100
4.6	80	20

## 【0359】

ペプチド1～54の分析データは、表5にまとめて示すが、上述の分析方法を使用して生成したものである。

## 【0360】

## 3) 分析方法 D :

- XBridge C18カラム、3.5 μm、3.0 × 30 mm
- 溶離液：A：水(0.1% ギ酸)、B：CAN
- 流速：2 mL / 分
- 勾配：0分間40%のB、1.70分で40%～95%のB、2.0分間95%のB、2.1分間40%のB
- 質量分析計：Single Quadrupole ESI 走査範囲150～1600
- HPLC：Agilent 1100シリーズ
- 温度：40°C

## 【0361】

20

30

40

【表 10 - 1】

表 5: 半減期延長性部分とコンジュゲートされるペプチド

HPLC			質量分析				
ペプチド	t <sub>R</sub> [min]	方法 Meth.	[M+2H] <sup>2+</sup> (測定値) (measured)	[M+3H] <sup>3+</sup> (測定値)	方法	[M+2H] <sup>2+</sup> (計算値) (calc.)	[M+3H] <sup>3+</sup> (計算値)
1	4.16	A	766.3	511.2	C	766.4	511.3
2	4.18	A	773.5	515.8	C	773.4	516.0
3	4.14	A		506.6	C	759.4	506.6
4	4.15	A	752.4	501.9	C	752.4	501.9
5	3.70	A		484.5	C	726.4	484.6
6	3.84	A		484.5	C	726.4	484.6
7	3.85	A		553.6	C	829.9	553.6
8	3.43	A	768.1	512.4	C	768.4	512.6
9	3.77	A		495.2	C	742.4	495.3
10	3.74	A	742.5	495.1	C	742.4	495.3
11	3.61	A	742.9	495.2	C	742.4	495.3
12	3.62	A		497.8	C	746.4	497.9
13	3.49	A	768.3	512.5	C	768.4	512.6
14	4.14	A	808.5	539.2	C	808.4	539.3
15	3.99	A	773.4	515.8	C	773.4	515.9
16	3.36	A		475.5	C	712.9	475.6
17	3.28	A		527.5	C	790.9	527.6
18	3.36	A		512.5	C	768.4	512.6
19	4.38	A	756.0	504.2	C	755.9	504.3
20	3.17	A	782.6	522.0	C	782.4	521.9
21	3.45	A		512.0	C	767.4	511.9

【0 3 6 2】

10

20

30

【表10-2】

22	4.16	A	723.7		C	723.8	482.9
23	3.85	A	753.0	502.5	C	753.3	502.6
24	3.39	A		512.5	C	768.4	512.6
25	4.08	A	763.8	509.4	C	763.9	509.6
26	3.59	A	754.8	503.6	C	754.9	503.6
27	3.36	A		512.5	C	768.4	512.6
28	3.14	A		522.8	C	783.9	522.9
29	3.36	A		518.5	C	777.4	518.6
30	3.91	A	763.8	509.4	C	763.9	509.6
31	3.05	A		517.5	C	775.9	517.6
32	3.67	A	768.7	512.8	C	768.9	512.9
33	3.47	A		531.7	C	797.4	531.9
34	3.60	A	754.9	503.6	C	754.9	503.6
35	3.91	A		549.1	C	823.4	549.3
36	3.10	A	769.2	513.1	C	769.4	513.2
37	3.58	A	764.2	509.7	C	764.4	509.9
38	3.82	A		531.1	C	796.4	531.3
39	3.16	A		545.5	C	817.9	545.6
40	3.54	A		517.1	C	775.4	517.3
41	2.53	A		524.1	C	785.9	524.3
42	2.49	A		509.2	C	763.4	509.3
43	2.73	A	759.3	506.5	C	759.4	506.6
44	2.72	A	694.5		C	694.8	463.6
45	3.38	A		517.1	C	775.4	517.3
46	3.45	A		521.9	C	782.4	521.9
47	3.52	A	768.4	512.5	C	768.4	512.6
48	3.43	A	775.3	517.1	C	775.4	517.3
49	3.83	A	782.3	521.8	C	782.4	521.9
50	3.42	A	768.1	512.4	C	768.4	512.6
51	3.66	A	768.3	512.4	C	768.4	512.6
52	3.22	A		512.3	C	767.9	512.3
53	2.71	A	694.3	463.1	C	694.4	463.2

## 【0363】

## 一般合成手順

1) 最初のアミノ酸の2-クロロトリチルクロリド樹脂への導入およびFmoc除去

2-クロロトリチルクロリド樹脂(1当量、1.0~1.6mmol/g)をDCMで十分に洗浄した。所望のアミノ酸(通常、1.6mmol/gの導入を考えて、樹脂に対して0.5~2当量)を、DCM(樹脂1グラムあたり約10mL)およびDIPPEA(

10

20

30

40

50

1.6 mmol/g の導入を考えて、樹脂に対して 4 当量) に溶解させた。溶液を樹脂に加え、懸濁液を室温で 19 時間振盪した。樹脂を排出し、次いで、DCM/MeOH/DIPEA(17:2:1)、DCM、DMA、DCM で順次、十分に洗浄した。

#### 【0364】

Fmoc 除去および導入量の算定については、樹脂をピペリジン/DMA(1:4)または 4-メチルピペリジン/DMA(1:4)(最初の樹脂 1 グラムあたり  $12 \times 10 \text{ mL}$ )と共に繰り返し振盪し、DMA(最初の樹脂 1 グラムあたり  $2 \times 10 \text{ mL}$ )で洗浄した。合わせた溶液を MeOH で希釈して、体積 V を最初の樹脂 1 グラムあたり  $250 \text{ mL}$  とした。この溶液の  $2 \text{ mL}$  のアリコート( $V_a$ )を MeOH でさらに希釈して  $250 \text{ mL}$  ( $V_t$ )とした。UV 吸収を、MeOH を基準として  $299.8 \text{ nm}$  で測定して、吸収 A を得た。樹脂を、順次 DMA、DCM、DMA、DCM で十分に洗浄し、高真空中にて 40 度乾燥させて、m g の樹脂を得た。

10

#### 【0365】

樹脂への導入量は、式：

$$\text{導入量 [mol/g]} = (A \times V_t \times V) / (d \times \text{セルの幅} \times V_a \times m)$$

$$(d : \text{セルの幅}, = 7800 \text{ L mol}^{-1} \text{ cm}^{-1})$$

に従って算出した。

20

#### 【0366】

2) Prelude(商標)合成装置における固相ペプチド合成

##### 2a) 合成サイクル A

樹脂を DMA で洗浄した。4-メチルピペリジン/DMA(1:4)で繰り返し処理して、Fmoc を除去した。樹脂を DMA で洗浄した。Fmoc-アミノ酸(3 当量、0.2 M NMP 溶液)、HCTU(3 当量、0.3 M NMP 溶液)、および DIPEA(3.3 当量、0.66 M NMP 溶液)を加えた後、懸濁液を、窒素中にて、特定の要件に応じて通常は 15 分 ~ 4 時間、室温で混合することにより、カップリングを行った。DMA で洗浄した後、カップリングステップを、特定の要件に応じて通常は 1 ~ 3 回繰り返した。DMA で洗浄した後、Ac<sub>2</sub>O/ピリジン/DMA(1:1:8)の混合物を加え、引き続いて懸濁液を室温で混合することにより、キャッピングを行った。樹脂を DMA で洗浄した。

30

#### 【0367】

##### 2b) 合成サイクル B

樹脂を DMA で洗浄した。ピペリジン/DMA(1:4)で繰り返し処理して、Fmoc を除去した。樹脂を DMA で洗浄した。Fmoc-アミノ酸(3 当量、0.3 M NMP 溶液)、HCTU(3 当量、0.3 M NMP 溶液)、および DIPEA(4.5 当量、0.9 M NMP 溶液)を加えた後、懸濁液を、窒素中にて、特定の要件に応じて通常は 15 分 ~ 4 時間、室温で混合することにより、カップリングを行った。DMA で洗浄した後、カップリングステップを、特定の要件に応じて通常は 1 ~ 3 回繰り返した。DMA で洗浄した後、Ac<sub>2</sub>O/ピリジン/DMA(1:1:8)の混合物を加え、引き続いて懸濁液を室温で混合することにより、キャッピングを行った。樹脂を DMA で洗浄した。

40

#### 【0368】

##### 2c) 合成サイクル C

樹脂を DMA で洗浄した。ピペリジン/DMA(1:4)での繰り返し処理によって、Fmoc を除去した。樹脂を DMA で洗浄した。Fmoc-アミノ酸(3 当量、0.3 M NMP 溶液)、HCTU(3 当量、0.3 M NMP 溶液)、および DIPEA(6 当量、0.9 M NMP 溶液)を加えた後、懸濁液を、窒素中にて、特定の要件に応じて通常は 15 分 ~ 4 時間、室温で混合することにより、カップリングを行った。DMA で洗浄した後、カップリングステップを、特定の要件に応じて通常は 1 ~ 3 回繰り返した。DMA で洗浄した後、Ac<sub>2</sub>O/ピリジン/DMA(1:1:8)の混合物を加え、引き続いて懸濁液を室温で混合することにより、キャッピングを行った。樹脂を DMA で洗浄した。

50

## 【0369】

## 2 d ) 合成サイクル D

樹脂を DMA で洗浄した。4 - メチルピペリジン / DMA (1 : 4) で繰り返し処理して、Fmoc を除去した。樹脂を DMA で洗浄した。Fmoc - アミノ酸と Oxyma Pure (各 3 当量、両方とも 0.2 M NMP 溶液) の混合物、および DIC (3 当量、0.3 M NMP 溶液) を加えた後、懸濁液を、窒素中にて、特定の要件に応じて通常は 15 分 ~ 4 時間、室温で混合することにより、カップリングを行った。DMA で洗浄した後、Ac<sub>2</sub>O / ピペリジン / DMA (1 : 1 : 8) の混合物を加え、引き続いて懸濁液を室温で混合することにより、キャッピングを行った。樹脂を DMA で洗浄した。

10

## 【0370】

## 3 ) 保護基の除去を伴うまたは伴わない樹脂からの切断

## 3 a ) 切断方法 A

樹脂 (0.1 mmol) を、95 % の TFA / EDT / TIS (95 : 2.5 : 2.5) 水溶液 (3 mL) と共に室温で 2 時間振盪した。切断溶液を濾別し、新鮮な溶液を加えた (3 mL)。懸濁液を室温で 1 時間振盪し、次いで切断溶液を濾別した。新鮮な溶液を加え (3 mL)、懸濁液を室温で 1 時間振盪した。切断溶液を濾別した。合わせた切断溶液を、冷ヘプタン / ジエチルエーテル (1 : 1) の混合物 (35 mL) 上にゆっくりと注いで、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣を冷ヘプタン / ジエチルエーテル (1 : 1) (10 mL) で洗浄し、懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。固体を高真空中で乾燥させた。

20

## 【0371】

## 3 b ) 切断方法 B

樹脂 (0.1 mmol) を 95 % TFA / EDT (4 : 1) 水溶液 (0.75 mL) で処理し、懸濁液を室温で 1 時間振盪した。95 % TFA 水溶液 (2.18 mL) と TIS (75 μL) の混合物を加え、室温での振盪を 1 時間再開した。切断溶液を濾別し、次いで、樹脂に 95 % TFA / EDT / TIS (95 : 2.5 : 2.5) 水溶液 (3 mL) を加え、懸濁液を室温で 1 時間振盪した。切断溶液を濾別し、集め、新鮮な溶液を加えた (3 mL)。懸濁液を室温で 1 時間振盪し、次いで切断溶液を濾別した。合わせた切断溶液を、冷ヘプタン / ジエチルエーテル (1 : 1) (35 mL) 上に注いだ。こうして生成した沈殿を放置して沈降させ、遠心分離し、次いで上清を慎重に廃棄した。沈殿を冷ヘプタン / ジエチルエーテル (1 : 1) (10 mL) で 1 回洗浄し、懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣を高真空中で乾燥させた。

30

## 【0372】

## 3 c ) 切断方法 C

樹脂 (0.1 mmol) に HFIP / DCM (30 : 70) (5 mL) を加え、懸濁液を室温で 1.5 時間攪拌した。切断溶液を濾別し、集め、新鮮な HFIP / DCM (30 : 70) (5 mL) を加えた。懸濁液を室温で 30 分間攪拌した。切断溶液を濾別し、集めた。樹脂を DCM (2 × 5 mL) で洗浄し、これも集めた。合わせた切断および洗浄溶液を高真空中で濃縮乾燥した。残渣を tBuOH / H<sub>2</sub>O (1 : 1) から凍結乾燥した。

40

## 【0373】

## 4 ) 環化方法

## 4 a ) 環化方法 A (ジスルフィド生成)

完全に脱保護された線状前駆体ペプチドを、H<sub>2</sub>O / DMSO (9 : 1) または (4 : 1) に溶解させて、通常は 1 ~ 15 mg / mL の濃度とした。次いで、反応混合物を、要件に応じて通常は 40 時間、室温で攪拌し、次いで高真空中で濃縮乾燥した。

## 【0374】

## 4 b ) 環化方法 B (ジスルフィド生成)

完全に脱保護された線状前駆体ペプチド (1 当量) を H<sub>2</sub>O に溶解させて、通常は約 10 mg / mL の濃度とした。攪拌した溶液に、50 mM の I<sub>2</sub> / AcOH 溶液 (1.2 当

50

量)を一度に加え、反応液を室温で10分間攪拌した。0.5Mのアスコルビン酸H<sub>2</sub>O溶液(1.5当量)を加えて、過剰のI<sub>2</sub>を失活させた。溶液を真空中で濃縮して、ほぼ乾燥させた。

#### 【0375】

##### 4c) 環化方法C(2つのジスルフィドの選択的な生成)

部分的に保護された線状前駆体ペプチド(1当量)(2つのシステインがAcmで保護され、2つのシステインが保護されていない)をAcOH/H<sub>2</sub>O(4:1)に溶解させて、通常は1mg/mLの濃度とした。50mMのI<sub>2</sub>-AcOH溶液(2当量)を加え、反応混合物を室温で1時間攪拌した。別の50mMのI<sub>2</sub>-AcOH溶液(10当量)を4時間かけて少量ずつ加えた。21時間後、反応混合物を真空中で濃縮してほぼ乾燥させ、1Mのアスコルビン酸H<sub>2</sub>O溶液を過剰に加えて、未反応のI<sub>2</sub>を失活させた。

#### 【0376】

##### 4d) 環化方法D(側鎖間のラクタム生成)

完全に脱保護された線状前駆体ペプチド(1当量)およびHATU(1.5当量)を、NMPに溶解させた(ペプチド濃度:通常は1mmol/L)。DIPEA(3当量)を加え、溶液を室温で90分間攪拌した。反応混合物を真空中で濃縮乾燥した。

#### 【0377】

##### 4e) 環化方法E(側鎖とC末端間のラクタム生成)

ペプチド(1当量)、HATU(1.3当量)、およびHOAt(1.3当量)をDMFに溶かした溶液(ペプチド濃度:2.6mmol/L)を、2,6-ルチジン(20当量)で処理し、反応液を室温で2時間攪拌した。反応混合物を真空中で濃縮乾燥した。

#### 【0378】

以下では、代表的な実施例の合成について記載する。

#### 【0379】

ペプチド1 pE-R-P-R-L-K(Boc)-H(Trt)-F-G-P-Nle-D(tBu)-N(フェネチル)アミン(ラクタムK<sup>6</sup>-D<sup>12</sup>)の合成

#### 【0380】

#### 【化41】

H-N(フェネチル)-POL

30

SPPS

pE-R(Pbf)-P-R(Pbf)-L-K(Boc)-H(Trt)-F-G-P-Nle-D(tBu)-N(フェネチル)-POL (1a)

1. 切断／PG除去  
2. 精製

pE-R-P-R-L-K-H-F-G-P-Nle-D-NH(フェネチル) (1b)

40

1. 環化  
2. 精製

pE-R-P-R-L-K-H-F-G-P-Nle-D-NH(フェネチル)

ペプチド1

#### 【0381】

- 中間体1aの調製

(線状ペプチドの組み立て)

50

フェネチルアミン - B A L - P S 樹脂 ( 1 6 7 m g 、 0 . 1 0 0 m m o l ) を、 P r e l u d e ( 商標 ) ペプチド合成装置での固相ペプチド合成にかけた。カップリングを以下のとおりに実施した。

【 0 3 8 2 】

【表 1 1 】

カップリング	AA	カップリングの数×反応時間	合成サイクル
1	D(tBu)	2×4時間	C
2	Nle	1×3時間	C
3	P	2×45分	C
4	G	2×90分	C
5	F	1×3時間	C
6	H(Trt)	2×45分	C
7	K(Boc)	2×4時間	C
8	L	4×1時間	C
9	R(Pbf)	4×1時間	C
10	P	2×90分	C
11	R(Pbf)	4×1時間	C
12	pE	2×90分	C

10

20

30

40

【 0 3 8 3 】

- 中間体 1 b の調製

(保護基の除去を伴う樹脂からの切断、次いで精製)

中間体 1 a ( 0 . 1 m m o l ) に、 9 5 % T F A / E D T / T I S ( 9 5 : 2 . 5 : 2 . 5 ) 水溶液の混合物 ( 2 m L ) を加え、懸濁液を室温で 2 . 5 時間振盪した。切断溶液を濾別し、新鮮な切断溶液 ( 2 m L ) を加えた。懸濁液を室温で 4 5 分間振盪し、次いで切断溶液を濾別した。新鮮な溶液 ( 2 m L ) を加え、懸濁液を室温で 4 5 分間振盪した。切断溶液を濾別し、樹脂を 9 5 % T F A 水溶液 ( 1 m L ) で洗浄した。合わせた切断溶液を、冷ヘプタン / ジエチルエーテル ( 1 : 1 ) の混合物 ( 3 5 m L ) 上へ注ぎ、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣を冷ヘプタン / ジエチルエーテル ( 1 : 1 ) ( 2 0 m L ) で洗浄し、懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。固体を高真空中で乾燥させた。粗生成物を分取 H P L C によって精製し、A C N / H <sub>2</sub> O から凍結乾燥して、中間体 1 b を、質の異なる 2 つのバッチ：バッチ A ( 3 5 . 9 m g ( 純度 9 8 % ) 、 0 . 0 1 8 m m o l ) およびバッチ B ( 5 2 . 9 m g ( 純度 8 0 % ) 、 0 . 0 2 1 m m o l ) で、白色の固体として得た。

【 0 3 8 4 】

- ペプチド 1 の調製

(環化および精製)

前のステップからの両方のバッチを、同じプロトコールに従って別々に処理した。

バッチ A : ペプチド ( 3 5 . 9 m g ( 純度 9 8 % ) 、 0 . 0 1 8 m m o l ) および H A T U ( 1 0 . 0 m g 、 0 . 0 2 6 m m o l ) を N M P ( 1 8 m L ) および D I P E A ( 9 . 2 μ L 、 0 . 0 5 3 m m o l ) に溶かした溶液を、室温で 2 時間攪拌した。

バッチ B : ペプチド ( 5 2 . 9 m g ( 純度 8 0 % ) 、 0 . 0 2 1 m m o l ) および H A T U ( 1 0 . 0 m g 、 0 . 0 2 6 m m o l ) を N M P ( 1 8 m L ) および D I P E A ( 9 . 2 μ L 、 0 . 0 5 3 m m o l ) に溶かした溶液を、室温で 2 時間攪拌した。

バッチ A : ペプチド ( 3 5 . 9 m g ( 純度 9 8 % ) 、 0 . 0 1 8 m m o l ) および H A T U ( 1 0 . 0 m g 、 0 . 0 2 6 m m o l ) を N M P ( 1 8 m L ) および D I P E A ( 9 . 2 μ L 、 0 . 0 5 3 m m o l ) に溶かした溶液を、室温で 2 時間攪拌した。

バッチ B : ペプチド ( 5 2 . 9 m g ( 純度 8 0 % ) 、 0 . 0 2 1 m m o l ) および H A T U ( 1 0 . 0 m g 、 0 . 0 2 6 m m o l ) を N M P ( 1 8 m L ) および D I P E A ( 9 . 2 μ L 、 0 . 0 5 3 m m o l ) に溶かした溶液を、室温で 2 時間攪拌した。

50

U (14.5 mg、0.038 mmol) を NMP (26 mL) および DIPSEA (13.0 μL、0.076 mmol) に溶かした溶液を、室温で2時間攪拌した。

【0385】

バッヂそれを、真空中で濃縮乾燥した。生成物を分取HPLCによって単離した。両方の精製の純粋な画分を合わせ、ACN/H<sub>2</sub>Oから凍結乾燥して、ペプチド1を白色の固体(52.0 mg、0.025 mmol)として得た。

【0386】

純粋な生成物を、分析HPLC(分析方法A: t<sub>R</sub> = 4.16分)およびUPLC-MS(分析方法C、測定値: [M + 3]<sup>3+</sup> = 511.2、計算値: [M + 3]<sup>3+</sup> = 511.3)によって分析した。

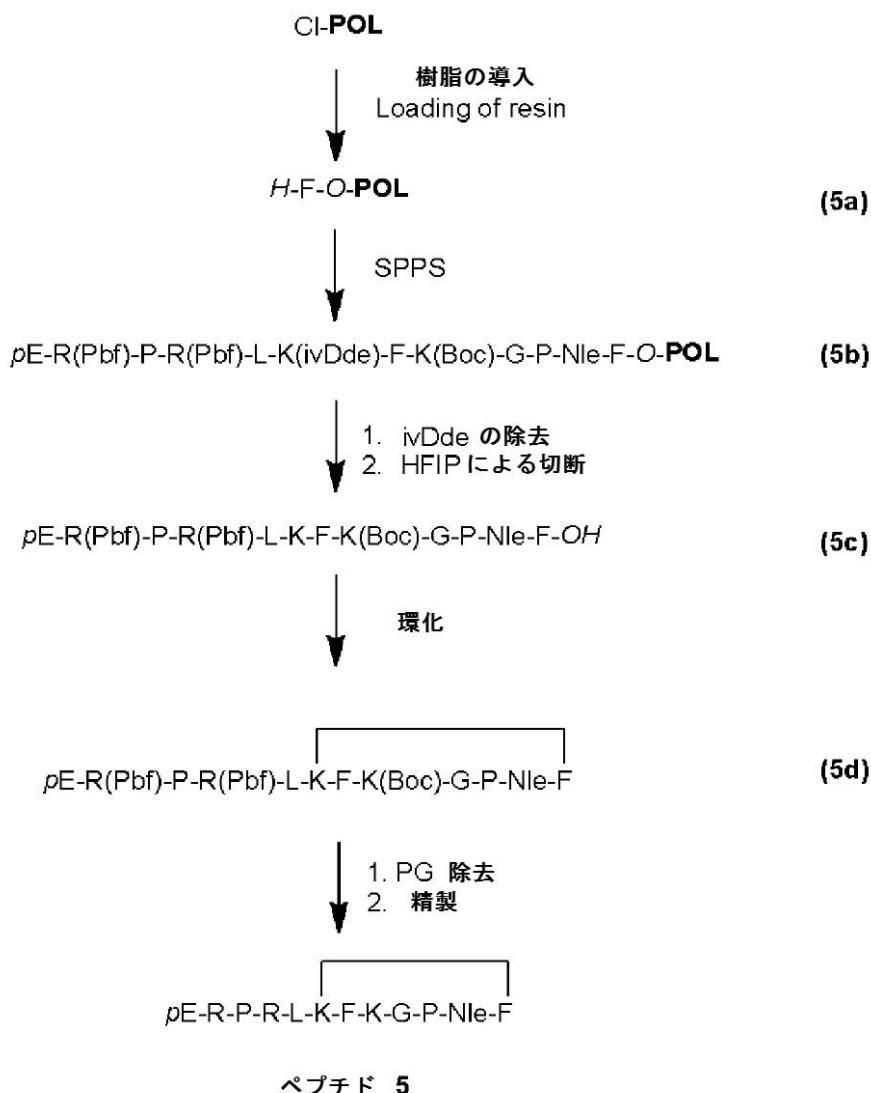
10

【0387】

ペプチド5 合成 pE-R-P-R-L-K-F-K-G-P-Nle-F(ラクタムK<sup>6</sup>-C末端)

【0388】

【化42】



【0389】

- 中間体5aの調製

(2-クロロトリチルクロリド樹脂へのFmoc-F-OHの導入、Fmoc除去、および樹脂への導入量の算定)

2-クロロトリチルクロリド樹脂(10.0 g、16.0 mmol)を、上述の一般手順と同様に、Fmoc-F-OH(6.24 g、32.0 mmol)をDCM(100 m

50

L) および D I P E A ( 1 1 . 2 mL、 6 4 . 0 mmol ) に溶かした溶液と反応させて、中間体 5 a ( 1 2 . 8 g、導入量 = 0 . 7 9 mmol / g ) を得た。

### 【0390】

#### - 中間体 5 b の調製

(線状ペプチドの組み立て)

中間体 5 a ( 0 . 1 0 0 mmol ) を Prelude (商標) ペプチド合成装置での固相ペプチド合成にかけた。カップリングを以下のとおりに実施した。

### 【0391】

#### 【表12】

カップリング	AA	カップリングの数×反応時間	合成サイクル
2	Nle	2×90分	B
3	P	2×30分	B
4	G	2×90分	B
5	K(ivDde)	2×30分	B
6	F	2×30分	B
7	K(Boc)	4×1時間	B
8	L	2×30分	B
9	R(Pbf)	4×1時間	B
10	P	2×90分	B
11	R(Pbf)	4×1時間	B
12	pE	2×90分	B

10

20

30

### 【0392】

#### - 中間体 5 c の調製

(ivDde の除去および樹脂からの切断)

中間体 5 b ( 0 . 1 0 0 mmol ) を、ヒドラジン一水和物 ( 0 . 0 8 1 mL、 1 . 6 7 mmol ) の DMA ( 4 mL ) 溶液で 1 0 分間、 6 回処理した。次いで、樹脂を、ヒドラジン一水和物 ( 0 . 0 8 1 mL、 1 . 6 7 mmol ) の THF ( 4 mL ) 溶液で 2 0 分間、 3 回処理した。樹脂を DCM ( 3 回 ) で洗浄した。樹脂 ( 0 . 1 0 0 mmol ) に H F I P / D C M ( 3 0 : 7 0 ) ( 5 mL ) を加え、懸濁液を室温で 1 . 5 時間攪拌した。切断溶液を濾別し、新鮮な H F I P / D C M ( 3 0 : 7 0 ) ( 5 mL ) を加えた。懸濁液を室温で 3 0 分間攪拌した。切断溶液を濾別した。樹脂を D C M ( 2 × 5 mL ) で洗浄した。合わせた切断および洗浄溶液を真空中で濃縮乾燥した。残渣を t B u O H / H <sub>2</sub> O ( 1 : 1 ) から凍結乾燥して、中間体 5 c ( 1 8 7 mg、 0 . 0 9 0 mmol ) を得た。

### 【0393】

#### - ペプチド 5 の調製

(環化および保護基の除去)

中間体 5 c ( 1 8 7 mg、 0 . 0 9 0 mmol ) 、 H A T U ( 4 4 . 6 mg、 0 . 1 1 7 mmol ) 、 および H O A t ( 1 6 . 0 mg、 0 . 1 1 7 mmol ) を D M F ( 3 5 mL ) に溶かした溶液を、 2 , 6 - ルチジン ( 0 . 2 1 0 mL、 1 . 8 0 mmol ) で処理し、反応液を室温で 2 時間攪拌した。反応混合物を真空中で濃縮乾燥した。残渣の中間体 5 d を 9 5 % T F A / E D T / T I S ( 9 5 : 2 . 5 : 2 . 5 ) 水溶液 ( 5 mL ) に溶解

40

50

させ、溶液を室温で2.5時間攪拌した。切断溶液を冷ヘプタン／ジエチルエーテル(1:1)(30mL)上に注いで、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣を冷ヘプタン／ジエチルエーテル(1:1)(10mL)で洗浄し、懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。洗浄ステップを1回繰り返した。残渣を高真空中で乾燥させた。生成物を分取HPLCによって単離し、ACN/H<sub>2</sub>Oから凍結乾燥して、ペプチド5を白色の固体(41.4mg、0.023mmol)として得た。

## 【0394】

純粋な生成物を、分析HPLC(分析方法A:t<sub>R</sub>=3.70分)およびUPLC-MS(分析方法C、測定値:[M+3]<sup>3+</sup>=484.5、計算値:[M+3]<sup>3+</sup>=484.6)によって分析した。

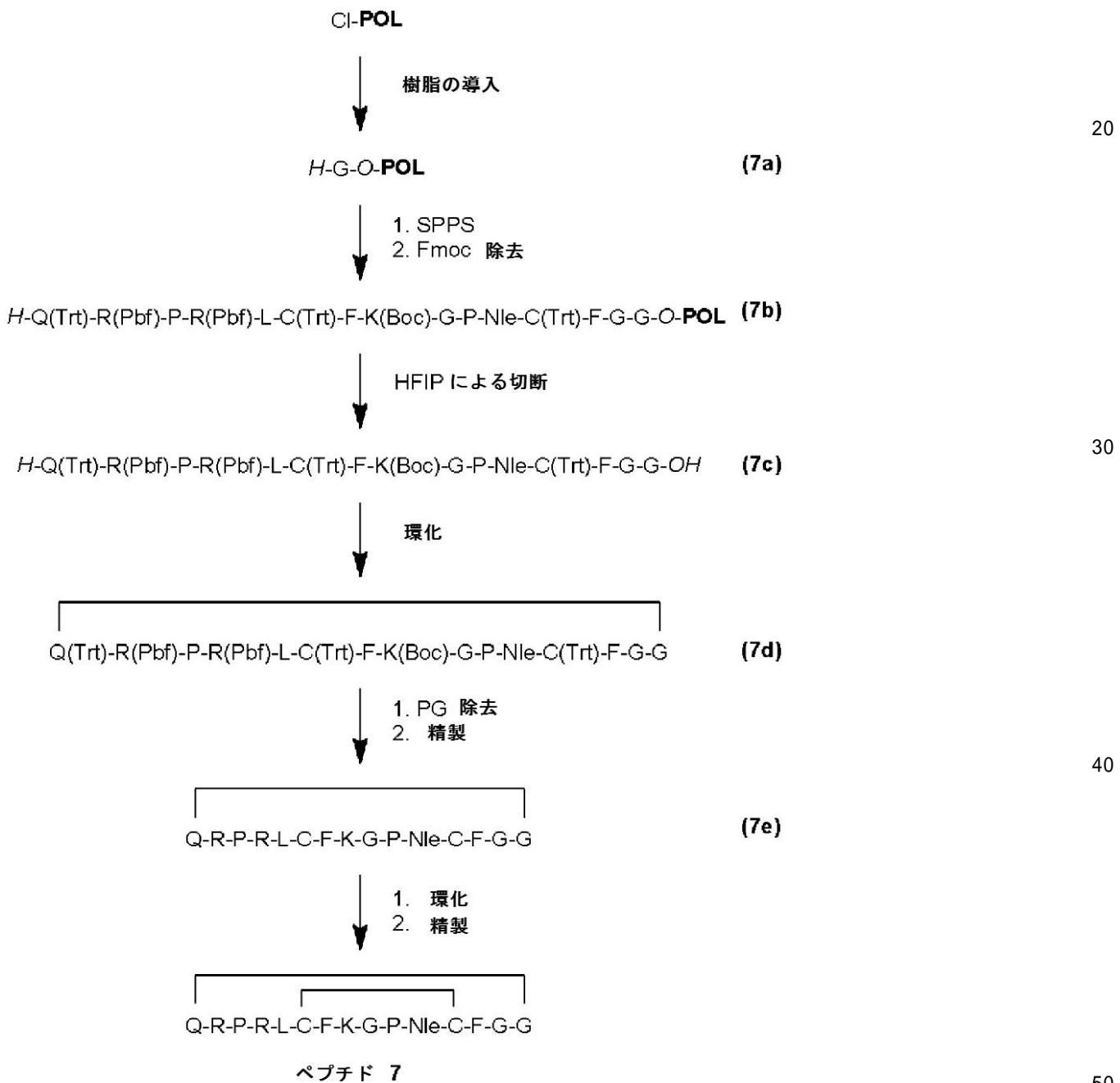
10

## 【0395】

ペプチド7 合成 Q-R-P-R-L-C-F-K-G-P-Nle-C-F-G-G  
(ラクタムN末端-C末端)

## 【0396】

## 【化43】



## 【0397】

## - 中間体7aの調製

(2-クロロトリチルクロリド樹脂へのFmoc-Gly-OHの導入、Fmoc除去、および樹脂の導入量の算定)

2-クロロトリチルクロリド樹脂(2.00g、3.20mmol)を、Fmoc-Gly-OH(0.476g、1.60mmol)をDCM(20mL)およびDIPA(2.24mL、12.8mmol)に溶かした溶液と、上述の一般手順と同様に反応させて、中間体7a(2.22g、導入量=0.68mmol/g)を得た。

## 【0398】

## - 中間体7bの調製

(線状ペプチドの組み立ておよびFmoc除去)

中間体7a(147mg、0.100mmol)をPrelude(商標)ペプチド合成装置での固相ペプチド合成にかけた。カップリングを以下のとおりに実施した。

## 【0399】

## 【表13】

カップリング	AA	カップリングの数×反応時間	合成サイクル
1	G	2×30分	B
2	F	2×30分	B
3	C(Trt)	2×30分	B
4	Nle	2×90分	B
5	P	2×30分	B
6	G	2×90分	B
7	K(Boc)	2×30分	B
8	F	2×30分	B
9	C(Trt)	2×30分	B
10	L	2×30分	B
11	R(Pbf)	4×1時間	B
12	P	2×90分	B
13	R(Pbf)	4×1時間	B
14	Q(Trt)	2×90分	B

## 【0400】

ペプチドを組み立てた後、ピペリジン/DMA(1:4)で繰り返し処理して、Fmocを除去した。樹脂をDMAで洗浄して、中間体7b(0.100mmol)を得た。

## 【0401】

## - 中間体7cの調製

(樹脂からのHFIP切断)

中間体7b(0.100mmol)にHFIP/DCM(30:70)(3mL)を加え、懸濁液を室温で1.5時間振盪した。切断溶液を濾別し、新鮮なHFIP/DCM(30:70)(3mL)を加えた。懸濁液を室温で30分間振盪した。切断溶液を濾別した。樹脂をDCM(2×3mL)で洗浄した。合わせた切断および洗浄溶液を真空中で濃

10

20

30

40

50

縮乾燥した。残渣を tBuOH / H<sub>2</sub>O (1 : 1) から凍結乾燥して、中間体 7c (203 mg, 0.067 mmol) を得た。

#### 【0402】

##### - 中間体 7d の調製

###### (主鎖の環化)

中間体 7c (203 mg, 0.067 mmol)、HATU (33.3 mg, 0.088 mmol)、および HOAt (11.9 mg, 0.088 mmol) を DMF (40 mL) に溶かした溶液を、2,6-ルチジン (0.157 mL, 1.35 mmol) で処理し、反応液を室温で 2 時間攪拌した。反応混合物を真空中で濃縮乾燥して、中間体 7d (0.067 mmol) を得た。10

#### 【0403】

##### - 中間体 7e の調製

###### (保護基の除去、次いで精製)

中間体 7d (0.067 mmol) に 95% TFA / EDT / TIS (95 : 2.5 : 2.5) 水溶液の混合物 (3 mL) を加え、懸濁液を室温で 2.5 時間振盪した。溶液を冷ヘプタン / ジエチルエーテル (1 : 1) の混合物 (30 mL) 上に注いで、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣を冷ヘプタン / ジエチルエーテル (1 : 1) (10 mL) で洗浄し、懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。洗浄ステップを 1 回繰り返した。固体を高真空中で乾燥させた。粗生成物を分取 HPLC によって精製し、ACN / H<sub>2</sub>O から凍結乾燥して、中間体 7e を白色の固体 (33.6 mg, 0.017 mmol) として得た。20

#### 【0404】

##### - ペプチド 7 の調製

###### (環化および精製)

中間体 7e (33.6 mg, 0.017 mmol) を H<sub>2</sub>O / DMSO (9 : 1) (30 mL) に溶解させた。反応混合物を室温で 40 時間攪拌し、次いで真空中で濃縮乾燥した。粗生成物を分取 HPLC によって精製し、ACN / H<sub>2</sub>O から凍結乾燥して、ペプチド 7 を白色の固体 (21.0 mg, 0.010 mmol) として得た。

#### 【0405】

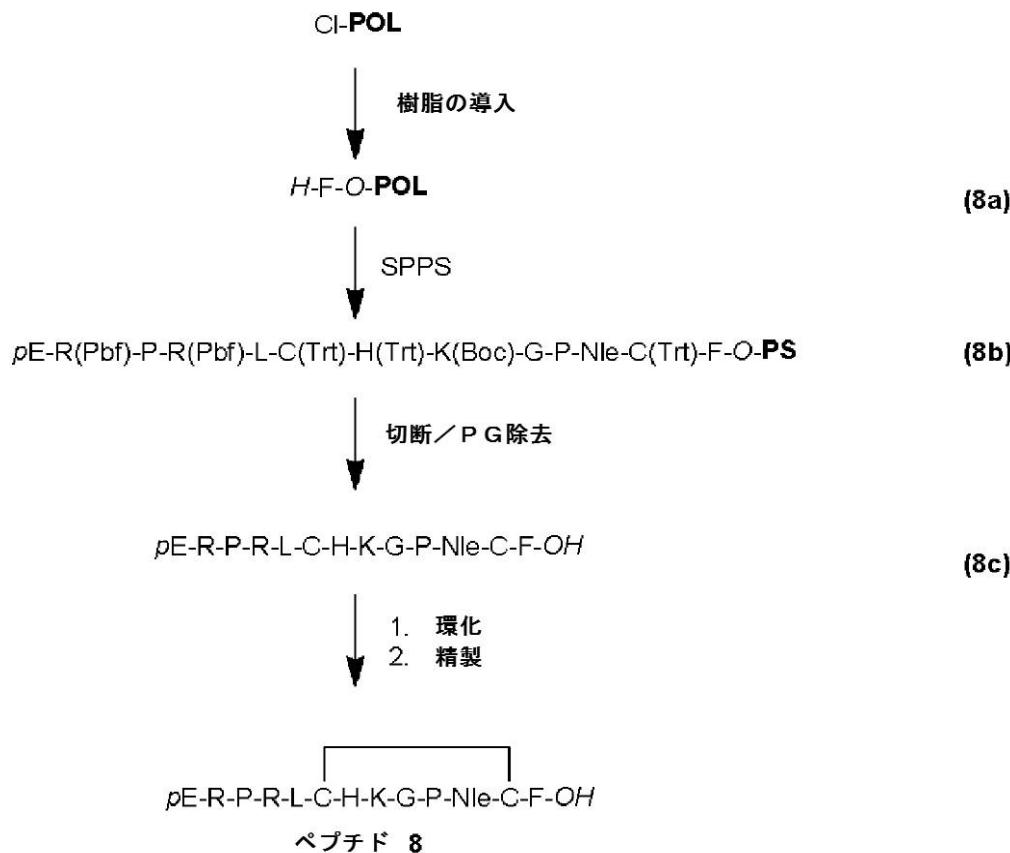
純粋な生成物を、分析 HPLC (分析方法 A : t<sub>R</sub> = 3.85 分) および UPLC - MS (分析方法 C、測定値 : [M + 3]<sup>3+</sup> = 553.6、計算値 : [M + 3]<sup>3+</sup> = 553.6) によって分析した。30

#### 【0406】

ペプチド 8 pE - R - P - R - L - C - H - K - G - P - Nle - C - F - OH (ジスルフィド C<sup>6</sup> - C<sup>12</sup>) の合成

#### 【0407】

## 【化44】



## 【0408】

## - 中間体 8a の調製

(2 - クロロトリチルクロリド樹脂への Fmoc - F - OH の導入、Fmoc 除去、および樹脂への導入量の算定)

2 - クロロトリチルクロリド樹脂 (40.0 g, 64.0 mmol) を DCM (3回) で洗浄した。Fmoc - F - OH (24.8 g, 64.0 mmol) を DCM (400 mL) および DIPPEA (44.7 mL, 256 mmol) に溶かした溶液を加え、懸濁液を室温で 22 時間振盪した。樹脂を DCM / MeOH / DIPPEA (17 : 2 : 1) (3回)、DCM (3回)、DMA (3回)、DCM (3回) で十分に洗浄した。

30

## 【0409】

次いで、樹脂をピペリジン / DMA (1 : 4) の混合物 (400 mL) で 10 分間、4 回処理した後、DMA (2 × 180 mL) で洗浄した。ピペリジン / DMA 溶液および DMA 洗浄溶液を集めて、樹脂への導入量を算定した。合わせた溶液 1 mL を MeOH で 500 mL に希釈し、299.8 nm での UV 吸収を測定して、 $A = 0.368$  とした。これは、46.2 mmol の Fmoc 量に相当する。

40

## 【0410】

樹脂を DCM (3回)、DMA (3回)、DCM (3回) で十分に洗浄し、真空中で乾燥させて、中間体 8a (50.7 g、導入量 = 0.91 mmol / g) を得た。

## 【0411】

## - 中間体 8b の調製

(線状ペプチドの組み立て)

中間体 8a (2.64 mg, 2.40 mmol) を Prelude (商標) ペプチド合成装置での固相ペプチド合成にかけた。カップリングを以下のとおりに実施した。

## 【0412】

【表14】

カップリング	AA	カップリングの数×反応時間	合成サイクル
1	C(Trt)	2×30分	D
2	Nle	2×15分	A
3	P	2×15分	A
4	G	2×30分	A
5	K(Boc)	2×15分	A
6	H(Trt)	2×15分	A
7	C(Trt)	2×60分	D
8	L	2×15分	A
9	R(Pbf)	4×1時間	A
10	P	2×15分	A
11	R(Pbf)	4×1時間	A
12	pE	2×15分	A

10

20

30

## 【0413】

## - 中間体8cの調製

(保護基の除去を伴う樹脂からの切断)

中間体8b(2.40mmol)をDCM(4回)で慎重に洗浄した。95%TFA/EDT/TIS(95:2.5:2.5)水溶液の混合物(50mL)を加え、懸濁液を室温で1時間振盪した。切断溶液を濾別し、新鮮な切断溶液(35mL)を加えた。懸濁液を室温で1時間振盪し、次いで切断溶液を濾別した。新鮮な溶液(35mL)を加え、懸濁液を室温で1時間振盪した。切断溶液を濾別した。合わせた切断溶液を、冷ヘプタン/ジエチルエーテル(1:1)の攪拌した混合物(500mL)上にゆっくりと注いで、沈殿を得た。懸濁液を室温で2時間攪拌し、次いで沈殿を沈降させた。上清をガラス器具(frit)で吸い出した。残渣を冷ヘプタン/ジエチルエーテル(1:1)(2×100mL)で洗浄し、上清をガラス器具で吸い出した。固体を高真空中で乾燥させて、中間体8cをオフホワイト色の固体(3.75g、1.88mmol)として得た。

## 【0414】

## - ペプチド8の調製

(環化および精製)

中間体8c(3.75g、1.88mmol)をH<sub>2</sub>O(375mL)に溶解させた。攪拌した溶液に、50mMのI<sub>2</sub>-AcOH溶液(45.1mL、2.26mmol)を一度に加え、溶液を室温で10分間攪拌した。0.5Mのアスコルビン酸H<sub>2</sub>O溶液(5.64mL、2.82mmol)を加えて、過剰のI<sub>2</sub>を失活させた。溶液を濃縮してほぼ乾燥させた。反応は、0.188mmolスケールと1.69mmolスケールの2部で実施した。精製に向けて粗生成物を合わせた。粗生成物を分取HPLCによって精製し、ACN/H<sub>2</sub>Oから凍結乾燥して、ペプチド8を白色の固体(1.53g、0.767mmol)として得た。

## 【0415】

純粋な生成物を、分析HPLC(分析方法A:t<sub>R</sub>=3.43分)およびUPLC-M(S(分析方法C、測定値:[M+3]<sup>3+</sup>=512.4、計算値:[M+3]<sup>3+</sup>=51

40

50

2.6) によって分析した。

【0416】

代わりに、粗製ペプチド8を水に溶解させ(水500mL/ポリペプチドmmol)、イオン交換樹脂(すなわち、Amberlite IRA-67(Acetate-Form)(200g/ポリペプチドmmol)を活用して酢酸塩に変換し、分取HPLC(DaisogelのC8改良逆相シリカゲル、勾配:ACN/H<sub>2</sub>O:3%のACNおよび97%の[0.3%酢酸/水混合物]から12%のACNおよび88%の[0.3%酢酸/水混合物])によって精製し、凍結乾燥して、ペプチド8の酢酸塩を白色の固体(収率60~100%)として得た。

【0417】

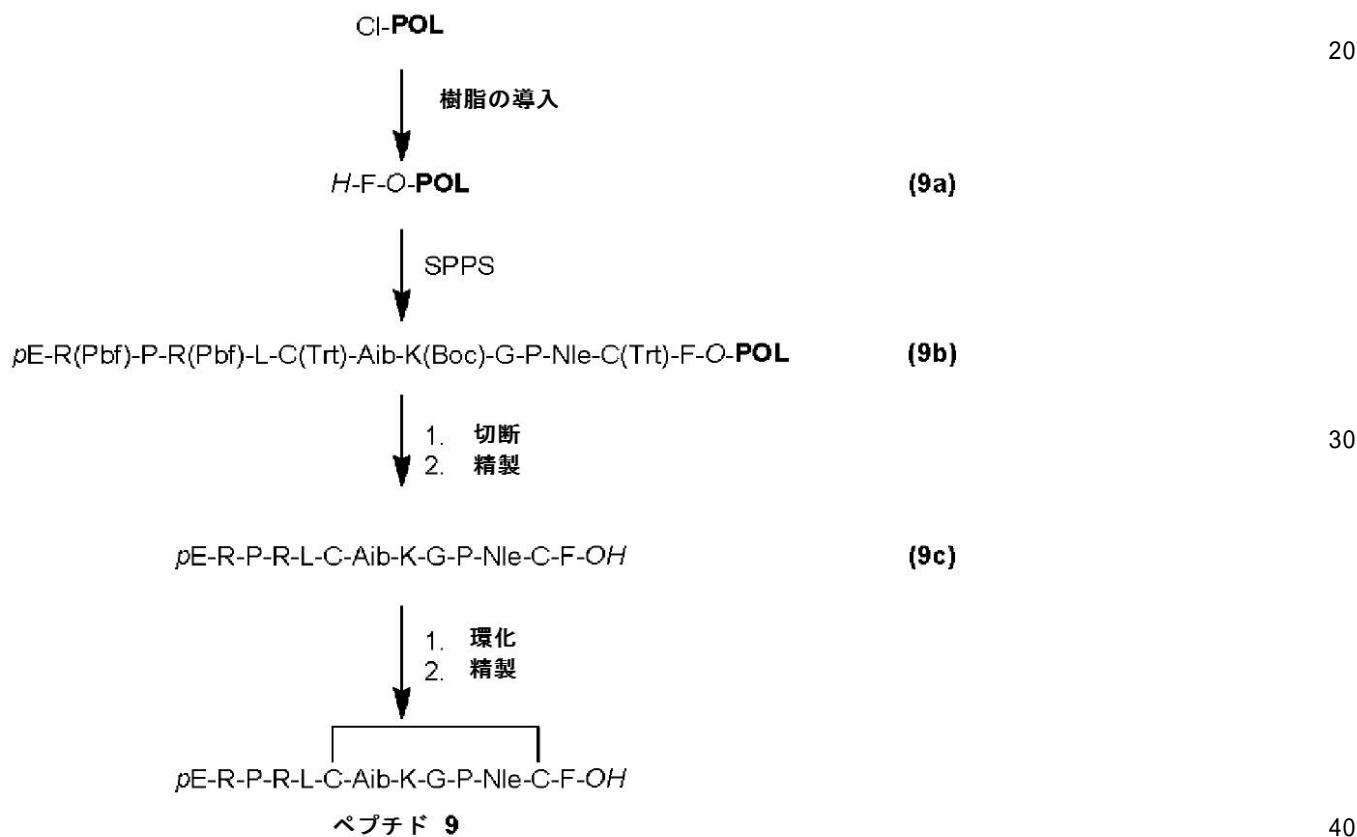
塩の化学量論性を、酢酸含有量(イオンクロマトグラフィー)および含水量の分析に基づき評価し、1:3~1:4(ポリペプチド:酢酸塩)の間の範囲になることが明らかになった。

【0418】

ペプチド9 pE-R-P-R-L-C-Aib-K-G-P-Nle-C-F-OH(ジスルフィドC<sup>6</sup>-C<sup>12</sup>)の合成

【0419】

【化45】



【0420】

- 中間体9aの調製

(2-クロロトリチルクロリド樹脂へのFmoc-F-OHの導入、Fmoc除去、および樹脂への導入量の算定)

2-クロロトリチルクロリド樹脂(10.0g、16.0mmol)を、上述の一般手順と同様に、Fmoc-F-OH(6.20g、16.0mmol)をDCM(100mL)およびDIPPEA(11.2mL、64.0mmol)に溶かした溶液と反応させて、中間体9a(11.6g、導入量=0.87mmol/g)を得た。

【0421】

10

20

30

40

50

- 中間体 9 b の調製  
(線状ペプチドの組み立て)

中間体 9 a (345 mg、0.300 mmol) を Prelude (商標) ペプチド合成装置での固相ペプチド合成にかけた。カップリングを以下のとおりに実施した。

## 【0422】

## 【表15】

カップリング	AA	カップリングの数×反応時間	合成サイクル
1	C(Trt)	2×15分	B
2	Nle	2×15分	B
3	P	2×15分	B
4	G	2×30分	B
5	K(Boc)	2×15分	B
6	Aib	2×15分	B
7	C(Trt)	2×15分	B
8	L	2×15分	B
9	R(Pbf)	4×1時間	B
10	P	2×15分	B
11	R(Pbf)	4×1時間	B
12	pE	2×15分	B

10

20

30

40

50

## 【0423】

## - 中間体 9 c の調製

(保護基の除去を伴う樹脂からの切断、次いで精製)

中間体 9 b (0.300 mmol) に、95% の TFA / EDT / TIS (95 : 2.5 : 2.5) 水溶液の混合物 (9 mL) を加え、懸濁液を室温で 2 時間振盪した。切断溶液を濾別し、新鮮な切断溶液 (4 mL) を加えた。懸濁液を室温で 1 時間振盪し、次いで切断溶液を濾別した。新鮮な溶液 (4 mL) を加え、懸濁液を室温で 1 時間振盪した。切断溶液を濾別した。合わせた切断溶液を、冷ヘプタン / ジエチルエーテル (1 : 1) の混合物 (100 mL) 中に注いで、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した、残渣を冷ヘプタン / ジエチルエーテル (1 : 1) (40 mL) で洗浄し、懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。固体を高真空中で乾燥させた。

## 【0424】

粗生成物を分取 HPLC によって精製し、ACN / H<sub>2</sub>O から凍結乾燥して、中間体 9 c を白色の固体 (188 mg、0.103 mmol) として得た。

## 【0425】

## - ペプチド 9 の調製

(環化および精製)

中間体 9 c (188 mg、0.103 mmol) を H<sub>2</sub>O / DMSO (9 : 1) (180 mL) に溶解させた。反応混合物を室温で 40 時間攪拌し、次いで真空中で濃縮乾燥した。粗生成物を分取 HPLC によって精製し、ACN / H<sub>2</sub>O から凍結乾燥して、ペプチド 9 を白色の固体 (97 mg、0.053 mmol) として得た。

## 【0426】

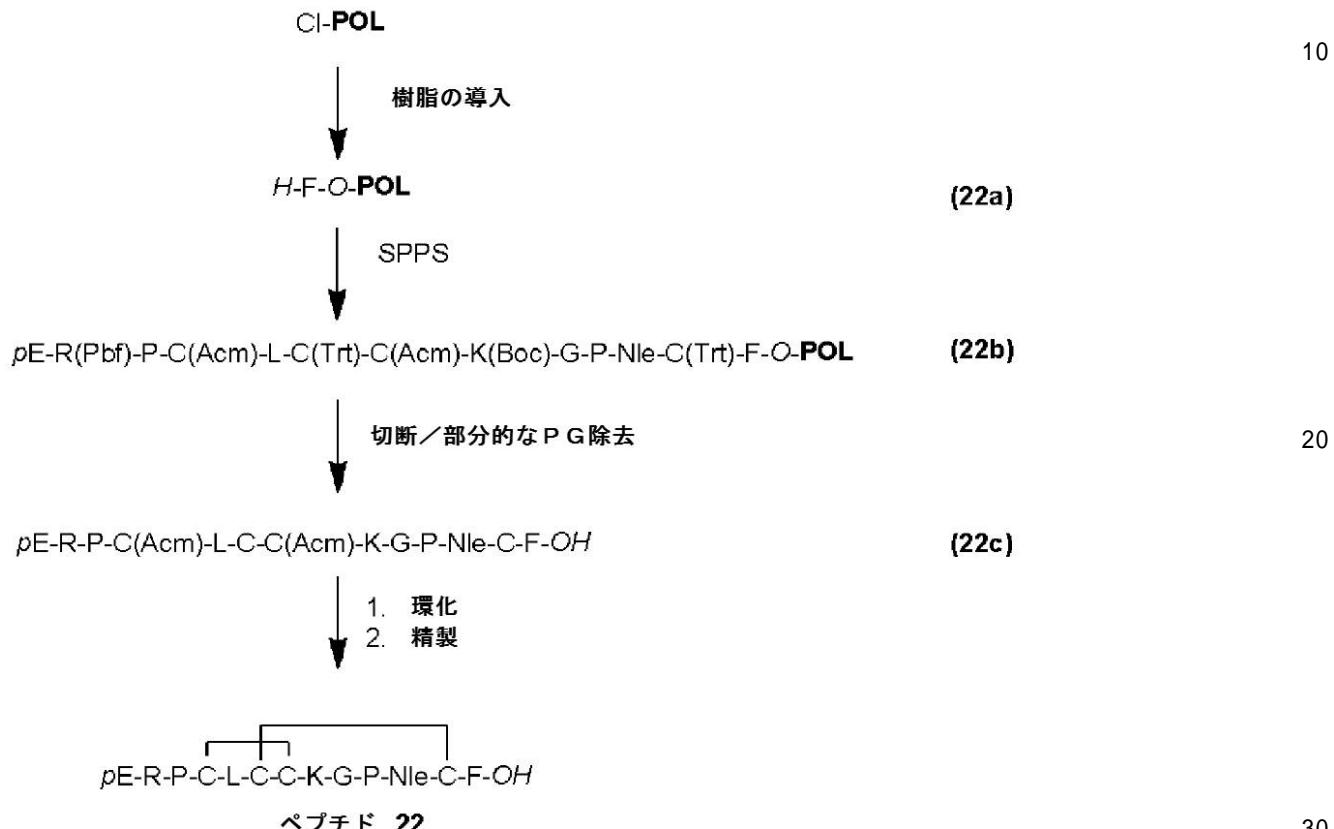
純粋な生成物を、分析 H P L C ( 分析方法 A :  $t_R = 3.77$  分 ) および U P L C - M S ( 分析方法 C 、測定値 :  $[M + 3]^{3+} = 495.2$  、計算値 :  $[M + 3]^{3+} = 495.3$  ) によって分析した。

【 0 4 2 7 】

ペプチド 22 合成  $pE-R-P-C-L-C-C-K-G-P-Nle-C-F-OH$  (ジスルフィド C<sup>4</sup>-C<sup>7</sup> および C<sup>6</sup>-C<sup>12</sup> )

【 0 4 2 8 】

【 化 4 6 】



【 0 4 2 9 】

- 中間体 22 a の調製

( 2 - クロロトリチルクロリド樹脂への Fmoc - F - OH の導入、Fmoc 除去、および樹脂への導入量の算定 )

2 - クロロトリチルクロリド樹脂 ( 10.0 g 、 16.0 mmol ) を、上述の一般手順と同様に、Fmoc - F - OH ( 6.20 g 、 16.0 mmol ) を DCM ( 100 mL ) および D I P E A ( 11.2 mL 、 64.0 mmol ) に溶かした溶液と反応させて、中間体 22 a ( 11.6 g 、導入量 = 0.87 mmol / g ) を得た。

【 0 4 3 0 】

- 中間体 22 b の調製

( 線状ペプチドの組み立て )

中間体 22 a ( 115 mg 、 0.100 mmol ) を Prelude ( 商標 ) ペプチド合成装置での固相ペプチド合成にかけた。カップリングを以下のとおりに実施した。

【 0 4 3 1 】

40

【表16】

カップリング	AA	カップリングの数×反応時間	合成サイクル
1	C(Trt)	2×15分	B
2	Nle	2×15分	B
3	P	2×15分	B
4	G	2×90分	B
5	K(Boc)	2×15分	B
6	C(Acm)	2×15分	B
7	C(Trt)	2×15分	B
8	L	2×15分	B
9	C(Acm)	2×15分	B
10	P	2×15分	B
11	R(Pbf)	4×1時間	B
12	pE	2×15分	B

10

20

30

40

## 【0432】

## - 中間体22cの調製

(部分的な保護基の除去を伴う樹脂からの切断)

中間体22b(0.100mmol)をDCM(4回)で慎重に洗浄した。95%TFA/E DT(4:1)水溶液の混合物(0.750mL)を加え、懸濁液を室温で1時間振盪した。懸濁液にTFA/H<sub>2</sub>O(95:5)の混合物(2.18mL)およびTIS(75μL)を加え、室温での振盪を1時間継続した。切断溶液を濾別し、樹脂に95%TFA/EDT/TIS(95:2.5:2.5)水溶液の混合物(3mL)を加えた。懸濁液を室温で1時間振盪し、切断溶液を濾別した。新鮮な溶液(3mL)を加え、懸濁液を室温で1時間振盪した。切断溶液を濾別した。合わせた切断溶液を、冷ヘプタン/ジエチルエーテル(1:1)(35mL)上に注いで、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣を冷ヘプタン/ジエチルエーテル(1:1)(10mL)で洗浄し、懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。洗浄ステップを1回繰り返した。残渣を高真空中で乾燥させた。粗生成物を分取HPLCによって精製し、ACN/H<sub>2</sub>Oから凍結乾燥して、中間体22cを白色の固体(51.1mg、0.028mmol)として得た。

## 【0433】

## - ペプチド22の調製

(2つのジスルフィドのワンポット生成)

中間体22c(51.1mg、0.028mmol)をAcOH(48mL)およびH<sub>2</sub>O(12mL)に溶解させた。50mMのI<sub>2</sub>-AcOH溶液(1.12mL、56μmol)を加え、黄色の溶液を室温で攪拌した。別の50mMのI<sub>2</sub>-AcOH(5.61mL、0.281mmol)を4時間かけて少量ずつ加えた。21時間後、反応混合物を真空中で2mLに濃縮し、1Mのアスコルビン酸H<sub>2</sub>O溶液(6mL)を加えて、過剰のI<sub>2</sub>を失活させた。生成物を分取HPLCによって単離し、ACN/H<sub>2</sub>Oから凍結乾燥して、ペプチド22を白色の固体(19.3mg、0.012mmol)として得た。

## 【0434】

純粋な生成物を、分析HPLC(分析方法A:t<sub>r</sub>=4.16分)およびUPLC-M

50

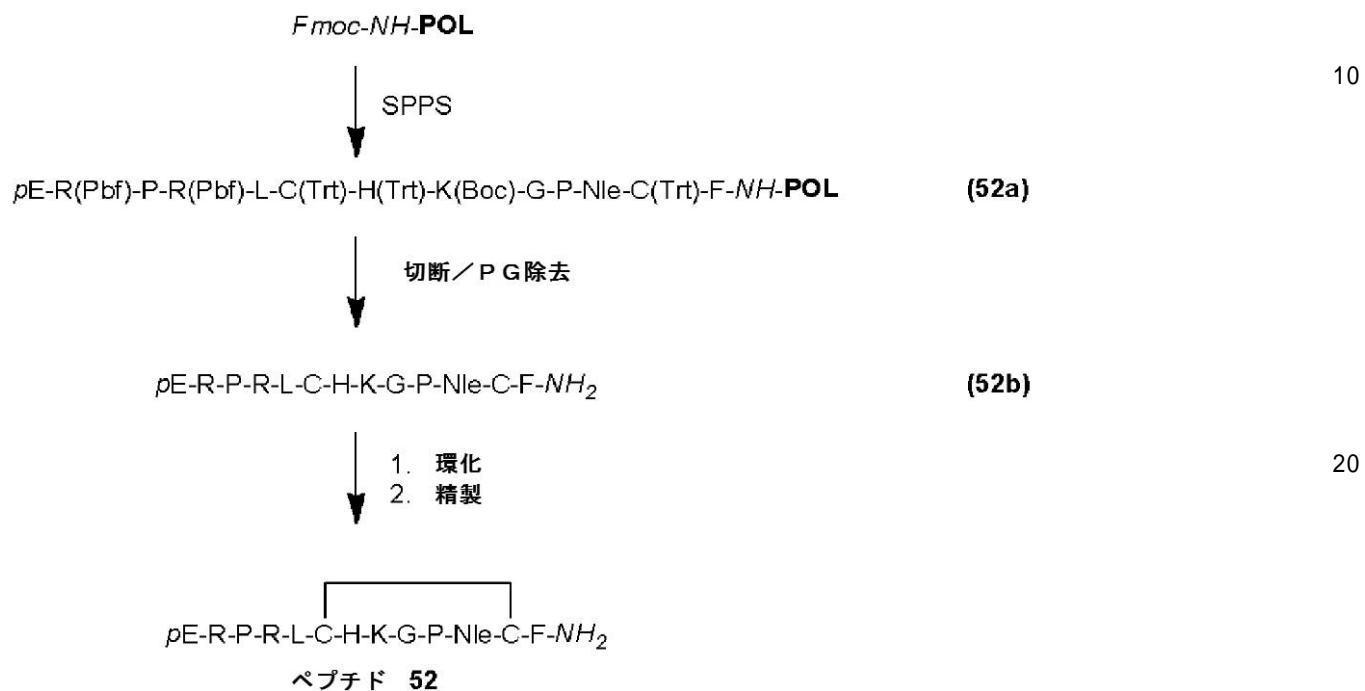
S (分析方法C、測定値：[M + 2]<sup>2+</sup> = 723.7、計算値：[M + 2]<sup>2+</sup> = 723.8)によって分析した。

## 【0435】

ペプチド52 pE-R-P-R-L-C-H-K-G-P-Nle-C(Trt)-F-NH-POL  
ジスルフィドC<sup>6</sup>-C<sup>12</sup>の合成

## 【0436】

## 【化47】



## 【0437】

- 中間体52aの調製

(線状ペプチドの組み立て)

Fmoc保護されたRink-アミド-AMPS-樹脂(217mg、0.100mmol)を、Prelude(商標)ペプチド合成装置での固相ペプチド合成にかけた。カップリングを以下のとおりに実施した。

## 【0438】

【表17】

カップリング	AA	カップリングの数×反応時間	合成サイクル
1	F	2×15分	A
2	C(Trt)	2×30分	D
3	Nle	2×15分	A
4	P	2×15分	A
5	G	2×30分	A
6	K(Boc)	2×15分	A
7	H(Trt)	2×15分	A
8	C(Trt)	2×1時間	D
9	L	2×15分	A
10	R(Pbf)	4×1時間	A
11	P	2×15分	A
12	R(Pbf)	4×1時間	A
13	pE	2×15分	A

10

20

30

40

50

## 【0439】

## - 中間体52bの調製

(保護基の除去を伴う樹脂からの切断)

中間体52a(0.1mmol)に95%TFA/EDT/TIS(95:2.5:2.5)水溶液の混合物(3mL)を加え、懸濁液を室温で1.5時間振盪した。切断溶液を濾別し、新鮮な切断溶液(2mL)を加えた。懸濁液を室温で45分間振盪し、次いで切断溶液を濾別した。新鮮な溶液(2mL)を加え、懸濁液を室温で45分間振盪した。合わせた切断溶液を、冷ヘブタン/ジエチルエーテル(1:1)の混合物(35mL)上へ注いで、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣を冷ヘブタン/ジエチルエーテル(1:1)(10mL)で洗浄し、懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。固体を高真空中で乾燥させた。粗生成物の中間体52bを、精製せずに次のステップに使用した。

## 【0440】

## - ペプチド52の調製

(環化および精製)

中間体52b(0.100mmol)をH<sub>2</sub>O(20mL)に溶解させた。攪拌した溶液に、50mMのI<sub>2</sub>-AcOH溶液(2.4mL、0.120mmol)を一度に加え、溶液を室温で30分間攪拌した。0.5Mのアスコルビン酸H<sub>2</sub>O溶液(0.30mL、0.300mmol)を加えて、過剰のI<sub>2</sub>を失活させた。溶液を濃縮してほぼ乾燥させた。粗生成物を分取HPLCによって精製し、ACN/H<sub>2</sub>Oから凍結乾燥して、ペプチド52を白色の固体(50.5mg、0.025mmol)として得た。

## 【0441】

純粋な生成物を、分析HPLC(分析方法A:t<sub>R</sub>=3.22分)およびUPLC-MS(分析方法C、測定値:[M+3]<sup>3+</sup>=512.3、計算値:[M+3]<sup>3+</sup>=512.3)によって分析した。

## 【0442】

他のペプチドは、似たようにして合成した。

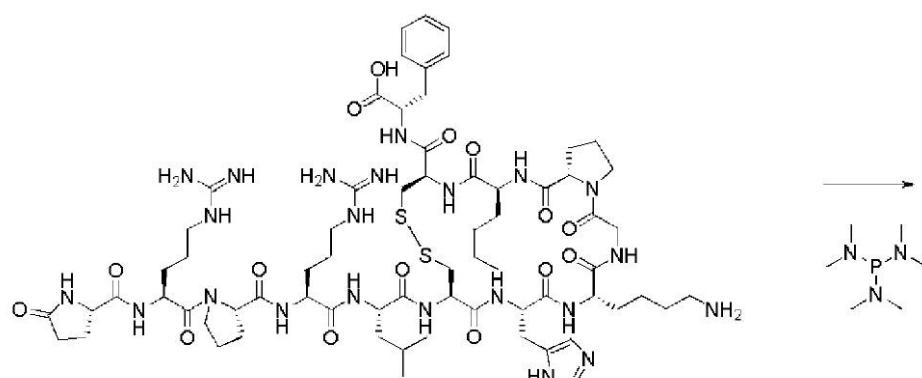
- ペプチド2～4は、ペプチド1と同様に合成した。
- ペプチド6は、ペプチド5と同様に合成した。
- ペプチド10～21は、ペプチド9と同様に合成した。
- ペプチド23は、ペプチド22と同様に合成した。
- ペプチド24～51は、ペプチド8と同様に合成した。
- ペプチド53は、ペプチド52と同様に合成した。

## 【0443】

ペプチド54：6位と12位にある2つのシステイン間にモノスルフィド連結 [C<sup>6</sup> - C<sup>12</sup>] を有する pE - R - P - R - L - C - H - K - G - P - Nle - C - F - OH

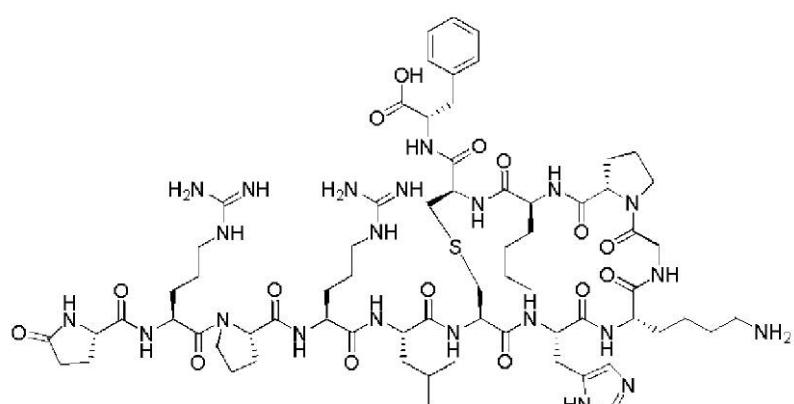
## 【0444】

## 【化48】



10

20



30

ペプチド8である(S)-2-((3S,6R,11R,14S,17S,25aS)-14-((1H-イミダゾール-5-イル)メチル)-17-(4-アミノブチル)-3-ブチル-11-((S)-2-((S)-5-グアニジノ-2-((S)-1-((S)-5-グアニジノ-2-((S)-5-オキソピロリジン-2-カルボキサミド)ペンタノイル)ピロリジン-2-カルボキサミド)ペンタンアミド)-4-メチルペンタンアミド)-1,4,12,15,18,21-ヘキサオキソドコサヒドロ-1H-ピロロ[2,1-j][1,2,5,8,11,14,17,20]ジチアヘキサアザシクロトリコシン-6-カルボキサミド)-3-フェニルプロパン酸TFA塩(30mg、0.015mmol)およびN,N,N',N',N''-ヘキサメチルホスフィントリアミン(12.3mg、0.075mmol)をPBS pH9.2緩衝液(1mL)に混ぜた混合物を、室温で3日間攪拌した。反応混合物を分取HPLC(Sunfire C18、0.1%TFA水溶液/MeCN)によって2回精製し、生成物画分を凍結乾燥して、ペプチド54を白色の粉末(4mg、13.4%)として得た。[M+2H]<sub>2</sub><sup>+</sup>(計算値)=752.88、[M+2H]<sub>2</sub><sup>+</sup>(測定値)=752.40、[M+3H]

40

50

50

] 3 + ( 計算値 ) = 502.26 、 [ M + 3H ] 3 + ( 測定値 ) = 501.94 。 HPLC ( 分析方法 B ) 、 t<sub>R</sub> = 6.93 分。

#### 【 0445 】

ペプチド 1 ~ 54 は、上述のとおりに、かつ / または、溶媒抽出、カラムクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー、再結晶などの従来の精製技術を組み合わせて、精製および単離することができる。上の実施例で単離されたポリペプチドが遊離化合物である場合では、既知の方法によって適切な塩に変換することができる。したがって、ペプチド 1 ~ 54 は、ポリペプチド : 塩比を 1 : 1 ~ 1 : 4 の範囲として、その対応する塩 ( たとえば、塩酸塩、臭化水素酸塩、硫酸塩、リン酸塩、クエン酸塩、酢酸塩、乳酸塩、または注入に適する他の薬学的な塩 ) に変換することができる。たとえば、ペプチド 1 ~ 54 を、水に溶解させ、イオン交換樹脂を使用して塩に変換することができる。逆に、単離されたペプチドが塩である場合では、既知の方法によって遊離ペプチドに、またはイオン交換樹脂を活用して異なる塩に直接変換することができる。

10

#### 【 0446 】

ペプチド - リンカーモルタル 1 および 2 は、以下のとおりに合成した。

ペプチド - リンカーモルタルは、λ = 214 nm での UV 検出を使用する分析 HPLC ( カラム : X Bridge BEH 300 C18 ( 100 × 4.6 mm ) 、 3 μm 、部品番号 : 186003612 ) によって分析し、移動相は、溶離液 A ( 0.1% の H<sub>2</sub>O 中 TFA ) 、溶離液 B ( 0.4% の ACN 中 TFA ) からなるものであった。生成物の追加の特徴付けは、ダイオードアレイ検出器を備えた UPLC - MS ( カラム : Waters Acuity UPLC ( 登録商標 ) BEH C18 、 1.7 μm 、 2.1 × 50 mm 、部品番号 : 186002350 ) によって、エレクトロスプレーイオン化を使用して行った。

20

移動相は、溶離液 A : 0.05% の FA + 3.75 mM の酢酸アンモニウム水溶液、溶離液 B : 0.04% の ACN 中 FA からなるものであった。

20

#### 【 0447 】

ペプチドは、標準の固相 Fmoc 化学によって合成した。ペプチドは、Libertyマイクロ波ペプチド合成装置 ( CEM Corporation 、米国ノースカロライナ州 ) において組み立てた。C 末端上に遊離カルボン酸を有するペプチドは、2-クロロトリチルクロリド - PS - 樹脂 ( Anaspec, Inc. 、米国カリフォルニア州 ) から合成した。

30

#### 【 0448 】

ペプチドは、分取逆相 HPLC によって精製した。次のカラム : Waters Sunfire Prep C18 OBD カラム、 5 μm 、 30 × 50 mm 、部品番号 186002570 を使用した。

#### 【 0449 】

移動相は、溶離液 A ( 0.1% TFA H<sub>2</sub>O 溶液 ) と溶離液 B ( ACN ) からなるものとした。勾配は、分離の問題の特定の要件に基づき設計した。純粋な生成物を、ACN / H<sub>2</sub>O から凍結乾燥した。

#### 【 0450 】

生成物は、λ = 214 nm での UV 検出を使用する分析 HPLC ( カラム : X Bridge BEH 300 C18 ( 100 × 4.6 mm ) 、 3 μm 、部品番号 : 186003612 ) によって分析し、移動相は、溶離液 A ( 0.1% の H<sub>2</sub>O 中 TFA ) 、溶離液 B ( 0.1% の ACN 中 TFA ) からなるものであった。生成物の追加の特徴付けは、ダイオードアレイ検出器を備えた UPLC - MS ( カラム : Waters Acuity UPLC ( 登録商標 ) BEH C18 、 1.7 μm 、 2.1 × 50 mm 、部品番号 : 186002350 ) によって、エレクトロスプレーイオン化を使用して行った。移動相は、溶離液 A : 0.05% の FA + 3.75 mM の酢酸アンモニウム水溶液、溶離液 B : 0.04% の ACN 中 FA からなるものであった。

40

#### 【 0451 】

以下で例示するペプチド - リンカーモルタルは、以下に記載する一般手順を使用して合成

50

した。非置換のN末端またはC末端は、それぞれ、細いイタリック体のH-または-OHで示す。

#### 【0452】

ペプチド-リンカー構築物1および2の分析方法

##### 1) UPLC-MS - 分析方法D

- Waters Acuity UPLC (登録商標) BEH C18、1.7 μm、2.1 × 50 mm、部品番号：186002350
- 溶離液A：0.05%のFA + 3.75 mMの酢酸アンモニウム水溶液、溶離液B：0.04%のACN中FA
- 流量：1.0 ml / 分
- 温度：50
- 勾配：1.7分で2~44%

10

#### 【0453】

##### 2) UPLC-HRMS - 分析方法E

- Waters Acuity UPLC (登録商標) BEH C18、1.7 μm、2.1 × 50 mm、部品番号：186002350
- 溶離液A：0.1%のFA、溶離液B：0.1%のACN中FA
- 流量：1.0 ml / 分
- 温度：50
- 勾配：4.4分で2~98%

20

#### 【0454】

##### 3) UPLC-MS - 分析方法F

- Waters Acuity UPLC (登録商標) BEH300 SEC ガードカラム、4.6 × 30 mm、部品番号：186005793
- 溶離液A：0.1%の水中FA、溶離液B：0.04%のACN中FA
- 流量：1.0 ml / 分
- 勾配：6分間50%のB

#### 【0455】

##### 4) UPLC-MS - 分析方法G

- Waters Acuity UPLC (登録商標) ProSwift RP - 303、1.7 μm、4.6 × 50 mm、部品番号：064298
- 溶離液A：0.1%の水中FA、溶離液B：0.08%のACN中FA
- 流量：2.0 ml / 分(2分で3~80%のB) - 流量1.8 mL / 分
- 温度：40
- 勾配：3分で2~98%

#### 【0456】

ペプチド-リンカー構築物1および2について的一般手順

##### 1) 最初のアミノ酸の2-クロロトリチルクロリド樹脂への導入およびFmoc除去

2-クロロトリチルクロリド樹脂(1当量、1.0~1.6 mmol / g)をDCMで十分に洗浄した。所望のアミノ酸(通常は、1.6 mmol / gの導入量を考えて、樹脂に対して0.5~2当量)を、DCM(樹脂1グラムあたりおよそ10 mL)およびDIPPEA(1.6 mmol / gの導入量を考えて、樹脂に対して4当量)に溶解させた。溶液を樹脂に加え、懸濁液を室温で19時間振盪した。樹脂を排出し、次いで、DCM/MeOH/DIPPEA(17:2:1)、DCM、DMA、DCMで順次、十分に洗浄した。

40

#### 【0457】

Fmoc除去および導入量の算定については、樹脂をピペリジン/DMA(1:4)または4-メチルピペリジン/DMA(1:4)(最初の樹脂1グラムあたり12×10 mL)と共に繰り返し振盪し、DMA(最初の樹脂1グラムあたり2×10 mL)で洗浄した。合わせた溶液をMeOHで希釈して、体積Vを最初の樹脂1グラムあたり250 mL

50

とした。この溶液の 2 mL のアリコート (V<sub>a</sub>) を MeOH でさらに希釈して 250 mL (V<sub>t</sub>) とした。UV 吸収を、MeOH を基準として 299.8 nm で測定して、吸収 A を得た。樹脂を、順次 DMA、DCM、DMA、DCM で十分に洗浄し、高真空中にて 40 °C で乾燥させて、mg の樹脂を得た。

## 【0458】

樹脂への導入量は、式：

$$\text{導入量 [mol/g]} = (A \times V_t \times V) / (d \times \text{セルの幅} \times 7800 \text{ L mol}^{-1} \text{ cm}^{-1})$$

に従って算出する。

## 【0459】

2) Liberty (商標) 合成装置での固相ペプチド合成  
合成サイクル

樹脂を DMF および DCM で洗浄した。20% ピペリジンまたは 20% 4-Me-ピペリジン / DMF での処理（通常は、0.1 mmolあたり 7 mL 2 回）によって、FMOC を除去した。樹脂を DMF で洗浄した。FMOC-アミノ酸（5 当量、0.2 M DMF 溶液）、HCTU（5 当量、0.5 M DMF 溶液）、および DIPPEA（10 当量、2 M NMP 溶液）を加えた後、懸濁液を、窒素中にて、特定の要件に応じて、マイクロ波電力を 0 ~ 20 ワットとして、通常は 5 ~ 50 分間、75 または 50 °C で混合することにより、カップリングを行った。DMF で洗浄した後、カップリングステップを、特定の要件に応じて 1 回繰り返すとよい。樹脂を DMF および DCM で洗浄した。

## 【0460】

## 3) 保護基の除去を伴うまたは伴わない樹脂からの切断

樹脂（0.1 mmol）を、95% の TFA // TIS / DTT（95 : 2.5 : 2.5）水溶液（3 mL）と共に室温で 3 時間振盪した。切断溶液を濾別した。樹脂を 95% TFA（1 mL）水溶液で一回すすいだ。合わせた切断および洗浄溶液を冷ヘプタン / ジエチルエーテル（1 : 1）の混合物（10 ~ 15 mL）上へゆっくりと注いで、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣にジエチルエーテル（10 mL）を加え、懸濁液を 3 分間ボルテックスし、遠心分離し、上清を廃棄した。洗浄過程を 2 回繰り返した。固体を高真空中で乾燥させた。

## 【0461】

## 4) ジスルフィド生成

## 環化方法：

完全に脱保護された線状前駆体ペプチド（1 当量）を H<sub>2</sub>O に溶解させて、通常は約 10 ~ 25 mM の濃度とした。攪拌した溶液に、50 mM の I<sub>2</sub> / AcOH 溶液（1 ~ 2 当量）を一度に加え、完全な変換が実現されるまで、反応液を室温で攪拌した。0.5 M のアスコルビン酸 H<sub>2</sub>O 溶液を加えて、過剰の I<sub>2</sub> を失活させた。

## 【0462】

ペプチド - リンカー構築物 1 : MPA - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - Q - R - P - R - L - C<sup>\*</sup> - H - F - G - P - Nle - C<sup>\*</sup> - f - OH [MPA は、3-マレインイミドプロピオン酸である]

## 【0463】

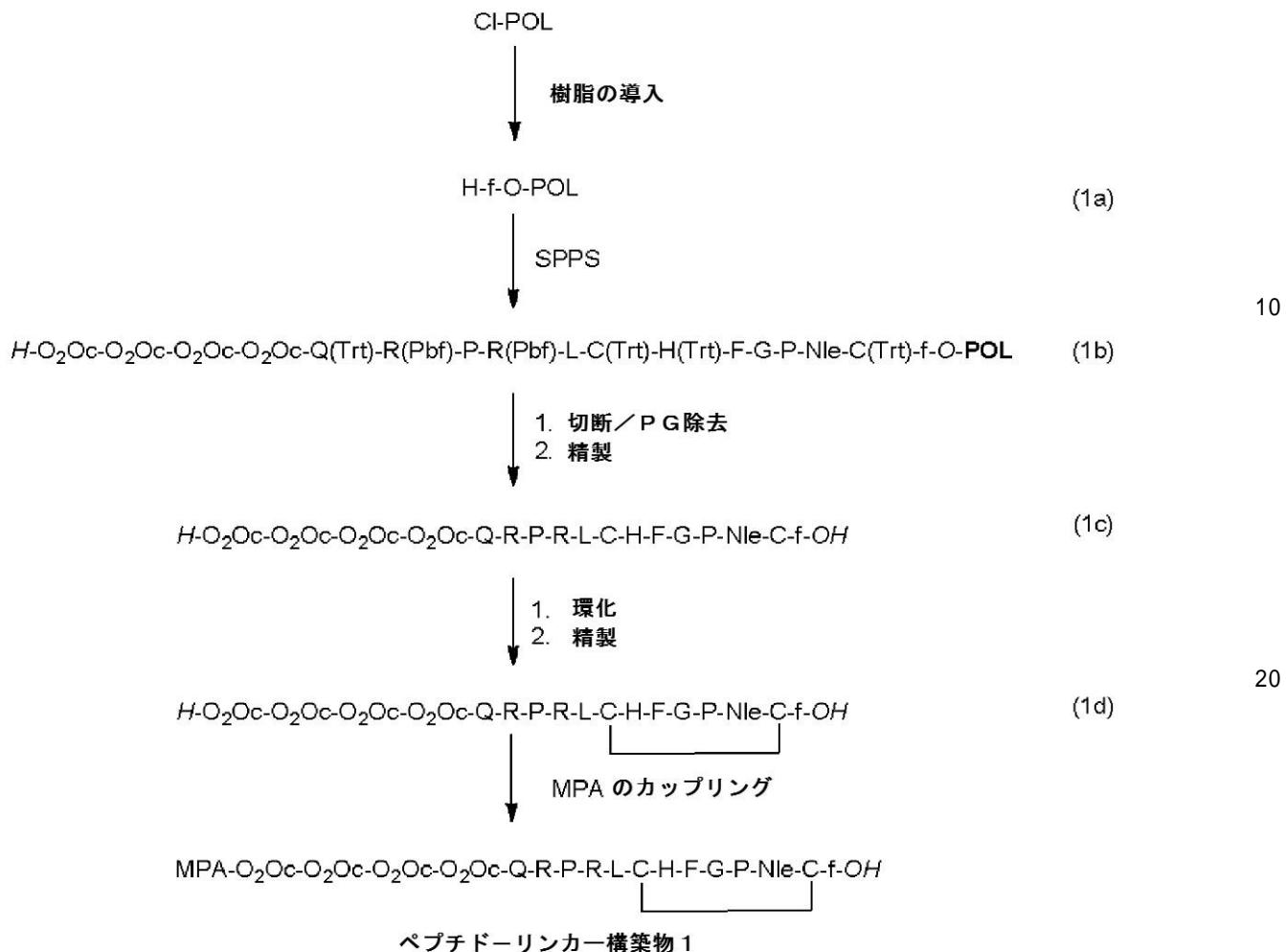
10

20

30

40

## 【化49】



## 【0464】

## - 中間体 1a の調製

(2 - クロロトリチルクロリド樹脂への  $Fmoc-f-OH$  の導入、 $Fmoc$  除去、および樹脂への導入量の算定)

2 - クロロトリチルクロリド樹脂 (5.0 g、8.01 mmol) を、上述の一般手順と同様に、 $Fmoc-f-OH$  (3.10 g、8.01 mmol) を DCM (50 mL) および DIPPEA (5.59 mL、32.0 mmol) に溶かした溶液と反応させて、中間体 1a (5.87 g、導入量 = 0.897 mmol/g)を得た。

## 【0465】

## - 中間体 1b の調製

(線状ペプチドの組み立て)

中間体 1a (0.250 mmol) を Liberty (商標) マイクロ波ペプチド合成装置での固相ペプチド合成にかけた。カップリングを次のとおりに実施した。

## 【0466】

30

40

【表18】

カップリング	AA	カップリングの 数×反応時間	温度°C	マイクロ波電力
1	C(Trt)	1×2分	50	0
		1×4分	50	25
2	Nle	1×7.5分	50	20
3	P	1×7.5分	50	20
4	G	1×7.5分	50	20
5	F	1×7.5分	50	20
6	H(Trt)	1×2分	50	0
		1×4分	50	25
7	C(Trt)	1×2分	50	0
		1×4分	50	25
8	L	1×7.5分	50	25
9	R(Pbf)	2×42分	50	0
		2×7.5分	50	25
10	P	1×7.5分	50	25
11	R(Pbf)	2×42分	50	0
		2×7.5分	50	25
12	Q(Trt)	1×7.5分	50	25
13	O2Oc	1×7.5分	50	25
14	O2Oc	1×7.5分	50	25
15	O2Oc	1×7.5分	50	25
16	O2Oc	1×7.5分	50	25

10

20

30

40

【0467】

## - 中間体1cの調製

(保護基の除去を伴う樹脂からの切断、次いで精製)

6 mLのTFA/TIPS/水(95:2.5:2.5)中の1.54 gのDTTおよび0.75 mLのチオアニソールでできた溶液に、中間体1b(0.25 mmol)を加え、懸濁液を室温で5時間振盪した。切断溶液を濾別し、樹脂を95%TFA水溶液(1 mL)で洗浄した。合わせた切断および洗浄溶液を冷ジエチルエーテル(40 mL)へ注いで、沈殿を得た。懸濁液を遠心分離し、上清を廃棄した。残渣にジエチルエーテル(40 mL)を加え、懸濁液を3分間ボルテックスし、遠心分離し、上清を廃棄した。洗浄過程を3回繰り返した。固体を高真空中で乾燥させた。粗生成物を分取HPLCによって精製し、ACN/H<sub>2</sub>Oから凍結乾燥して、中間体1cを白色の粉末(178 mg、71 μmol)として得た。

【0468】

50

純粋な生成物を U P L C - M S ( 分析方法 D ;  $t_R = 1.33$  分、測定値 : [M + 2H]<sup>2+</sup> = 1078.1、計算値 : [M + 2H]<sup>2+</sup> = 1078.3) によって分析した。

#### 【0469】

##### 中間体 1 d の調製

( 環化および精製 )

中間体 1 c ( 178 mg、71 μmol ) を H<sub>2</sub>O ( 2.0 mL ) に溶解させた。攪拌した溶液に、50 mM の I<sub>2</sub> AcOH 溶液 ( I<sub>2</sub> ( 50 mM ) HOAc 溶液 ) ( 1.85 mL、93 μmol ) を一度に加え、LC / MS によって、反応が完了したことが示されるまで、溶液を室温で終夜攪拌した。0.5 M のアスコルビン酸 H<sub>2</sub>O 溶液を加えて、過剰の I<sub>2</sub> を失活させた。粗生成物を分取 HPLC によって精製し、ACN / H<sub>2</sub>O から凍結乾燥して、中間体 1 d を白色の粉末 ( 92 mg、35 μmol ) として得た。

#### 【0470】

純粋な生成物を U P L C - M S によって分析した ( 分析方法 D、 $t_R = 1.44$  分、測定値 : [M + 2]<sup>2+</sup> = 1077.4、計算値 : [M + 2]<sup>2+</sup> = 1077.2)。

#### 【0471】

##### ペプチド - リンカー構築物 1 の調製

中間体 1 d の調製物 ( 30 mg、12 μmol ) 、3 - ( マレイミド ) プロピオン酸 N - ヒドロキシスクシンイミドエステル ( 3.06 mg、12 μmol ) 、および炭酸水素ナトリウム溶液 ( 50 μL、1 M ) を DMF ( 1 mL ) に混ぜた混合物を、25 で 2 時間振盪した。反応混合物を MeOH で希釈し、濾過した。溶液を分取 HPLC によって精製し、ACN / H<sub>2</sub>O から凍結乾燥して、ペプチド - リンカー構築物 1 を白色の粉末 ( 12 mg、4.54 μmol ) として得た。

#### 【0472】

純粋な生成物を U P L C - M S によって分析した ( 分析方法 D、 $t_R = 1.59$  分、測定値 : [M + 2]<sup>2+</sup> = 1153.0、計算値 : [M + 2]<sup>2+</sup> = 1152.8)。

#### 【0473】

ペプチド - リンカー構築物 2 : P P A - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - Q - R - P - R - L - C<sup>\*</sup> - H - F - G - P - Nle - C<sup>\*</sup> - f - OH [ P P A は、3 - ( 2 - ピリジルジチオ ) プロピオン酸である ]

中間体 1 d の調製物 ( 27 mg、10.4 μmol ) 、3 - ( 2 - ピリジルジチオ ) プロピオン酸 N - ヒドロキシスクシンイミドエステル ( 5.7 mg、18 μmol ) 、および炭酸水素ナトリウム溶液 ( 72 μL、1 M ) を DMF ( 1 mL ) に混ぜた混合物を、25 で 2 時間振盪した。反応混合物を MeOH で希釈し、濾過した。溶液を分取 HPLC によって精製し、ACN / H<sub>2</sub>O から凍結乾燥して、ペプチド - リンカー構築物 2 を白色の粉末 ( 10 mg、3.71 μmol ) として得た。

#### 【0474】

純粋な生成物を U P L C - M S によって分析した ( 分析方法 D、 $t_R = 1.71$  分、測定値 : [M + 2]<sup>2+</sup> = 1175.7、計算値 : [M + 2]<sup>2+</sup> = 1175.9)。

#### 【0475】

##### [ 実施例 1 ]

アルブミン - MPA - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - O<sub>2</sub>Oc - Q - R - P - R - L - C<sup>\*</sup> - H - F - G - P - Nle - C<sup>\*</sup> - f - OH

ステップ 1 : アルブミン脱キャッピング

- TCEP による脱キャッピング

15 mL チューブに入った、アルブミン ( 500 mg、Aldrich、ヒト血清からの凍結乾燥粉末 ) を 10 mL の PBS 1 × 緩衝液に溶かした溶液に、TCEP 塩酸塩の溶液 ( 生物学グレード精製水中 1.074 mg ) を一度に加えた。得られた溶液を室温で 1 時間振盪し、次いで脱塩し、2 本の Amicon Ultra - 4 遠心式フィルター ( 30 K MWCO ) で洗浄した。フィルターを 4 K g で 40 分間スピinnにかけ、濾液を廃棄した。各フィルターに 3 mL の生物学グレード精製水を加えてそれぞれ洗浄し ( 14

10

20

30

40

50

K gで10分間スピンにかけ)、洗浄過程を3回繰り返した。脱キャッピングされたHSAを水(合計約20mL)に溶解させた。溶液を50mLのFalconチューブに移し、凍結乾燥して、結晶質の粉末(500mg)を得た。

#### 【0476】

純粋な生成物をUPLC-MSによって分析した(分析方法I、測定値:66439.0、予想値:66437)。

#### 【0477】

- 脱キャッピングされたHSA中の遊離チオール基の数の算定

2mLチューブに入った、この脱キャッピングされたHSA(2mg)を400μLのPBS pH7.4に溶かした溶液に、6-マレイミドヘキサン酸(13μg)の水溶液を加えた。得られた溶液を室温で2時間振盪した。UPLC-MS(分析方法G)によって、单一付加物の生成だけが示された。測定値:66649.0、予想値:66648。

10

#### 【0478】

- DTTによる脱キャッピング

15mLチューブに入った、アルブミン(400mg、Aldrich、ヒト血清からの凍結乾燥粉末)を5mLのPBS 1×緩衝液に溶かした溶液に、DTTの溶液(0.232μl、生物学グレード精製水中2mg/mL)を一度に加えた。得られた溶液を室温で2時間振盪し、次いで脱塩し、20本のAmicon Ultra-0.5遠心式フィルター(10K MWCO)で洗浄した。フィルターを14K gで10分間スピンにかけ、濾液を廃棄した。各フィルターの頂部に生物学グレード精製水を加えてそれぞれ洗浄し(14K gで10分間スピンにかけ)、洗浄過程を6回繰り返した。脱キャッピングされたHSAを水(合計約20mL)に溶解させた。溶液を50mLのFalconチューブに移し、凍結乾燥して、結晶質の粉末(376mg)を得た。

20

#### 【0479】

純粋な生成物をUPLC-MSによって分析した(分析方法G、測定値:66438.5、予想値:66437)。

#### 【0480】

- 脱キャッピングされたHSA中の遊離チオール基の数の算定

2mLチューブに入った、この脱キャッピングされたHSA(3mg)を400μLのPBS pH7.4に溶かした溶液に、3-マレイミドプロピオン酸(25μg)の水溶液を加えた。得られた溶液を室温で終夜振盪した。UPLC-MS(分析方法G)によって、单一付加物の生成だけが示された。測定値:66608.0、予想値:66606。

30

#### 【0481】

- システインによる脱キャッピング

2mLチューブに入った、アルブミン(120mg、Aldrich、ヒト血清からの凍結乾燥粉末)を1mLの50mM PBS緩衝液pH8.0に溶かした溶液に、システイン(10.94mg)を一度に加えた。得られた溶液を室温で1時間振盪し、次いで脱塩し、2本のAmicon Ultra-0.5遠心式フィルター(10K MWCO)で洗浄した。フィルターを14K gで10分間スピンにかけ、濾液を廃棄した。各フィルターの頂部に生物学グレード精製水を加えてそれぞれ洗浄し(14K gで10分間スピンにかけ)、洗浄過程を5回繰り返した。脱キャッピングされたHSAを、水(合計4mL)に溶解させた。溶液を15mLのFalconチューブに移し、凍結乾燥して、結晶質の粉末(108mg)を得た。

40

#### 【0482】

純粋な生成物をUPLC-MSによって分析した(分析方法G、測定値:66439、予想値:66437)。

#### 【0483】

- 脱キャッピングされたHSA中の遊離チオール基の数の算定

2mLチューブに入った、この脱キャッピングされたHSA(3mg)を500μLのPBS pH7.4に溶かした溶液に、3-マレイミドプロピオン酸(15μg)の水溶

50

液を加えた。得られた溶液を室温で1時間振盪した。UPLC-MS(分析方法G)によって、単一付加物の生成だけが示された。測定値：66608.0、予想値：66606。

#### 【0484】

ステップ2：ペプチド-リンカー構築物／アルブミンコンジュゲーション

脱キヤッピングされたHSA(97mg)をPBS緩衝液に溶かした溶液を、ペプチド-リンカー構築物1の溶液(水中11.6mg)で処理した。得られた溶液を室温で終夜振盪し、次いで脱塩し、6本のAmicon Ultra-0.5遠心式フィルター(10K MWCO)で洗浄した。フィルターを13Kgで10分間スピinnにかけ、濾液を廃棄した。各フィルターの頂部に生物学グレード精製水を加えてそれぞれ洗浄し(13Kgで10分間スピinnにかけ)、洗浄過程を6回繰り返した。コンジュゲートを水(合計4mL)に溶解させた。溶液を15mLのFalconチューブに移し、凍結乾燥して、結晶質の粉末(90.5mg)を得た。

10

#### 【0485】

純粋な生成物をUPLC-MSによって分析した(分析方法G、測定値：68742.5、予想値：68741)。

#### 【0486】

[実施例2]

アルブミン-TPA-O<sub>2</sub>Oc-O<sub>2</sub>Oc-O<sub>2</sub>Oc-O<sub>2</sub>Oc-Q-R-P-R-L-C<sup>\*</sup>-H-F-G-P-Nle-C<sup>\*</sup>-f-OH [TPAは、3-メルカプトプロパン酸である]

20

ペプチド-リンカー構築物2(8mg)および炭酸水素ナトリウム(8.92uL、1M)をPBS緩衝液(1mL)に溶かした溶液に、脱キヤッピングされたHSA(65.8mg)をPBS緩衝液(1mL)に溶かした溶液を少量ずつ(30分毎に100uL)加えた。加えた後、得られた溶液を室温で終夜振盪し、次いで脱塩し、4本のAmicon Ultra-0.5遠心式フィルター(10K MWCO)で洗浄した。フィルターを13Kgで10分間回転させ、濾液を廃棄した。各フィルターの頂部に生物学グレードの精製水を加えてそれぞれ洗浄し(13Kgで10分間回転させ)、洗浄過程を5回繰り返した。コンジュゲートを水(合計4mL)に溶解させた。溶液を15mLのFalconチューブに移し、凍結乾燥して、結晶質の粉末(65.6mg)を得た。

30

#### 【0487】

純粋な生成物をUPLC-MSによって分析した(分析方法G、測定値：68677、予測値：68678)。

#### 【0488】

[実施例3]

アルブミン-MPA-NHCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>.OCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>OCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>O-CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>NH-C(O)CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>C=O-A-R-P-R-L-S-H-K-G-P-Nle-P-F-OH

40

実施例3は、実施例1のように合成した。純粋な生成物をUPLC-MSによって分析した(分析方法G、測定値：68367、予測値：68366)

#### 【0489】

Fc-アペリン構築物のクローン化：

以下のDNA断片は、次のプライマーを用い、ベクターpPL1146を鑄型として使用する標準のPCR技術を使用して作製した。NheI部位に続いて、ベクターpPL1146に含まれているヒトFcの5'末端に対応する配列を収容する、5'プライマーを設計した。3'プライマーは、EcoRI部位、適切な構築物のためのアペリン配列、グリシンセリンリンカー、および、pPL1146に含まれているヒトFcの3'末端に相補的な配列を収容するように設計した。增幅した後、4つの断片それぞれを、NheIおよびEcoRI両方の制限酵素で制限消化し、単離および精製し、同じようにして消化および精製したベクターpPL1146に連結した。連結物を大腸菌(Ecoli)細胞に形質

50

転換し、適正なプラスミドを含んでいるコロニーを、DNA配列決定によって鑑別した。示す配列は、センス鎖についてのものであり、5'から3'方向に伸びている。

#### 【0490】

Fc - アペリン融合物（実施例4～実施例7）

Fc - アペリンのタンパク質発現および精製：

標準のポリエチレンイミン法を使用して、1mlあたり約10E6細胞の密度で、発現プラスミドDNAをHEK293T細胞に形質移入した。次いで、500mlの培養物を、3Lフラスコ中のFreestyle培地Gibco）において37℃で3日間成長させた。

#### 【0491】

Fc - アペリンタンパク質は、清澄化した条件培地から、プロテインAセファロースFFを用いて精製した。簡潔に述べると、500mlの条件培地を、2mlのプロテインAセファロースに、4℃で終夜バッチ結合させた。プロテインAセファロースを使い捨てカラムに移し、PBSで徹底的に洗浄した。Fc - アペリンタンパク質を0.1Mグリシン（pH2.7）で溶離させ、1Mtris-HCl（pH9）で中和し、PBSに対して透析した。収量は、条件培地500mlあたり10～20mgであり、Charles River ENDOSAFE PTS試験によって測定したとき、エンドトキシンレベルは低かった（1EU/mg未満）。

#### 【0492】

Fc - アペリンタンパク質の品質管理：

未変性Fc - アペリンタンパク質のLC/MS：

ピークは、不均一であり、二量体について予想されるより約3kDa大きかった。これは、N連結型グリコシル化コンセンサス部位を有するFcについて予想されるN連結型グリコシル化の特性を示している。

#### 【0493】

還元されたN-脱グリコシルFc - アペリンタンパク質のLC/MS：鋭利なピークを示す。Fc - アペリン3および4ならびにFc - Cysの分子量は、予想通りであり、Fc - アペリン1および2ならびにCys - Fcの分子量は、C末端アミノ酸の切断と矛盾がなかった。C末端のシステインは、タンパク質を切断から保護すると思われる。

#### 【0494】

Superdex 200での分析的サイズ排斥：Fc - アペリンタンパク質は、89%～100%の間の二量体、0～10%の四量体、および0～1%の凝集体を有する。

#### 【0495】

還元SDS/PAGE：すべてのタンパク質が、主に、予想されたサイズのモノマーとして移動した。

#### 【0496】

ヌクレオチド配列：

Fc - アペリン融合物：実施例4

#### 【0497】

10

20

30

【化50】

GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGTCCTGCTGCTGTGGTCCT  
 GGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCCTTGTCCAGCACCAGAGGCAGCTG  
 GAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTGATGATCTCAAGG  
 ACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTGGACGTGTCTCACGAGGACCCGAAGTCAAGT  
 TCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAAGACCAAACCCGAGAGGA  
 ACAGTACAACAGCACCTATCGGTCGTCCGTCCTGACAGTGCTGCACCAGGATTGG      10  
 CTGAACGGCAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTAATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGA  
 GAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCCAAGAGAACCCAGGTGTACACTCTGCCTC  
 CATCTAGGGAGGAATGACAAAGAACCGAGGTCACTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTC  
 TACCCCTCCGACATCGCAGTGGAGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAA  
 GACCACACCCCTGTGCTGGACTCCGATGGTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCG  
 TGGATAAAAGTCGGTGGCAGCAGGGAAACGTCTCATGCAGCGTGATGCACGAGGC  
 CCTGCACAATCATTACACACAGAAGTCCCTGTCTGAGTCCAGGCAAAGGTGGCGGA  
 GGCAGCGGCGGTGGAGGCAGCCAGCGGCCCGGCTGAGCCACAAGGGCCCCATGCC  
CTTCTAAGAATTC      20

【0498】

Fc - アペリン融合物：実施例5

【0499】

【化51】

GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGTCCTGCTGCTGTGGTCCT  
 GGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCCTTGTCCAGCACCAGAGGCAGCTG  
 GAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTGATGATCTCAAGG  
 ACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTGGACGTGTCTCACGAGGACCCGAAGTCAAGT      30  
 TCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAAGACCAAACCCGAGAGGA  
 ACAGTACAACAGCACCTATCGGTCGTCCGTCCTGACAGTGCTGCACCAGGATTGG  
 CTGAACGGCAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTAATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGA  
 GAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCCAAGAGAACCCAGGTGTACACTCTGCCTC  
 CATCTAGGGAGGAATGACAAAGAACCGAGGTCACTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTC  
 TACCCCTCCGACATCGCAGTGGAGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAA  
 GACCACACCCCTGTGCTGGACTCCGATGGTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCG  
 TGGATAAAAGTCGGTGGCAGCAGGGAAACGTCTCATGCAGCGTGATGCACGAGGC      40  
 CCTGCACAATCATTACACACAGAAGTCCCTGTCTGAGTCCAGGCAAAGGTGGCGGA  
 GGCAGCGGCGGTGGAGGCAGCGGAGGTGGCGGAAGCCAGCGGCCCGGCTGAGCCA  
CAAGGGCCCCATGCCCTCTAAGAATTC

【0500】

Fc - アペリン融合物：実施例6

【0501】

## 【化52】

GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGGTCCTGCTGCTGTGGTGCCT  
 GGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCCTGTCCAGCACAGAGGCAGCTG  
 GAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTGATGATCTCAAGG  
 ACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTGGACGTGTCTCACGAGGACCCGAAGTCAAGT  
 TCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAAGACCAAACCCGAGAGGA  
 ACAGTACAACAGCACCTATCGGTGTCGTCCTGACAGTGCTGCACCAGGATTGG      10  
 CTGAACGGCAAAGAGTATAAGTGCAAAGTGAGTAATAAGGCTCTGCCCTGCACCAATCGA  
 GAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCCAAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTC  
 CATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAACCGAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTC  
 TACCCCTCCGACATCGCAGTGGAGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAA  
 GACCACACCCCTGTGCTGGACTCCGATGGTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCG  
 TGGATAAAAGTCGGTGGCAGCAGGGAAACGTCTCATGCAGCGTGATGCACGAGGC  
 CCTGCACAATCATTACACACAGAAGTCCCTGTCTGAGTCCAGGCAAAGGTGGCGGA  
 GGCAGCGGCGGTGGAGGCAGCCAGCGGCCCCGGCTGTGCCACAAGGGCCCCATGTG  
 CTTCTAAGAATTC      20

## 【0502】

Fc - アペリン融合物：実施例7

## 【0503】

## 【化53】

GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGGTCCTGCTGCTGTGGTGCCT  
 GGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCCTGTCCAGCACAGAGGCAGCTG  
 GAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTGATGATCTCAAGG  
 ACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTGGACGTGTCTCACGAGGACCCGAAGTCAAGT      30  
 TCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAAGACCAAACCCGAGAGGA  
 ACAGTACAACAGCACCTATCGGTGTCGTCCTGACAGTGCTGCACCAGGATTGG  
 CTGAACGGCAAAGAGTATAAGTGCAAAGTGAGTAATAAGGCTCTGCCCTGCACCAATCGA  
 GAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCCAAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTC  
 CATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAACCGAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTC  
 TACCCCTCCGACATCGCAGTGGAGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAA  
 GACCACACCCCTGTGCTGGACTCCGATGGTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCG  
 TGGATAAAAGTCGGTGGCAGCAGGGAAACGTCTCATGCAGCGTGATGCACGAGGC      40  
 CCTGCACAATCATTACACACAGAAGTCCCTGTCTGAGTCCAGGCAAAGGTGGCGGA  
 GGCAGCGGCGGTGGAGGCAGCGGAGGTGGCGGAAGCCAGCGGCCCCGGCTGTGCCA  
 CAAGGGCCCCATGTGCTTCTAAGAATTC

## 【0504】

プライマー配列：

## 【0505】

## 【表19】

FcA 1- fwd	GCTTGCTAGGCCACCATGGAACTG
FcA 1- rev	GTTGATTGAATTCTTAGAAGGGCATGGGGCCCTTGTGGCTCAGCCGGGGCCGCTG
FcA 2- rev	GCTTCCGCCACCTCCGCTGCCTCCGCCACCTTGCCTGGACTCAGAGACAGGG
FcA 3- rev	GTTGATTGAATTCTTAGAAGCACATGGGGCCCTTGTGGCACAGCCGGGGCCGCTGG
FcA 4- rev	GTTGATTGAATTCTTAGAAGCACATGGGGCCCTTGTGGCACAGCCGGGGCCGCTGG
	CTTCCGCCACCTCCGCTGCCTCCACCAGCCGCTGCCTCCGCCACCTTGCCTGGACTCAGAGACAGGG
	CAGAGACAGGG

10

20

30

40

50

## 【0506】

## [実施例4]

Fc - アペリン融合物：

## 【0507】

## 【化54】

1 METDTLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKSLSLSPGKG  
251 GSGGGGSQRPRLSHKGPMPF

G G G S G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L S H K G P M P F は、ポリペプチドである。

## 【0508】

## [実施例5]

Fc - アペリン融合物：

## 【0509】

## 【化55】

1 METDTLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGKG  
251 GSGGGGSGGGSQRPRLSHKGPMPF

G G G S G G G S G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L S H K G P M P F は、

ポリペプチドである。

【0510】

[実施例6]

Fc - アペリン融合物：

【0511】

【化56】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGKG  
 251 GSGGGGSGQRRLC\*HKGPMC\*F

G G G G S G G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* F は、ポリペプチドである。

【0512】

[実施例7]

Fc - アペリン融合物：

【0513】

【化57】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGKG  
 251 GSGGGGSGGG GSQRRLC\*HKGPMC\*F

G G G G S G G G G S G G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* F は、ポリペプチドである。

【0514】

Fc - アペリン構築物のクローン化：

以下に示すFc - アペリンDNA断片は、CMVプロモーターの下流に、マウス Igシグナル配列に続いてヒトFcを含んでいるベクターpPL1146を鋳型として使用する標準のPCR技術によって作製した。NheI部位に続いて、ベクターpPL1146に含まれているシグナル配列の5'末端に対応する配列を収容する、順方向プライマー(5' - GCT TGC TAG CCA CCA TGG AAA CTG - 3')を設計した。逆方向プライマー(5' - GTT GAT TGA ATT CTT AGA AGC ACA TGG GGC CCT TGT GGC ACA GCC GGG)は、EcoRI部位、アペリン配列、グリシンセリンリンカー、および、pPL1146に含まれているヒトFcの3'末端に相補的な配列を収容するように設計した。增幅した後、断片を、NheIおよびEcoRI両方で制限消化し、アガロースゲルから単離および精製し、同じようにして消化および精製したベクターpPL1146に連結した。連結物を大腸菌(E. coli)DH5<sup>+</sup>細胞に形質転換し、適正なプラスミドを含んでいるコロニーを、DNA配列決定によって鑑別した。示した他のFc - アペリン融合物のFc融合物、リンカー、および/またはアペリン配列の改変は、実施例9を鋳型として使用する標準の部位特異的突然変異誘発プロトコ

10

20

40

50

ルによって生じさせた。アペリンのC末端にFc融合物を含んでいる実施例8は、遺伝子合成(GeneArt)によってコドン最適化し、挿入物を上述のとおりにベクターpPL1146にクローン化した。示す配列は、センス鎖についてのものであり、5'から3'方向に伸びている。

#### 【0515】

Fc - アペリンのタンパク質発現および精製：

標準のポリエチレンイミン法を使用して、1mlあたり $1 \times 10^6$ 細胞の密度で、Fc - アペリン発現プラスミドDNAをHEK293T細胞に形質移入した。次いで、500mlの培養物を、3Lフラスコ中のFreeStyle 293培地(Life Technologies)において37℃で4日間成長させた。

10

#### 【0516】

Fc - アペリンタンパク質は、清澄化した条件培地から精製した。簡潔に述べると、500mlの条件培地を、4ml/分で、5mlのHiTrap MabSelect Sureカラム(GE Life Sciences)に流した。0.1%のTrition X-114を含有する20カラム体積のPBSでカラムを洗浄し、次いで、Fc - アペリンタンパク質を0.1Mのグリシン(pH 2.7)で溶離させ、1MのTris-HCl(pH 9)で中和し、PBSに対して透析した。タンパク質収量は、条件培地500mlあたり10~20mgであり、エンドトキシンレベルは、Charles River ENDOSAFE PTS試験によって測定したとき、1EU/mgを下回った。

20

#### 【0517】

Fc - アペリンタンパク質の品質管理：

未変性Fc - アペリンタンパク質のLC/MS：ピークは、不均一であり、二量体について予想されるより約3kDa大きかった。これは、N連結型グリコシル化コンセンサス部位を有するFcについて予想されるN連結型グリコシル化の特性を示している。

#### 【0518】

還元されたN - 脱グリコシルFc - アペリンタンパク質のLC/MS：ピークは鋭利であった。実施例8の分子量は、理論上より488ダルトン小さかったが、そのうちの130ダルトンは、おそらくはFcのC末端リシン残基の損失のためである。実施例9~実施例19の分子量は、おそらくは、それぞれ、システイン2個分の還元、またはCys2個分の還元と付加的な改変(すなわち、AsnのAspへの脱アミド)のために、予想されたより2または3ダルトン小さかった。

30

#### 【0519】

Superdex 200での分析的サイズ排斥：Fc - アペリンタンパク質は、89%~100%の間の二量体、0~10%の四量体、および0~1%の凝集体を有する。

#### 【0520】

還元SDS/PAGE：すべてのタンパク質が、主に、予想されたサイズのモノマーとして移動した。

#### 【0521】

ヌクレオチド配列

#### 【0522】

40

【表20】

Ex 8	GCTAGCCACCATGGAAACCGACACCCCTGCTGCTGTGGGTGCTGCTGTGGGT GCCAGGCAGCACAGGCATAAGGGCAGCCAGAGGCCTAGACTGTGCCACAAGG GCCCATGTGCTTGGCGCGAGGATCTGGCGGAGGCAGCGATAAGACC CACACCTGTCCTCCATGCCCTGCCCTGAAGCTGCTGGCGCCCTAGCGTGTCC TGTTCCCCCAAAGCCCAGGACACCCCTGATGATCAGCCGGACCCCCGAAGTGA CCTGCGTGGTGGATGTGTCACGAGGACCCCTGAAGTGAAGTTCAATTGGTA CGTGGACGGCGTGGAAAGTGCACAACGCCAAGACCAAGGCCAGAGAGGAACAGTA AACAGCACCTACCGGGTGGTGTCCGTGCTGACCGTGCTGCACCAGGACTGGCT GAACGGCAAAGAGTACAAGTGCAAGGTGTCCAACAAGGCCCTGCCTCCCCAT CGAGAAAACCATCAGCAAGGCCAAGGGCCAGCCCCCGGAACCCCCAGGTGTACAC ACTGCCCTAGCCGGAAAGAGATGACCAAGAACCCAGGTGTCCCTGACCTGTCTC GTGAAGGGCTTCTACCCCTCCGATATGCCGTGGAATGGGAGAGCAACGGCCAG CCCGAGAACAACTACAAGACCACCCCCCTGTGCTGGACAGCGACGGCTCATTCT TCCTGTACAGCAAGCTGACAGTGGACAAGAGCCGGTGGCAGCAGGGCAACGTGT
------	--

10

20

	TCAGCTGCAGCGTGATGCACGAGGCCCTGCACAACCACTACACCCAGAAGTCCCT GAGCCTGAGCCCCGGCAAATGAGAATT	
Ex 9	GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGTGGGTCTGCTGCTGTGGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTGCCCCCTGTCCAGCACCA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTCCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTCGTGGACGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTCCGTCC ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGCAAAGAGTATAAGTCAAAGTGA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAGAACATTACAAGACACACCCCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTTCATGCAGCGTGATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTCTGAGTCCAGGCCGGTGGCGAGGCAGCGCG GTGGAGGCAGCGGAGGTGGCGGAAGCCAGCGGCCGGCTGTGCCACAAGGGC CCCATGTGCTTCTAAGAATT	10
Ex 10	GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGTGGGTCTGCTGCTGTGGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTGCCCCCTGTCCAGCACCA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTCCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTCGTGGACGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTCCGTCC ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGCAAAGAGTATAAGTCAAAGTGA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAGAACATTACAAGACACACCCCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTTCATGCAGCGTGATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTCTGAGTCCAGGCAAAGGTAGCCAGCGGCC GCTGTGCCACAAGGGCCCCATGTGCTTCTAAGAATT	20 30
Ex 11	GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGTGGGTCTGCTGCTGTGGGT	40

	GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCTTGTCCAGCACCGAGA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTCGTGGACGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTGCCGTCCCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGCAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCACTGACTGTCTGGTCAAAGGCTTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTCTCATGCAGCGTATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTGTAGTCCAGGCAAAGGTGGCGGAGGCAGCCA GCGGCCCCGGCTGTGCCACAAGGGCCCCATGTGCTTCTAAGAATT Ex 12 GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGGTCTGCTGTGGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCTTGTCCAGCACCGAGA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTCGTGGACGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTGCCGTCCCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGCAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCACTGACTGTCTGGTCAAAGGCTTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTCTCATGCAGCGTATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTGTAGTCCAGGCAAAGGTGGCGGAGGCAGCCA GCGGCCCCGGCTGTGCCACAAGGGCCCCATGTGCTTCTAAGAATT Ex 13 GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGGTCTGCTGTGGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCTTGTCCAGCACCGAGA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCGTGGTCGTGGACGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA	10
		20
		30
		40

	GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTGCCGTCCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTCAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTCTCATGCAGCGTATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAACAGTCCCTGTCTTGAGTCCAGGCGCAGGTGGCGGAGGCAGCG GCGGTGGAGGCAGCGGAGGTGGCGGAAGCCAGCGGCCCCGGCTGTGCCACAAG GGCCCCATGTGCTAAGAATT Ex 14 GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGTCCTGCTGCTGTGGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCTCCCTGTCCAGCACCA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTCCCTGTTCCACCCAAAGCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAACAGTCACATGCGTGGTCGTGGACGTGTCTACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTGCCGTCCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTCAAAGGCTTCTACCCCTCYGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTCTCATGCAGCGTATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAACAGTCCCTGTCTTGAGTCCAGGCGCAGGTGGCGGAGGCAGCG GCGGTGGAGGCAGCGGAGGTGGCGGAAGCCAGCGGCCCCGGCTGTGCCACAAG GGCCCCATGTGCTAAGAATT Ex 15 GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGTCCTGCTGCTGTGGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCTCCCTGTCCAGCACCA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTCCCTGTTCCACCCAAAGCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAACAGTCACATGCGTGGTCGTGGACGTGTCTACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTGCCGTCCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTA	10
		20
		30
		40

	ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTCAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTTCTCATGCAGCGTGATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTCTGAGTCCAGGCCGGTGGCGGAGGCAGCGCG GTGGAGGCAGCGGAGGTGGCGGAAGCCAGCGGCCCGGCTGTGCCACAAGGGC CCCATGTGCTAAGAATT	10
Ex 16	GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGTCTGCTGCTGTGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCTTGTCCAGCACAGA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTCCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCCTGGTGGACGTGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCACTGGTACGTGGATGGCGTGTGGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTGTGTCCGTCCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGCAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTCAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTTCTCATGCAGCGTGATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTCTGAGTCCAGGCCGGTGGAGGTAGCCAGCGGCCCG GCTGTGCCACAAGGGCCCATGTGCTAAGAATT	20 30
Ex 17	GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGTCTGCTGCTGTGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCTTGTCCAGCACAGA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTCCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCCTGGTGGACGTGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCACTGGTACGTGGATGGCGTGTGGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTGTGTCCGTCCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTGAACGGCAAAGAGTATAAGTCAAAGTGAGTA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTCAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGCAGTGG	40

	AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTCTCATGCAGCGTATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTCTGAGTCCAGGCAAAGGTGGCCAGCGGCCCC GGCTGTGCCACAAGGGCCCCATGTGCTAAGAATT	
Ex 18	GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGGTCTGCTGTGGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCTGTCCAGCACAGA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCCTGGTCGTGGACGTGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTGTCCGTCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTAACCGGCAAAGAGTATAAGTGCAAAGTGAGTA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTCTCATGCAGCGTATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTCTGAGTCCAGGCAAAGGTGGCGGAGGCAGCCA GGGGCCCCGGCTGTGCCACAAGGGCCCCATGTGCTAAGAATT	10
Ex 19	GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGTGGGTCTGCTGTGGGT GCCTGGCAGCACTGGCGATAAGACACACACTTGCCCCCTGTCCAGCACAGA GGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTTCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACACACTG ATGATCTCAAGGACCCCAGAAGTCACATGCCTGGTCGTGGACGTGTCTCACGAGG ACCCCGAAGTCAAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAATGCTAA GACCAAACCCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGTCGTGTCCGTCTG ACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTAACCGGCAAAGAGTATAAGTGCAAAGTGAGTA ATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGGCAGCC AAGAGAACCCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAAAGAAC CAGGTCAGTCTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGCAGTGG AGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCTGTGCT GGACTCCGATGGGTCTTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAGTCGGT GGCAGCAGGGAAACGTCTCTCATGCAGCGTATGCACGAGGCCCTGCACAATC ATTACACACAGAAGTCCCTGTCTCTGAGTCCAGGCAAAGGTGGCGGAGGCAGCCA	20 30 40

	GCGGCCCGGCTGTGCCACAAGGGCCCCATGTGCTAAGAACATTG
Ex 20	GCTAGCCACCATGGAAACTGACACCCCTGCTGCTGGGTCTGCTGCTGGT GCCTGGCAGCACTGGCGCTCATGATAAGACACACACATGCCCTTGTCAGCA CCAGAGGCAGCTGGAGGACCAAGCGTGTCCCTGTTCCACCCAAGCCTAAAGACA CACTGATGATCTCAAGGACCCCAGAACAGTCACATGCGTGGTCGTGGACGTGCTCA CGAGGACCCCAGTCAGTTCAACTGGTACGTGGATGGCGTCGAGGTGCATAAT GCTAAGACCAAACCCGAGAGGAACAGTACAACAGCACCTATCGGGCGTGTCCG TCCTGACAGTGCTGCACCAGGATTGGCTAACGGCAAAGAGTATAAGTGC GAGTAATAAGGCTCTGCCTGCACCAATCGAGAAAACAATTCTAAGGCTAAAGGG CAGCCAAGAGAACCCAGGTGTACACTCTGCCTCCATCTAGGGAGGAAATGACAA AGAACCAAGGTCACTGACTTGTCTGGTAAAGGCTTCTACCCCTCCGACATCGC AGTGGAGTGGGAATCTAATGCCAGCCTGAAAACAATTACAAGACCACACCCCT GTGCTGGACTCCGATGGTCTTCTGTATTCTAAGCTGACCGTGGATAAAAG TCGGTGGCAGCAGGGAAACGTCTCATGCAGCGTGTGCACGAGGCCCTGCA CAATCATTACACACAGAAGTCCCTGTCTGTAGTCCAGGCAAATGAGAATTG

10

20

【0523】

[実施例9]

Fc - アペリン融合物

【0524】

【化58】

1 METDTLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPPKD  
 51 LMISRTPEVT CVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGAGGG  
251 GSGGGGSGGGGSQRPRLC\*HKGPMC\*F

30

G G G G S G G G G S G G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* F  
 は、ポリペプチドである。

【0525】

[実施例10]

Fc - アペリン融合物

【0526】

【化59】

40

1 METDTLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPPKD  
 51 LMISRTPEVT CVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGGGGG  
251 SGGGGGSGGGGSQRPRLC\*HKGPMC\*F

50

G G G G S G G G G S G G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* F  
 は、ポリペプチドである。

【 0 5 2 7 】

[ 実施例 1 1 ]

F c - アペリン融合物

【 0 5 2 8 】

【 化 6 0 】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLS PGKGSQ  
 251 RPRLC\*HKGPMC\*F

10

G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* F は、ポリペプチドである。

【 0 5 2 9 】

[ 実施例 1 2 ]

F c - アペリン融合物

【 0 5 3 0 】

【 化 6 1 】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLS PGKGGQ  
 251 RPRLC\*HKGPMC\*F

20

G G は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* F は、ポリペプチドである。

【 0 5 3 1 】

[ 実施例 1 3 ]

F c - アペリン融合物

【 0 5 3 2 】

【 化 6 2 】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLS PGKGGG  
 251 GSQRRLC\*HKGPMC\*F

30

G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* F は、ポリペプチドである。

【 0 5 3 3 】

[ 実施例 1 4 ]

F c - アペリン融合物

【 0 5 3 4 】

40

## 【化63】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGKG  
 251 GS~~GGGGSGGGGSQRPRLC~~<sup>\*</sup>HKGPMC\*

G G G G S G G G G S G G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C 10  
 \* は、ポリペプチドである。

## 【0535】

[実施例15]  
 Fc - アペリン融合物

## 【0536】

## 【化64】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGAGGG  
 251 GS~~GGGGSGGGGSQRPRLC~~<sup>\*</sup>HKGPMC\*

G G G G S G G G G S G G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C  
 \* は、ポリペプチドである。

## [実施例16]

Fc - アペリン融合物  
 【0537】

## 【化65】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGGGGG  
 251 SG~~GGGGSGGGGSQRPRLC~~<sup>\*</sup>HKGPMC\*

G G G G S G G G G S G G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C  
 \* は、ポリペプチドである。

## 【0538】

[実施例17]  
 Fc - アペリン融合物  
 【0539】

10

20

30

40

## 【化66】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGKGSQ  
 251 RPRLC\*HKGPMC\*

G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* は、ポリペプチドである。 10

## 【0540】

## [実施例18]

Fc - アペリン融合物

## 【0541】

## 【化67】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGKGQ  
 251 RPRLC\*HKGPMC\*

G G は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* は、ポリペプチドである。 20

## 【0542】

## [実施例19]

Fc - アペリン融合物

## 【0543】

## 【化68】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGKG  
 251 GSQRPRLC\*HKGPMC\*

G G G G S は、リンカーを表し、Q R P R L C \* H K G P M C \* は、ポリペプチドである 30

。

## 【0544】

## [実施例20]

B C N - P E G リンカーを介して脂肪酸にコンジュゲートさせたアペリン環状ペプチド  
 ステップ1：アペリンペプチド - B C N リンカー（B C N は、((1R,8S,9s)-  
 ビシクロ[6.1.0]ノナ-4-イン-9-イルメチル-N-カーボネート)である。

## 【0545】

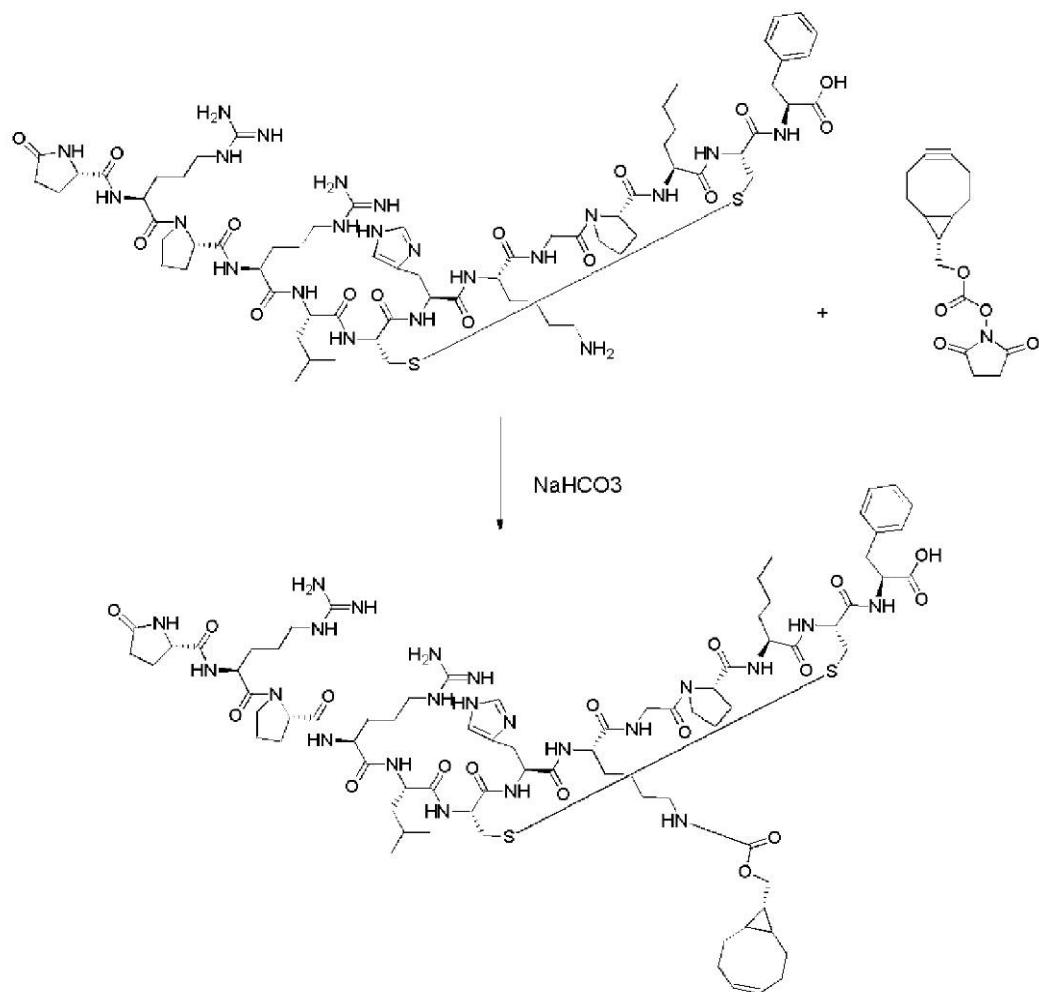
10

20

30

40

【化69】



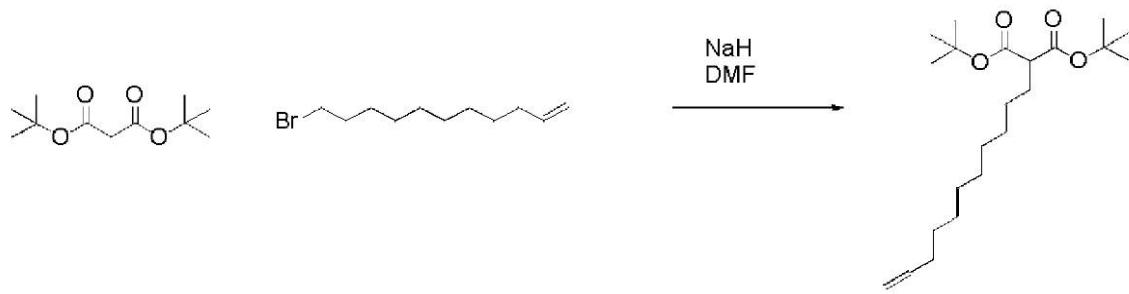
p E - R - P - R - L - C \* - H - K - G - P - N l e - C \* - F - O H (ジスルフィド C<sup>6</sup> - C<sup>12</sup>、50 mg、0.033 mmol、米国特許第8,673,848号で調製されたとおり)、炭酸水素ナトリウム(18 mg、0.215 mmol)、および水(40 uL)をDMF(0.5 mL)に混ぜた混合物を、室温で10分間攪拌し、次いで(1R,8S)-ビシクロ[6.1.0]ノナ-4-イン-9-イルメチルスクシンイミジルカーボネート(Berry & associates、18 mg、0.065 mmol)を加えた。反応混合物を室温で90分間攪拌した。+1および+2追加の混合物をLCMSによって観察したので、混合物を質量起動式HPLCによって精製した(ペプチド方法5 5分で25~50%のACNの勾配:条件:Sunfire 30×50mm 5umカラム 0.1% TFA含有ACN/H<sub>2</sub>O 75ml/分 1.5ml注入):rt 3.2分(+1)、rt 4.65分、4.9分(+1および+2混合物)。LCMSによって、所望の+1生成物が61%の収率で、+1、+2混合物が18%の収率で確認される。LCMS:(塩基性溶離液A:水+5mM水酸化アンモニウム 溶離液B:ACN 酸性カラム:Sunfire C18 3.5μm 3.0×30mm -40 塩基性カラム:XBridge C18 3.5μm 3.0×30mm -40)保持時間:0.98分、MS [M+2]<sup>2+</sup>:実測値:856.0、計算値:865.0245。

【0546】

ステップ2:ジ-tert-ブチル2-(ウンデカ-10-イン-1-イル)マロネート

【0547】

## 【化70】



10

$N_2$  中にてマロン酸ジ - t e r t - ブチル ( 8 0 0 m g 、 3 . 7 0 m m o l ) を 0 度 D M F ( 9 m L ) に溶解させ、 N a H ( 1 4 8 m g 、 3 . 7 0 m m o l ) を加える。反応液を 0 度で 3 0 分攪拌し、 1 1 - プロモ - デカ - 1 - エン ( 3 . 3 3 m m o l ) をゆっくりと滴下添加して、 黄色の溶液を得る。反応液を 0 度で 2 時間攪拌し、 次いで室温に温め、 1 6 時間攪拌する。混合物を E t O A c ( 7 5 m L ) に溶かし、 H <sub>2</sub> O ( 2 5 m L ) で洗浄する。水性層を E t O A c ( 7 5 m L ) で抽出し、 合わせた有機層を N a <sub>2</sub> S O <sub>4</sub> で乾燥させ、 濾過し、 濃縮する。混合物をフラッショカラムで精製し ( 1 2 g シリカカラムリッジ、 0 ~ 2 0 % の E t O A c / ヘプタン ) 、 画分を濃縮して、 所望の生成物を得る。

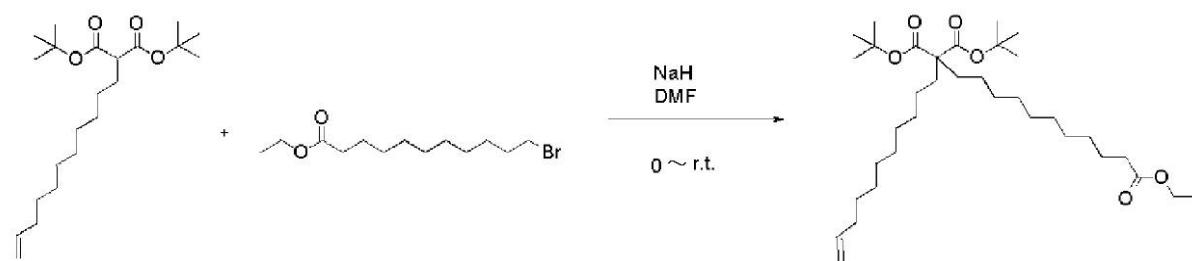
## 【0548】

ステップ 3 : 1 1 , 1 1 - ジ - t e r t - ブチル 1 - エチルドコサ - 2 1 - エン - 1 , 1 1 , 1 1 - トリカルボキシレート

20

## 【0549】

## 【化71】



30

ステップ 2 からの化合物 ( 0 . 4 4 2 m m o l ) を D M F ( 2 m L ) に 0 度溶解させ、 N a H ( 2 1 . 2 3 m g 、 0 . 5 3 1 m m o l ) を加える。反応液を 0 度で 1 5 分間攪拌し、 エチル 1 1 - ブロモウンデカノエート ( 1 4 3 m g 、 0 . 4 8 6 m m o l ) をゆっくりと滴下添加する。反応液を室温に温め、 1 6 時間攪拌する。混合物を E t O A c ( 4 0 m L ) で希釈し、 H <sub>2</sub> O ( 2 0 m L ) で 1 回洗浄する。水性層を E t O A c ( 4 0 m L ) で 1 回抽出し、 有機層を合わせ、 N a <sub>2</sub> S O <sub>4</sub> で乾燥させ、 濾過し、 濃縮する。サンプルを 1 m L の D C M に溶解させ、 フラッショカラムで精製する ( 1 2 g シリカカラム、 0 ~ 2 0 % の E t O A c / ヘプタン、 1 5 分 ) 。画分を合わせ、 濃縮して、 所望の生成物を得る。

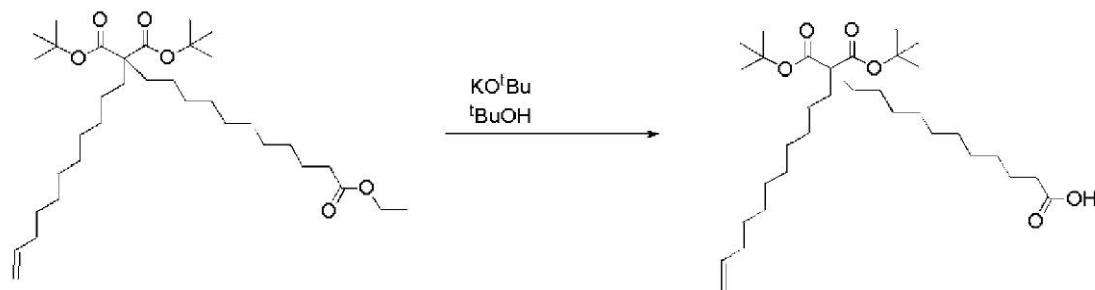
40

## 【0550】

ステップ 4 : 1 2 , 1 2 - ビス ( t e r t - ブトキカルボニル ) トリコサ - 2 2 - エン酸

## 【0551】

## 【化72】



10

$N_2$  中にて、ステップ3からの化合物 (0.037 mmol) の  $t\text{BuOH}$  (1 mL) 溶液に、30で  $KOtBu$  (114 mg, 1.012 mmol) の  $t\text{BuOH}$  (2 mL) 溶液を加える。混合物を室温で攪拌し、TLC (1:1 EtOAc/ヘキサン、 $KMnO_4$ 、還流) によってモニターする。反応が完了した後、反応混合物を1 M HCl (20 mL) で失活させ、EtOAc (25 mL) で2回抽出する。有機層を合わせ、 $Na_2SO_4$  で乾燥させ、濾過し、濃縮する。材料をそれ以上精製せずに次のステップに持ち越した。

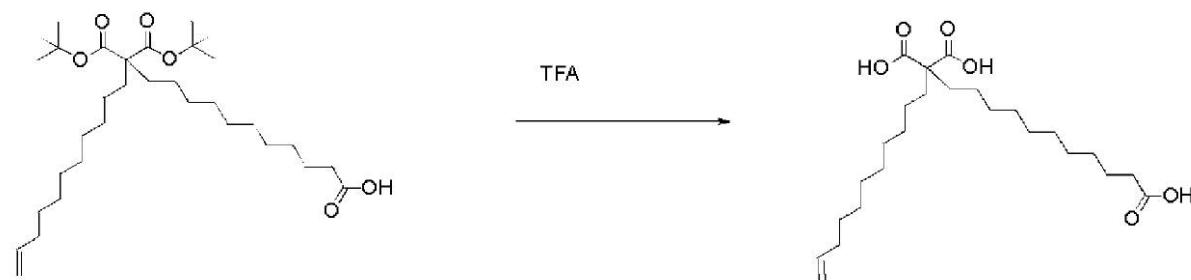
## 【0552】

ステップ5：ドコサ-21-エン-1,11,11-トリカルボン酸

20

## 【0553】

## 【化73】



30

ステップ4からの化合物 (0.022 mmol) に TFA (2 mL) を加え、反応液を室温で1時間攪拌する。混合物をDCM (10 mL) で希釈し、濃縮する。材料をEtOAc (10 mL) に溶かし、 $H_2O$  (20 mL) で洗浄する。有機層を $Na_2SO_4$  で乾燥させ、濾過し、濃縮する。未精製材料を1 mLのMeOHに溶解させ、MS起動式HPLC (Sunfire 30 × 50 mm 5 μmカラム 0.1% TFA含有ACN/H2O 75 mL/分、1.5 mL注入、3.5分かけて45~70%のACN) によって精製する。

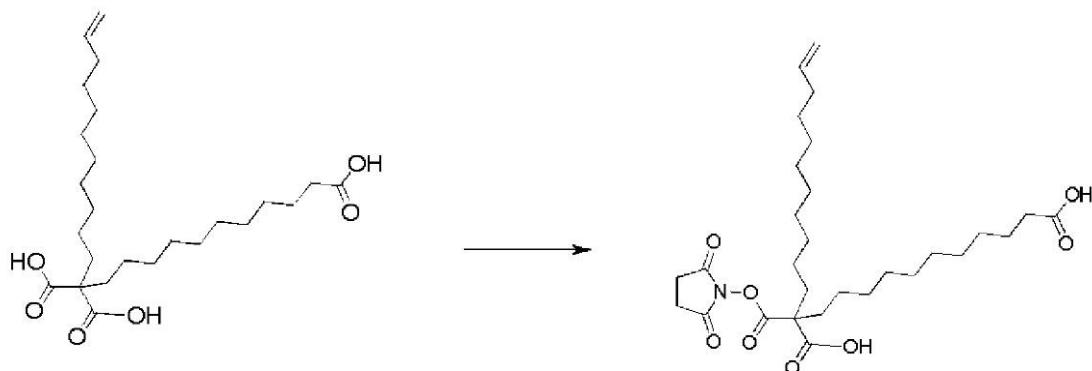
## 【0554】

ステップ6：2-(((2,5-ジオキソピロリジン-1-イル)オキシ)カルボニル)-2-(ウンデカ-10-エン-1-イル)トリデカン二酸

40

## 【0555】

## 【化74】



N-ヒドロキシスクシンイミド (99 mg、0.862 mmol) およびドコサ-21-エン-1,11,11-トリカルボン酸 (中間体45: 400 mg、0.908 mmol) を DCM (7 mL) および THF (0.7 mL) に溶かした溶液に、DCM (2 mL) 中の DCC (187 mg、0.908 mmol) を加えた。反応液を終夜攪拌した後、溶媒を除去した。残渣を HPLC (Sunfire C18 30 × 50 mm、55 ~ 80 % の ACN / 水 + 0.1 % TFA) によって精製して、表題化合物 (155 mg、0.288 mmol、32 %) を得た。LCMS 方法Dによる。Rt = 1.5分、M+H 538.3;

【数1】

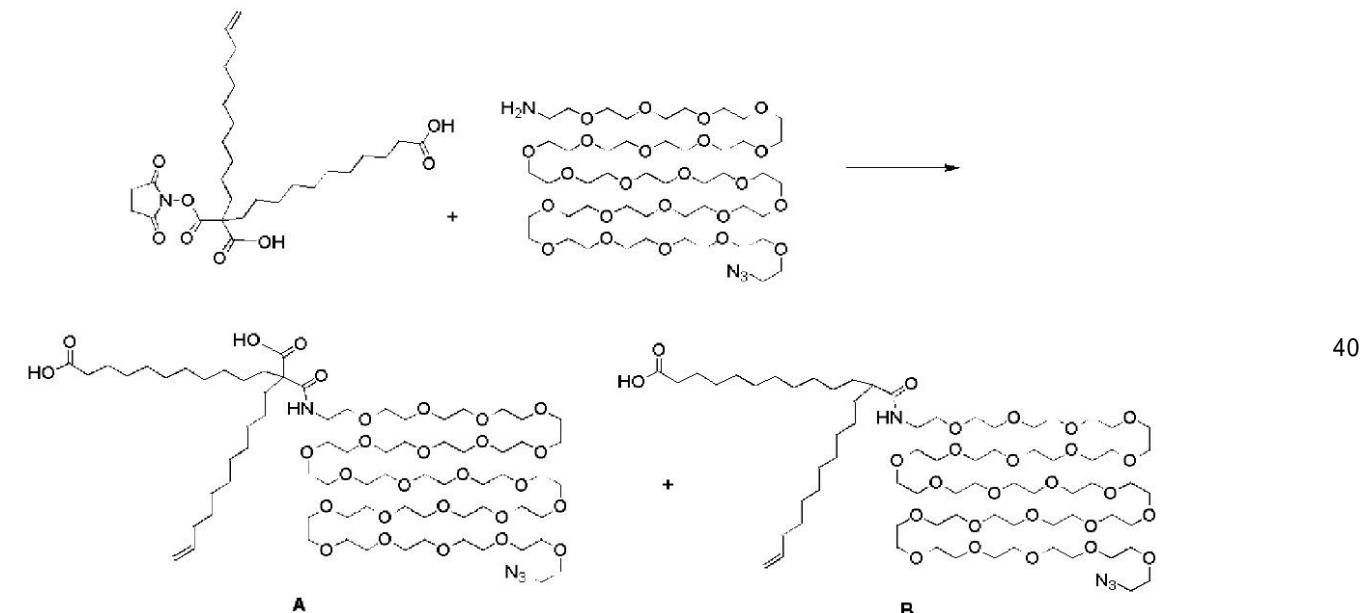
<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CHLOROFORM-d) δ ppm 1.16 - 1.46 (m, 28 H) 1.60 - 1.87 (m, 3 H) 1.91 - 2.17 (m, 5 H) 2.38 (t, J=7.03 Hz, 2 H) 2.86 (br. s., 4 H) 3.68 (dd, J=11.25, 7.34 Hz, 1 H) 3.78 (dd, J=11.31, 5.20 Hz, 1 H) 3.99 - 4.10 (m, 1 H).

## 【0556】

ステップ7：脂肪酸-P EG リンカー

## 【0557】

## 【化75】



アジド-dPEG23-アミン (Quanta Biodesign: 164 mg、0.149 mmol) およびステップ6からの化合物 (80 mg、0.149 mmol) を THF (2.5 mL) に溶解させた。DIPEA (39 μL、0.233 mmol) を加

10

20

30

40

50

え、反応液を終夜攪拌した。溶媒を蒸発させ、残渣を HPLC (Sunfire C18 30 × 50 mm、45 ~ 70 % の ACN / 水 + 0.1 % TFA) によって精製して、化合物 A (97 mg、0.061 mmol、41 %) および B (32 mg、0.021 mmol、14 %) を得た。LCMS 方法 D Rt = 1.35 分、[M + 2H]<sup>+2</sup> 761.9;

## 【数2】

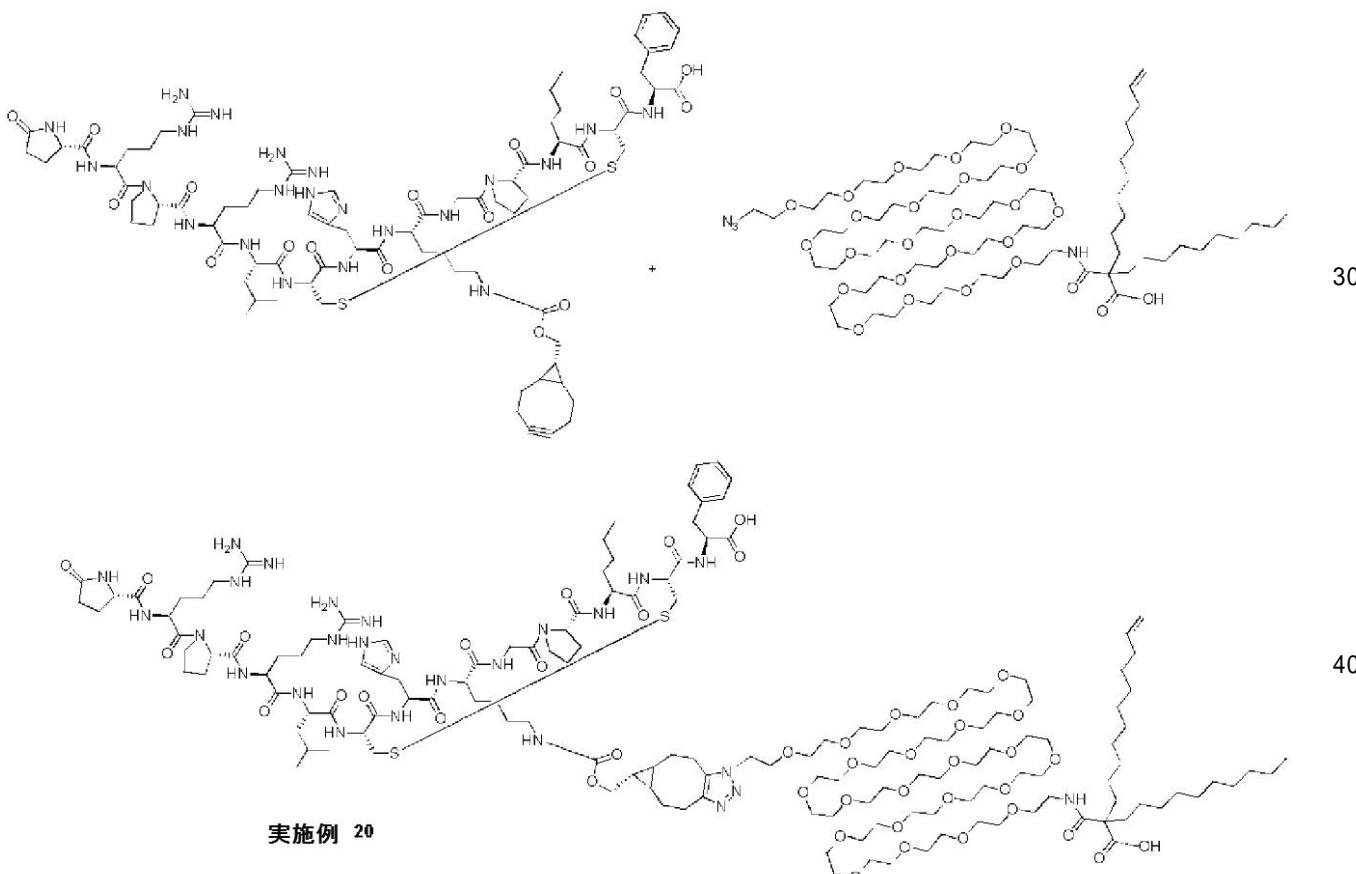
<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, ACETONITRILE-d3) δ ppm 1.05 - 1.18 (m, 3 H) 1.19 - 1.32 (m, 20 H) 1.36 (t, J=7.15 Hz, 1 H) 1.48 - 1.59 (m, 2 H) 1.65 - 1.75 (m, 2 H) 2.01 - 2.06 (m, 2 H) 2.25 (t, J=7.46 Hz, 2 H) 3.33 - 3.39 (m, 2 H) 3.39 - 3.44 (m, 2 H) 3.50 - 3.67 (m, 98 H) 4.84 - 4.95 (m, 1 H) 4.95 - 5.06 (m, 1 H) 5.83 (ddt, J=17.07, 10.29, 6.68, 6.68 Hz, 1 H) 7.31 (t, J=5.44 Hz, 1 H); LCMS 方法 D Rt = 1.50 分, [M+2H]<sup>+2</sup> 739.9; <sup>1</sup>H NMR (400 MHz, ACETONITRILE-d3) δ ppm 1.16 - 1.42 (m, 30 H) 1.42 - 1.63 (m, 5 H) 2.00 - 2.07 (m, 2 H) 2.22 - 2.28 (m, 2 H) 2.40 - 2.52 (m, 2 H) 3.25 - 3.33 (m, 2 H) 3.33 - 3.42 (m, 2 H) 3.42 - 3.50 (m, 2 H) 3.50 - 3.68 (m, 88 H) 4.86 - 5.06 (m, 2 H) 5.83 (ddt, J=17.04, 10.26, 6.71, 6.71 Hz, 1 H) 6.40 - 6.74 (m, 1 H).

## 【0558】

ステップ8:

## 【0559】

## 【化76】



実施例 20

p E - R - P - R - L - C \* - H - N<sup>6</sup> - [ [ ( 1 , 8 , 9 ) - ピシクロ [ 6 . 1 . 0 ] ノナ - 4 - イン - 9 - イルメトキシ ] カルボニル ] - K - G - P - N 1 e - C \* - F - O H (ジスルフィド C<sup>6</sup> - C<sup>1,2</sup>) (21.33 mg, 0.014 mmol) とステップ7からの化合物 (24 mg, 0.014 mmol) の混合物を、室温で約3時間攪

10

20

30

40

50

拌した。反応は、LCMSによって完結し、凍結乾燥して、表題の生成物(23mg、48%)を得た。LCMS(Waters Acuity UPLC BEH C18 1.7um 2.1×50mm、50°C、溶離液A：水+0.1%ギ酸、溶離液B：アセトニトリル+0.1%ギ酸、勾配 5.15分かけて2%~98%のB/A)：保持時間：2.22分、MS [M+2]<sup>2+</sup>：実測値：1616.9464、計算値：1616.976。

## 【0560】

## [実施例21]

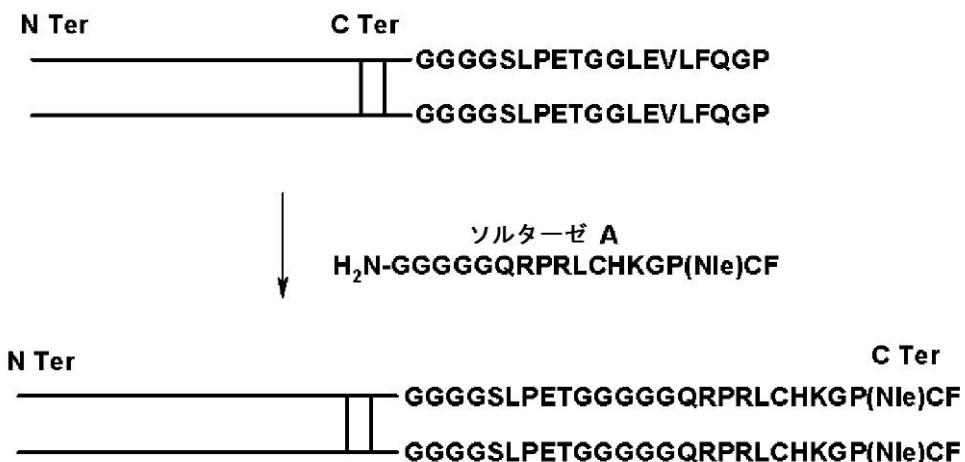
ソルターゼおよびソルターゼ認識モチーフを使用するFcのAPJペプチドへのコンジュゲーション

10

## 【0561】

## 【化77】

一般スキーム：



## 【0562】

ステップ1：Fc - ソルターゼ構築物の調製：

構築物クローン化：

20

30

マウスIg鎖シグナルペプチドに続いてヒトFcおよびソルターゼ認識配列(LPX TG)を含んでいるDNA断片を、5' - NheIおよび3' - EcoRI制限部位を用いた遺伝子合成(GeneArt)によってコドン最適化した。得られる配列を、NheIおよびEcoRIの両方を用いて制限消化し、CMVプロモーターの下流で、ベクターpPL1146のNheIおよびEcoRI部位に連結した。連結物を大腸菌(Ecoli)DH5細胞に形質転換し、適正な挿入物を含んでいるコロニーを、DNA配列決定によって鑑別した。示す配列は、センス鎖についてのものであり、5'から3'方向に伸びている。

## 【0563】

## 【化78】

Fc- ソルターゼ

GCTAGCCACCATGGAAACCGACACCCCTGCTGCTGTGGGTGCTGCTGCTGTGGGTGCCA  
 GGCAGCACCGGCGATAAGACCCACACCTGTCCTCCCTGTCCTGCCCTGAAGCTGCTG  
 GCAGGCCCTAGCGTTCCTGTTCCCCCAAAGCCCAAGGACACCCCTGATGATCAGCCG  
 GACCCCCGAAGTGACCTGCGTGGTGGATGTGTCACGAGGACCCCTGAAGTGAA  
 GTTCAATTGGTACGTGGACGGCGTGGAAAGTGCACAACGCCAAGACCAAGCCCAGAGAG  
 GAACAGTACAACAGCACCTACCGGGTGGTGTCCGTGCTGACCGTGCTGCACCAGGACT  
 GGCTGAACGGCAAAGAGTACAAGTGCAAGGTGTCCAACAAGGCCCTGCCAGCCCCCAT  
 CGAGAAAACCATCAGCAAGGCCAAGGGCCAGCCCCCGCGAACCCCCAGGTGTACACACT  
 GCCCCCTAGCCGGAAAGAGATGACCAAGAACCCAGGTGTCCCTGACCTGTCTCGTGAAG  
 GGCTTCTACCCCTCCGATATGCCGTGGAATGGGAGAGCAACGCCAGCCCCGAGAACAA  
 ACTACAAGACCACCCCCCTGTGCTGGACAGCGACGGCTCATTCTCCTGTACAGCAA  
 GCTGACAGTGGACAAGAGCCGGTGGCAGCAGGGCAACGTGTTAGCTGCAGCGTGAT  
 GCACGAGGCCCTGCACAACCAACTACACCCAGAACAGTCCCTGAGCCTGAGGCCCTGGAAAA  
 GGCAGGGAGGCTCTGCCTGAAACAGGCCAGTGGAAAGTGTGCTGTTCCAGGGCCCC  
 TAAGAATT

10

20

30

## 【0564】

Fc ソルターゼ構築物の配列：

## 【0565】

## 【化79】

1 METDTLLLWV LLLWVPGSTG DKHTCPPCP APEAAGGPSV FLFPPKPKDT  
 51 LMISRTPEVT CVVVDVSHED PEVKFNWYVD GVEVHNAKTK PREEQYNSTY  
 101 RVVSVLTVLH QDWLNGKEYK CKVSNKALPA PIEKTISKAK GQPREPQVYT  
 151 LPPSREEMTK NQVSLTCLVK GFYPSDIAVE WESNGQPENN YKTPPPVLD  
 201 DGSFFLYSKL TVDKSRWQQG NVFSCSVMHE ALHNHYTQKS LSLSPGKG  
 251 GSLPETGGLEVLFQGP

G G G G S は、リンカーを表し、L P E T G G L E V L F Q G P は、ソルターゼ認識モチーフである（注：G G L E V L F Q G P は、ソルターゼ処理の際に切り詰められる）。

## 【0566】

タンパク質発現および精製：

標準のポリエチレンイミン法を使用して、1 mlあたり $1 \times 10^6$  細胞の密度で、Fc- ソルターゼ発現プラスミドDNAをHEK293T細胞に形質移入した。次いで、500 mlの培養物を、3 L フラスコ中のFreeStyle 293 培地（Life Technologies）において37℃で4日間成長させた。Fc- ソルターゼタンパク質を、清澄化した条件培地から精製した。簡潔に述べると、500 mlの条件培地を、4 ml/分で、5 mlのHiTrap MabSelect Sureカラム（GE Life Sciences）に流した。0.1%のTriton X-114を含有する20カラム体積のPBSでカラムを洗浄し、次いで、Fc- ソルターゼタンパク質を、0.1 Mのグリシン（pH 2.7）で溶離させ、1 MのTris-HCl（pH 9）で中和し、PBSに対して透析した。タンパク質収量は、条件培地500 mlあたり10~20 mgであり、エンドトキシンレベルは、Charles River ENDOSAFE

40

50

P T S 試験によって測定したとき、1 E U / m g を下回った。

【0567】

F c - ソルターゼタンパク質の品質管理

未変性 F c - ソルターゼンタンパク質の L C / M S : ピークは、不均一であり、二量体について予想されるより約 3 k D a 大きかった。これは、N 連結型グリコシル化コンセンサス部位を有する F c について予想される N 連結型グリコシル化の特性を示している。

【0568】

還元された N - 脱グリコシル F c - ソルターゼタンパク質の L C / M S : ピークは鋭利であった。分子量は、おそらくはシステイン 2 個分の還元のために、理論上より 2 ダルトン小さかった。

【0569】

Superdex 200 での分析的サイズ排斥 :

F c - ソルターゼタンパク質は、89% ~ 100% の間の二量体、0 ~ 10% の四量体、および 0 ~ 1% の凝集体を有する。

【0570】

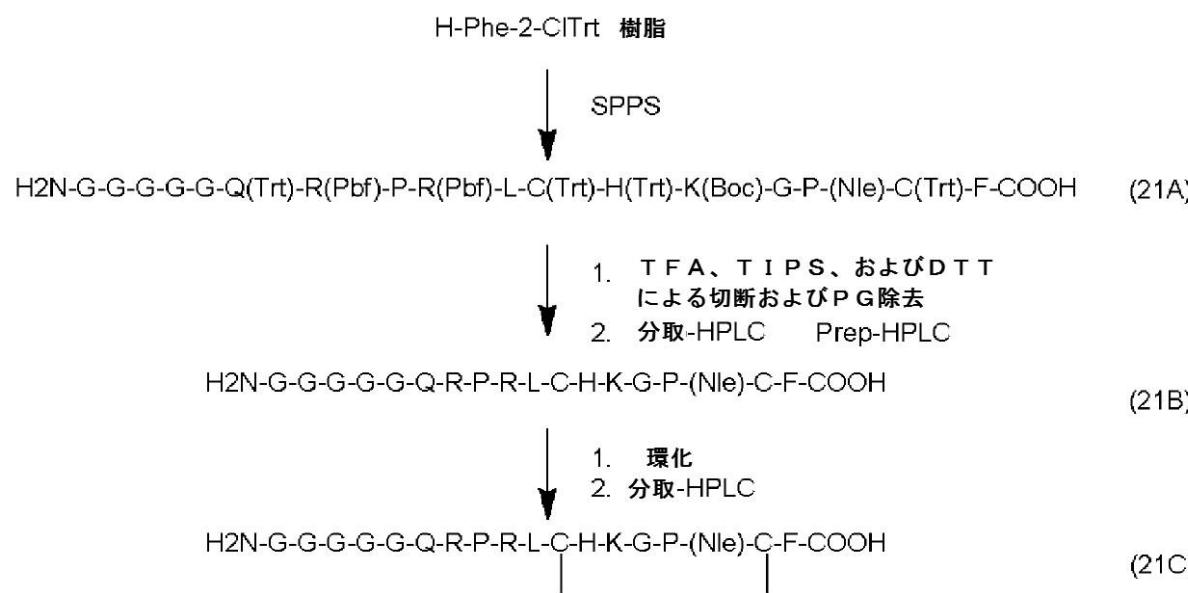
還元 SDS / PAGE : タンパク質は、主に、予想されたサイズのモノマーとして移動した。

【0571】

ステップ 2 : ソルターゼコンジュゲーション用のアペリンペプチド H<sub>2</sub>N - G G G G G Q R P R L C \* H K G P (Nle) C \* F - C O O H の調製

【0572】

【化 80】



【0573】

ステップ 2 a :

中間体 21 A の調製

2 回分の H - P h e - 2 - C l T r t 樹脂 (Novabiochem, 0.342 g, 0.25 mmol, 0.73 mmol/g) を、Arg 残基に 2 倍の標準 Arg を用いた、自動ペプチド合成装置 (CEM LIBERTY) での固相ペプチド合成にかけた。アミノ酸は、0.2 M DMF 溶液として調製した。

【0574】

カップリングサイクルは、次のとおりに定めた。

- アミノ酸カップリング : AA (4.0 当量)、HATU (4.0 当量)、DIEA (2.5 当量)

10

20

30

40

50

- 洗浄 : D M F ( 3 × 1 0 m L 、 各回 1 分 )
- F m o c 脱保護 : ピペリジン / D M F ( 1 : 4 ) ( 1 0 m L 、 7 5 ° C で 1 分間、 次いで 1 0 m L 、 7 5 ° C で 3 分間 )
- 洗浄 : D M F ( 4 × 1 0 m L 、 各回 1 分 )

【 0 5 7 5 】

【 表 2 1 】

カップリング	AA	カップリングの数×反応時間	反応温度
1	Fmoc-L-Cys(Trt)-OH	1×6分	25°Cで2分 50°Cで4分
2	Fmoc-L-Nle-OH	1×5分	75°C
3	Fmoc-L-Pro-OH	1×5分	75°C
4	Fmoc-L-Gly-OH	1×5分	75°C
5	Fmoc-Lys(Boc)-OH	1×5分	75°C
6	Fmoc-L-His(Trt)-OH	1×5分	75°C
7	Fmoc-L-Cys(Trt)-OH	1×6分	25°Cで2分 50°Cで4分
8	Fmoc-L-Leu-OH	1×5分	75°C
9	Fmoc-L-Arg(Pbf)-OH	2×30分	25°Cで25分 75°Cで5分
10	Fmoc-L-Pro-OH	1×5分	75°C
11	Fmoc-L-Arg(Pbf)-OH	2×30分	25°Cで25分 75°Cで5分
12	Fmoc-L-Gln(Trt)-OH	1×5分	75°C
13	Fmoc-Gly-Gly-Gly-OH	1×5分	75°C
14	Fmoc-Gly-OH	1×5分	75°C
15	Fmoc-Gly-OH	1×5分	75°C

【 0 5 7 6 】

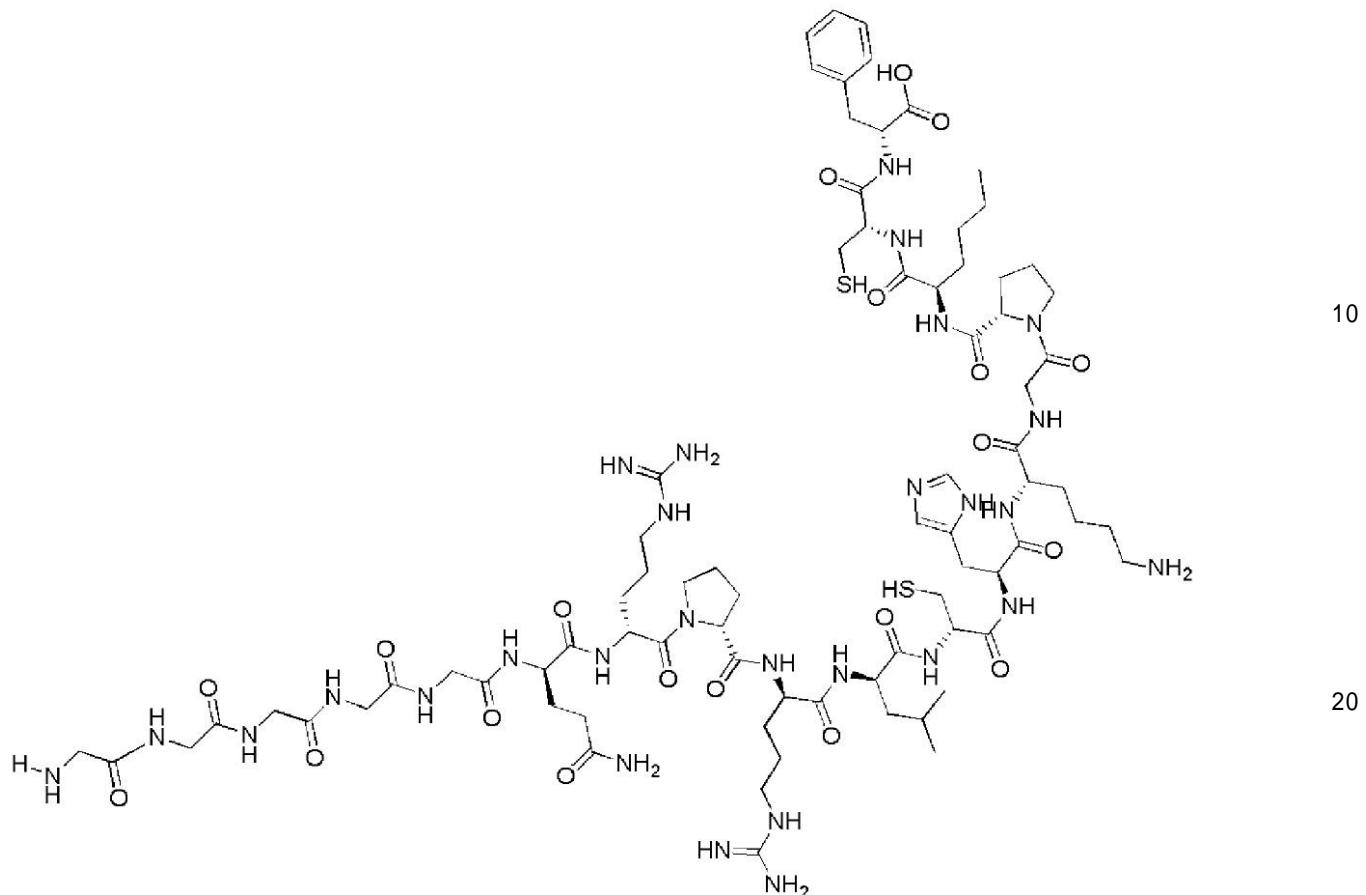
ペプチドを組み立てた後、各回分の樹脂を D M F ( 3 × 1 0 m L ) 、 D C M ( 3 × 1 0 m L ) で洗浄した。合わせたペプチド樹脂を真空中にて室温で乾燥させて、中間体 2 1 A ( 1 . 4 5 4 g 、 0 . 5 m m o l ) を得た。

【 0 5 7 7 】

ステップ 2 b : 中間体 2 1 B 、 H <sub>2</sub> N - G G G G G Q R P R L C H K G P ( N l e ) C F - C O O H の調製

【 0 5 7 8 】

## 【化 8 1】



## 1 ) 切断および保護基の除去

中間体 21 A (1.454 g、0.5 mmol) に、95% TFA / 2.5% H<sub>2</sub>O / 2.5% TIPS の 6 mL の溶液および DTT (1.452 mg、10.00 mmol) を加え、得られる混合物を室温で 3 時間振盪し、次いで濾過した。濾液を 80 mL の冷エーテルに滴下し、次いで 4000 rpm で 5 分間遠心分離した。溶媒を除去し、白色の固体をエーテル (3 × 80 mL) で洗浄し、ボルテックスし、遠心分離した。固体を高真空中にて 25 ℃ で 1 時間乾燥させた。

## 【0579】

## 2 ) 精製

次いで、上記の白色の固体を分取 HPLC (Sunfire (商標) Prep C18 OBD (商標) 30 × 50 mm 5 μm カラム 0.1% TFA 含有 ACN / H<sub>2</sub>O 75 mL / 分、8 分で 10 ~ 30% の ACN の勾配) によって精製した。生成物画分を凍結乾燥して、中間体 21 B を TFA 塩 (213 mg、23%) として得た。

## 【0580】

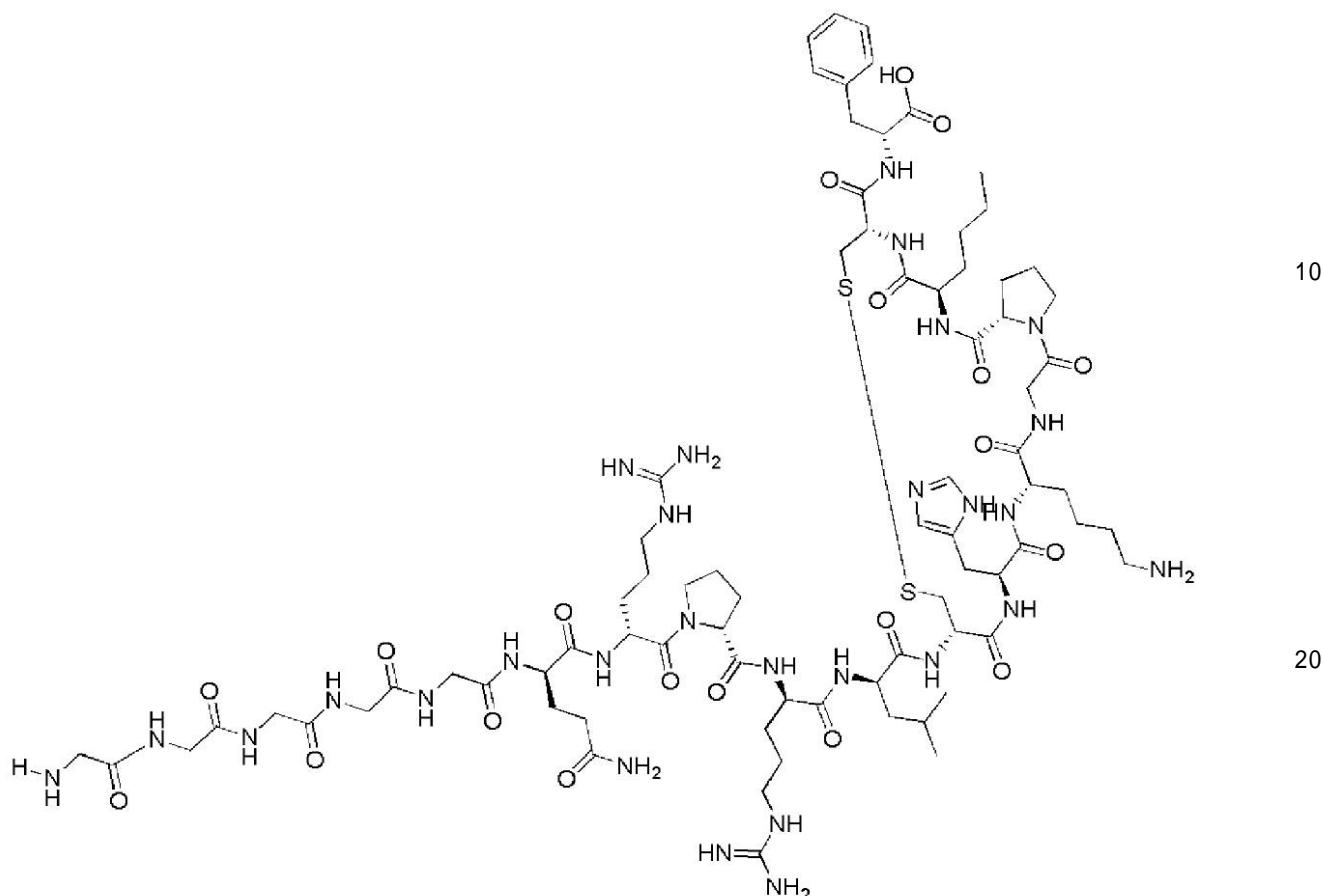
ステップ 3 : H<sub>2</sub>N - G G G G G Q R P R L C \* H K G P (Nle) C \* F - COOH (ジスルフィド C<sup>1,1</sup> - C<sup>1,7</sup>)、中間体 21 C の調製

## 【0581】

30

40

【化 8 2】



3. 85 mL の H<sub>2</sub>O 中の中間体 21B (213 mg、0.166 mmol) に、I<sub>2</sub> (50 mM AcOH 溶液、4.63 mL、0.232 mmol) を滴下添加した。混合物を室温で終夜振盪した。LC/MS によって、反応が完了したことが示された。反応混合物に、溶液の色が消失するまで、0.5 M のアスコルビン酸溶液 (MeOH/H<sub>2</sub>O = 1/1) を数滴加えた。混合物を、HPLC 精製に向けて MeOH で希釈した。分取 HPLC (Sunfire Prep C18 OBD (商標) 30 × 50 mm 5 μm カラム 0.1% TFA 含有 ACN/H<sub>2</sub>O 75 mL / 分、8 分で 7.5 ~ 20% の ACN の勾配) によって精製を行った。生成物画分を凍結乾燥して、H<sub>2</sub>N-GGGGQRPRLC\*HKGP(Nle)C\*F-COOH (ジスルフィド C<sup>1,1</sup>-C<sup>1,7</sup>)、すなわち中間体 21C を TFA 塩 (65 mg、31%) として得た。LC/MS (QTRAP、生成物分析 - HRMS - 酸性、Waters Acuity UPLC BEHC 18 1.7 um 2.1 × 50 mm、50°、溶離液 A : 水 + 0.1% ギ酸、溶離液 B : アセトニトリル + 0.1% ギ酸、勾配 5.15 分かけて 2% ~ 98% の B/A) : 保持時間 : 0.79 分、MS [M + 2]<sup>2+</sup> : 実測値 : 919.9562。

【0582】

ステップ 3 : Fc - ソルターゼと中間体 21C のソルターゼコンジュゲーション

## 1) 化学酵素的ソルターゼコンジュゲーション

氷浴上で、PBS (pH 7.4) 緩衝液中の Fc - LPETGG (1397 μL、0.081 μmol) に、H<sub>2</sub>N-GGGGGQRPRLC\*HKGP(Nle)C\*F-COOH (ジスルフィド C<sup>1,1</sup>-C<sup>1,7</sup>) (148 μL、4.04 μmol、50 mg/mL) を Tris-8.0 緩衝液に溶かした溶液に続いて、520 μM のソルターゼ A\* (155 μL、0.081 μmol) の 50 mM Tris-C1 pH 7.4 溶液、150 mM の NaCl を加えた。混合物を室温で終夜振盪した。LC/MS によって、反応が完了したことが示された。

40

50

## 【0583】

(ソルターゼA\*)：ソルターゼA変異体の配列：

## 【0584】

## 【化83】

MQAKPQIPKDKSKVAGYIEIPDADIKEPVYPGPATREQLNRGVFAKENQSLDDQNISIAGHT  
FIDRPNYQFTNLKAAKKGSMDVFKVGNETRKYKMTSIRNVKPTAVEVLDEQKGDKQLTLIT  
CDDYNEETGWWE~~T~~RKIFVATEVKLEHHHHHH

太文字は、変異したアミノ酸を表し、下線を付した文字は、黄色ブドウ球菌 (*S aureus*) ソルターゼAの本来の配列 (Mazmanian et al. Science (Washington, D. C.) (1999), 285(5428), 760-763) に保存されていない、記載されているアミノ酸 (Chen et al., PNAS, Vol 108, No 28, 2011, 11399-11403) を表す。

## 【0585】

ソルターゼA変異体は、確立されたプロトコール (Carla P. Guimaraes et al.: "Site specific C-terminal and internal loop labeling of proteins using sortase-mediated reactions", Nature protocols, vol 8, No 9, 2013, 1787-1799) に従い、大腸菌 (*E. coli*) において発現させ、そのC末端に含まれたポリヒスチジンタグを探査するアフィニティーコロマトグラフィーによって精製した。

## 【0586】

## 2) 精製および脱塩

上記溶液を、ATTAXPRESSにおいて、4 mL / 分で、5 mL のHiTrap Mab Select SUREカラム (GE Lifesciences #11-0034-95) に流した。カラム上で、実施例21を20カラム体積 (CV) のPBS + 0.1% Triton 114で洗浄し、0.1Mのグリシン (pH 2.7) で溶離させ、1MのTris-HCl (pH 9) で中和し、PBSに対して透析した。精製された溶液を、Zeba Spin Desalting Column、5 mL (89891) を使用して脱塩して、2 mL の目的の溶液を得、平均濃度は、1.62 mg / mL であり、回収率は、68%であった。LCMS (QT2、タンパク質\_20~70 kDa\_3分、AcQuity ProSwift RP-3U 4.6 × 50 mm、1.0 mL / 分、溶離液A：水 + 0.1% ギ酸、溶離液B：アセトニトリル + 0.1% ギ酸、勾配3分かけて2%~98%のB/A) : R<sub>t</sub> = 1.55分、MS [M+H] 59346.5000。

## 【0587】

上記実施例におけるバイオコンジュゲートは、APJ受容体効力について、EC<sub>50</sub>値が、約0.01 nM~約1100 nMの範囲にあることがわかっている。上の実施例のバイオコンジュゲートは、血漿安定性が2分より長い、5分より長い、10分より長い、20分より長い、50分より長い、60分より長いことがわかった。

## 【0588】

本発明のバイオコンジュゲートは、APJ受容体のアゴニストとして有用であり、したがって、本明細書で開示する疾患などの、APJ受容体の活性化に反応を示す疾患および状態の治療において有用であるとみなすことができる。

## 【0589】

こうして本発明の例示的な実施形態について述べてきたが、当業者は、内部の開示が例示的なものに過ぎないこと、ならびに本発明の範囲内で他の種々の代替形態、改造形態、および変更形態を案出してよいことを留意すべきである。したがって、本発明は、本明細書で例示するような詳細な実施形態に限定されない。

10

20

30

40

## 【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT		International application No PCT/US2014/047378									
<b>A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER</b> INV. A61K47/48 ADD.											
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC											
<b>B. FIELDS SEARCHED</b> Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) A61K											
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched											
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) EPO-Internal, BIOSIS, EMBASE, CHEM ABS Data, DISSERTATION ABS, PASCAL, WPI Data											
<b>C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; padding: 2px;">Category*</th> <th style="text-align: left; padding: 2px;">Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages</th> <th style="text-align: left; padding: 2px;">Relevant to claim No.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;">X</td> <td style="padding: 2px; vertical-align: top;">         Z.Q. JIA ET AL: "Cardiovascular effects of a PEGylated apelin", PEPTIDES, vol. 38, no. 1, November 2012 (2012-11), pages 181-188, XP055131938, ISSN: 0196-9781, DOI: 10.1016/j.peptides.2012.09.003          abstract          page 181, right-hand column, paragraph 2.1          - page 182, left-hand column          page 182, right-hand column, paragraph 2.3          - page 183, right-hand column, paragraph 2.4.2          page 186; figures 7-10          page 186, right-hand column, paragraph Discussion - page 187, right-hand column, paragraph Conclusions          -----       </td> <td style="padding: 2px; vertical-align: top;">         1-20,          33-40           21-26,32           -/-/       </td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">Y</td> <td style="padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> </tbody> </table>			Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.	X	Z.Q. JIA ET AL: "Cardiovascular effects of a PEGylated apelin", PEPTIDES, vol. 38, no. 1, November 2012 (2012-11), pages 181-188, XP055131938, ISSN: 0196-9781, DOI: 10.1016/j.peptides.2012.09.003 abstract page 181, right-hand column, paragraph 2.1 - page 182, left-hand column page 182, right-hand column, paragraph 2.3 - page 183, right-hand column, paragraph 2.4.2 page 186; figures 7-10 page 186, right-hand column, paragraph Discussion - page 187, right-hand column, paragraph Conclusions -----	1-20, 33-40  21-26,32  -/-/	Y		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.									
X	Z.Q. JIA ET AL: "Cardiovascular effects of a PEGylated apelin", PEPTIDES, vol. 38, no. 1, November 2012 (2012-11), pages 181-188, XP055131938, ISSN: 0196-9781, DOI: 10.1016/j.peptides.2012.09.003 abstract page 181, right-hand column, paragraph 2.1 - page 182, left-hand column page 182, right-hand column, paragraph 2.3 - page 183, right-hand column, paragraph 2.4.2 page 186; figures 7-10 page 186, right-hand column, paragraph Discussion - page 187, right-hand column, paragraph Conclusions -----	1-20, 33-40  21-26,32  -/-/									
Y											
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C.		<input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.									
* Special categories of cited documents : "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed											
*T* later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention *X* document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone *Y* document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family											
Date of the actual completion of the international search  12 November 2014	Date of mailing of the international search report  27/01/2015										
Name and mailing address of the ISA/ European Patent Office, P.B. 5818 Patentlaan 2 NL-2280 HV Rijswijk Tel. (+31-70) 340-2040, Fax: (+31-70) 340-3016	Authorized officer  Dullaart, Anwyn										

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No PCT/US2014/047378
---

## C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 2012/125408 A1 (GENZYME CORP [US]; JIA ZHIQIANG [US]; HOU LIHUI [US]; PAN CLARK Q [US]) 20 September 2012 (2012-09-20) examples claims -----	1-20, 33-40
Y	US 2008/182779 A1 (ASHLEY EUAN A [US] ET AL) 31 July 2008 (2008-07-31) paragraph [0124] examples claims -----	21-26, 32 1-26, 32-40
Y	US 6 492 324 B1 (HINUMA SHUJI [JP] ET AL) 10 December 2002 (2002-12-10) cited in the application examples -----	1-26, 32-40
Y	A. G. JAPP ET AL: "Acute Cardiovascular Effects of Apelin in Humans: Potential Role in Patients With Chronic Heart Failure", CIRCULATION, vol. 121, no. 16, 27 April 2010 (2010-04-27), pages 1818-1827, XP055151338, ISSN: 0009-7322, DOI: 10.1161/CIRCULATIONAHA.109.911339 cited in the application the whole document -----	1-26, 32-40
Y	MURZA A ET AL: "Elucidation of the Structure-Activity Relationships of Apelin: Influence of Unnatural Amino Acids on Binding, Signaling, and Plasma Stability", CHEMMEDCHEM, vol. 7, no. 2, 6 February 2012 (2012-02-06), pages 318-325, XP002720442, ISSN: 1860-7179, DOI: 10.1002/CMDC.201100492 [retrieved on 2011-12-13] the whole document -----	1-26, 32-40
Y	WO 00/24782 A2 (AMGEN INC [US]) 4 May 2000 (2000-05-04) cited in the application examples 2-7 -----	1-26, 32-40
		-/-

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No PCT/US2014/047378
---

## C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	HUANG ET AL: "Receptor-Fc fusion therapeutics, traps, and MIMETIBODY technology", CURRENT OPINION IN BIOTECHNOLOGY, vol. 20, no. 6, December 2009 (2009-12), pages 692-699, XP026778880, ISSN: 0958-1669, DOI: 10.1016/J.COPBIO.2009.10.010 [retrieved on 2009-11-04] the whole document -----	1-26, 32-40
Y	CORTI DAVIDE ET AL: "A Neutralizing Antibody Selected from Plasma Cells That Binds to Group 1 and Group 2 Influenza A Hemagglutinins", SCIENCE, vol. 333, no. 6044, 12 August 2011 (2011-08-12), pages 850-856, XP002711146, ISSN: 0036-8075 abstract page 854, left-hand column -----	1-26, 32-40
Y	US 2011/195077 A1 (GLASS DAVID [US] ET AL) 11 August 2011 (2011-08-11) examples 4-7 -----	1-26, 32-40
Y	WO 2012/170969 A2 (BIOGEN IDEC INC [US]; THORN KARINA [US]; TOBY GARABET G [US]; MEZO ADA) 13 December 2012 (2012-12-13) example 17; sequence 837 -----	1-26, 32-40

**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**

International application No. PCT/US2014/047378
--

**Box No. II Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of Item 2 of first sheet)**

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1.  Claims Nos.: because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:
  
  
  
2.  Claims Nos.: because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:
  
  
  
3.  Claims Nos.: because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

**Box No. III Observations where unity of invention is lacking (Continuation of Item 3 of first sheet)**

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:

**see additional sheet**

1.  As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2.  As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fees, this Authority did not invite payment of additional fees.
3.  As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
  
  
  
4.  No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

21-26(completely); 1-20, 32-40(partially)

**Remark on Protest**

- The additional search fees were accompanied by the applicant's protest and, where applicable, the payment of a protest fee.
- The additional search fees were accompanied by the applicant's protest but the applicable protest fee was not paid within the time limit specified in the invitation.
- No protest accompanied the payment of additional search fees.

International Application No. PCT/ US2014/ 047378

**FURTHER INFORMATION CONTINUED FROM PCT/ISA/ 210**

This International Searching Authority found multiple (groups of) inventions in this international application, as follows:

1. claims: 21-26(completely); 1-20, 32-40(partially)

Bioconjugate, method, polypeptide and combination/composition as defined, wherein the half-life extending moiety is an IgG constant domain or fragment thereof.

---

2. claims: 27-29(completely); 1-20, 33-40(partially)

Bioconjugate, method, polypeptide and combination/composition as defined, wherein the half-life extending moiety is a Human Serum Albumin.

---

3. claims: 30, 31(completely); 1-20, 32-40(partially)

Bioconjugate, method, polypeptide and combination/composition as defined, wherein the half-life extending moiety is a fatty acid.

---

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No

PCT/US2014/047378

Patent document cited in search report		Publication date	Patent family member(s)		Publication date
WO 2012125408	A1	20-09-2012	AU 2012229336 A1 CA 2829693 A1 EP 2683360 A1 US 2014142049 A1 WO 2012125408 A1		10-10-2013 20-09-2012 15-01-2014 22-05-2014 20-09-2012
US 2008182779	A1	31-07-2008	NONE		
US 6492324	B1	10-12-2002	AT 383424 T AU 1685499 A CA 2313246 A1 CN 1283228 A DE 69838986 T2 EP 1040189 A1 US 6492324 B1 US 2003092618 A1 US 2009075334 A1 WO 9933976 A1		15-01-2008 19-07-1999 08-07-1999 07-02-2001 08-01-2009 04-10-2000 10-12-2002 15-05-2003 19-03-2009 08-07-1999
WO 0024782	A2	04-05-2000	AT 380828 T AU 767725 B2 AU 2004200687 A1 AU 2004200690 A1 BG 65721 B1 BR 9914708 A CA 2347131 A1 CN 1331701 A CN 1721447 A CN 1746189 A CN 1746190 A CN 1781945 A CN 1781946 A CN 1781947 A CN 1908014 A CY 1107881 T1 CZ 304242 B6 DE 69937752 T2 DK 1144454 T3 EP 1144454 A2 ES 2299278 T3 HK 1042097 A1 HK 1090932 A1 HU 0203506 A2 IL 142365 A JP 2003512011 A JP 2007084555 A JP 2007084556 A JP 2007084557 A JP 2007084558 A JP 2007089586 A JP 2007091746 A JP 2007091747 A JP 2007105044 A KR 20070050977 A KR 20070050978 A MX PA01003873 A NO 20011963 A NZ 510888 A		15-12-2007 20-11-2003 18-03-2004 18-03-2004 31-08-2009 16-07-2002 04-05-2000 16-01-2002 18-01-2006 15-03-2006 15-03-2006 07-06-2006 07-06-2006 07-06-2006 07-02-2007 19-06-2013 22-01-2014 24-12-2008 05-05-2008 17-10-2001 16-05-2008 03-04-2008 20-03-2009 28-02-2003 28-02-2013 02-04-2003 05-04-2007 05-04-2007 05-04-2007 05-04-2007 12-04-2007 12-04-2007 12-04-2007 26-04-2007 16-05-2007 16-05-2007 14-10-2003 21-06-2001 30-01-2004

**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**

Information on patent family members

International application No
PCT/US2014/047378

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Publication date	
		NZ 528882 A	24-06-2005	
		PL 366080 A1	24-01-2005	
		PT 1144454 E	08-02-2008	
		RS 51852 B	29-02-2012	
		SI 1144454 T1	30-04-2008	
		SK 5252001 A3	03-12-2002	
		US 6660843 B1	09-12-2003	
		US 2004044188 A1	04-03-2004	
		US 2004053845 A1	18-03-2004	
		US 2004057953 A1	25-03-2004	
		US 2004071712 A1	15-04-2004	
		US 2004087778 A1	06-05-2004	
		US 2007049532 A1	01-03-2007	
		WO 0024782 A2	04-05-2000	
		YU 25901 A	19-07-2005	
		ZA 200102753 A	11-06-2002	
<hr/>				
US 2011195077	A1	11-08-2011	US 2011195077 A1	11-08-2011
			US 2013122004 A1	16-05-2013
<hr/>				
WO 2012170969	A2	13-12-2012	AU 2012267484 A1	16-01-2014
			CA 2838833 A1	13-12-2012
			EP 2717898 A2	16-04-2014
			US 2014303084 A1	09-10-2014
			WO 2012170969 A2	13-12-2012
<hr/>				

**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**

Information on patent family members

International application No PCT/US2014/047378
---

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)		Publication date
		NZ	528882 A	24-06-2005
		PL	366080 A1	24-01-2005
		PT	1144454 E	08-02-2008
		RS	51852 B	29-02-2012
		SI	1144454 T1	30-04-2008
		SK	5252001 A3	03-12-2002
		US	6660843 B1	09-12-2003
		US	2004044188 A1	04-03-2004
		US	2004053845 A1	18-03-2004
		US	2004057953 A1	25-03-2004
		US	2004071712 A1	15-04-2004
		US	2004087778 A1	06-05-2004
		US	2007049532 A1	01-03-2007
		WO	0024782 A2	04-05-2000
		YU	25901 A	19-07-2005
		ZA	200102753 A	11-06-2002
<hr/>				
US 2011195077	A1	11-08-2011	US 2011195077 A1	11-08-2011
			US 2013122004 A1	16-05-2013
<hr/>				
WO 2012170969	A2	13-12-2012	AU 2012267484 A1	16-01-2014
			CA 2838833 A1	13-12-2012
			EP 2717898 A2	16-04-2014
			US 2014303084 A1	09-10-2014
			WO 2012170969 A2	13-12-2012
<hr/>				

## フロントページの続き

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード(参考)
A 6 1 P 9/10 (2006.01)	A 6 1 P 9/10	
A 6 1 P 7/00 (2006.01)	A 6 1 P 7/00	
A 6 1 P 3/10 (2006.01)	A 6 1 P 3/10	
A 6 1 P 3/04 (2006.01)	A 6 1 P 3/04	
A 6 1 P 9/00 (2006.01)	A 6 1 P 9/00	
A 6 1 P 25/00 (2006.01)	A 6 1 P 25/00	
A 6 1 P 21/02 (2006.01)	A 6 1 P 21/02	
A 6 1 P 17/02 (2006.01)	A 6 1 P 17/02	
A 6 1 P 43/00 (2006.01)	A 6 1 P 43/00	1 1 1
A 6 1 P 17/16 (2006.01)	A 6 1 P 17/16	
A 6 1 K 38/00 (2006.01)	A 6 1 K 37/02	
A 6 1 K 45/00 (2006.01)	A 6 1 P 43/00	1 2 1
A 6 1 K 47/48 (2006.01)	A 6 1 K 45/00	
C 0 7 K 14/765 (2006.01)	A 6 1 K 47/48	
	C 0 7 K 14/765	

(81)指定国 AP(BW,GH,GM,KE,LR,LS,MW,MZ,NA,RW,SD,SL,SZ,TZ,UG,ZM,ZW),EA(AM,AZ,BY,KG,KZ,RU,TJ,TM),EP(AL,AT,BE,BG,CH,CY,CZ,DE,DK,EE,ES,FI,FR,GB,GR,HR,HU,IE,IS,IT,LT,LU,LV,MC,MK,MT,NL,NO,PL,PT,RO,R,S,SE,SI,SK,SM,TR),OA(BF,BJ,CF,CG,CI,CM,GA,GN,GQ,GW,KM,ML,MR,NE,SN,TD,TG),AE,AG,AL,AM,AO,AT,AU,AZ,BA,BB,BG,BH,BN,BR,BW,BY,BZ,CA,CH,CL,CN,CO,CR,CU,CZ,DE,DK,DM,DO,DZ,EC,EE,EG,ES,FI,GB,GD,GE,GH,GM,GT,HN,H,R,HU,ID,IL,IN,IR,IS,JP,KE,KG,KN,KP,KR,KZ,LA,LC,LK,LR,LS,LT,LU,LY,MA,MD,ME,MG,MK,MN,MW,MX,MY,MZ,NA,NG,NI,NO,NZ,OM,PA,PE,PG,PH,PL,PT,QA,RO,RS,RU,RW,SA,SC,SD,SE,SG,SK,SL,SM,ST,SV,SY,TH,TJ,TM,TN,TR,TT,TZ,UA,UG,US

(72)発明者 キャプラン , シャリ エル .

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02139 , ケンブリッジ , テクノロジー スクエア 1  
00 , ノバルティス インスティチューツ フォー バイオメディカル リサーチ , インコーポ  
レイテッド

(72)発明者 ゴーロソフ , アンドレイ

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02141 , ケンブリッジ , ソーンダイク ストリート  
218 , アパートメント 204

(72)発明者 グロッシェ , フィリップ

イスラエル ツェーハー - 4002 バーゼル , ポストファハ , ノバルティス ファーマ アーゲー

(72)発明者 ギマラエス , カーラ

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02139 , ケンブリッジ , テクノロジー スクエア 1  
00 , ノバルティス インスティチューツ フォー バイオメディカル リサーチ , インコーポ  
レイテッド

(72)発明者 カンター , アーロン

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02143 , サマービル , ブラストー アベニュー 20

(72)発明者 ロウ , チャンガン

アメリカ合衆国 ミシガン州 49024 , ポーテージ , ファウン コーブ レーン 3681 ,  
アパートメント 1

(72)発明者 パーカー , デイヴィド トーマス

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02139 , ケンブリッジ , マサチューセッツ アベニュー  
- 250 , ノバルティス インスティチューツ フォー バイオメディカル リサーチ , イン  
コーポレイテッド

(72)発明者 ピータース , エリック シー .

アメリカ合衆国 カリフォルニア州 92130, サンディエゴ, コルテ ファモーサ 424  
4

(72)発明者 ウセラ, エイミー リチャードソン

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02139, ケンブリッジ, テクノロジー スクエア 1  
00, ノバルティス インスティチューツ フォー バイオメディカル リサーチ, インコーポ  
レイテッド

(72)発明者 八十島 佳代

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02139, ケンブリッジ, テクノロジー スクエア 1  
00, ノバルティス インスティチューツ フォー バイオメディカル リサーチ, インコーポ  
レイテッド

(72)発明者 ユアン, ジュン

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02139, ケンブリッジ, テクノロジー スクエア 4  
00, ノバルティス インスティチューツ フォー バイオメディカル リサーチ, インコーポ  
レイテッド

(72)発明者 ゼクリ, フレデリック

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02139, ケンブリッジ, テクノロジー スクエア 1  
00, ノバルティス インスティチューツ フォー バイオメディカル リサーチ, インコーポ  
レイテッド

(72)発明者 チャオ, ホンジュアン

アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 02139, ケンブリッジ, マサチューセッツ アベニュー  
- 250, ノバルティス インスティチューツ フォー バイオメディカル リサーチ, イン  
コーポレイテッド

F ターム(参考) 4C076 AA94 CC01 CC09 CC11 CC14 CC18 CC19 CC21 EE23 EE41

EE59 FF31

4C084 AA02 AA03 AA07 AA19 BA01 BA18 BA37 BA41 NA12 NA14  
ZA021 ZA361 ZA371 ZA381 ZA421 ZA451 ZA511 ZA542 ZA701 ZA702

ZA832 ZA891 ZA941 ZC202 ZC351 ZC352 ZC411 ZC422 ZC432 ZC752

4H045 AA10 AA30 BA16 BA17 BA40 BA55 CA40 DA30 DA70 EA20  
FA10 FA71